山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第24集

K－743

双葉町遺跡

（山形城三の丸跡）

発掘調査報告書

縄文時代～中世編

2005

山　形　市
山形市教育委員会

双葉町遺跡
ふたばちょういせき

（山形城三の丸跡）
やまがたじょうさん　まるあと

発掘調査報告書

縄文時代～中世編

平成17年

山　形　市
山形市教育委員会

序

双葉町遺跡は山形県の県都である山形市の中心部に位置しています。この遺跡は、現在市民の憩いの場として開放されている霞城公園（山形城二の丸跡）の南側に位置し、江戸時代の山形城三の丸にあたります。

発掘調査は山形駅西土地区画整理事業に伴う開発工事に先立って実施されました。

区画整理事業は平成17年度で終了する予定ですが、本書は平成9年度から平成11年度にかけて行われた、東ソー株式会社山形工場跡地にあたる区域の調査成果の中で、縄文時代から戦国時代までの部分をまとめたものです。

山形市内には国指定史跡の山形城跡や嶋遺跡をはじめ、約300箇所の遺跡が確認されております。これらの遺跡は、郷土の歴史や文化を正しく理解する上で、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

近年は、市内各所において住民福祉の向上などを目的とした各種の開発事業が増加しており、埋蔵文化財保護との調整の結果、遺跡の発掘調査に至る場合が多くなっています。また、史跡山形城跡の保存や整備を目的とした発掘調査も継続されております。これらの発掘調査によって、祖先が長い歴史のうちに育んできた貴重な文化財が、再び私たちの目に触れる機会が増えております。この文化財を大切に守り、次世代に伝えていくことは、私たちの重要な仕事であります。

本書が山形の歴史の一端を明らかにするため、また埋蔵文化財の保護と啓蒙のためにご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたって埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、多大なご協力をいただきました関係各位に厚くお礼を申し上げます。

平成17年3月

山形市教育委員会
教育長　大場　登

例　言

1　本書は、山形駅西土地区画整理事業に係る東ソー株式会社山形工場跡地整備事業に伴う「双葉町遺跡」の発掘調査のうち、山形城三の丸に関わる縄文時代～中世の部分をまとめたものである。

2　調査は、山形市都市開発部新都市拠点整備課の依頼により、山形市教育委員会文化課（平成９年度～12年度）および社会教育課（平成13年度～）が実施した。

3　調査要項は下記のとおりである。

遺 跡 名　双葉町遺跡（ふたばちょういせき）

所 在 地　山形市双葉町一丁目

遺跡番号　平成９年度登録

現地調査　平成９年10月20日～平成12年２月４日

整理作業　平成12年10月２日～平成17年３月31日

調査面積　72,100㎡

調査主体　山形市教育委員会

調査担当者

平成９年度 文化課	課　長	蜂谷哲平	平成10年度 文化課	課　長	富田　博
	課長補佐	小林和彦		文化財担当副参事	會田芳男
	文化財係長	江川　隆		文化財係長	江川　隆
	主　事	武田和宏		主　事	武田和宏
	臨時職員	齋藤　仁		主　事	齋藤　仁
	臨時職員	伊藤典子		主　事	須藤英之
				主　事	渡辺　薫
				主　事	五十嵐貴久
				臨時職員	山澤　護
平成11年度 文化課	課　長	富田　博	平成12年度 文化課	課　長	石澤孝一郎
	課長補佐	工藤義夫		課長補佐	工藤義夫
	文化財係長	江川　隆		文化財係長	江川　隆
	主　事	齋藤　仁		主　事	齋藤　仁
	主　事	須藤英之		主　事	須藤英之
	臨時職員	高橋　拓		臨時職員	岩井良太
	臨時職員	石山公亮		臨時職員	高橋　拓
平成13年度 社会教育課	課　長	柳橋幸男	平成14年度 社会教育課	課　長	柳橋幸男
	課長補佐	金子美則		課長補佐	江川　隆
	文化財保護係長	江川　隆		文化財保護係長	小野　徹
	主　事	齋藤　仁		主　事	齋藤　仁
	主　事	須藤英之		主　事	須藤英之
	臨時職員	岩井良太		臨時職員	岩井良太
	臨時職員	高橋　拓		臨時職員	高橋　拓
	臨時職員	黒澤奈都		臨時職員	黒澤奈都

平成15年度 社会教育課	課　　長	伊藤邦男	平成16年度 社会教育課	課　　長	伊藤邦男
	課長補佐	江川　隆		課長補佐	江川　隆
	文化財保護係長	小野　徹		文化財保護係長	小野　徹
	主　　事	齋藤　仁		主　　事	齋藤　仁
	臨時職員	高橋　拓		主　　事	須藤英之
	臨時職員	宮嶋　啓		臨時職員	宮嶋　啓
				臨時職員	遠藤　倫

4　本書の作成・執筆は、齋藤仁が担当し、須藤英之、岩井良太、高橋拓、黒澤奈都、宮嶋啓、遠藤倫がこれを補佐した。

5　発掘調査から本書の作成にいたるまで以下の方々および機関からご指導、ご教示をいただいた。記して感謝申し上げる。（敬称略）

（財）山形県埋蔵文化財センター　（財）最上義光歴史館　大分市教育委員会　福岡市教育委員会
揚妻昭一郎　阿子島功　飯村均　伊藤清郎　伊藤邦弘　井上喜久男　茨木光裕　大橋康二　小野正敏　片桐繁雄　川崎利夫　北野博司　日下正剛　黒坂雅人　菅原哲文　関根達人　高桑登　高桑弘美　高橋健太郎　田嶋明人　田中則和　手代木美穂　萩原三雄　畑大介　平田禎文　藤澤良祐　堀江格　誉田慶信　眞壁建　松井敏也　水戸部秀樹　村田晃一　山口博之　山中章

6　発掘調査及び整理作業にあたっては以下の方々からご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。（敬称略）

安達信吉　安達匡美　荒井清　荒井清治　荒井利雄　荒井治良　石垣勝幸　石沢富雄　井上芳一　大貫文義　大場俊三　岡崎順昭　尾形智康　小川定雄　小野政雄　小野光夫　折原栄悦　柿崎繁　片桐長作　加藤守　金子みつの　鴨田正　岸野松雄　木村澄子　熊谷繁　熊谷侃　熊谷善四郎　久蓮山八雄　後藤富夫　斉藤邦男　斎藤長栄門　斎藤三雄　笹利幸　佐藤昭司　佐藤博　佐藤実　三部秋夫　志田英信　島貫昭二郎　清水理太郎　鈴木清志　鈴木広太　鈴木孝夫　鈴木輝男　鈴木敏幸　関口太　高橋清治　武田菊雄　武田武　丹野廣　丹野藤夫　丹野与三郎　堤操　東海林民樹　戸田長生　富沢啓広　土門弘　長岡伸恭　永田清悦　中村正義　納谷好子　原田とし子　原田実　半沢郁造　半澤芳夫　深瀬啓次郎　深瀬仁美　保科源則　前野勲　三浦藤男　三浦礼司　水野一男　森田誠　横山内宥　渡辺ふじえ　渡辺由貴子（以上現場作業）

芦名久子　伊藤桂子　伊藤真喜子　金子みつの　北野恵　木村澄子　佐々木郁子　笹原陽子　佐藤由美子　鈴木麻理子　関口幸子　関野信子　武田昌子　中沢林子　原田とし子　深瀬美貴子　三浦優子　矢作初子　結城しのぶ　渡辺ふじえ（以上整理作業）

7　業務委託は下記の通りである。

埋蔵文化財調査補助業務　山源建設株式会社
空中写真撮影・平面図化　国際航業株式会社

8　出土遺物、調査記録類については、山形市教育委員会で一括保管している。

凡　　例

1　本書で使用した遺構の分類記号は以下の通りである。

ＳＴ･･･竪穴住居跡　　ＳＢ･･･掘立柱建物跡　　ＳＫ･･･土坑　　ＳＤ･･･溝跡　　ＳＥ･･･井戸跡

ＳＰ･･･柱穴、ピット　　ＳＨ･･･土壙墓　　ＳＧ･･･河川跡　ＳＸ･･･性格不明遺構　Ｐ･･･土器、陶磁器

Ｓ･･･礫　　Ｗ･･･木製品、自然木

2　本書で使用した地形図等は以下の通りである。

第１図　国土地理院発行１：25,000 地形図『山形北部』『山形南部』

第２図　山形市発行１：1,000『山形駅西土地区画整理事業計画図』

3　本報告書での遺構番号は、現場調査で登録した番号を一部変更して掲載している。以後本書の番号が正式とする。

4　報告書執筆基準は以下の通りである。

（１）遺跡位置図、調査地区概要図、遺構配置図の方位は真北を示している。

（２）グリッドの南北軸は真北を向いている。

（３）遺構実測図は１/10 ～１/200 のスケールで採録し、各々スケールを付した。なお、断面図の水糸レベルは標高を表し、単位はｍである。

（４）土層観察で、遺跡を覆う基本層序はローマ数字、遺構覆土はアラビア数字で表している。土層観察表は、表編に一括して掲載した。

（５）遺物実測図、拓影図は１/２、１/３、１/４で採録し、各々スケールを付した。

（６）遺物観察表の計測値で（）は推定値を示す。単位は特に注記のないものはcmである。

（７）遺物番号は、本文、表、挿図、写真図版ともに共通したものである。

（８）遺構覆土の色調の記載は、『新版土色帳』（小山・竹原　1973 年）に準拠した。

目　次

Ⅰ　調査の経緯 ・・・

表 4　古墳時代～奈良平安時代　掘立柱建物出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 302
表 5　古墳時代～奈良平安時代　土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 302
表 6　古墳時代～奈良平安時代　ピット出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 303
表 7　古墳時代～奈良平安時代　井戸出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 303
表 8　古墳時代～奈良平安時代　溝出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 304
表 9　古墳時代～奈良平安時代　性格不明遺構出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 305
表 10　古墳時代～奈良平安時代　河川出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 305
表 11　中世　掘立柱建物出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 305
表 12　中世　土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 305
表 13　中世　井戸出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 306
表 14　中世　溝出土遺物観察表 ・・ 307
表 15　中世　土壙墓出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 309
表 16　中世　性格不明遺構出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 310
表 17　土層注記 ・・ 311

挿　図

第 1 図　遺跡位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第 2 図　調査地区概要図 ・・・・・・・・・・・・・ 6
第 3 図　基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第 4 図　SK10165 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第 5 図　SK10367・SK10452・SK10457 ・・・・11
第 6 図　ST101 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第 7 図　ST101 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・13
第 8 図　ST0001 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第 9 図　ST0001 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・15
第 10 図　ST1001 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第 11 図　ST1002 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第 12 図　ST1002 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・17
第 13 図　ST1003 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第 14 図　ST1003 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・18
第 15 図　ST1004 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第 16 図　ST1004 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・19
第 17 図　ST1005 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第 18 図　ST1005 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・20
第 19 図　ST1006・ST1043・ST1045(1) ・・・・22
第 20 図　ST1006・ST1043・ST1045(2) ・・・・23
第 21 図　ST1006 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・23
第 22 図　ST1043 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・23
第 23 図　ST1045 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・24
第 24 図　ST1007 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第 25 図　ST1007 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・25
第 26 図　ST1007 内 SP1156 出土遺物 ・・・・・26
第 27 図　ST1009 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第 28 図　ST1009 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・27
第 29 図　ST1010・ST1054 ・・・・・・・・・・・・・28
第 30 図　ST1010 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・29
第 31 図　ST1011・ST1045(1) ・・・・・・・・・・・30
第 32 図　ST1011・ST1045(2) ・・・・・・・・・・・31
第 33 図　ST1011 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・32
第 34 図　ST1012 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第 35 図　ST1012 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・34
第 36 図　ST1013 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
第 37 図　ST1013 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・35
第 38 図　ST1014 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第 39 図　ST1014 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・37
第 40 図　ST1015 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第 41 図　ST1015 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・38
第 42 図　ST1016 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

第 43 図　ST1016 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・39
第 44 図　ST1017 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
第 45 図　ST1017 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・41
第 46 図　ST1018 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
第 47 図　ST1018 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・43
第 48 図　ST1019 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
第 49 図　ST1019 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・45
第 50 図　ST1020 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
第 51 図　ST1021・ST1032 ・・・・・・・・・・・・・47
第 52 図　ST1021 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・48
第 53 図　ST1032 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・48
第 54 図　ST1022・ST1029(1) ・・・・・・・・・・・49
第 55 図　ST1022・ST1029(2) ・・・・・・・・・・・50
第 56 図　ST1022 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・51
第 57 図　ST1029 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・51
第 58 図　ST1023 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
第 59 図　ST1023 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・54
第 60 図　ST1024 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
第 61 図　ST1024 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・55
第 62 図　ST1025 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
第 63 図　ST1025 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・57
第 64 図　ST1026 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
第 65 図　ST1026 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・58
第 66 図　ST1027 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
第 67 図　ST1027 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・59
第 68 図　ST1028 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
第 69 図　ST1028 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・61
第 70 図　ST1030 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
第 71 図　ST1030 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・63
第 72 図　ST1031 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
第 73 図　ST1031 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・64
第 74 図　ST1033 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
第 75 図　ST1034 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
第 76 図　ST1034 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・67
第 77 図　ST1035 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
第 78 図　ST1035 出土遺物 (1) ・・・・・・・・・・69
第 79 図　ST1035 出土遺物 (2) ・・・・・・・・・・70
第 80 図　ST1036・ST1038(1) ・・・・・・・・・・・71
第 81 図　ST1036・ST1038(2) ・・・・・・・・・・・72
第 82 図　ST1036 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・72
第 83 図　ST1037 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
第 84 図　ST1037 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・73
第 85 図　ST1039 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
第 86 図　ST1039 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・75
第 87 図　ST1040 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
第 88 図　ST1040 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・77
第 89 図　ST1041 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
第 90 図　ST1041 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・79
第 91 図　ST1042 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
第 92 図　ST1042 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・80
第 93 図　ST1044・ST1046(1) ・・・・・・・・・・・81
第 94 図　ST1044・ST1046(2) ・・・・・・・・・・・82
第 95 図　ST1044 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・82
第 96 図　ST1046 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・83
第 97 図　ST1047 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
第 98 図　ST1047 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・84
第 99 図　ST1048・ST1053(1) ・・・・・・・・・・・85
第 100 図 ST1048・ST1053(2) ・・・・・・・・・・・86
第 101 図 ST1048 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・87
第 102 図 ST1053 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・88
第 103 図 ST1049 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
第 104 図 ST1049 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・89
第 105 図 ST1050 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・90
第 106 図 ST1050 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・91
第 107 図 ST1051 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
第 108 図 ST1051 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・92
第 109 図 ST1052 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
第 110 図 ST1052 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・93
第 111 図 ST1055 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
第 112 図 ST1055 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・91
第 113 図 ST2002 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
第 114 図 ST2002 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・96
第 115 図 ST2004 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
第 116 図 ST2005 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
第 117 図 ST2005 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・98
第 118 図 ST2006 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・99

第 119 図 ST2006 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・99
第 120 図 ST2007 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
第 121 図 ST2007 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 101
第 122 図 ST2008 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
第 123 図 ST2008 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 103
第 124 図 ST3001 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
第 125 図 ST3001 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 104
第 126 図 ST3002 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
第 127 図 ST3004 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
第 128 図 ST3004 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 106
第 129 図 ST3005 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
第 130 図 ST3005 出土遺物 (1) ・・・・・・・・・ 108
第 131 図 ST3005 出土遺物 (2) ・・・・・・・・・ 109
第 132 図 ST3007 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
第 133 図 ST3008 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
第 134 図 ST3008 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 112
第 135 図 ST3009 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
第 136 図 ST3009 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 114
第 137 図 ST3010 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115
第 138 図 ST3010 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 115
第 139 図 ST5002 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 116
第 140 図 ST5002 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 117
第 141 図 ST5003 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
第 142 図 ST5003 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 118
第 143 図 ST8002 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
第 144 図 ST8002 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 119
第 145 図 ST9001 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120
第 146 図 ST10001・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
第 147 図 ST10001 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 122
第 148 図 ST10002(1) ・・・・・・・・・・・・・・ 123
第 149 図 ST10002(2) ・・・・・・・・・・・・・・ 124
第 150 図 ST10002 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 125
第 151 図 ST10003・ST10004(1)・・・・・・・・ 126
第 152 図 ST10003・ST10004(2)・・・・・・・・ 127
第 153 図 ST10003 掘り方・・・・・・・・・・・・ 128
第 154 図 ST10003 出土遺物 (1)・・・・・・・・ 129
第 155 図 ST10003 出土遺物 (2)・・・・・・・・ 130
第 156 図 ST10003 出土遺物 (3)・・・・・・・・ 131
第 157 図 ST10003 出土遺物 (4)・・・・・・・・ 132
第 158 図 ST10003 出土遺物 (5)・・・・・・・・ 133
第 159 図 ST10003 出土遺物 (6)・・・・・・・・ 134
第 160 図 ST10005・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135
第 161 図 ST10005 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 136
第 162 図 ST10006(1) ・・・・・・・・・・・・・・ 137
第 163 図 ST10006(2) ・・・・・・・・・・・・・・ 138
第 164 図 ST10006 出土遺物 (1)・・・・・・・・ 139
第 165 図 ST10006 出土遺物 (2)・・・・・・・・ 140
第 166 図 ST10006 出土遺物 (3)・・・・・・・・ 141
第 167 図 ST10007・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
第 168 図 ST10007 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 143
第 169 図 ST10008・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 143
第 170 図 ST10008 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 143
第 171 図 ST10010・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 144
第 172 図 ST10010 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 144
第 173 図 ST10011・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145
第 174 図 ST10012・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
第 175 図 ST10013・ST10017・・・・・・・・・・・ 147
第 176 図 ST10013 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 148
第 177 図 ST10017 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 148
第 178 図 ST10014・ST10015・・・・・・・・・・・ 150
第 179 図 ST10014 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 150
第 180 図 ST10016・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 151
第 181 図 ST10016 出土遺物 (1)・・・・・・・・ 152
第 182 図 ST10016 出土遺物 (2)・・・・・・・・ 153
第 183 図 ST10018・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 154
第 184 図 ST10018 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 155
第 185 図 ST10019・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 156
第 186 図 ST10019 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 156
第 187 図 ST10020・ST10021(1)・・・・・・・・ 157
第 188 図 ST10020・ST10021(2)・・・・・・・・ 158
第 189 図 ST10020 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 159
第 190 図 ST10021 出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 159
第 191 図 SB2002(1) ・・・・・・・・・・・・・・・ 160
第 192 図 SB2002(2) ・・・・・・・・・・・・・・・ 161
第 193 図 SB2002 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 161
第 194 図 SK023 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162

第195図 SK025 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162
第196図 SK091 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 163
第197図 SK1038 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 164
第198図 SK1065 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
第199図 SK1098 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
第200図 SK1146 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
第201図 SK1326 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 167
第202図 SK1349 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 167
第203図 SK1366 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 168
第204図 SK1367 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 169
第205図 SK1368・SK1375 ・・・・・・・・・・・ 170
第206図 SK1406 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
第207図 SK1427 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 172
第208図 SK1483 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 173
第209図 SK1490 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
第210図 SK2142 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 175
第211図 SK3019 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 176
第212図 SK3027 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 176
第213図 SK6078 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177
第214図 SK6143 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177
第215図 SK6153 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 178
第216図 SK8023 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 179
第217図 SK10028・・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
第218図 SK10183・・・・・・・・・・・・・・・・・ 181
第219図 SK10248・・・・・・・・・・・・・・・・・ 182
第220図 SK10280・・・・・・・・・・・・・・・・・ 182
第221図 SK10320・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
第222図 SK11006・・・・・・・・・・・・・・・・・ 184
第223図 SP2079 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185
第224図 SP3015 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 186
第225図 SE1034 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 188
第226図 SE1041(1) ・・・・・・・・・・・・・・・ 189
第227図 SE1041(2) ・・・・・・・・・・・・・・・ 190
第228図 SE1041(3) ・・・・・・・・・・・・・・・ 191
第229図 SE1041(4) ・・・・・・・・・・・・・・・ 192
第230図 SE1041 井戸枠部材 (1) ・・・・・・・ 193
第231図 SE1041 井戸枠部材 (2) ・・・・・・・ 194
第232図 SE1044 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 195
第233図 SE1046 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 195
第234図 SE1048(1) ・・・・・・・・・・・・・・・ 196
第235図 SE1048(2) ・・・・・・・・・・・・・・・ 197
第236図 SE1048 井戸枠部材 (1) ・・・・・・・ 198
第237図 SE1048 井戸枠部材 (2) ・・・・・・・ 199
第238図 SE1048 井戸枠部材 (3) ・・・・・・・ 200
第239図 SE1048 井戸枠部材 (4) ・・・・・・・ 201
第240図 SE1048 井戸枠部材 (5) ・・・・・・・ 202
第241図 SE2009 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203
第242図 SE10001・SE10004・SE10029 ・・・ 204
第243図 SD309 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 205
第244図 SD1117 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
第245図 SD1118 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
第246図 SD1122 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 207
第247図 SD1138 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
第248図 SD2007 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
第249図 SD2014 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
第250図 SD10018・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209
第251図 SD10019・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
第252図 SD10031・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
第253図 SX1019 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 212
第254図 SG7001 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213
第255図 SB2001(1) ・・・・・・・・・・・・・・・ 215
第256図 SB2001(2) ・・・・・・・・・・・・・・・ 216
第257図 SB2001(3) ・・・・・・・・・・・・・・・ 217
第258図 SK038 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 217
第259図 SK167 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 218
第260図 SK173 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 219
第261図 SK502 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 220
第262図 SK1445 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 221
第263図 SK1450 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 222
第264図 SK1465 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223
第265図 SK4005・SK6019 ・・・・・・・・・・・ 224
第266図 SK6045 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
第267図 SK6067 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 226
第268図 SK6080 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 226
第269図 SK6084 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 227
第270図 SK6095 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 228

第271図 SK6100 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 229
第272図 SK6121 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 230
第273図 SK6142 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
第274図 SK8004 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 232
第275図 SK8051 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 233
第276図 SK8057 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 234
第277図 SK8079 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 235
第278図 SK9009 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 236
第279図 SK9038 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 237
第280図 SK9044 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 238
第281図 SK10060・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 239
第282図 SK10076・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 240
第283図 SK10173・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 241
第284図 SK10235・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 242
第285図 SK10371・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 243
第286図 SE1042 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 244
第287図 SE1043 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 245
第288図 SE2006(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 246
第289図 SE2006 井戸枠部材 (1) ・・・・・・・・ 247
第290図 SE2006 井戸枠部材 (2) ・・・・・・・・ 248
第291図 SE2008・SE2012 ・・・・・・・・・・・ 249
第292図 SE10006・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 250
第293図 SE10016・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 251
第294図 SD120(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 253
第295図 SD120(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 254
第296図 SD120(3) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 255
第297図 SD1001 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 256
第298図 SD1005 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 257
第299図 SD1062(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 258
第300図 SD1062(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 259
第301図 SD1068 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 259
第302図 SD1070(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 260
第303図 SD1070(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 261
第304図 SD1085 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 262
第305図 SD1090 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 263
第306図 SD1092(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 264
第307図 SD1092(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 265
第308図 SD1096 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 265
第309図 SD1099 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 266
第310図 SD1104 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 267
第311図 SD1115(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 268
第312図 SD1115(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 269
第313図 SD2002 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 270
第314図 SD6018 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 271
第315図 SD6035(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 272
第316図 SD6035(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 273
第317図 SD6035(3) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 274
第318図 SD6035(4) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 275
第319図 SD6035(5) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 276
第320図 SD6035(6) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 277
第321図 SD6077 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 278
第322図 SD7003 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 279
第323図 SD10021・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 279
第324図 SD10028・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 280
第325図 SD11006・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 280
第326図 SK354 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 282
第327図 SK355・SK356 ・・・・・・・・・・・・・ 283
第328図 SK336・SK337・SK342・・・・・・・・ 284
第329図 SK3021 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 285
第330図 SK1002・SP10011・・・・・・・・・・・ 286
第331図 SK10273・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 287
第332図 SX1022 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 290
第333図 SX10002・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 291

写真図版

図版 1　SK10367 完掘ほか
図版 2　ST1003 カマド断面（d-d'）ほか
図版 3　ST1007 床面検出ほか
図版 4　ST1012 完掘ほか
図版 5　ST1016 完掘ほか
図版 6　ST1017 カマドほか
図版 7　ST1019 完掘ほか
図版 8　ST1022 完掘ほか
図版 9　ST1023 床面検出ほか
図版 10　ST1025 カマド断面（e-e'）ほか
図版 11　ST1030 カマド精査状況ほか
図版 12　ST1035 カマドほか
図版 13　ST1040 完掘ほか
図版 14　ST1043 カマド断面（d-d'）ほか
図版 15　ST1048 カマドほか
図版 16　遺物出土状況（ST1051 No.3）ほか
図版 17　ST2007 カマドほか
図版 18　ST3001 遺物出土状況ほか
図版 19　ST3009 完掘ほか
図版 20　ST10002 床面検出ほか
図版 21　ST10003 壁柱列検出（西側）ほか
図版 22　ST10008 完掘ほか
図版 23　ST10013 床面検出ほか
図版 24　ST10020・ST10021 完掘ほか
図版 25　SK11006 完掘ほか
図版 26　SE1041 完掘ほか
図版 27　SE1048 井戸枠木組ほか
図版 28　SD2014 断面（b-b'）ほか
図版 29　SK6045 断面ほか
図版 30　SK6100 完掘ほか
図版 31　SE2006 完掘ほか
図版 32　SE10006 完掘ほか
図版 33　SD1070 断面（b-b'）ほか
図版 34　SD6035 断面（b-b'）ほか
図版 35　SD11006 断面ほか
図版 36　SK3021 完掘ほか
図版 37　ST3005 出土遺物
図版 38　ST10003 出土遺物
図版 39　SE1043・SE10006・SD6035 出土遺物
図版 40　SD120・SD1115 出土遺物
図版 41　SK10165 出土遺物ほか
図版 42　ST1004 出土遺物ほか
図版 43　SP1156 出土遺物ほか
図版 44　ST1018 出土遺物ほか
図版 45　ST1025 出土遺物ほか
図版 46　ST1034 出土遺物ほか
図版 47　ST1035 出土遺物ほか
図版 48　ST1040 出土遺物ほか
図版 49　ST1049 出土遺物ほか
図版 50　ST2007 出土遺物ほか
図版 51　ST3001 出土遺物ほか
図版 52　ST3005 出土遺物
図版 53　ST3005 出土遺物ほか
図版 54　ST3008 出土遺物ほか
図版 55　ST8002 出土遺物ほか
図版 56　ST10003 出土遺物
図版 57　ST10003 出土遺物
図版 58　ST10003 出土遺物
図版 59　ST10003 出土遺物ほか
図版 60　ST10006 出土遺物ほか
図版 61　ST10013 出土遺物ほか
図版 62　ST10016 出土遺物ほか
図版 63　SK091 出土遺物ほか
図版 64　SK3019 出土遺物ほか
図版 65　SK11006 出土遺物ほか
図版 66　SE1041 出土遺物ほか
図版 67　SE1048 出土遺物ほか
図版 68　SB2001 出土遺物ほか
図版 69　SK6045 出土遺物ほか
図版 70　SK8057 出土遺物ほか
図版 71　SE1042 出土遺物ほか
図版 72　SD120 出土遺物ほか
図版 73　SD1062 出土遺物ほか
図版 74　SD1090 出土遺物ほか
図版 75　SD1104 出土遺物ほか
図版 76　SD1115 出土遺物ほか
図版 77　SD6035 出土遺物ほか
図版 78　SD10021 出土遺物ほか

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

山形広域都市計画事業山形駅西土地区画整理事業は、山形駅の西側に隣接した地区に、生活・文化・情報機能等の役割を果たす「新都心地区」として、周辺住宅地と調和した、都市拠点にふさわしい、いきいきとした市街地の形成を目指して、平成6年1月25日に事業計画が決定した。

区画整理施行地区の南側には、東ソー株式会社山形工場が立地していたが、この地区は大規模開発が予定されているBブロック、Dブロックおよび、西口駅前広場、一般住宅地の開発が予定されていた。これにより、東ソー株式会社山形工場は撤退することとなり、撤退に伴う整備工事が実施されることとなった。

工場敷地はマンガン等の生産によって発生する鉱滓を埋め立てて整地し、プラントを建設していた。工場跡地整備工事では鉱滓を全て掘削し化学的処理による無害化したうえで搬出するが、在来土壌を汚染している場合はこれらも掘削し処分を行うこととなった。

山形市教育委員会では、東ソー株式会社山形工場跡地整備工事敷地内での埋蔵文化財が存在するかどうかの遺跡分布調査を平成9年7月4日に実施した。この結果、古墳時代から江戸時代にかけての遺跡の存在が確認され、（仮称）東ソー跡地遺跡として登録された。その後、所在地名より双葉町遺跡として取り扱うこととなった。

この結果をうけて、平成9年9月5日付けで関係機関に報告し、事業主体である山形市都市開発部新都市拠点整備課および東ソー株式会社山形事務所、工場整備工事を行う大林組、山形市教育委員会が遺跡の取り扱いの協議を行った。工場整備工事では、処理の対象となるのは埋立た鉱滓だけでなく在来土壌も含むため、その場合遺跡は破壊されることなり、一方工場整備工事が進まない限り山形駅西土地区画整理事業の進捗に大きな影響を与えることから、遺跡は山形市教育委員会が調査主体となり発掘調査による記録保存を行うことで合意した。

2　調査の経過

発掘調査は平成9年10月20日から平成12年2月4日まで実施した。調査面積は約72,100㎡である。

工場跡地整備工事は敷地内を27のブロック（枝番を含めると31のブロック）に分けていたが、調査もこのブロックごとに、整備工事の緊急性の高い地区を優先して調査を行った。調査は区ごとに重機による表土除去、遺構検出、遺構精査、記録作業、写真撮影などを行い、調査が終了した区より整備工事が進められた。以下調査期間を示す。

Ｂ区（整備工事の13・14・20区、遺構番号100番台・200番第・500番第で登録）
平成9年10月20日～12月26日
Ａ区（整備工事の1Ｎ・1区、遺構番号300番台で登録）
平成9年12月24日～平成10年4月7日
2Ｎ区（整備工事の2Ｎ区、遺構番号4000番台で登録）
平成10年3月30日～5月7日
3Ｎ区（整備工事の3Ｎ区、遺構番号0000番台で登録）
平成10年3月24日～5月11日

3 区（整備工事の 3 区、遺構番号 5000 番台で登録）
平成 10 年 4 月 9 日～ 6 月 10 日
2 区（整備工事の 2・3 区、遺構番号 6000 番台で登録）
平成 10 年 5 月 18 日～ 10 月 6 日
25 区（整備工事の 25 区、遺構番号 7000 番台で登録）
平成 10 年 7 月 7 日～ 9 月 10 日
11 R 区（整備工事の 3・11 N・11 区、遺構番号 9000 番台で登録）
平成 10 年 8 月 28 日～ 12 月 14 日
22 区（整備工事の 12・22 区、遺構番号 8000 番台で登録）
平成 10 年 9 月 4 日～ 11 月 19 日
17 区（整備工事の 17 区、遺構番号 2000 番台で登録）
平成 10 年 11 月 9 日～ 12 月 24 日 、平成 11 年 5 月 13 日～ 6 月 15 日
6 区（整備工事の 6・7・8・9・15・16 区、遺構番号 1000 番台で登録）
平成 10 年 11 月 10 日～平成 11 年 9 月 30 日
12 区（整備工事の 12 区、遺構番号 2500 番台で登録）
平成 11 年 2 月 17 日～ 3 月 5 日
4 区（整備工事の 3・4・11 N区、遺構番号 3000 番台で登録）
平成 11 年 3 月 29 日～ 5 月 7 日
5 区（整備工事の 4・5・10・11 区、遺構番号 10000 番台で登録）
平成 11 年 9 月 6 日～平成 12 年 2 月 3 日
7 区（整備工事の 7 区、遺構番号 11000 番台で登録）
平成 12 年 1 月 11 日～ 2 月 4 日

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

山形市は山形県東部にある山形盆地の南部に位置している。面積は381.34k㎡で、東は奥羽山脈に西は出羽丘陵に挟まれている。平野部はこれらの山々を源とする立谷川、馬見ヶ崎川、須川などの河川が流れており、それぞれ扇状地を形成するという、複合扇状地を呈している。

山形市街地は奥羽山脈に源を発し、東から西に流れる馬見ヶ崎川が形成する扇状地の扇央から扇端に広がっている。山形城は山形市街地のほぼ中央のJR山形駅西側に隣接した地域に位置するが、この地域は馬見ヶ崎川がつくる扇状地の扇端にあたる。これより東は扇央にあたり、西は扇状地扇端からしみ出すように流れる小河川が作る自然堤防とその間に広がる後背湿地からなる沖積平野となっている。

調査地区は山形城の三の丸の南部に当たる地域である。地目は工場跡地であり、標高はおおよそ127 mから131 mを測る。

2　歴史的環境

山形城は、南北朝時代の延文元年（1356）に出羽管領として入部した斯波兼頼によってその原型が築かれたと言われるが明確な根拠はなく、中世山形城の正確な位置や規模は不明である。山形城の本格的な形成は、斯波氏末裔の最上義光が豊臣政権の大名として認められ推定石高13万石の所領を安堵されてからとされる。さらに三の丸までの大規模な城郭や城外の町場の形成は、義光が関ヶ原の合戦時に出羽合戦の功績で57万石といわれる領地を与えられてからと考えられる。

現在に残る城郭の規模は本丸が東西170 m・南北190 m、二の丸が東西530 m・南北590 mで、現在は国指定史跡となり公園として市民に開放されている。三の丸は現在ほとんど破壊されているが、推定で東西1580 m・南北2090 mである。山形城は本丸、二の丸、三の丸という、ほぼ完全な三重の堀と土塁が廻らされた城であった。

本丸・二の丸は領主の政務及び日常の空間である。側衆の屋敷や馬屋・御蔵などの建物もあった。

三の丸は山形藩の家臣の屋敷が配置されていた。近世初頭の最上氏時代の城下絵図「最上家在城諸家中町割図」（山形県立図書館蔵）によると、三の丸が511名、三の丸外（城外）が943名の家臣屋敷があったことが知られる。三の丸外に屋敷を持つものは足軽や小姓などの身分の低いもので、三の丸に屋敷を構えるのは中上級の家臣であった。三の丸の周囲には11の門があり、道路は二の丸の四方の門と三の丸の11の門を結ぶ各道を中心として東西・南北に直線的につくられ、交差する部分は丁字路・鈎型になっている。最上氏の時代には領内各地に支城を有するものが存在したが、このような重臣は二の丸の門外近くや三の丸の門内近くに配置されているのが特徴である。最上氏に関わりの深い寺院も三の丸内に存在した。二の丸の東側の光明寺は始祖斯波兼頼の菩提寺である。東南隅の宝幢寺は1370石の朱印地をもち、最上氏とは由緒も深い寺院である。その他、三の丸南部の勝因寺・来叶院なども最上氏の庇護を受けていた。

最上氏は元和8年（1622）に改易されたが、その後も、幕府は山形藩を東北の要衝としての意義を重視して、徳川譜代の鳥居氏や三代将軍家光の異母弟の保科正之を入部させている。このころの良好な城下絵図は存在せず、城下の具体的な様相はわからないが、鳥居氏が入部する直前に幕府直轄による二の丸の拡幅や最上氏に由来の深い寺院を城外に出すなどの改修を行ったようである。

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	双葉町遺跡	9	落合楯	16	五日町
2	梅野木前2	10	宮町円応寺	17	五日町古墳
3	田端稲荷塚	11	西根小但馬屋敷	18	南館
4	馬上台	12	宮町三小	19	山形西高敷地内
5	江俣	13	薬師町5中	20	荒楯
6	宮町古墳	14	陣場	21	松見町
7	桧葉ノ木	15	長苗代条里	22	永大ハウス裏
8	川原田				

第1図　遺跡位置図（1：25000）

保科氏の後は、一時幕府直轄領時代を経て、結城松平氏が入部する。松平氏時代に作成された「正保絵図」（国立公文書館内閣文庫蔵）によると、三の丸に「侍町」、城外の一部に「足軽町」とあり、最上氏時代と比較して城外の家臣屋敷は縮小したようだが、三の丸は最上氏時代と変わらず中上級家臣屋敷地として機能していた。ただし、この段階で家臣に1万石以上の知行を有しするものはおらず、また一国一城令により、最上氏の家臣が有していた支城は破却されているので、重臣でも城持ちの身分のものもいない。

結城松平氏の後は奥平松平氏、奥平氏、堀田氏などが入部する。このなかで奥平氏は家臣が殉死禁止を破ったため減封左遷されたもので、山形藩としてもこの段階で15万石から9万石に減少し、東北の要衝としての意義を失い、左遷地の様相を呈するようになる。元禄元年（1688）（享和2年の写し）の「松平氏時代城下絵図」（最上義光歴史館蔵）によると、三の丸の家臣屋敷は東側の大手門付近に集中し、それ以外の地区には空地が目立つようになるが、特に西側は、「組屋敷」といった下級家臣の長屋と推定されるものや、切支丹牢の牢屋と思われる屋敷、花畑など、藩政運営上重要度の低い施設が集まるようになる。

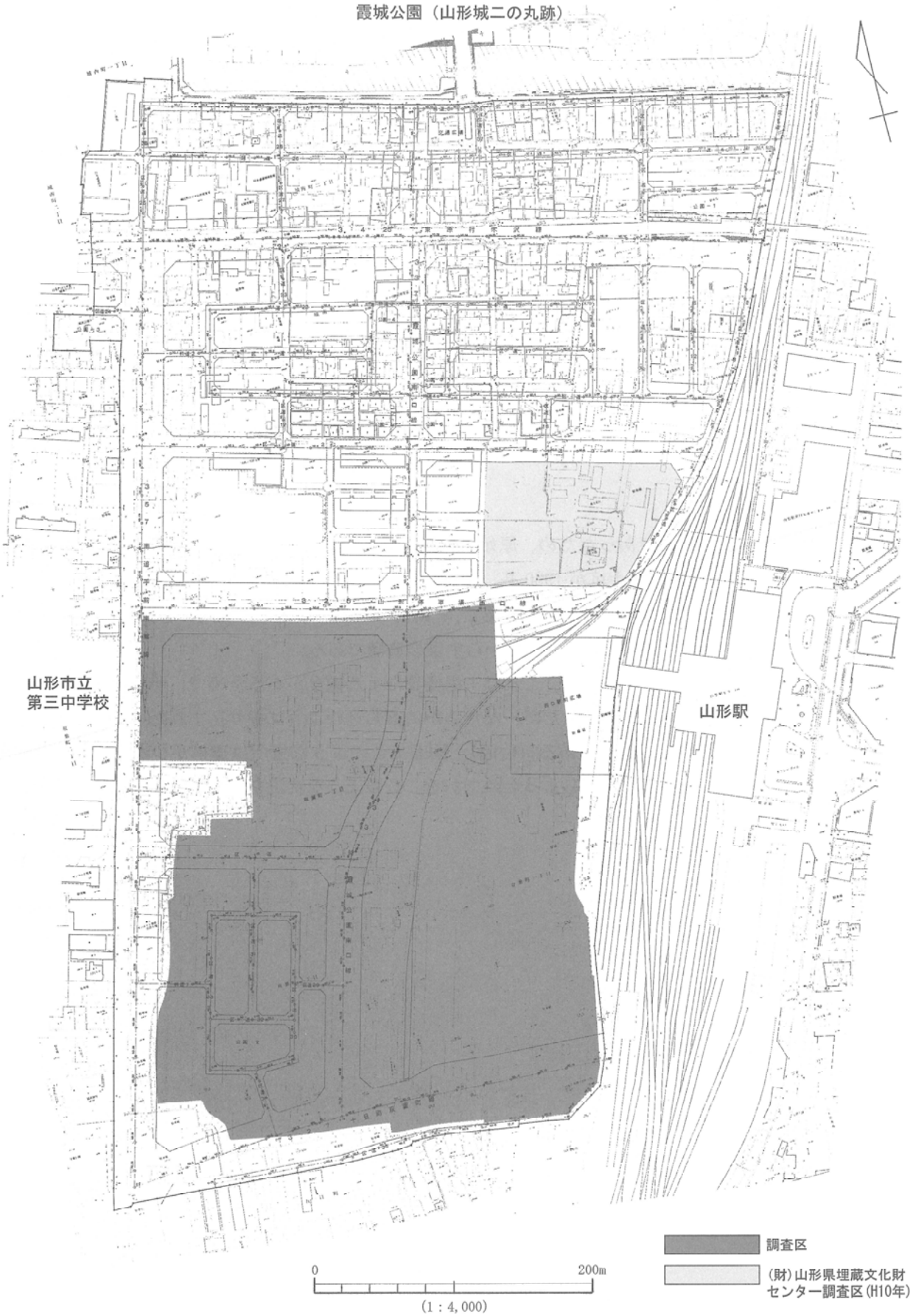
その後、山形藩は18世紀半ばに大給松平氏が入部した時点では6万石に減少し、幕末の水野氏の段階ではさらに1万石減らされ5万石となり幕末を迎える。水野氏時代の城下絵図「水野氏時代山形城内絵図」（個人蔵）では、三の丸の家臣屋敷は東側にわずかに確認されるのみで、その他の地域は田畑となってしまっている。

明治3年（1870）、廃藩置県により山形県が置かれると山形城は藩庁としての歴史的意義を失い、次第に破却されていく。明治29年（1896）には大日本帝国陸軍歩兵32連隊が旧二の丸および三の丸南側に置かれ、その際大規模に城郭が破壊されたようである。昭和4年の「山形市街図」（山形県立図書館蔵）によると、三の丸の堀・土塁は奥羽本線の西側に若干残存している部分があるが、ほとんどは埋立整地されてしまったようである。東ソー株式会社山形工場は、昭和3年（1928）に山形市の誘致企業として株式会社鐵興社が創業を開始したのが始まりである。工場創設地はもと田畑地であったが、扇状地の特性上、標高が低かった西側に鉱滓を順次埋め立てて整地し、工場を拡大していった。

終戦後は、32連隊は撤退し、住宅地、旧国鉄用地、工場などとして利用されている。

表1　山形藩の変遷

藩主名	石高	前封地（石高）	入封・移封年月日	移封地（石高）
最上義光	57		～元和8年（1622）	改易　近江へ
最上家親	57			
最上義俊	57			
鳥居忠政	24	陸奥磐城平(12)	元和8年(1622)～寛永13年（1638）	断絶　弟忠治、信濃高遠へ
鳥居忠恒	24			
保科正之	20	信濃高遠(3)	寛永13年（1638）～寛永20年(1644)	陸奥会津(23)
幕府直轄領			寛永20年（1644）～寛永21年（1645）	
(結城)松平直基	15	越前大野(5)	寛永21年（1645）～慶安元年（1648）	播磨姫路(15)
(奥平)松平忠弘	15	播磨姫路（15）	慶安元年（1648）～寛文8年（1668）	下野宇都宮(18)
奥平正能	9	下野宇都宮(11)	寛文8年（1668）～貞享2年（1685）	下野宇都宮(9)
奥平昌章	9			
堀田正仲	10	下総古河(10)	貞享2年（1685）～貞享3年（1686）	陸奥福島(10)
(結城)松平直矩	10	豊後日田(7)	貞享3年（1686）～元禄5年（1692）	陸奥白河(15)
(奥平)松平忠弘	10	陸奥白河(15)	元禄5年（1692）～元禄13年（1700）	備後福山(10)
(奥平)松平忠雅	10			
堀田正虎	10	陸奥福島(10)	元禄13年(1700)～延享3年（1746）	下総佐倉(10)
堀田正春	10			
堀田正亮	10			
(大給)松平乗佑	6	下総佐倉(7)	延享3年（1746）～明和元年（1764）	三河西尾(6)
幕府直轄領			明和元年（1764）～明和4年（1767）	
秋元凉朝	6	武蔵川越(6)	明和4年（1764）～弘化2年（1845）	上野館林(6)
秋元永朝	6			
秋元久朝	6			
水野忠精	5	遠江浜松(6)	弘化2年(1845)～明治2年（1869）	廃藩
水野忠弘	5			


霞城公園（山形城二の丸跡）
山形市立
第三中学校
山形駅
調査区
(財)山形県埋蔵文化財
センター調査区(H10年)
0
200m
(1：4,000)

第2図　調査区概要図

Ⅲ　遺跡の概要

1　遺跡の層序

調査区内は、城下町が廃絶した後、田畑となり、その後大日本帝国陸軍歩兵32連隊敷地や東ソー株式会社山形工場敷地となっているので、これらの運営に伴うとみられる痕跡が濃厚で、基本層序に自然堆積が認められる個所は少ない。

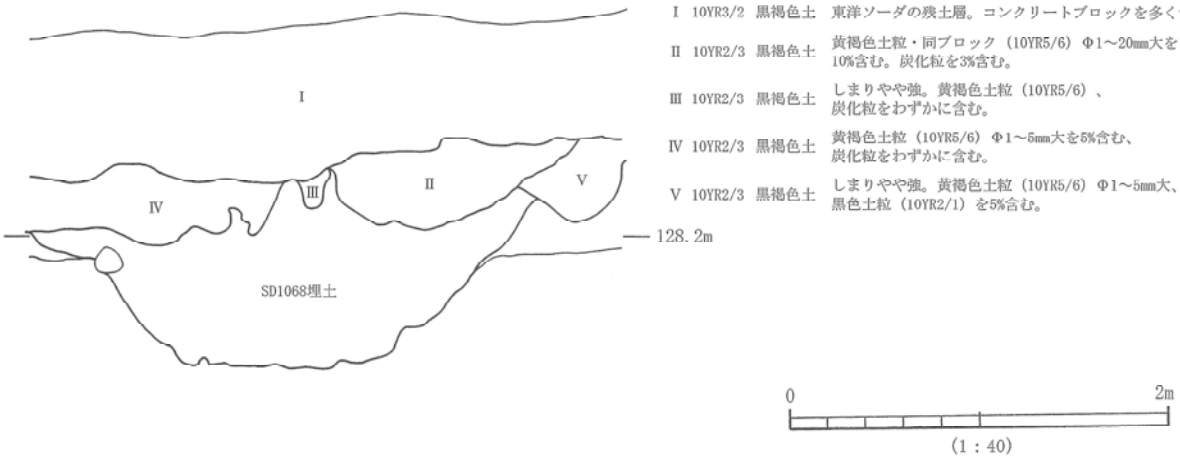
第3図の基本層序観察場所は調査区の西端にあたる。この地区は工場操業に伴う鉱滓が最も厚く埋め立てられていた個所であり、原況で周辺住宅地よりも標高が約2.8ｍ高くなっている。基本層序は上部の鉱滓を重機で除去した後のものである。

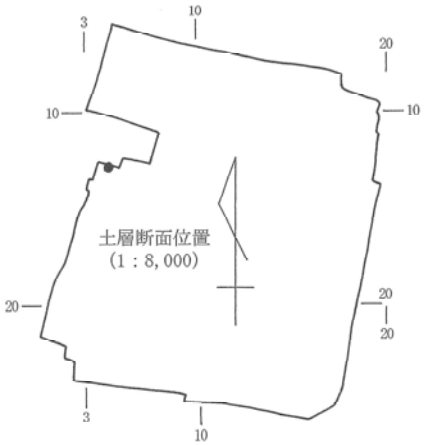
層序は大きく分けて３つに分かれる。Ⅰ層は、工場による埋立残土である。Ⅱ層からⅤ層は工場操業以前の埋土である。これらの層からはおおよそ近代の陶磁器やガラスなどが出土するので、城下町埋絶後の田畑を開墾し植物を栽培していた痕跡であると思われる。それより下層が近世以前の遺物が出土する遺構埋土である。

2　遺構と遺物の分布

遺構の検出面は基本的に１面であったため、原始古代から近代の撹乱まで同一プランで確認されている。登録した遺構は、全時代の合計で、土坑が1930基、溝547条、井戸214基、ピット214基、竪穴住居101棟、土壙墓13基、性格不明遺構86基および河川跡が２条で、総数3615である。時期が判断できない遺構も多いが、半数以上が近世の遺構で、残り半数弱が縄文時代から中世の遺構である。

遺構の分布は場所によって粗密があるが、これは工場操業による撹乱があるためで、明瞭に掘り込んでいる撹乱に関してはプランを設定して記録したが、なだらかに落ち込むように掘り込まれた撹乱は上端を認めがたく、プランを設定していないものもある（付図）。図面上このような場所は遺構が少ないように見えるが、これは撹乱によって遺構が消滅してしまったのである。このような状況を勘案すると、遺構の分布はほぼ均一だったようである。


Ⅰ　10YR3/2　黒褐色土　東洋ソーダの残土層。コンクリートブロックを多く含む。
Ⅱ　10YR2/3　黒褐色土　黄褐色土粒・同ブロック（10YR5/6）Φ1～20mm大を10%含む。炭化粒を3%含む。
Ⅲ　10YR2/3　黒褐色土　しまりやや強。黄褐色土粒（10YR5/6）、炭化粒をわずかに含む。
Ⅳ　10YR2/3　黒褐色土　黄褐色土粒（10YR5/6）Φ1～5mm大を5%含む、炭化粒をわずかに含む。
Ⅴ　10YR2/3　黒褐色土　しまりやや強。黄褐色土粒（10YR5/6）Φ1～5mm大、黒色土粒（10YR2/1）を5%含む。
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
Ⅴ
128.2m
SD1068埋土
0
2m
(1：40)


3
10
20
10
10
土層断面位置
(1：8,000)
20
20
20
3
10

第3図　基本層序

Ⅳ　検出された遺構と遺物

１　縄文時代

（１）土坑

ＳＫ１０１６５（第４図）

位　　置　15 － 15 グリッド。

規　　模　長軸 2.08 m、短軸 1.86 m、検出面からの深さ 25 ㎝。

形　　態　平面形態はくずれた円形を呈する。検出面からの深さは浅く、断面形態は緩やかな逆台形を呈する。北東側を SK10157 に切られる。

出土遺物　深鉢（1）が出土した。後期前半の年代観が与えられる。

（２）陥穴状遺構

ＳＫ１０３６７（第５図）

位　　置　14 － 13 グリッド。

規　　模　長軸 1.35 m、短軸 0.61 m、検出面からの深さ 98 ㎝。

形　　態　平面形態は東西に長い方形を呈する。検出面からの深さは深く、壁面はほぼ垂直に立ち上がり断面形態は方形を呈する。年代を決定する資料は得られなかったが、遺構覆土が均質で他の縄文時代に帰属する遺構と近似しており、周囲の遺構からすべて切られているので、遺構の形状とあわせて考慮した結果、縄文時代の陥穴であろうと推定した。逆茂木などの底部施設は確認されなかった。

出土遺物　出土遺物はない。

ＳＫ１０４５２（第５図）

位　　置　14 － 14 グリッド。

規　　模　長軸 1.42 m、短軸 0.75 m、検出面からの深さ 110 ㎝。

形　　態　平面形態は東西に長い方形を呈する。検出面からの深さは深く、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。年代を決定する資料は得られなかったが、SK10367 と同様の理由で、縄文時代の陥穴と推定した。逆茂木などの底部施設は確認されなかった。

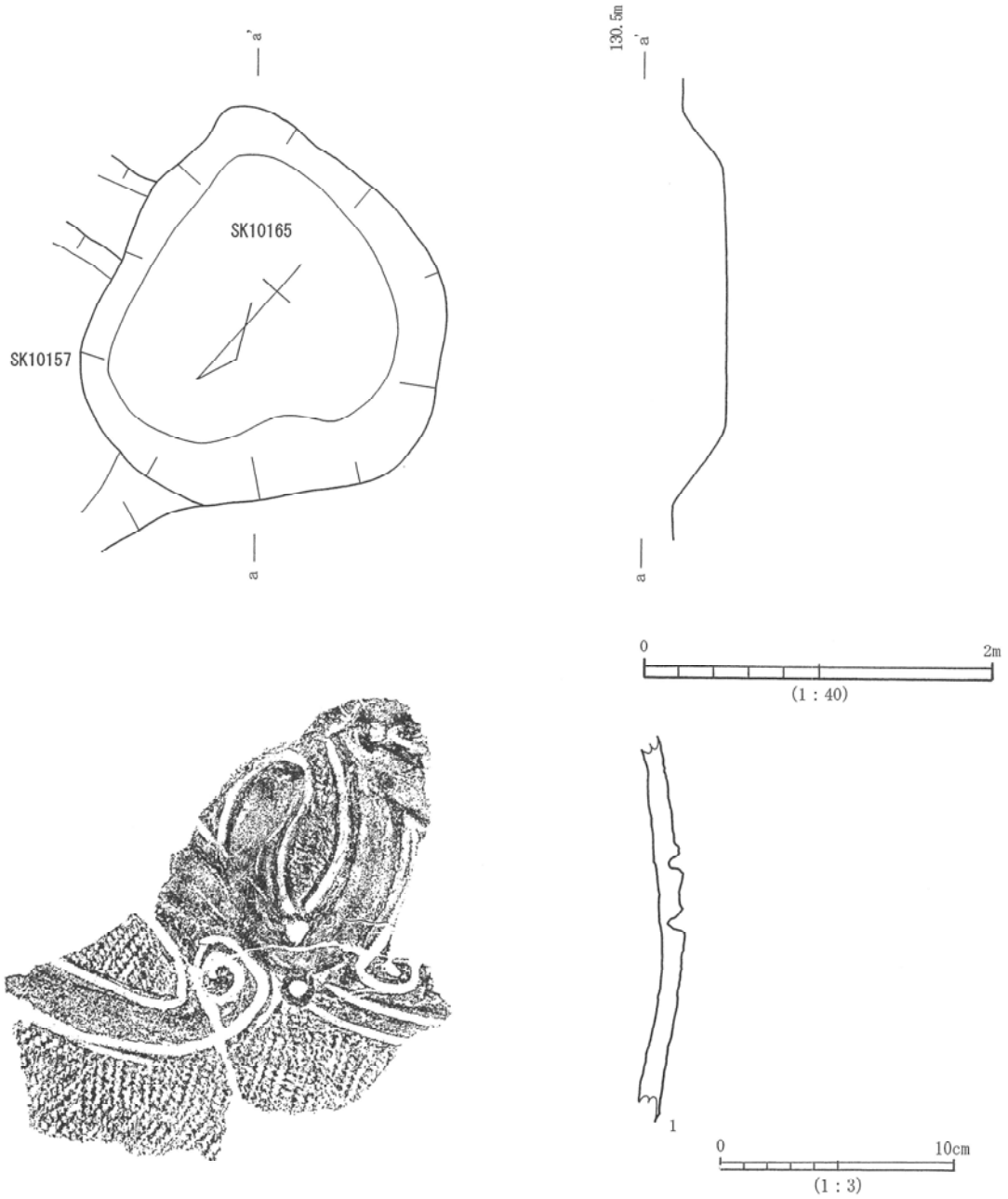
出土遺物　出土遺物はない。

ＳＫ１０４５７（第５図）

位　　置　14 － 14 グリッド。

規　　模　長軸 2.20 m、短軸 1.02 m、検出面からの深さ 76 ㎝。

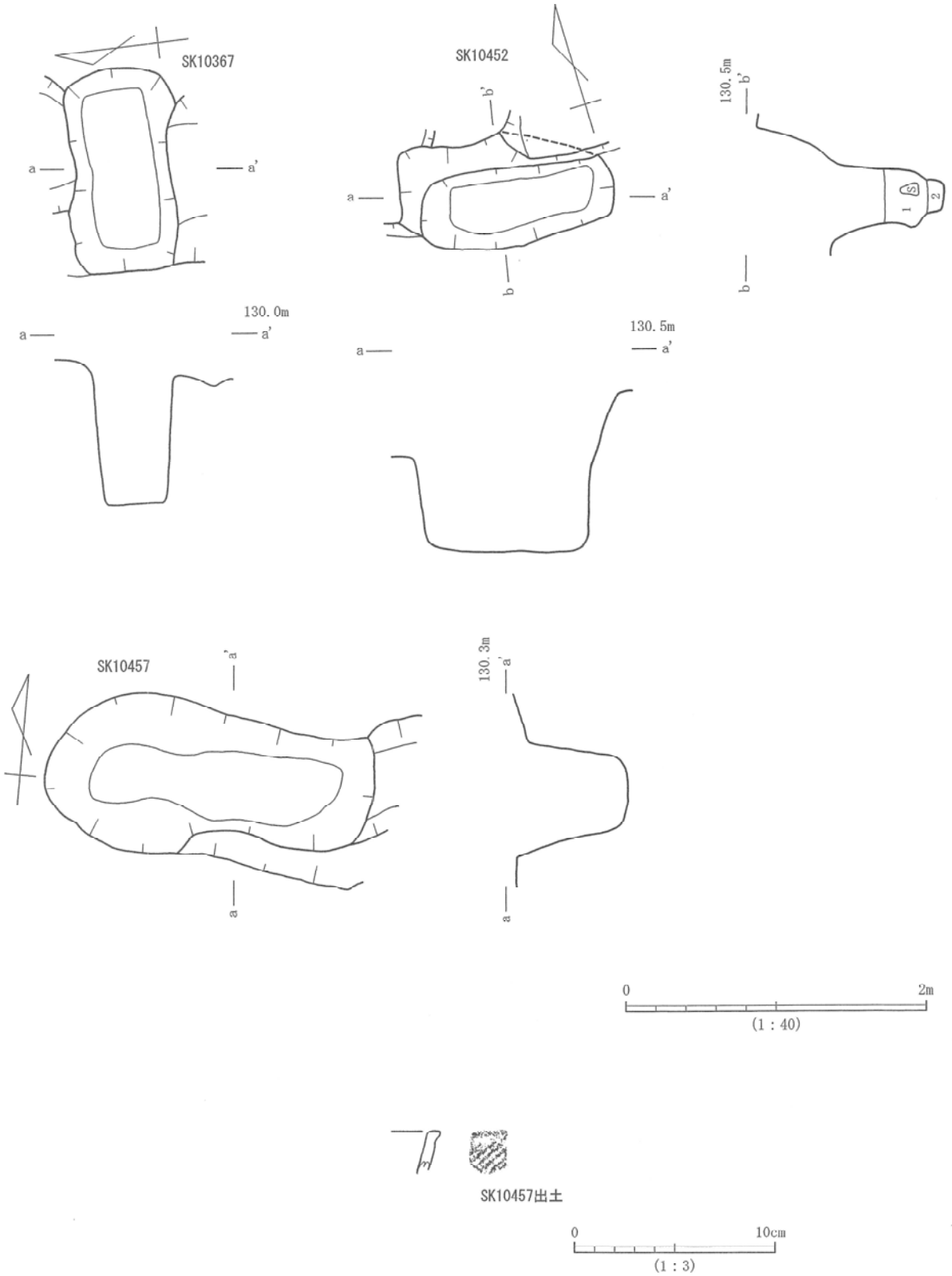
形　　態　平面形態は東西に長い方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形態は方形に近い台形



第4図　SK10165

を呈する。縄文土器が1点出土しており、上記のSK10367、SK10452と同様の理由で縄文時代の陥穴と推定した。逆茂木などの底部施設は確認されなかった。

出土遺物　深鉢と思われる破片（1）が1点出土した。



第5図　SK10367・SK10452・SK10457

２　古墳時代から奈良平安時代

（１）竪穴住居

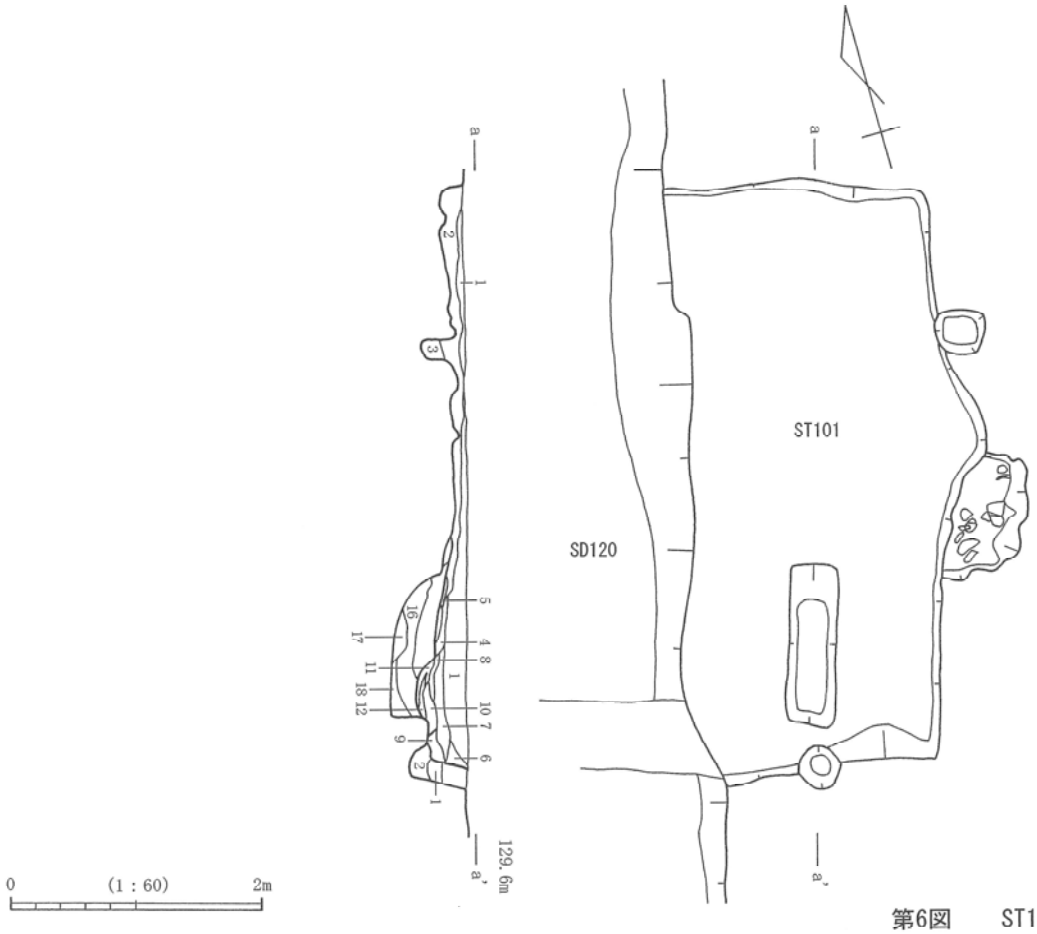
ＳＴ１０１（第６～７図）

位　　置　10－20グリッド。

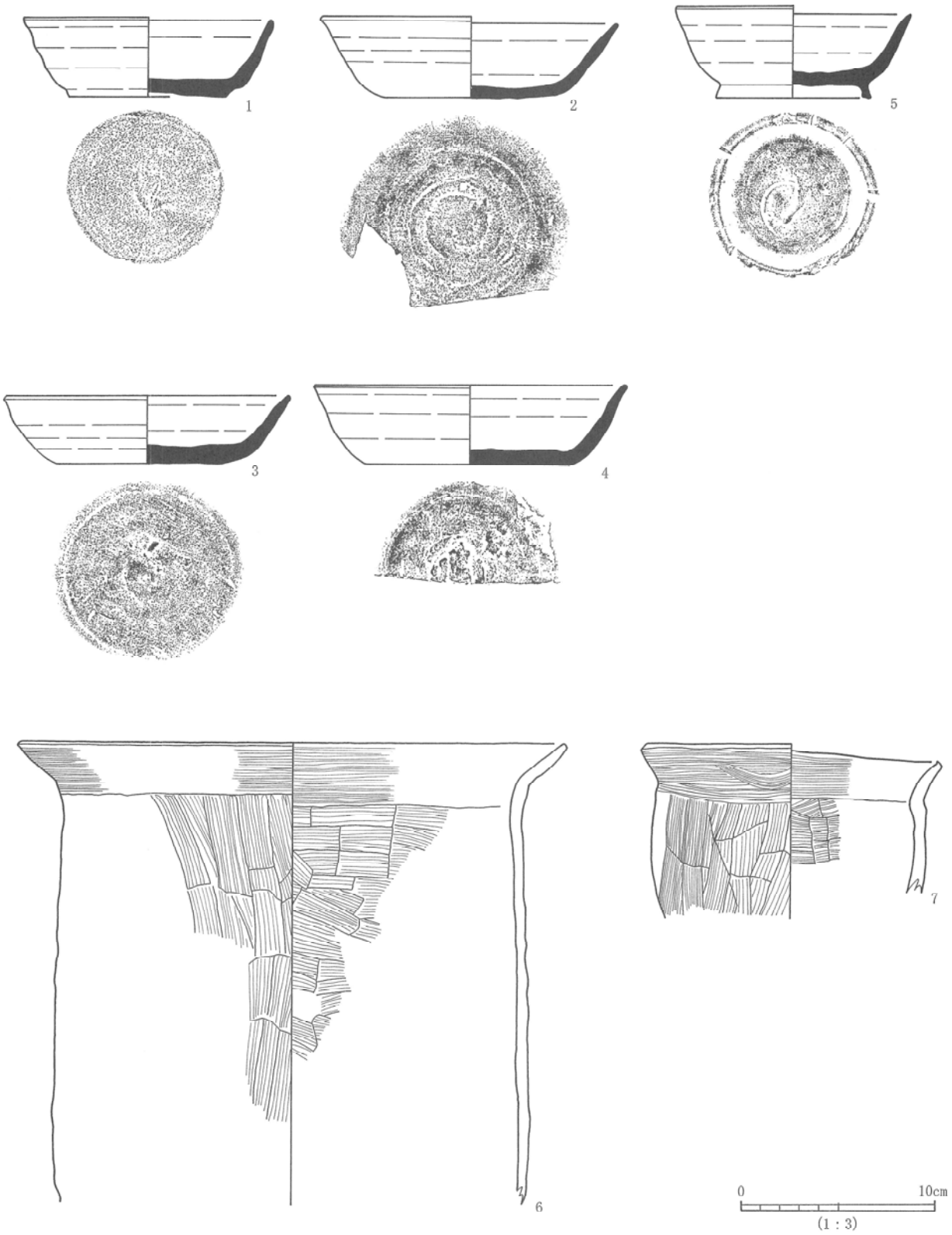
規　　模　長軸4.74ｍ、検出面からの深さ18㎝。

形　　態　西側がSD120に切られる。検出面からの深さが浅く、壁面の立ち上がりはあまり明瞭でない。東壁の中央付近で焼土および土師器甕（6）が検出され、ここがカマドであると思われるが、ソデなどの施設は確認できなかった。全体的に遺存状況は悪い。

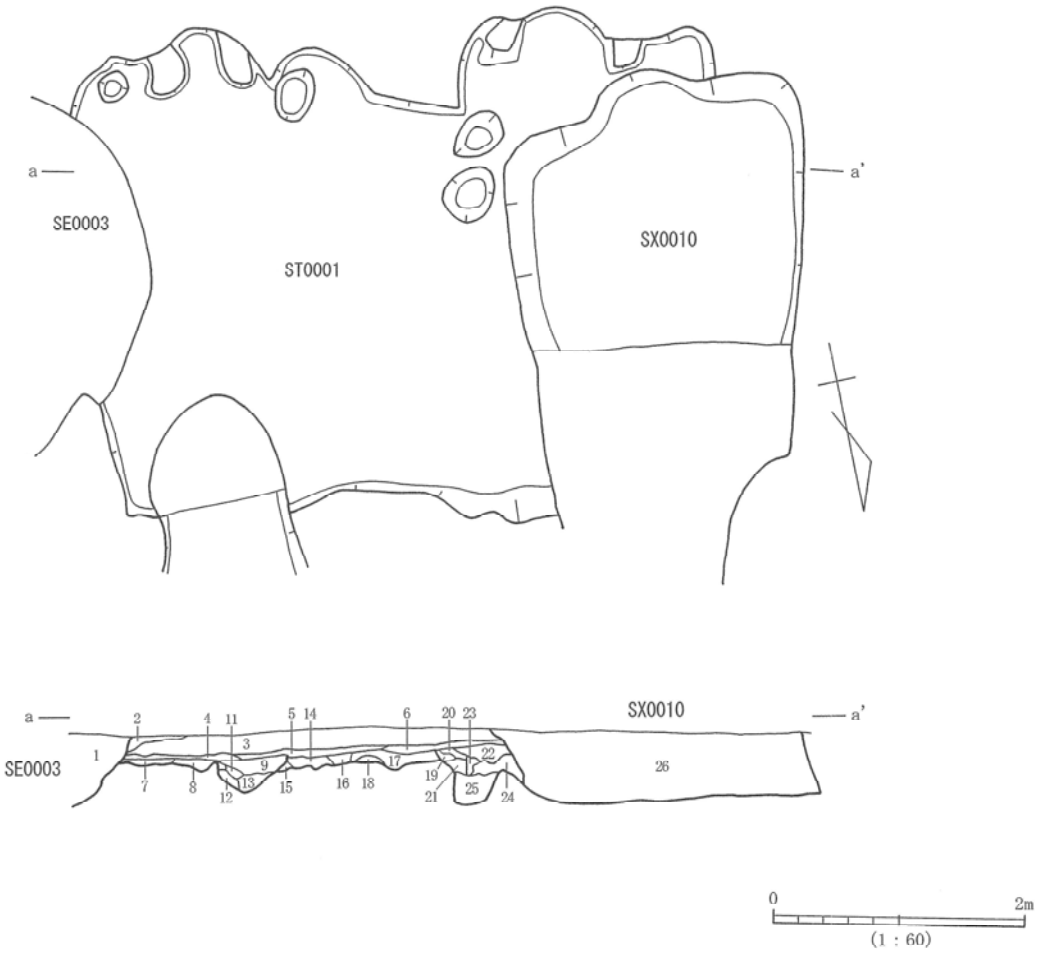
出土遺物　須恵器坏（1～4）・有台坏（5）、土師器甕（6、7）が出土した。須恵器の坏類は、すべて回転ヘラ切りで、一部切り離しの後に回転ヘラケズリが認められるもの（1、3、5）がある。土師器甕は長胴形の大型のタイプ（6）と、小型のタイプ（7）の二種類がある。共に非ロクロで体部の内外面にハケメ、口縁部にナデが施される。長胴形の甕（6）はカマドから出土し被熱が認められるので、煮炊に使用されたと考えられる。年代は8世紀後半から9世紀初頭であると思われる。



第6図　ST101



第7図　ST101出土遺物



第8図　ST0001

ＳＴ０００１（第８～９図）

位　　置　16－8グリッド。

規　　模　長軸5.2 m、短軸3.07 m、検出面から床面までの深さ27 cm、検出面から掘り方までの深さ32 cm。

形　　態　東側をSE0003に、西側をSX0010に切られる。検出面からの深さが浅く壁面も明瞭でない。貼床（4～6層）がほぼ住居全体で検出された。掘り方底面は起伏が激しい。南壁の東よりにカマドが検出され、ソデが良好な状態で残存していた。

出土遺物　須恵器坏（2）・甕（6）・瓶（7）、土師器有台坏（1）・甕（8）、赤焼坏（4）・有台坏（3）・甕（5）などが出土した。破片資料が多く、全体の形状がわかるものは少ない。長胴形の土師器甕（8）はカマドの燃焼部付近から出土したが、あまり被熱痕は認められなかった。年代は、9世紀半ばであると思われる。

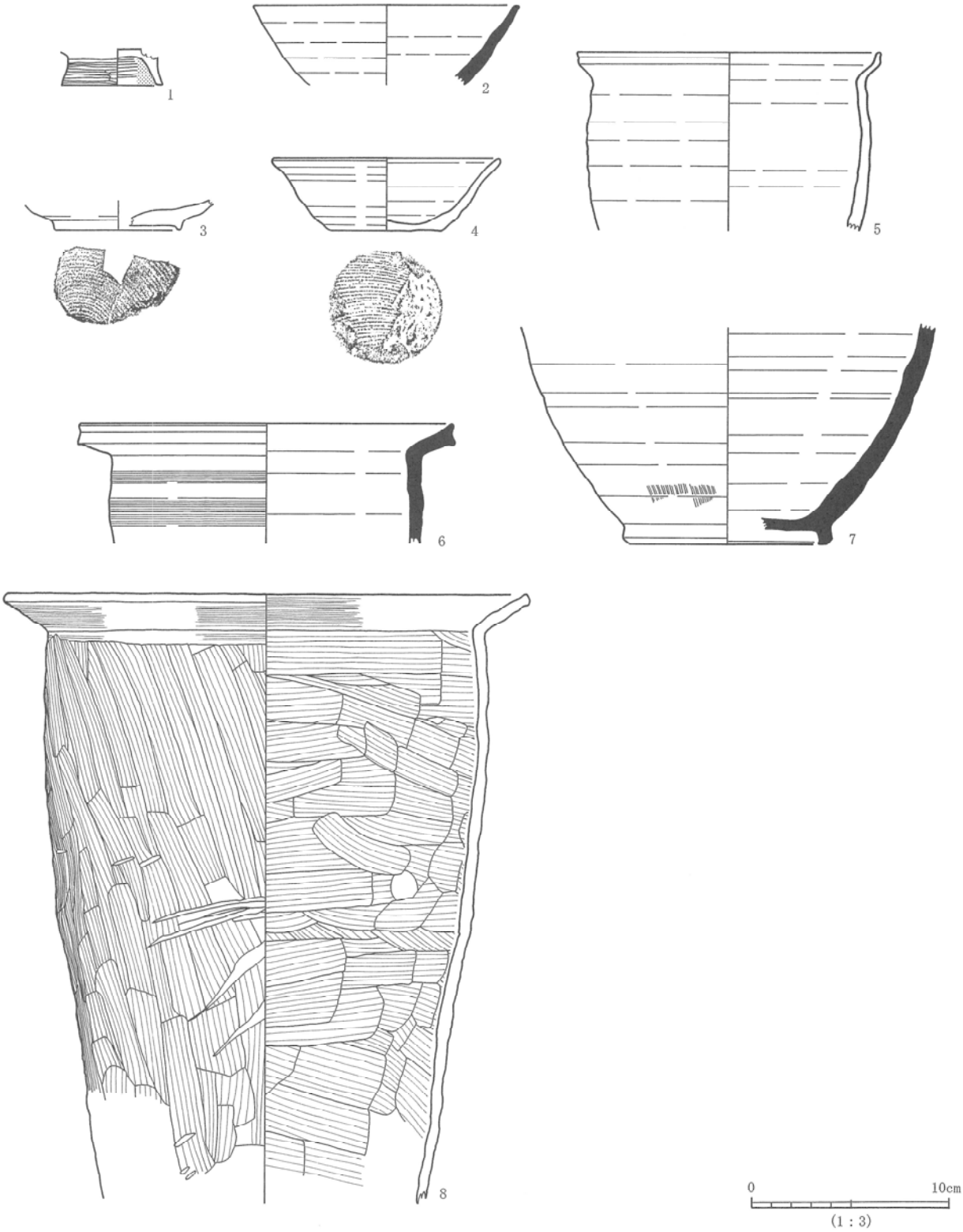
ＳＴ１００１（第１０図）

位　　置　9－12グリッド。

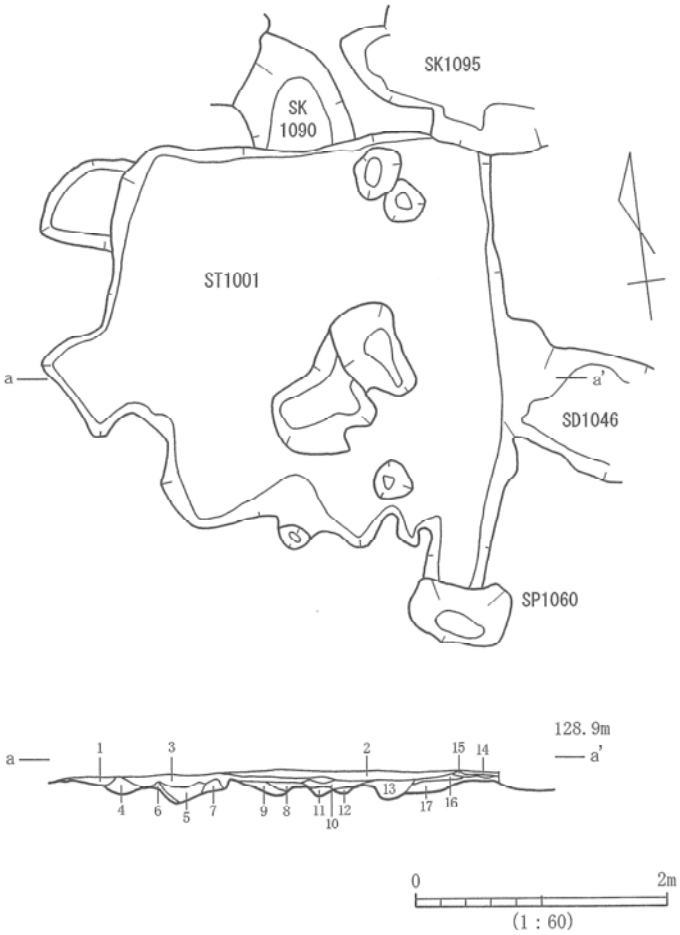
規　　模　長軸3.23 m、短軸3.02 m、検出面からの深さ10 cm。

形　　態　検出面からの深さは浅く、南側の壁面の立ち上がりが明瞭でない。平面形態はくずれた方形を呈する。カマドは検出されなかった。

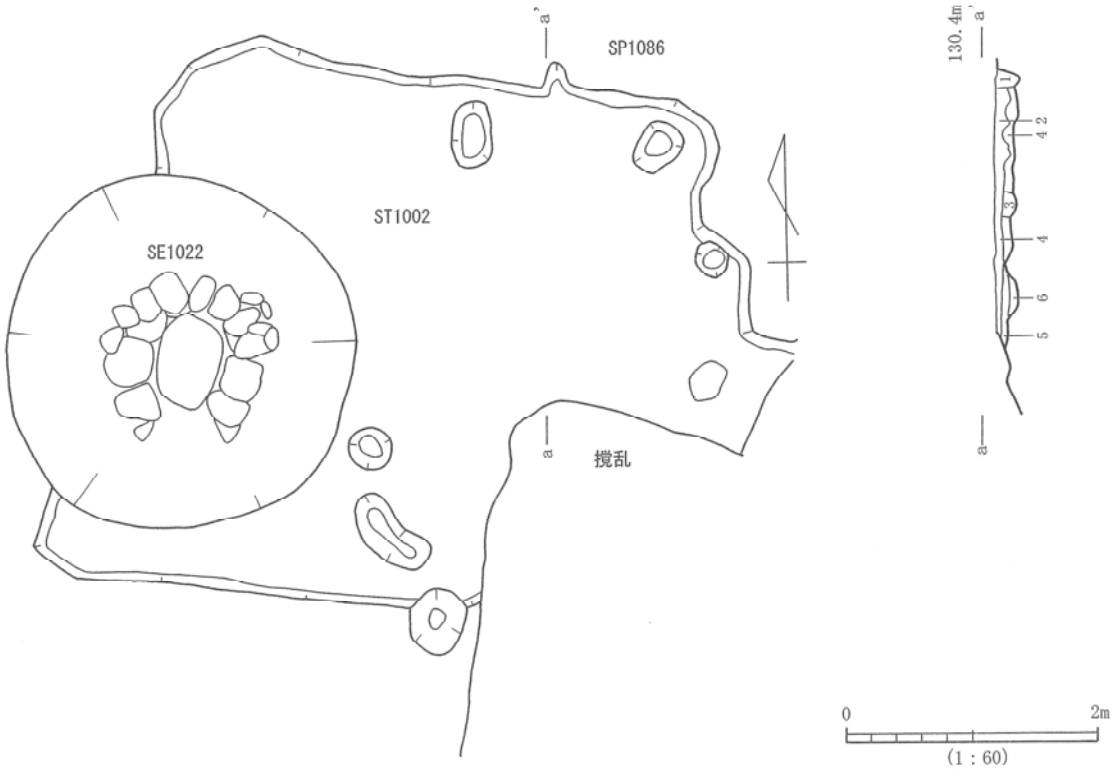
出土遺物　遺物は検出されず、年代も不明である。



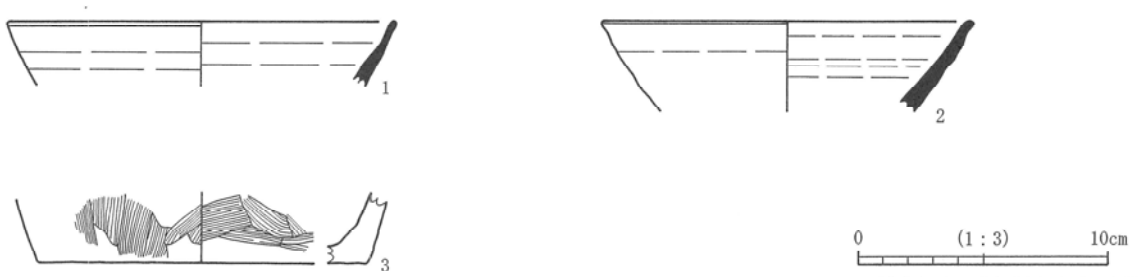
第9図　ST0001出土遺物



第10図　ST1001



第11図　ST1002



第12図　ST1002出土遺物

ＳＴ１００２（第１１～１２図）

位　　置　9－13グリッド。

規　　模　長軸4.38 m、短軸4.24 m、検出面から床面までの深さ8 cm、検出面から掘り方までの深さ15 cm。

形　　態　西側をSE1022に、南東を撹乱に切られる。検出面からの深さは浅く、東側の壁面が明瞭でなかった。床面は2層とそれ以下の層の境であると思われる。カマドは検出されなかった。

出土遺物　須恵器坏（1、2）・甕、土師器甕（3）などが出土した。すべて破片資料で全体の形状がわかるものはない。年代は9世紀前半ころであると思われる。

ＳＴ１００３（第１３～１４図）

位　　置　8－13グリッド。

規　　模　長軸5.13 m、短軸4.70 m、検出面からの深さ15 cm。

形　　態　南側を撹乱およびSK1500に切られ、また検出面からの深さは西が深いが東が非常に浅く、遺存状況は良くない。カマドは北壁の中央に付属し、ソデは良好に残存していた。SP1372・SP1374・SP1382の3基の主柱穴が確認された。

出土遺物　須恵器有台坏（1）・坏（2）・鉢、柱状高台（3）などが出土した。破片資料が多く、全体の形状がわかるものは少ない。柱状高台は中世の所産であり混入であると思われる。須恵器の坏類は底部の切り離し形態が回転ヘラ切りと回転糸切りが混在する。年代は9世紀前半であると思われる。

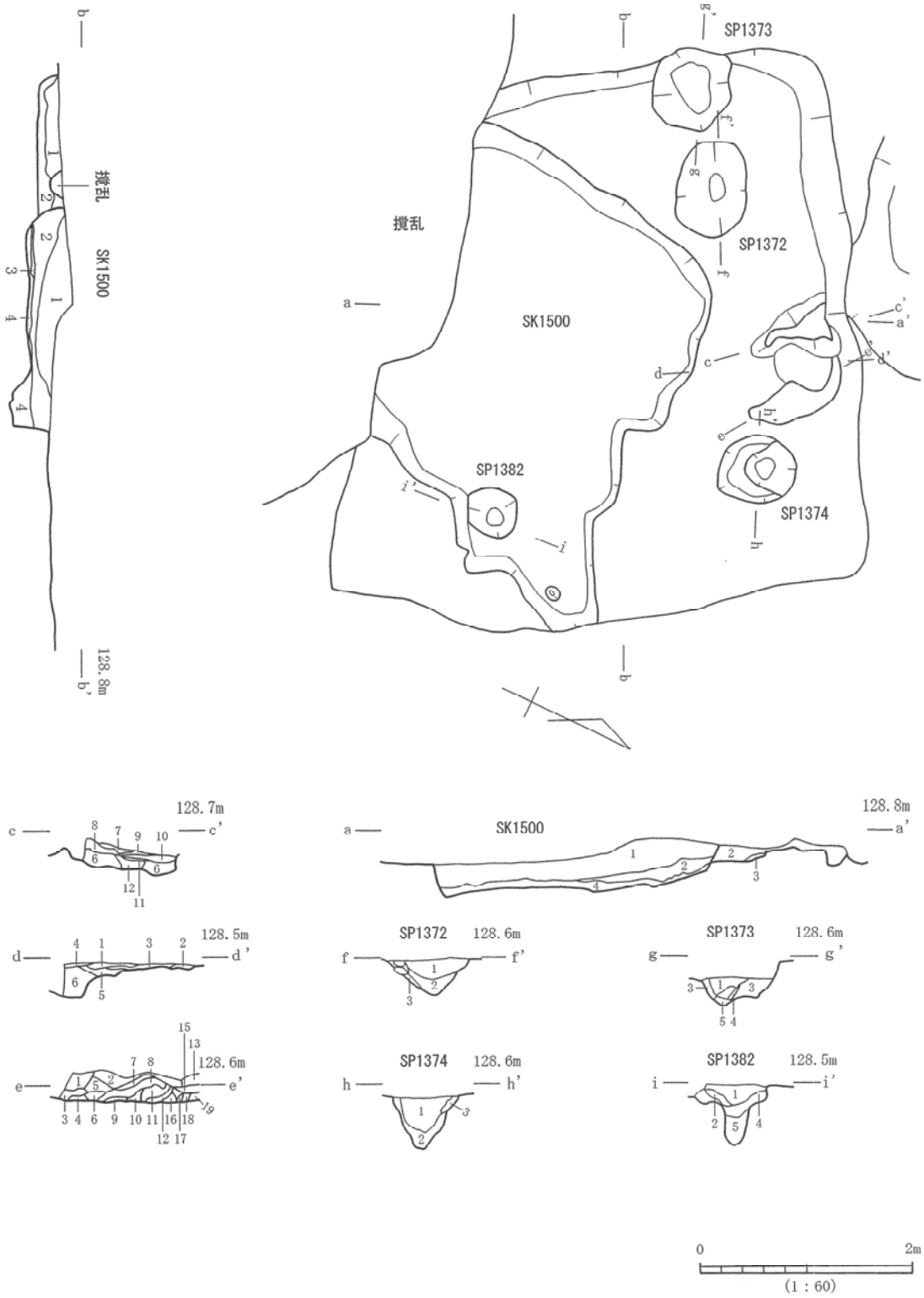
ＳＴ１００４（第１５～１６図）

位　　置　7－12～7－13グリッド。

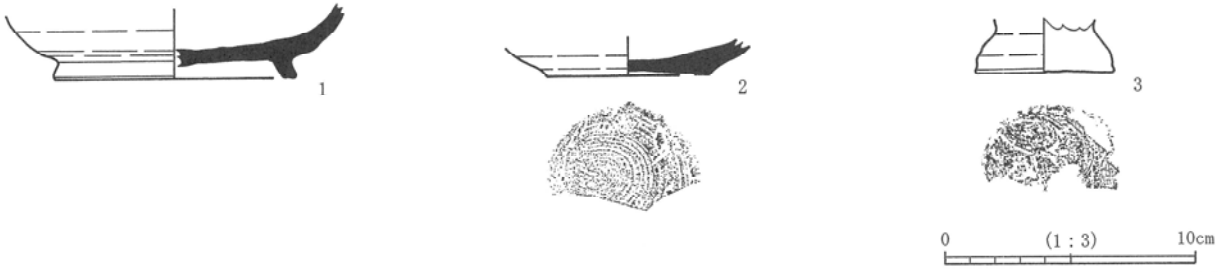
規　　模　長軸4.48 m、短軸4.42 m、検出面からの深さ26 cm。

形　　態　北側をSD1071に切られる。カマドは北西壁の中央に付属し、ソデは上から押しつぶされたような状態で検出された。

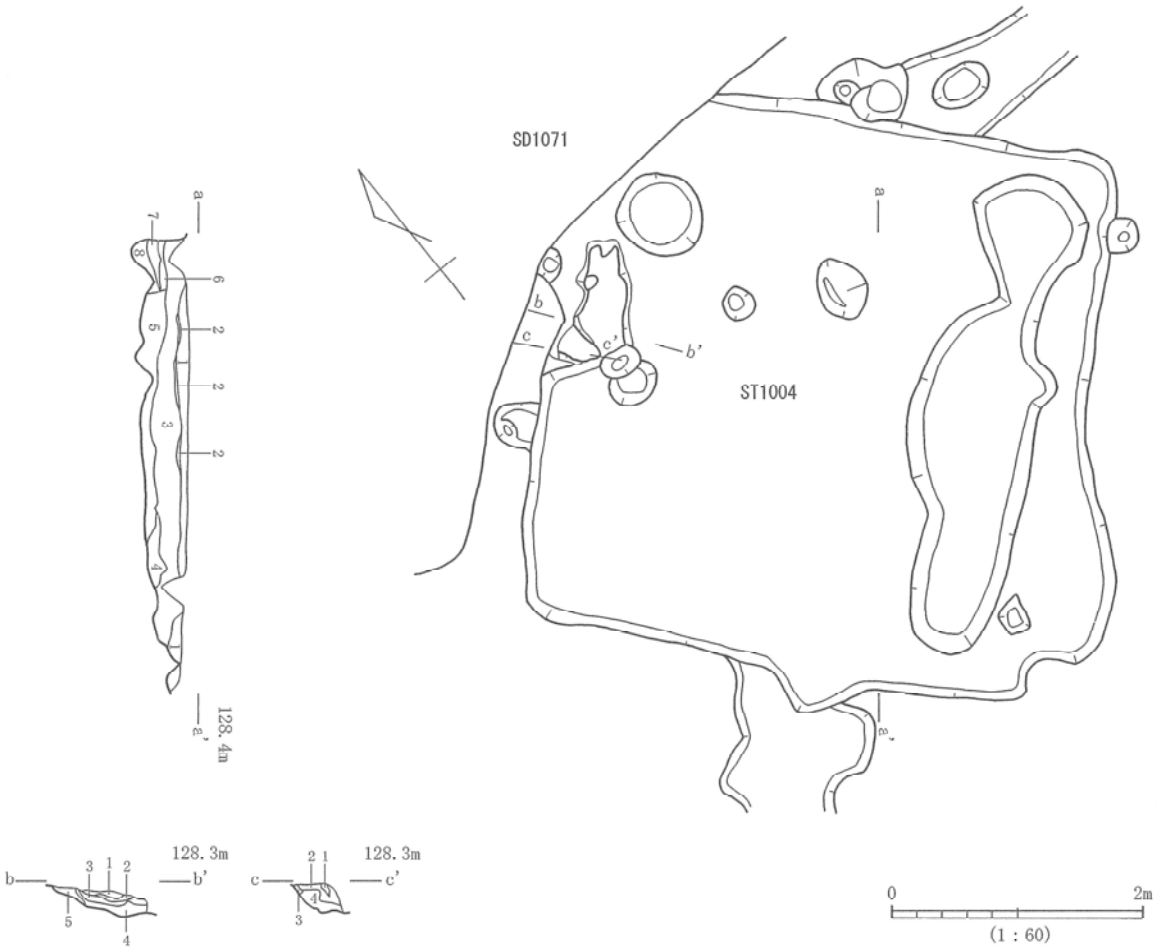
出土遺物　土師器坏（1、2）・高坏（3）・甕（4、5）・鉢、須恵器坏などが出土した。土師器坏は底部が平底に近い丸底で口縁との境にやや稜をもち口縁部が急に立ち上がるタイプ（1）と、丸底で稜がないタイプ（2）がある。ともに、外面ケズリ、内面ミガキ、口縁部ナデの調整が施される。甕は長胴形のタイプ（4、5）が多く、内外面にハケメ、口縁部にナデの調整が施される。須恵器坏は小破片であり、平安時代の所産であるので混入であると思われる。年代は7世紀であると思われる。



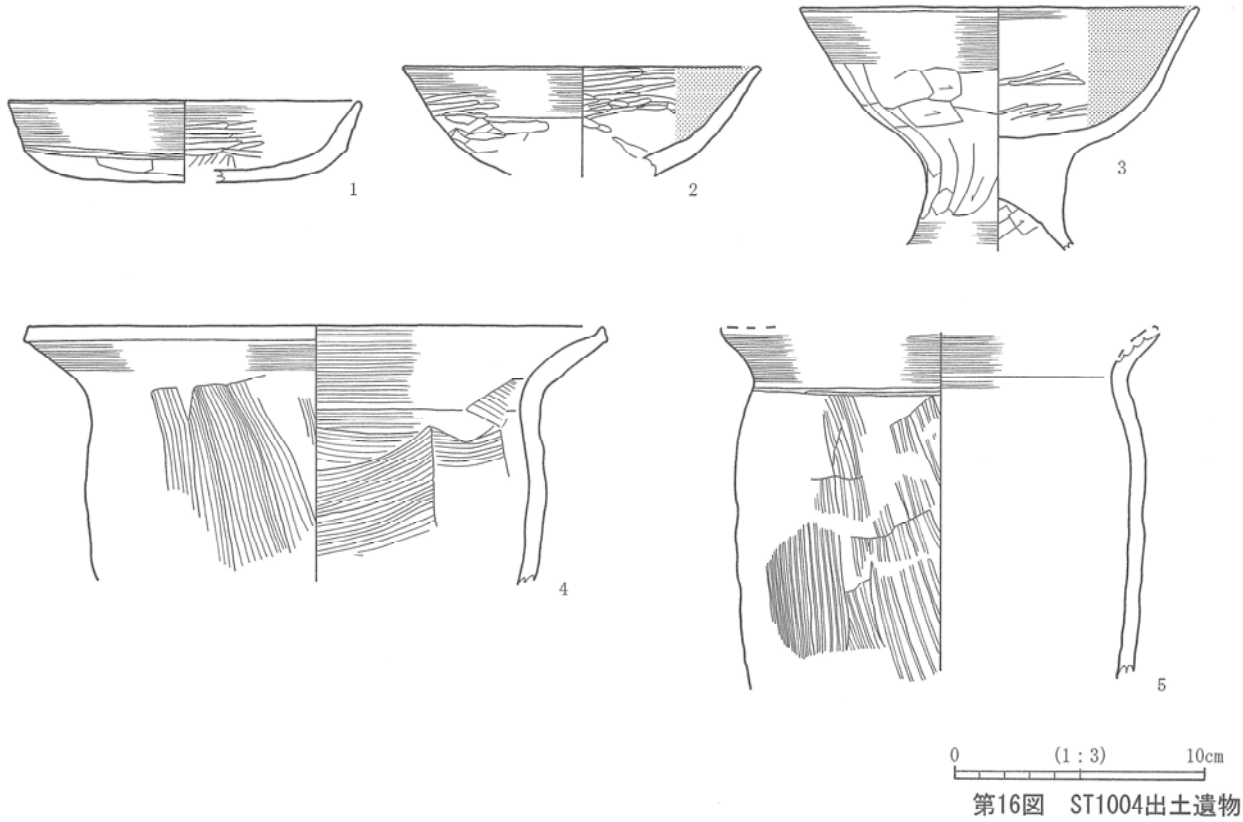
第13図　ST1003



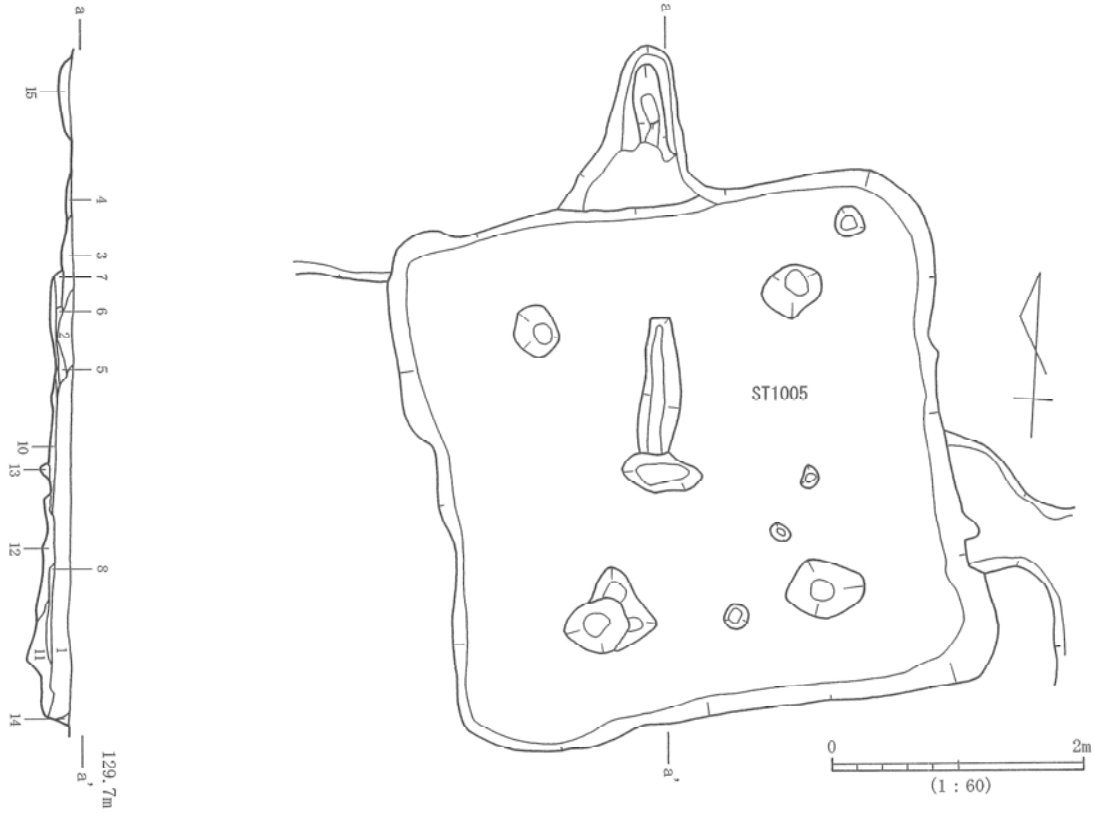
第14図　ST1003出土遺物



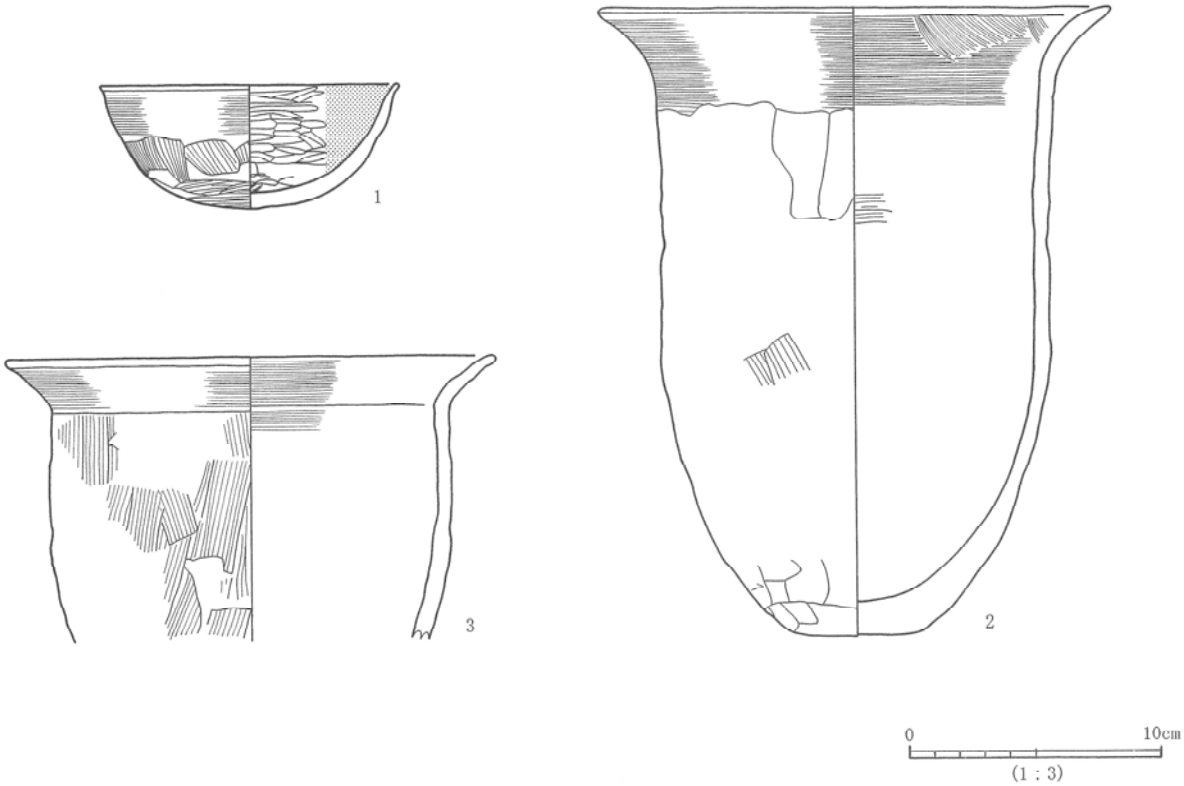
第15図　ST1004



第16図　ST1004出土遺物



第17図　ST1005



第18図　ST1005出土遺物

ＳＴ１００５（第１７～１８図）

位　　置　7－13グリッド。

規　　模　長軸4.19ｍ、短軸4.02ｍ、検出面からの深さ22㎝。

形　　態　カマドは北壁中央で検出され、長さ75㎝、中央部の幅31㎝の煙道が付属する。住居北側に焼土の広がりが確認されたが、ソデは検出されなかった。主柱穴４基が検出された。

出土遺物　土師器の坏（1）・甕（2、3）が出土した。坏は丸底で、外面にハケメ、内面にミガキで黒色処理、口縁部にナデ調整の施される。甕は長胴形のタイプで、外面にハケメ、内面にナデ、口縁部にナデの調整が施される。図化した２点（2、3）はともにカマドから出土し、被熱痕があるので煮炊に使用されたと考えられる。年代は７世紀であると思われる。

ＳＴ１００６（第１９～２１図）

位　　置　7－13～8－13グリッド。

規　　模　長軸4.72ｍ、検出面からの深さ15㎝。

形　　態　南北をそれぞれST1043およびST1045に切られる。検出面からの深さは浅く、遺存状況は良くない。カマド、柱穴は検出されなかった。

出土遺物　土師器坏（1）・甕（2）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は７世紀であると思われる。

ＳＴ１０４３（第１９・２０・２２図）

位　　置　8－13グリッド。

規　　模　長軸6.28ｍ、短軸6.20ｍ、検出面からの深さ26㎝。

形　　態　南東部をSE1031に、南西部をSK1325およびSK1328に切られる。また、ST1006を切る。カマドは北西壁のやや南西よりの部分に付属し、ソデが良好な状態で残存しており、煙道もわずかに検出された。主柱穴はSP1352、SP1378の２基が検出された。残り２基はSE1031およびSK1325に切られていると考えられる。周溝が、北西壁の北側から北東壁および南東壁の北側で検出された。

出土遺物　土師器甕（1、2）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は８世紀であると思われる。

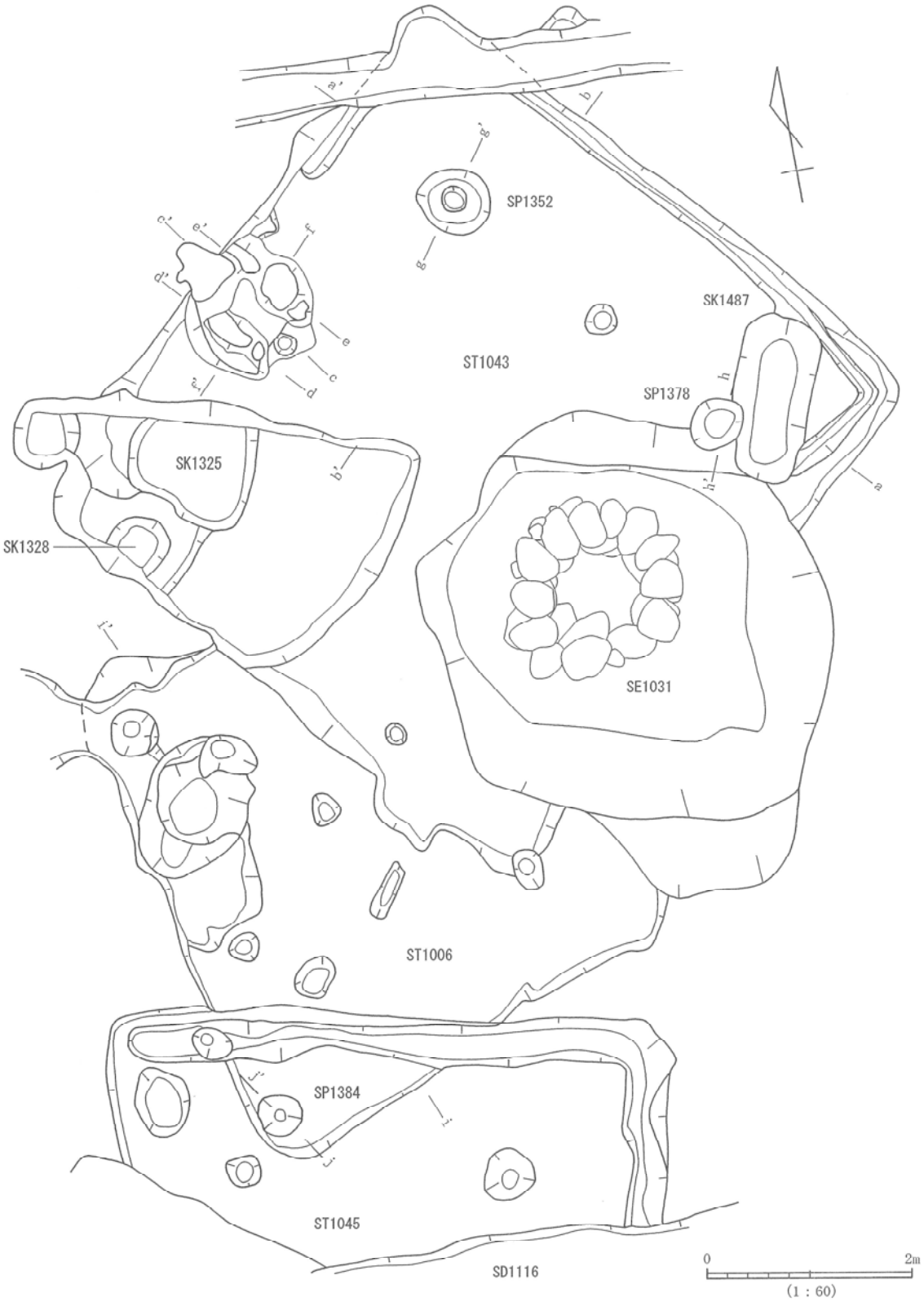
ＳＴ１０４５（第１９・２０・２３・３１・３２図）

位　　置　7－13～8－13グリッド。

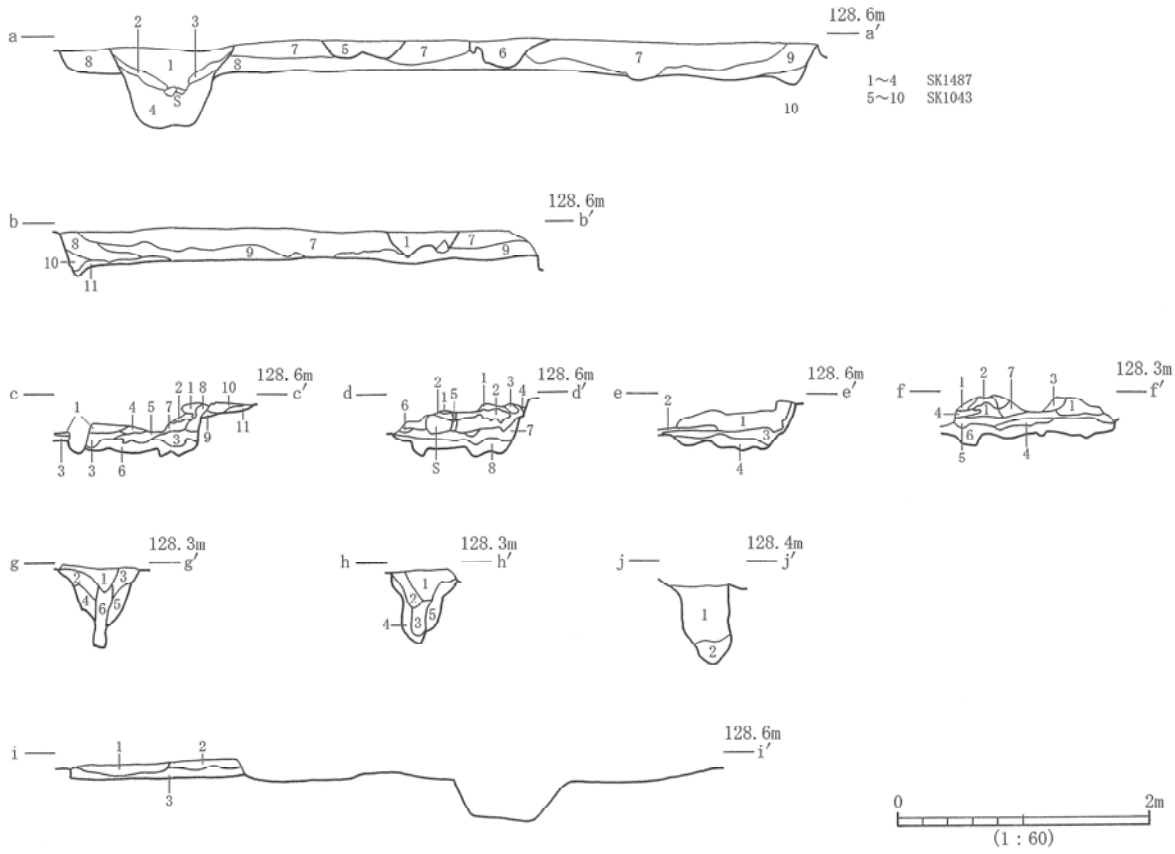
規　　模　長軸5.38ｍ、短軸5.10ｍ、検出面から床面までの深さ８㎝、検出面から掘り方までの深さ20㎝。

形　　態　SP1371およびSD1116に切られる。またST1006およびST1011を切る。18層が掘り方の覆土で、その上層との境が床面である。カマドは検出されなかった。主柱穴はSP1369、SP1370、SP1377、SP1381の４基が検出された。周溝が北壁から東壁にかけて検出された。

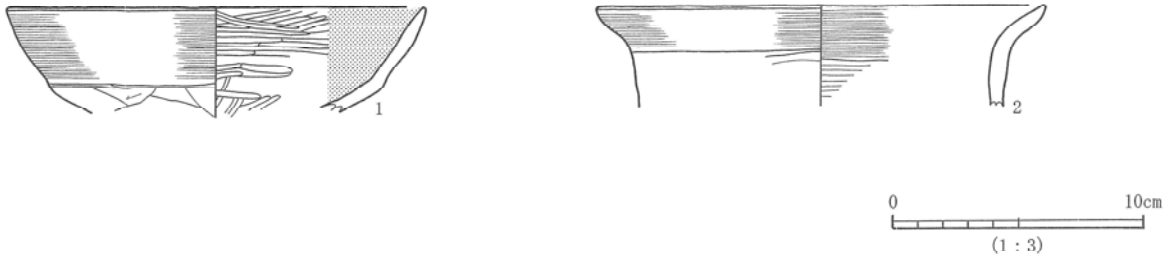
出土遺物　土師器坏(1、2)・甕が出土した。土師器坏(2)は主柱穴のSP1370から出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は７世紀であると思われる。



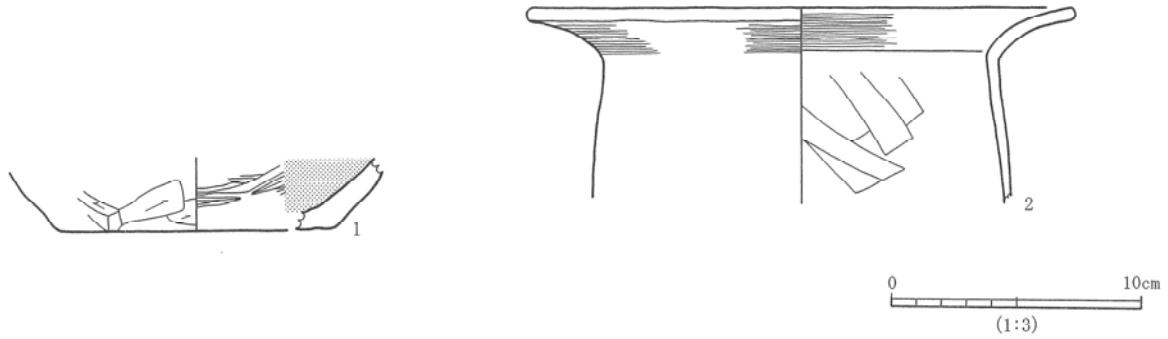
第19図　ST1006・ST1043・ST1045(1)



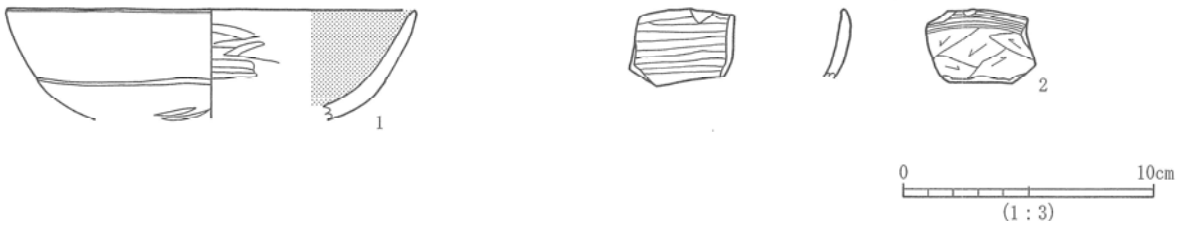
第 20 図　ST1006・ST1043・ST1045（2）



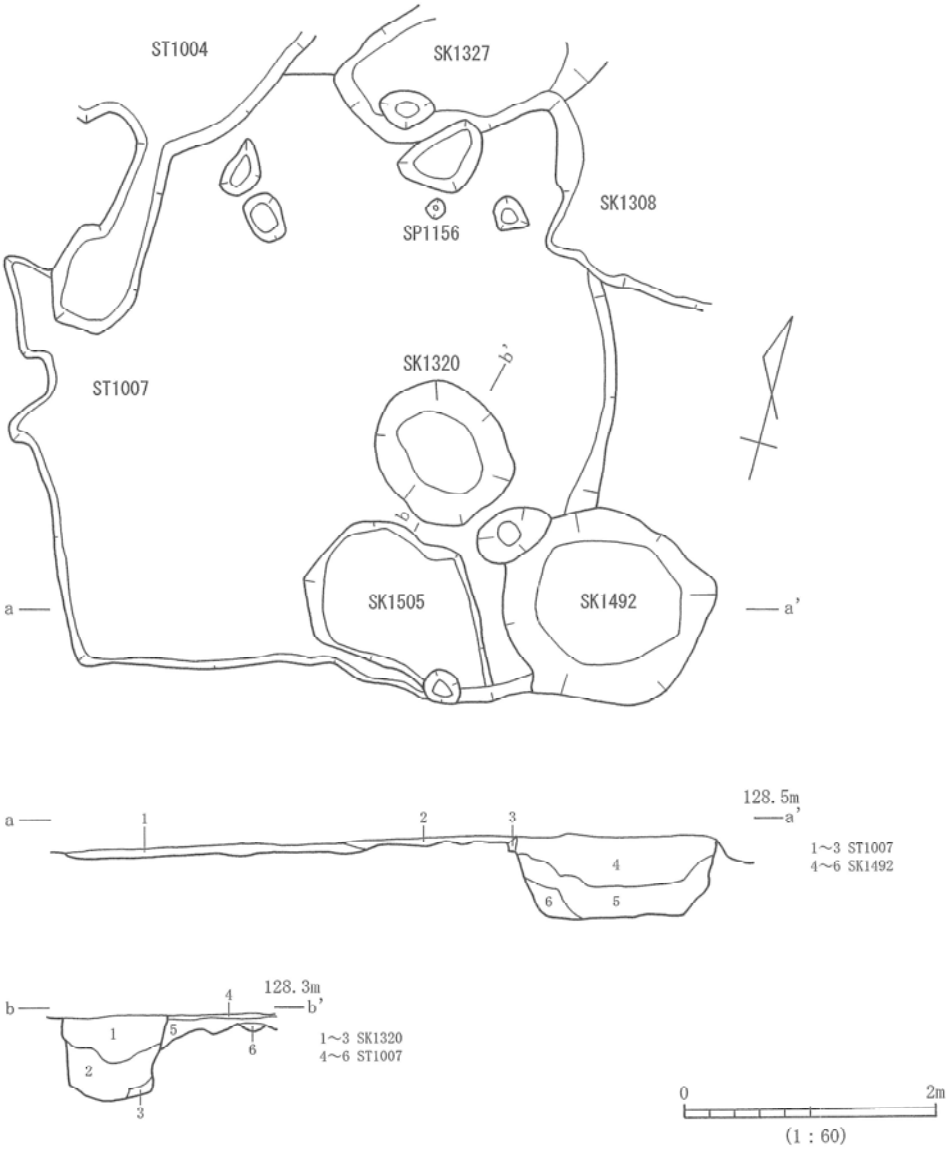
第21図　ST1006出土遺物



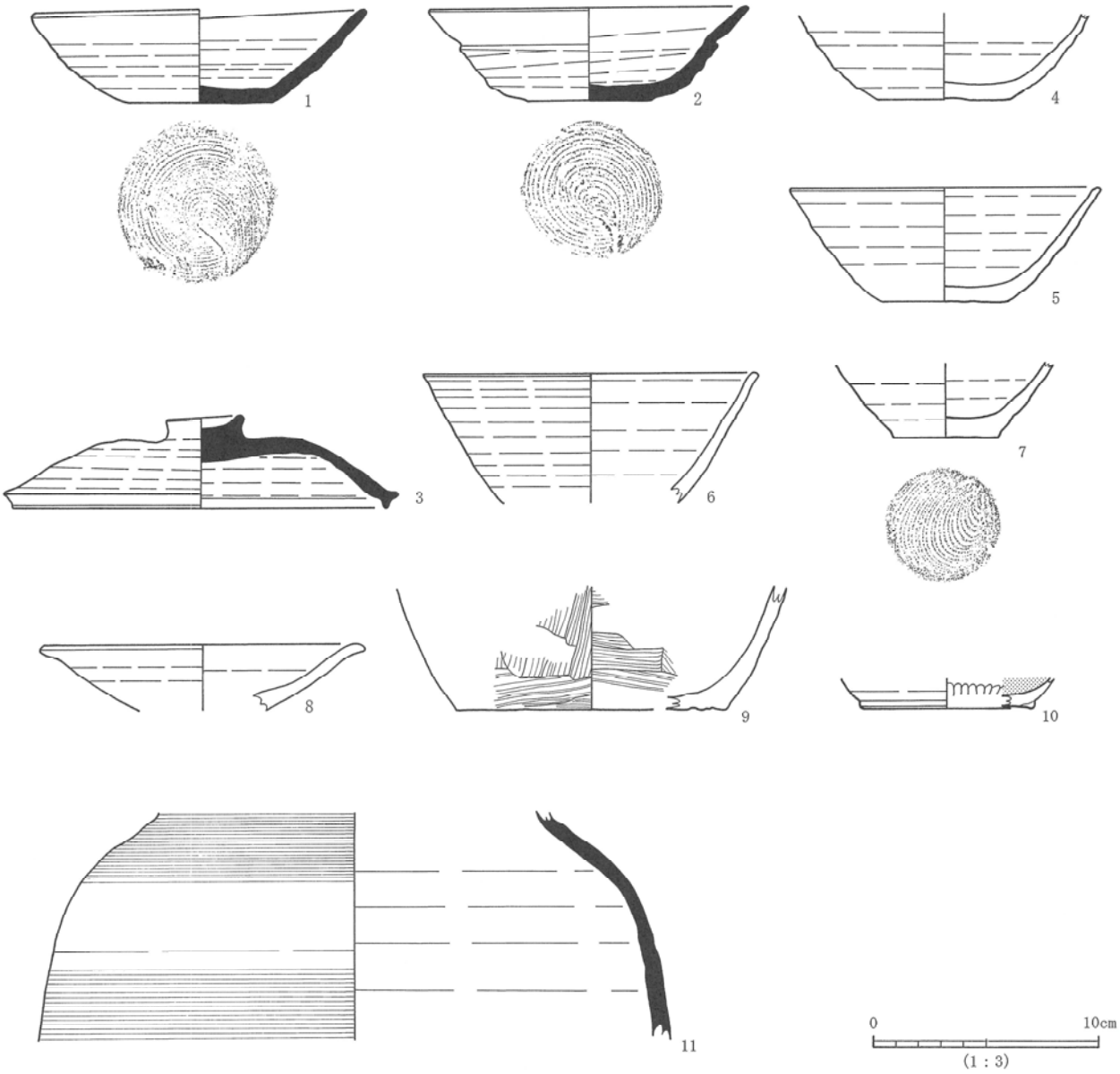
第22図　ST1043出土遺物



第23図　ST1045出土遺物



第24図　ST1007



第25図　ST1007出土遺物

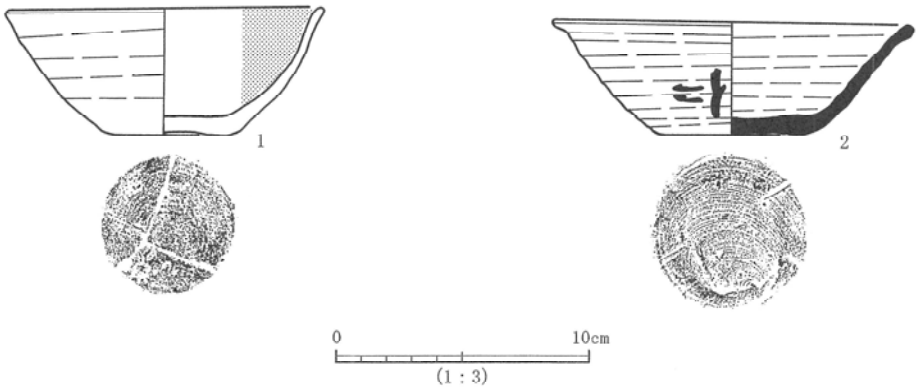
ＳＴ１００７（第２４～２６図）

位　　置　7－13グリッド。

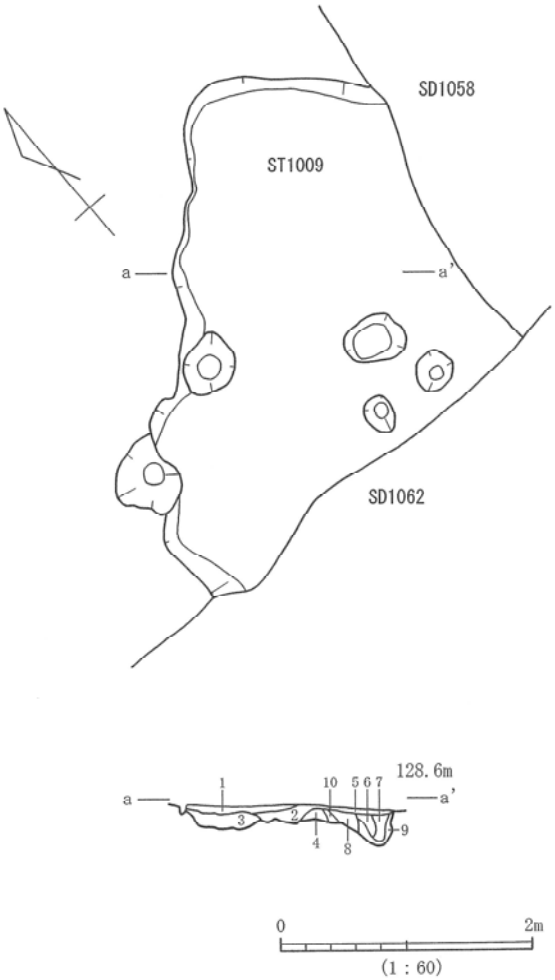
規　　模　長軸4.74ｍ、短軸4.68ｍ、検出面からの深さ19㎝。

形　　態　南東部をSK1320、SK1492、SK1505に切られる。検出面からの深さが浅く、西壁は明瞭でない。カマド、柱穴は検出されなかった。住居に伴う遺構であるかどうか確証はないが、北東側のピットであるSP1156から、赤焼坏（1）の上に須恵器坏（2）が正位で重なった状態で出土した。

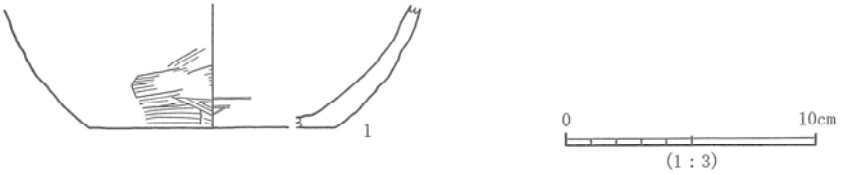
出土遺物　須恵器坏（1、2）・蓋（3）・壺（11）、土師器有台坏（10）・甕（9）、赤焼坏（4～7）・皿（8）などが出土した。須恵器、赤焼ともに坏類の底部切り離しはすべて回転糸切りである。貯蔵具は内外面ハケメを施す土師器甕（9）と外面にカキメを施す須恵器壺（11）がある。SP1156出土の遺物は先述のとおり赤焼坏（1）と須恵器坏（2）であり、ともに回転糸切りである。須恵器坏（２）の外面に逆位で「仁」の墨書がある。年代は、9世紀半ばから後半であると思われる。



第26図　ST1007内SP1156出土遺物



第27図　ST1009



第28図　ST1009出土遺物

ＳＴ１００９（第２７～２８図）

位　　置　8－12グリッド。

規　　模　長軸3.99ｍ、検出面からの深さ18㎝。

形　　態　東側をSD1058に、南側をSD1062に大きく切られる。検出面からの深さは浅く、全体的に遺存状況は良くない。カマドは検出されなかった。

出土遺物　土師器甕(1)、須恵器甕などが出土している。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代はおおよそ8～9世紀であると思われる。

ＳＴ１０１０（第２９～３０図）

位　　置　8－13グリッド。

規　　模　長軸5.20ｍ、短軸4.87ｍ、検出面からの深さ16㎝。

形　　態　遺構のほぼ中央をSD1069に切られる。また、南東側をST1054に切られる。2時期確認され、東西幅3.4ｍの周溝が巡る規模の小さい住居が古く、長軸5.20ｍ、短軸4.87ｍのより規模の大きい住居が新しい。カマドは北壁のやや西よりの部分で検出され、長さ95㎝、中央部幅25㎝の煙道が付属する。カマドを構築したと考えられる粘土が上からつぶされたような状態で検出された。主柱穴は、新しい時期の住居に伴うSP1423、SP1424、SP1425、SP1426の4基が検出された。

出土遺物　須恵器坏（1、2）、土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代はおおよそ8～9世紀であると思われる。

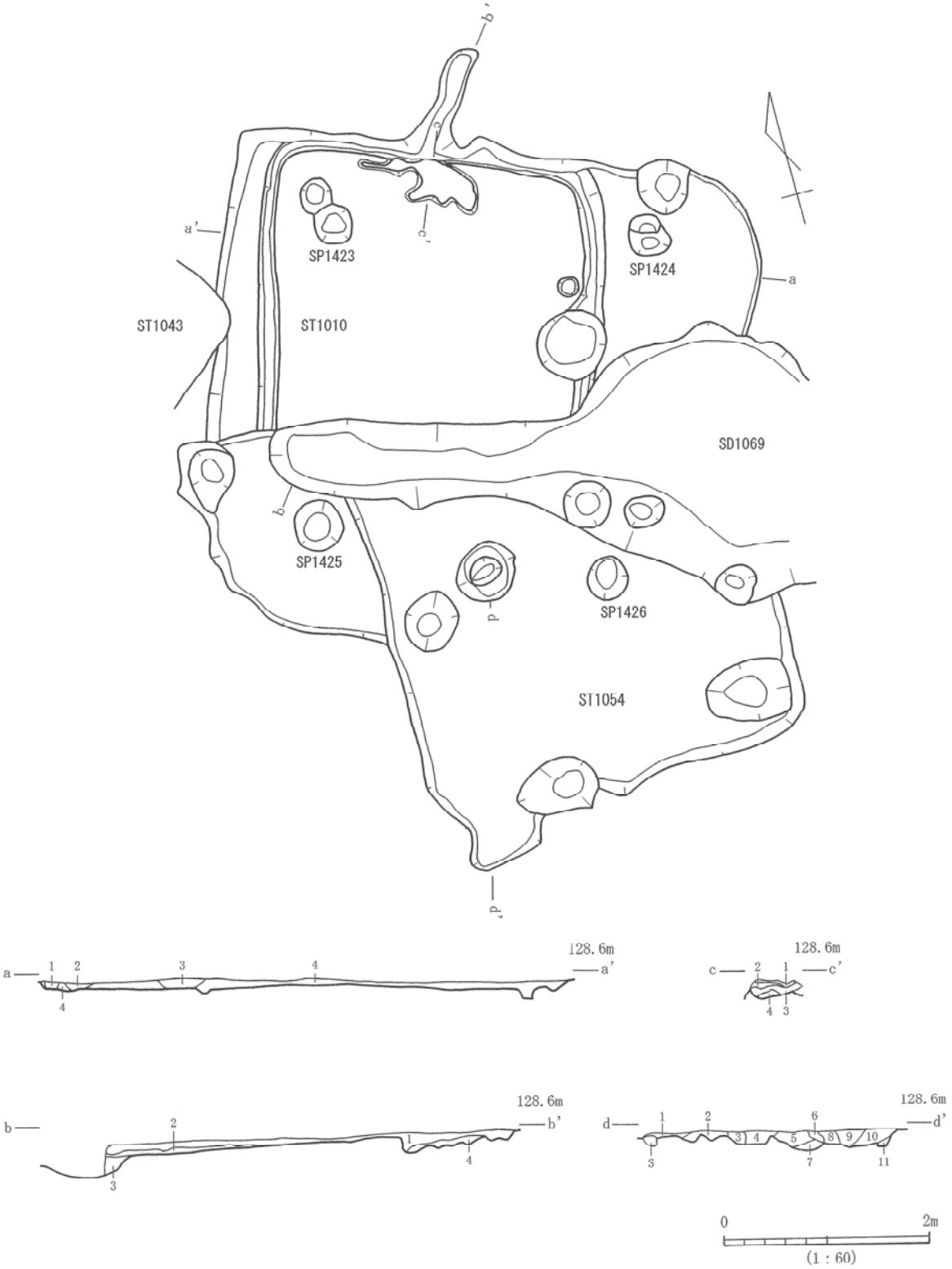
ＳＴ１０５４（第２９図）

位　　置　8－13グリッド。

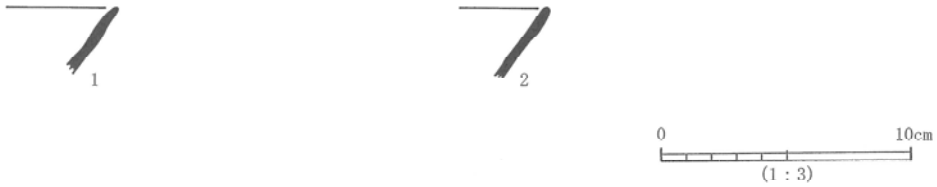
規　　模　長軸3.80ｍ、検出面からの深さ17㎝。

形　　態　北側をSD1069に切られる。また、ST1010を切る。カマドは検出されなかった。

出土遺物　出土遺物はない。年代はST1010を切るので、8～9世紀以降であるが詳細は不明である。



第29図　ST1010・ST1054



第30図　ST1010出土遺物

ＳＴ１０１１（第３１～３３図）

位　　置　7－13～8－13グリッド。

規　　模　長軸6.04 m、短軸5.84 m、検出面から床面までの深さ22 cm、検出面から掘り方までの深さ40 cm。

形　　態　南側をSE1034に、北側をST1045に切られる。カマドは南壁の中央で検出され、長さ169 cm、中央部幅33 cmの煙道が付属する。ソデはわずかながら検出された。8層が掘り方の覆土で、その上層との境が床面である。周溝が北壁から西壁の北半にかけて検出された。主柱穴がSP1375、SP1376、SP1379、SP1427の4基が確認された。

出土遺物　土師器坏（1～5）・高坏（6）・甑（7）・甕（8）などが出土した。坏は外面にケズリ、内面にミガキおよび場合により黒色処理、口縁部にナデ調整が施される。甑は体部がハの字状に開き、外面にケズリ、内面にミガキ、口縁部にナデ調整が施される。甕は内外面にハケメ、口縁部にナデ調整が施される。年代は7世紀であると思われる。

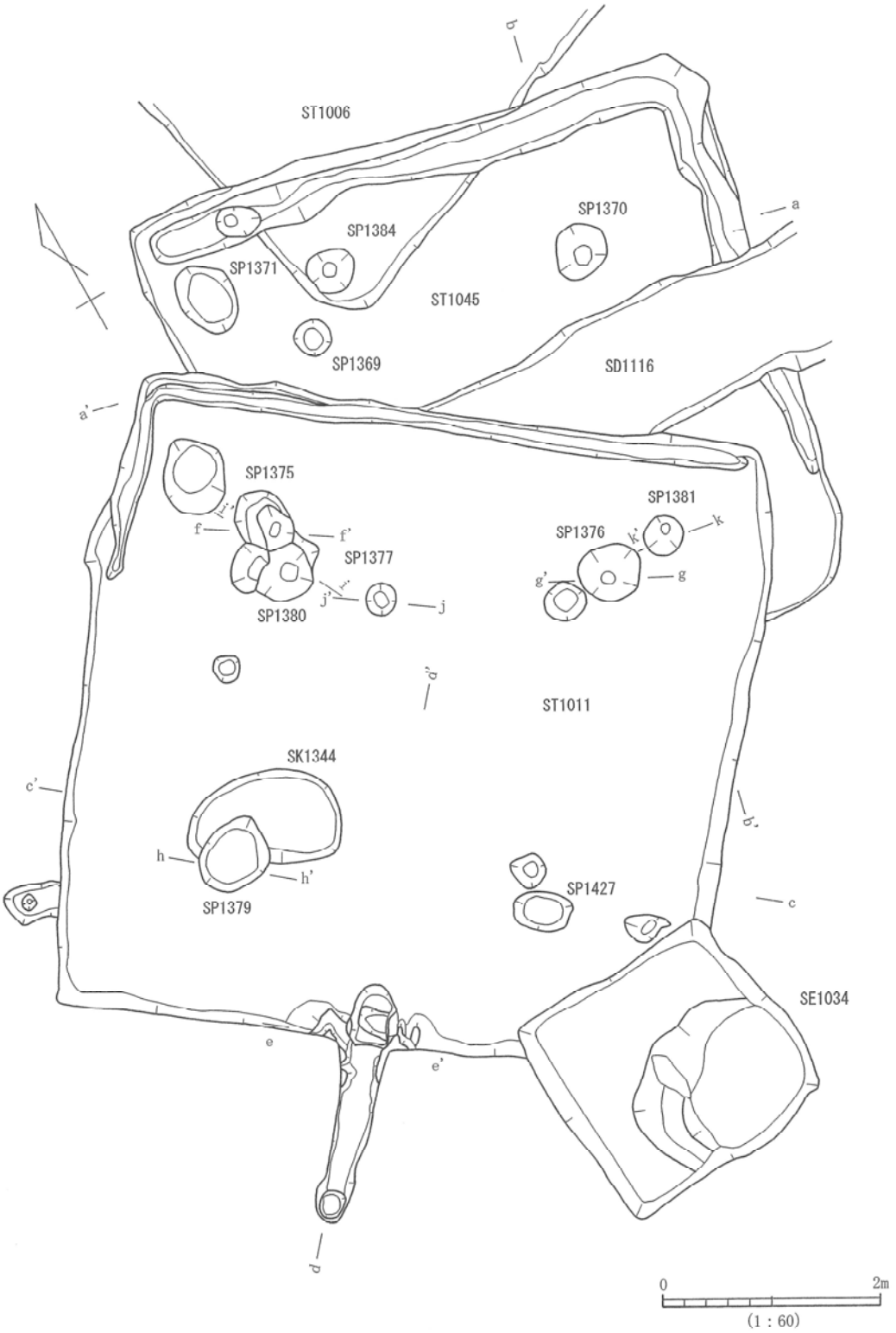
ＳＴ１０１２（第３４～３５図）

位　　置　5－12～5－13グリッド。

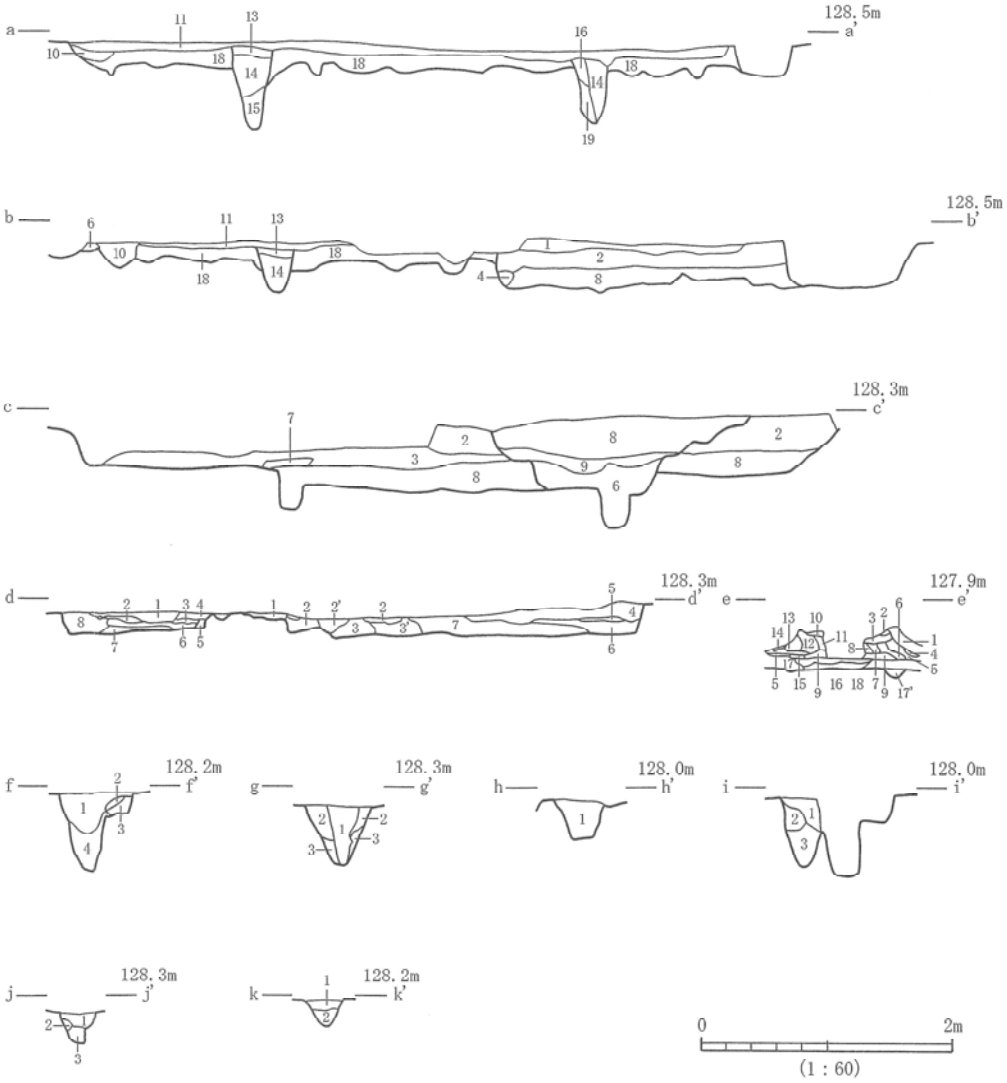
規　　模　長軸5.71 m、短軸5.57 m、検出面から床面までの深さ7 cm、検出面から掘り方までの深さ16 cm。

形　　態　北側がわずかに調査区外にかかる。また、北東側がSD1118に切られる。カマドは北西壁の中央に付属し、ソデが比較的良好な状態で検出された。1層が貼床で、ほぼ住居全面で確認された。10層が掘り方の覆土である。主柱穴は南側のSP1297のみ1つの時期しか確認できなかったが、ほかの3基は3つの時期が確認された。時期別に列挙すると、「SP1300、SP1298、SP1305、SP1297」→「SP1296、SP1301、SP1299、SP1297」→「SP1295、SP1320、SP1306、SP1297」の順になる。

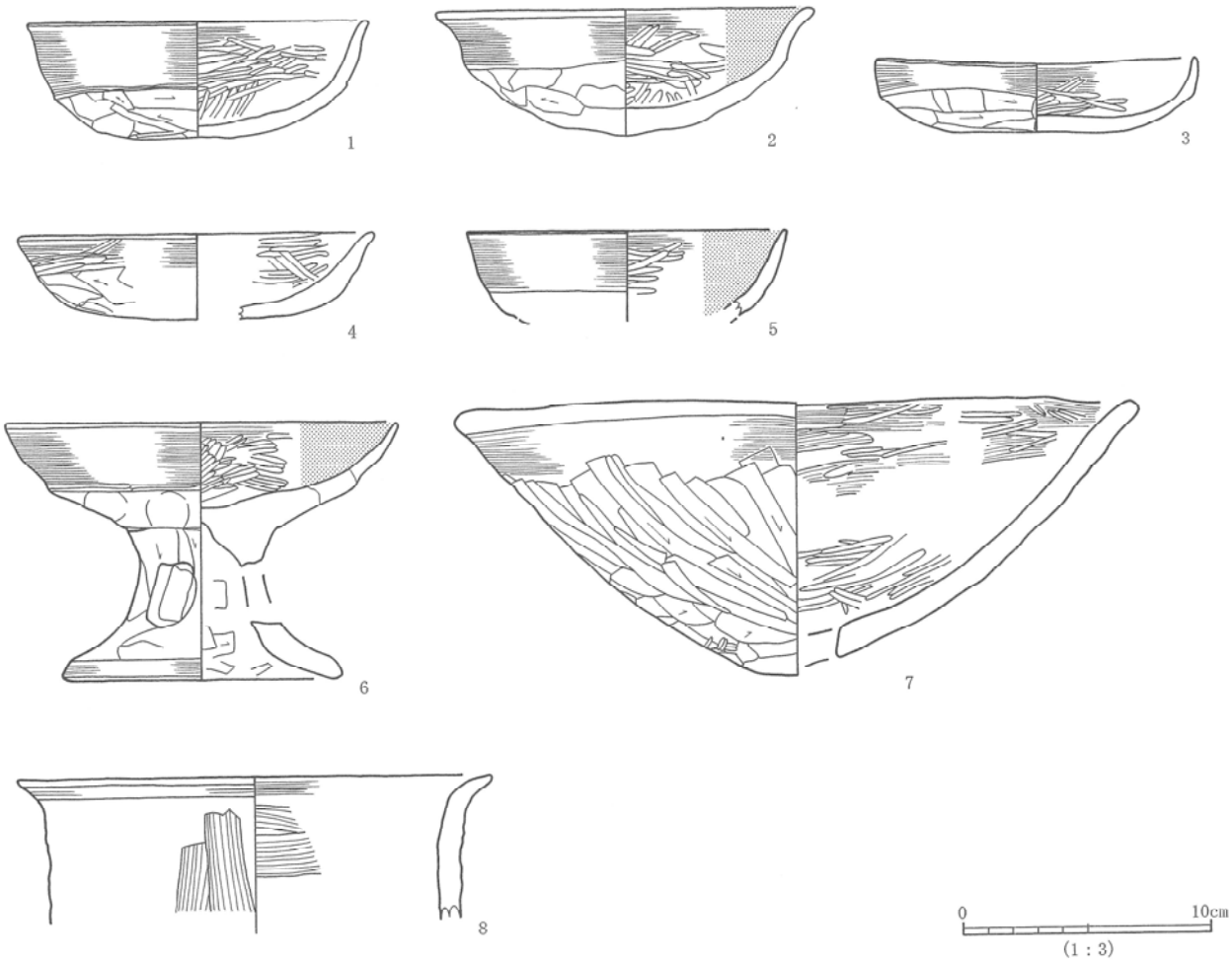
出土遺物　土師器坏（1）・甕（2）などが出土した。坏は丸底で外面にケズリ、内面にミガキおよび黒色処理、口縁部にナデ調整が施される。甕は外面が磨滅して調整は判然としないが、内面にミガキおよび黒色処理が施される。年代は7世紀であると思われる。



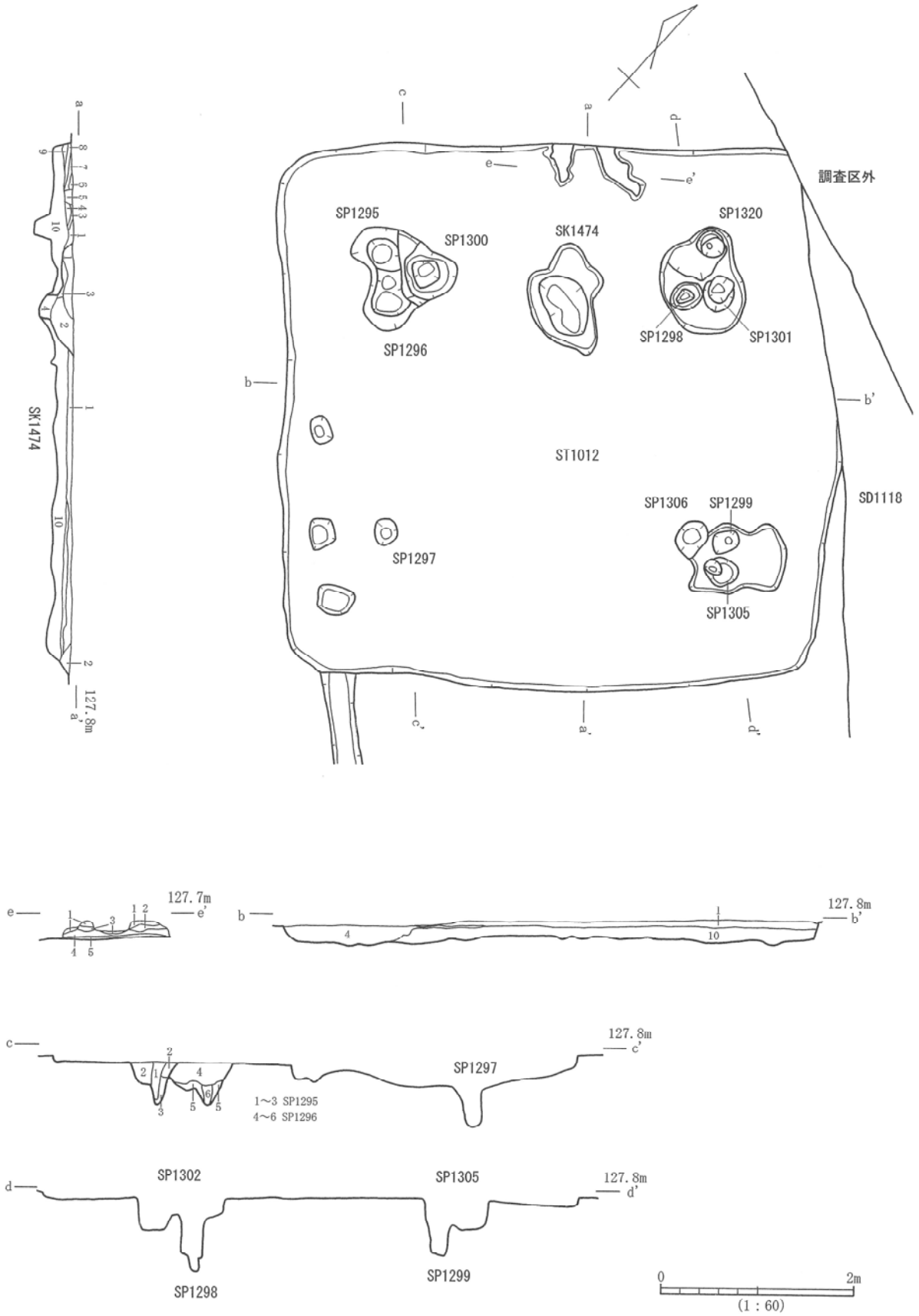
第31図　ST1011・ST1045(1)



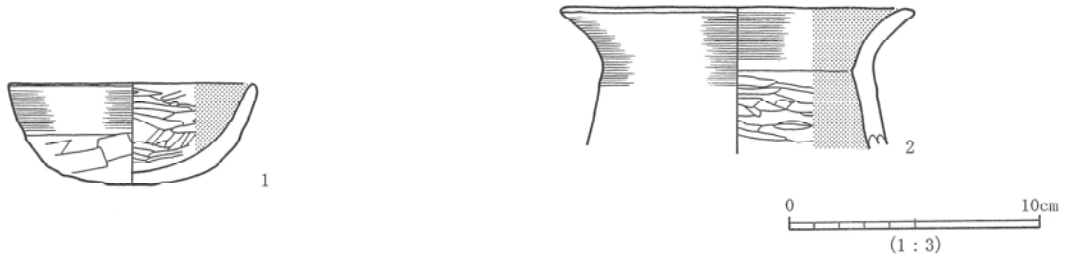
第32図　ST1011・ST1045(2)



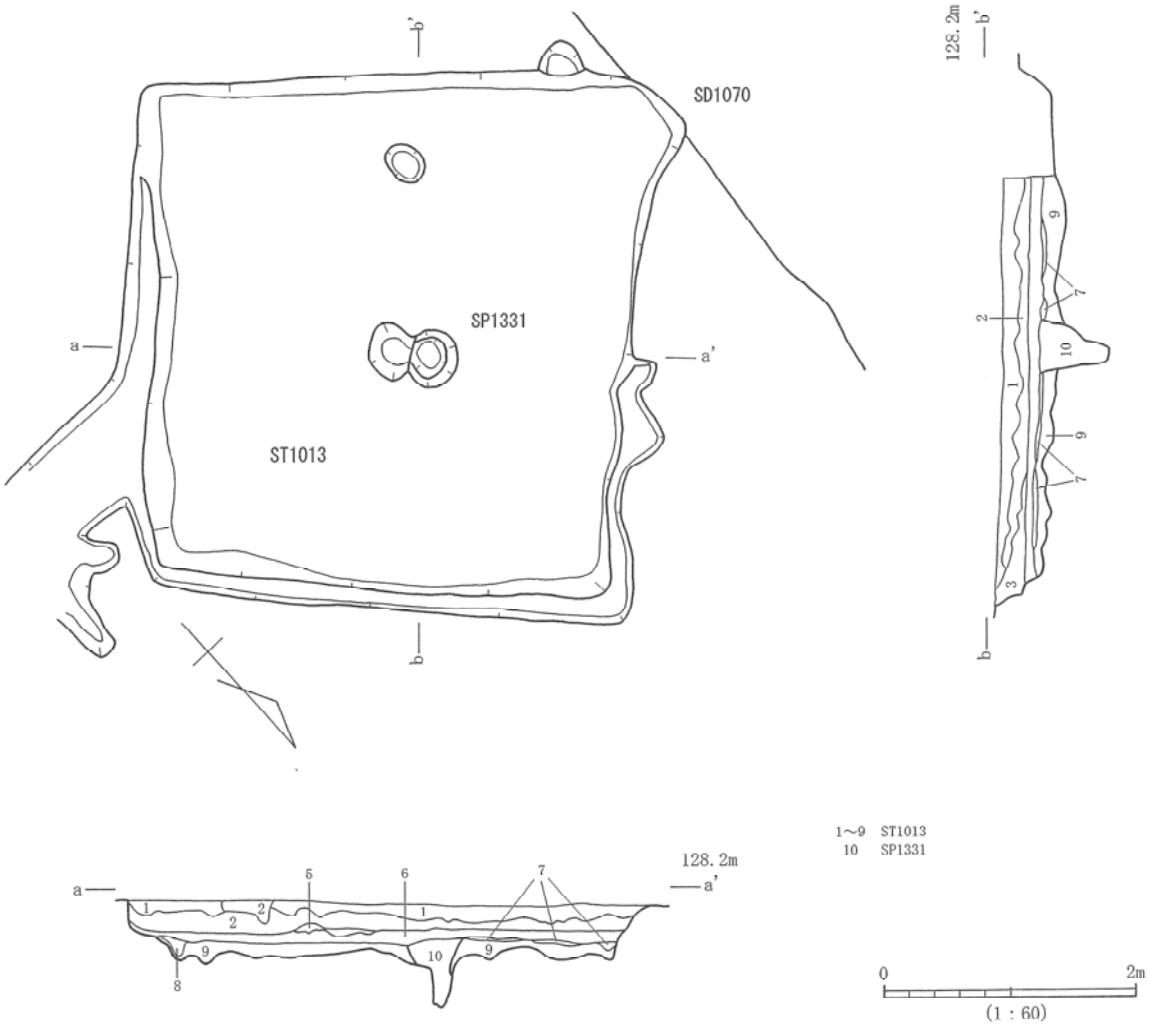
第33図　ST1011出土遺物


SK1474
127.8m
a'
調査区外
SP1295
SP1300
SK1474
SP1320
SP1296
SP1298
SP1301
ST1012
SD1118
SP1306
SP1299
SP1297
SP1305
127.7m
e'
127.8m
b'
127.8m
c'
SP1297
1～3 SP1295
4～6 SP1296
SP1302
SP1305
127.8m
d'
SP1298
SP1299
0
2m
(1：60)

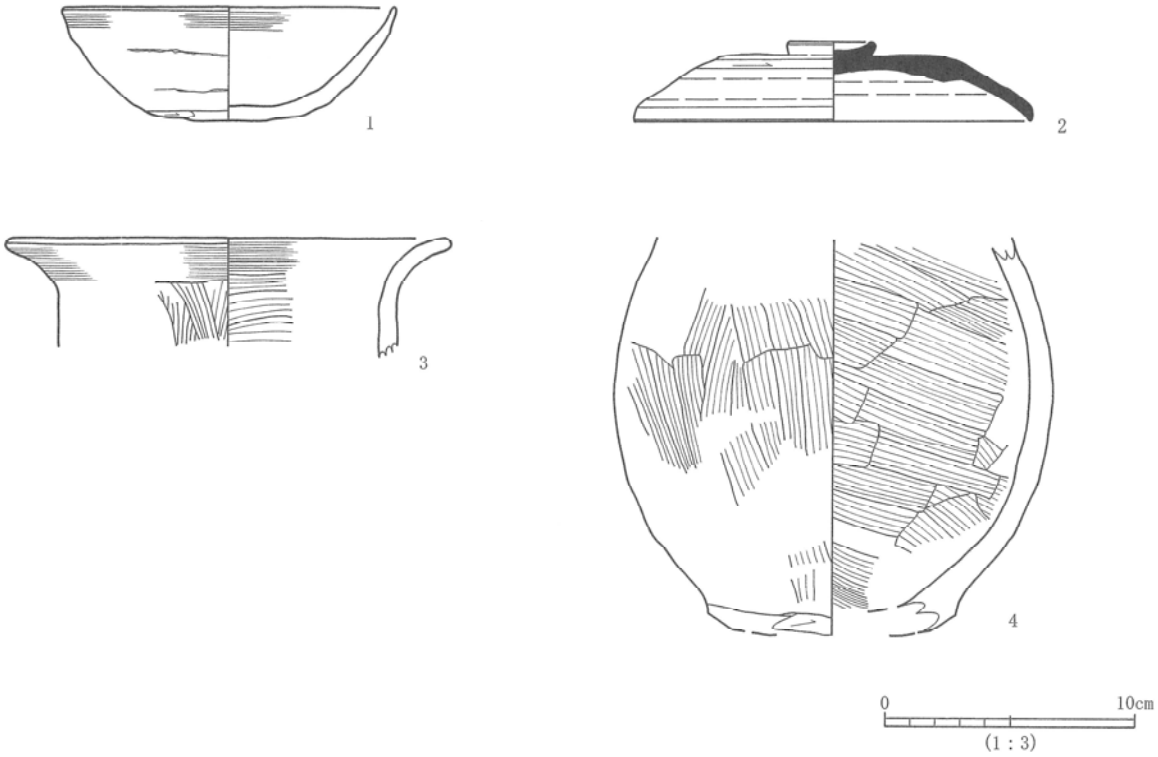
第34図　ST1012



第35図　ST1012出土遺物



第36図　ST1013



第37図　ST1013出土遺物

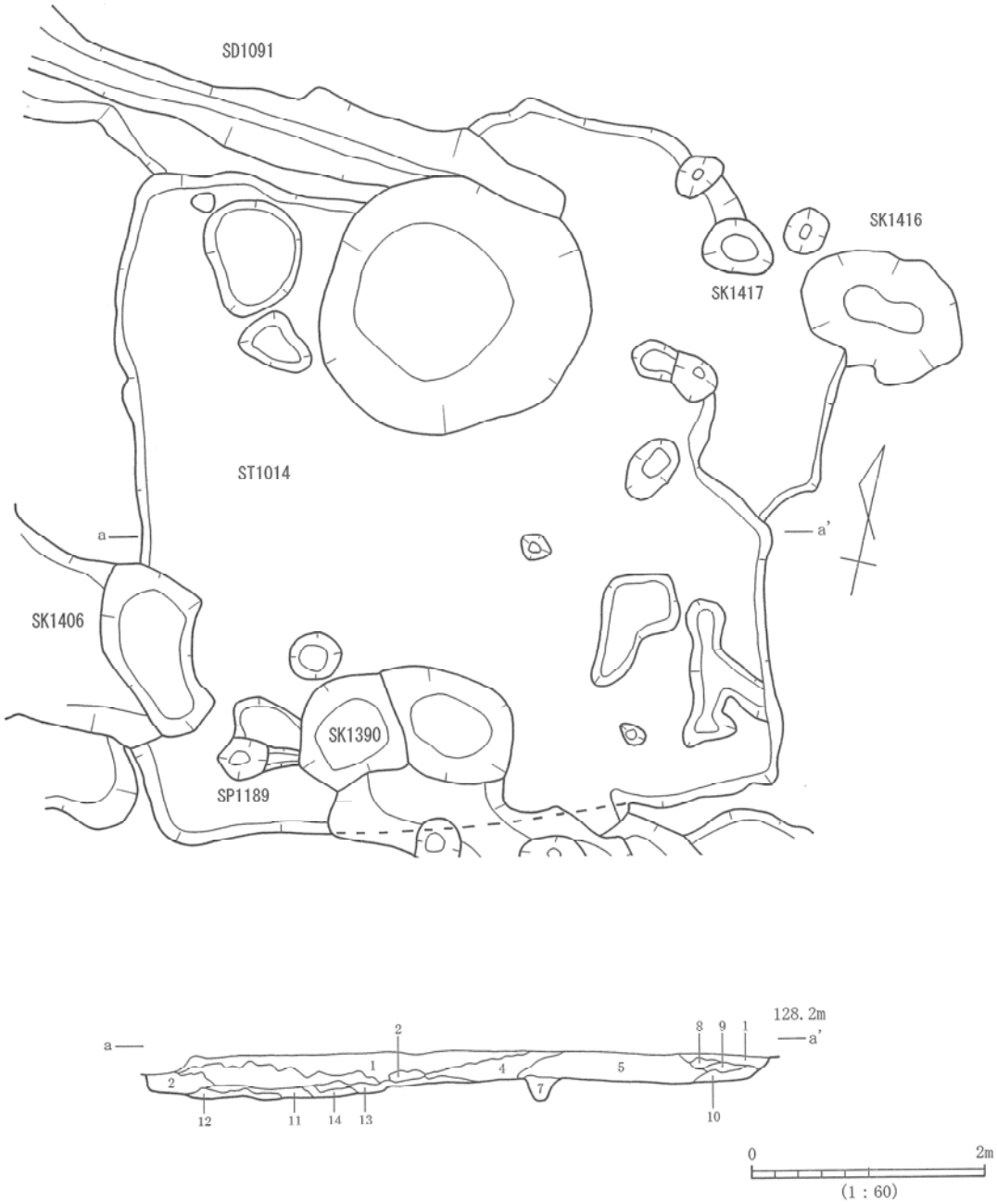
ＳＴ１０１３（第３６～３７図）

位　　置　7－13グリッド。

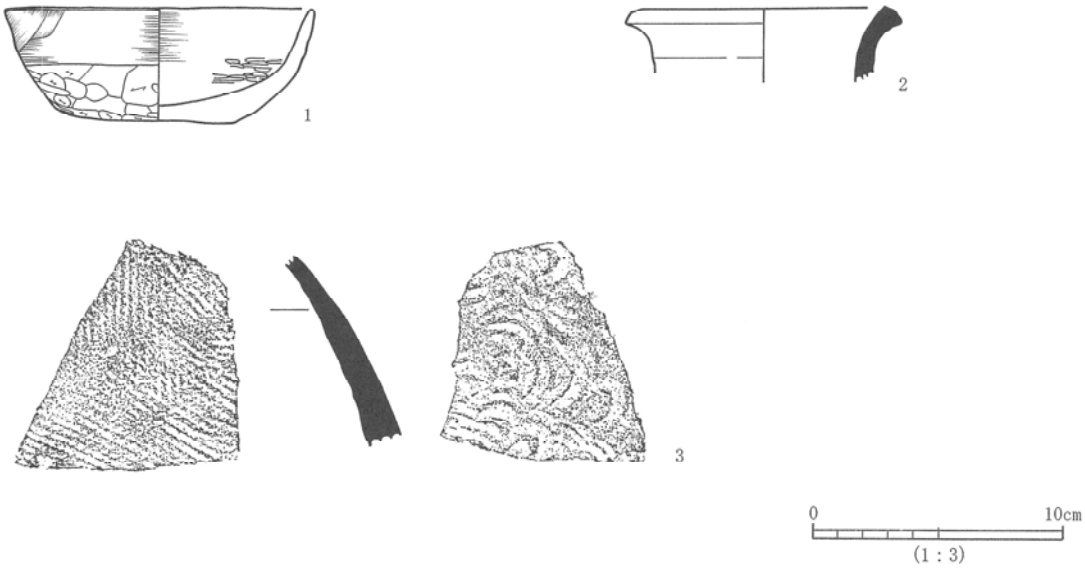
規　　模　長軸4.23ｍ、短軸4.07ｍ、検出面からの床面までの深さ20㎝、検出面から掘り方までの深さ40㎝。

形　　態　西側をわずかにSD1070に切られる。カマドは検出されなかった。7層が貼床である。貼床は非常に薄く検出されない部分もあったが、本来はほぼ住居全域に貼られていたと考えられる。9層が掘り方覆土である。主柱穴はSP1331の1基が検出された。

出土遺物　土師器坏（1）・甕（3、4）、須恵器蓋（2）などが出土した。土師器坏（1）は平底に近い丸底で、外面にケズリ、内面および口縁部にナデが施される。また図化しなかったが、非ロクロで内面にミガキおよび黒色処理が施されるタイプのものもあった。甕は内外面にハケメ、口縁部にナデ調整を施している。須恵器坏は天井部に回転ケズリが施される。年代は土師器類が7世紀であるが、須恵器蓋が8世紀後半～9世紀前半であると思われ、時期に差があり、住居の本来の年代はわからなかった。


SD1091
SK1416
SK1417
ST1014
a
a'
SK1406
SK1390
SP1189
128.2m
a
a'
2
8
9
1
1
4
5
2
7
12
11
14
13
10
0
2m
(1：60)

第38図　ST1014



第39図　ST1014出土遺物

ＳＴ１０１４（第３８～３９図）

位　　置　3－16グリッド。

規　　模　長軸5.40 m、短軸5.34 m、検出面から床面までの深さ21 cm、検出面から掘り方までの深さ27 cm。

形　　態　北側をSD1091に、南側をSK1390に切られる。カマドは検出されなかった。11～14層が貼床で住居の西側でのみ検出された。掘り方の底面は東が高く西が低いので、高さをあわせるため西側にのみ貼床を貼ったと考えられる。主柱穴は検出されなかった。

出土遺物　土師器坏（1）、須恵器壺（2）・甕（3）などが出土した。土師器坏は外面にケズリ、内面にミガキ、口縁部にナデが施される。年代は8世紀から9世紀初頭であると思われる。

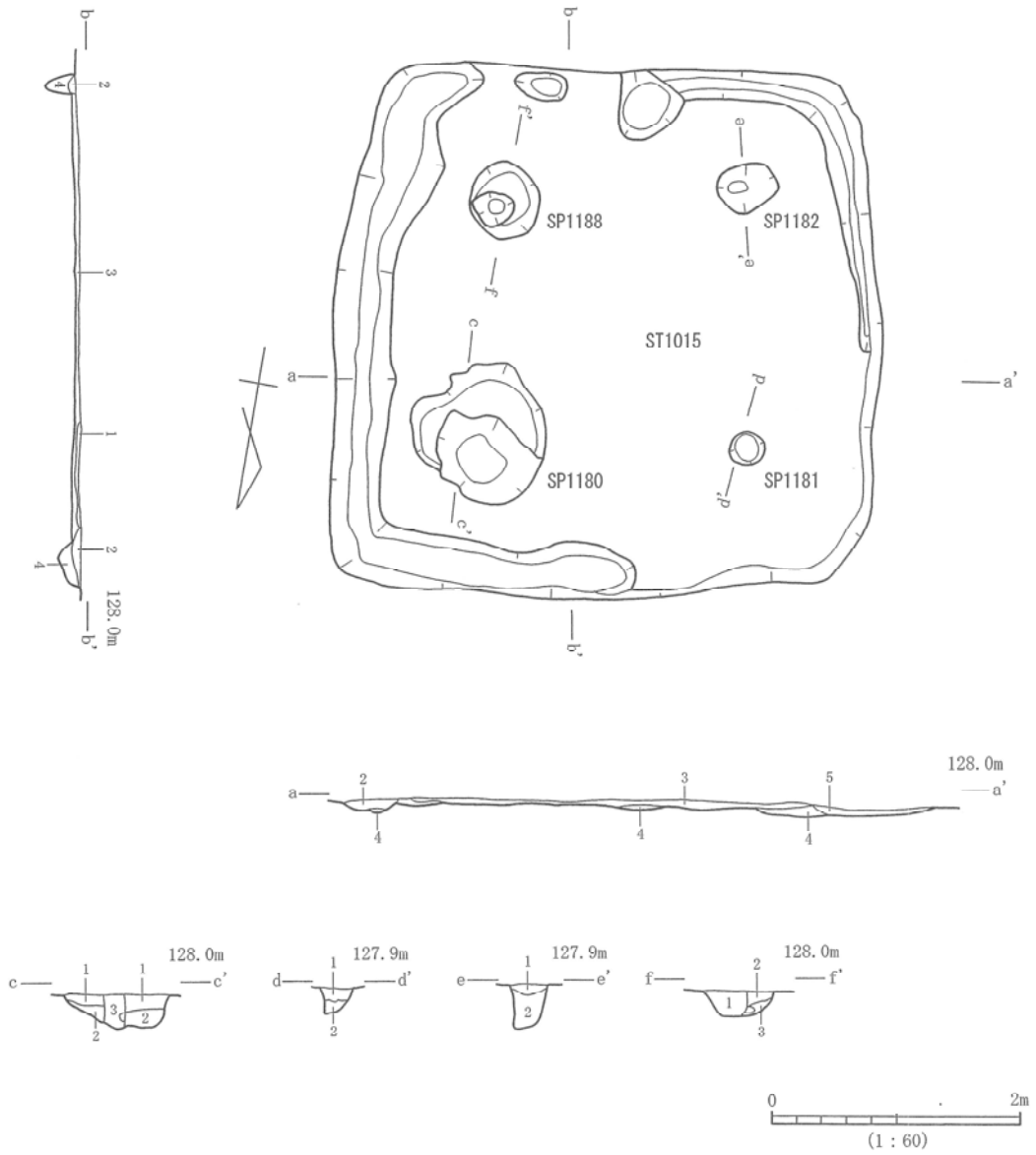
ＳＴ１０１５（第４０～４１図）

位　　置　4－16グリッド。

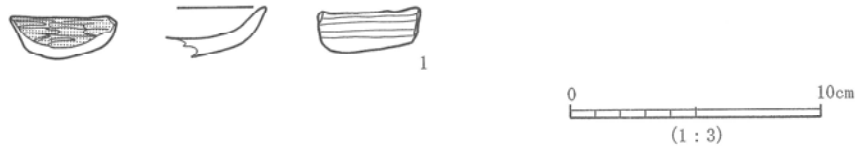
規　　模　長軸4.44 m、短軸4.23 m、検出面から床面までの深さ3 cm、検出面から掘り方までの深さ15 cm。

形　　態　検出面からの深さが非常に浅く、またカマドは検出されなかった。3層が貼床で、ほぼ住居全域で検出された。周溝が、東壁から北壁の東半かけてと、南西隅で検出された。主柱穴がSP1180、SP1181、SP1182、SP1188の4基検出された。

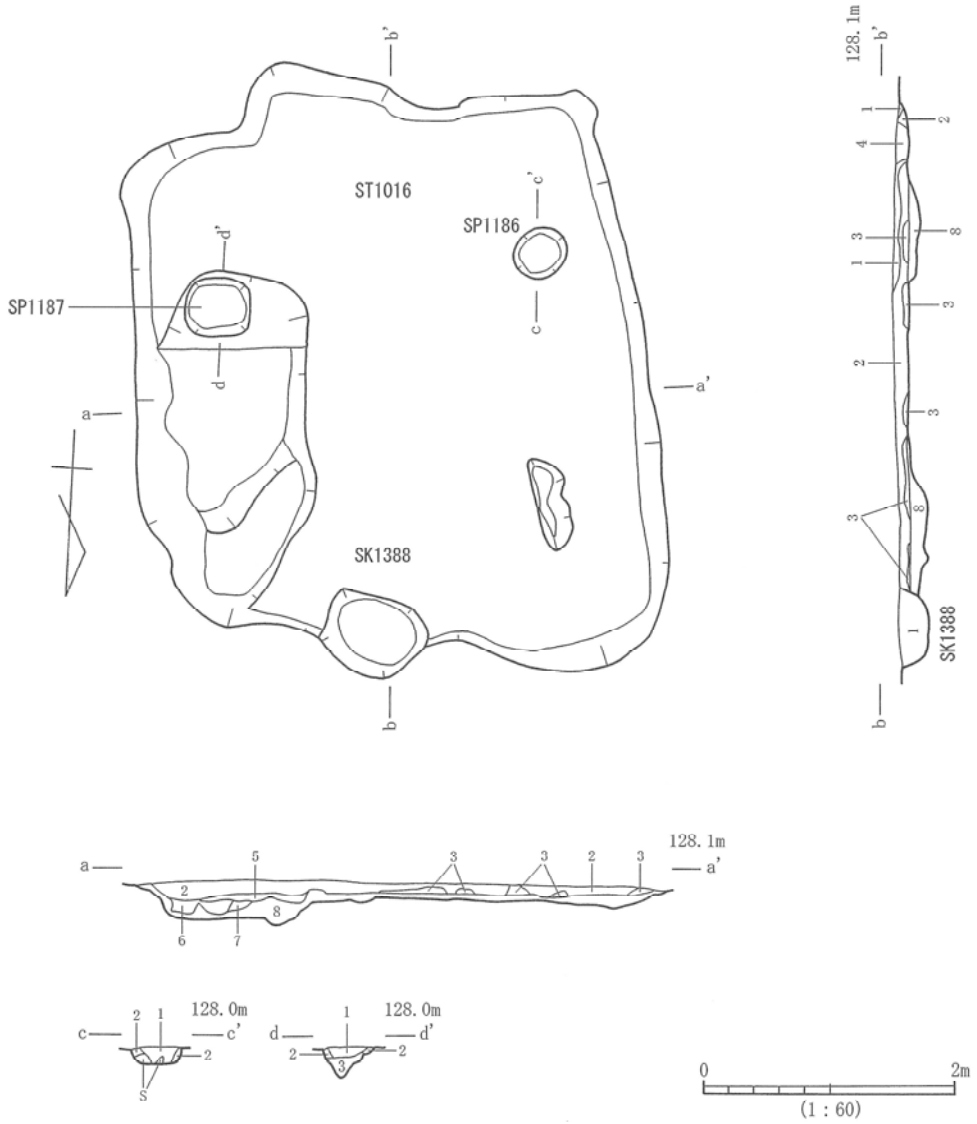
出土遺物　土師器坏（1）・甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代はおおよそ6～7世紀であると思われる。



第40図　ST1015



第41図　ST1015出土遺物



第42図　ST1016

第43図　ST1016出土遺物

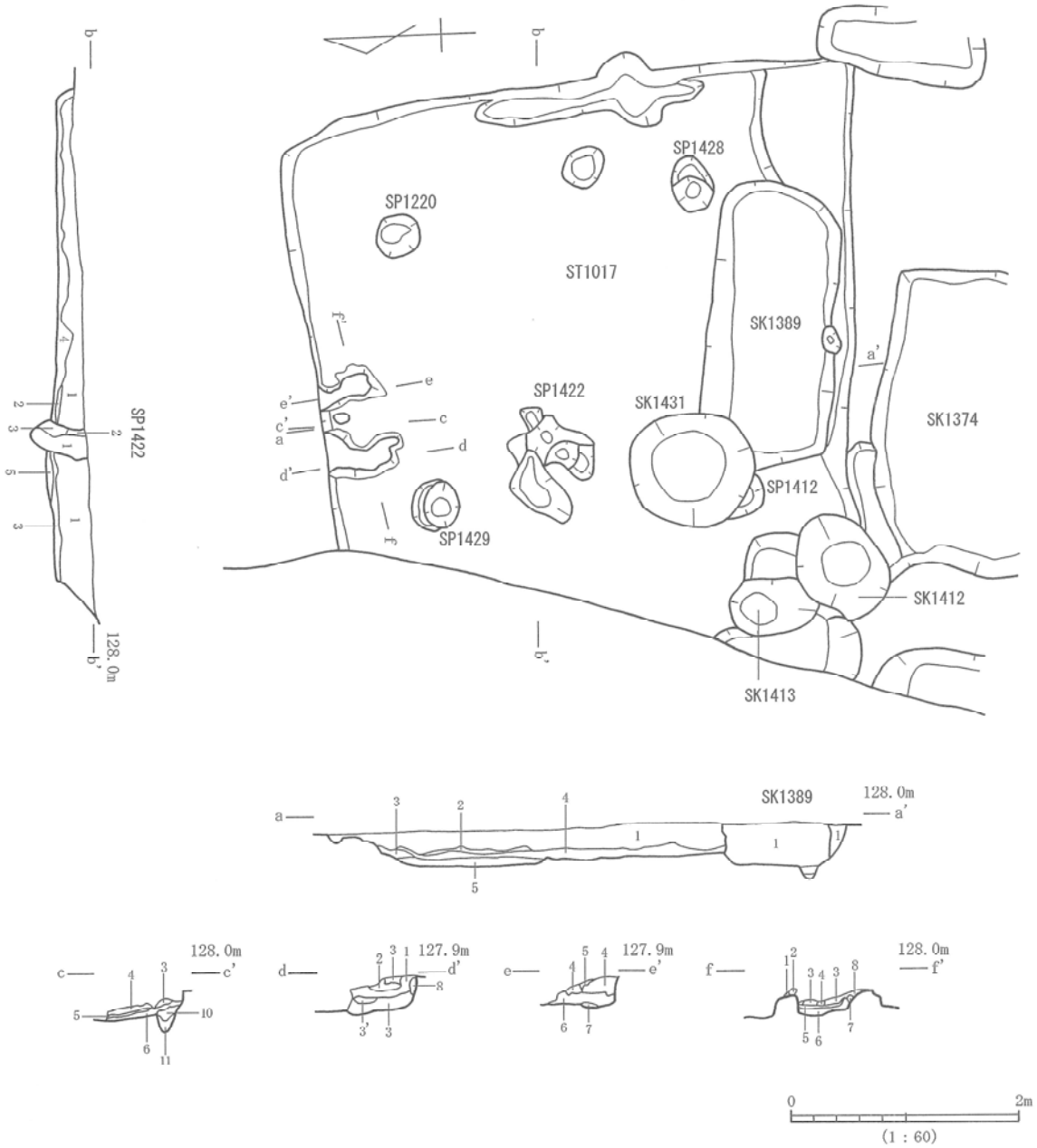
ＳＴ１０１６（第４２～４３図）

位　　置　4－16グリッド。

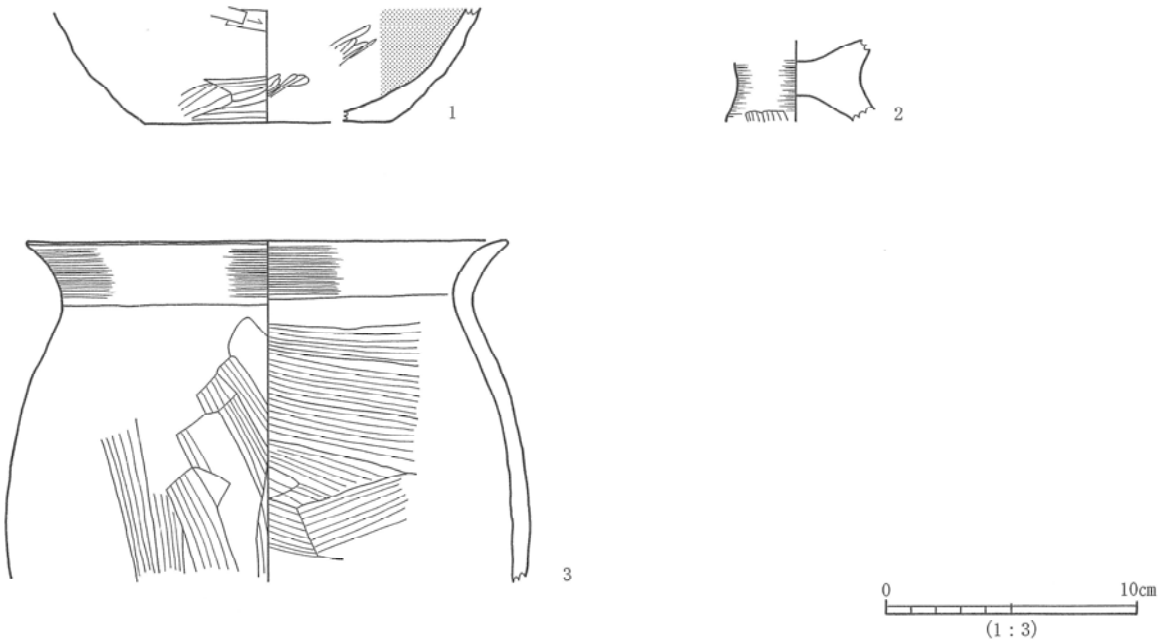
規　　模　長軸4.50 m、短軸4.08 m、検出面から床面までの深さ5 cm、検出面から掘り方までの深さ15 cm。

形　　態　北側をSK1388に切られる。検出面からの深さが浅く、カマドは検出されなかった。3層が貼床で、住居のほぼ全域で検出された。主柱穴はSP1186、SP1187の2基のみを想定しているが、軸が中央からやや南側の位置にずれているので、確証はない。

出土遺物　赤焼坏（1）、土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代はおおよそ9世紀半ばであると思われる。



第44図　ST1017



第45図　ST1017出土遺物

ＳＴ１０１７（第４４～４５図）

位　　置　3－15～3－16グリッド。

規　　模　長軸4.65 m、検出面から床面までの深さ23 cm、検出面から掘り方までの深さ25 cm。

形　　態　南側をSK1389、SK1412、SK1413に、中央をSK1431、SP1422に切られる。カマドは北壁に付属し、ソデが良好な状態で検出された。5層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。掘り方覆土は北西側でのみ検出された。周溝は東壁の中央にのみ確認された。主柱穴はSP1220、SP1428、SP1429、SP1412の4基が検出された。

出土遺物　土師器碗（1）・高坏（2）・甕（3）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は7世紀後半から8世紀であると思われる。

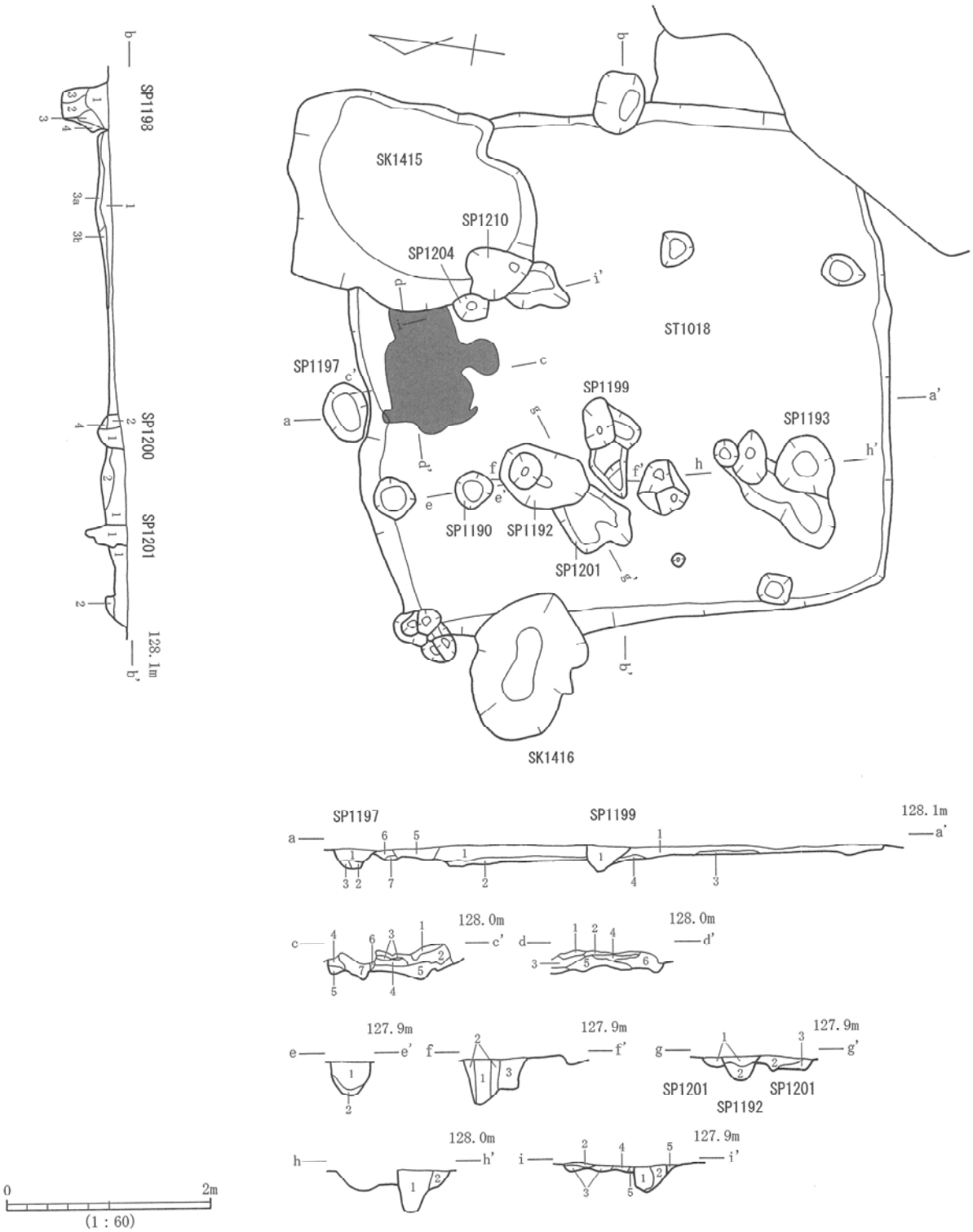
ＳＴ１０１８（第４６～４７図）

位　　置　3－16グリッド。

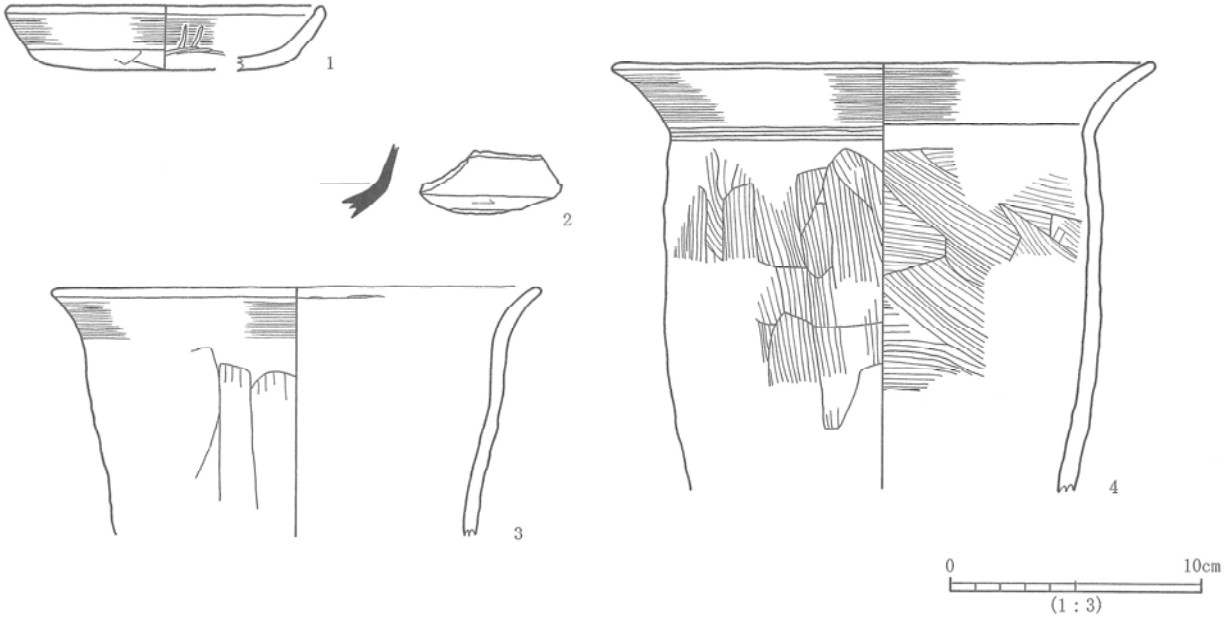
規　　模　長軸5.14 m、短軸4.97 m、検出面からの深さ24 cm。

形　　態　北東側をSK1415に、西側をSK1416に切られる。カマドは、北壁の中央で焼土の広がりが検出されたので、この付近であると考えられる。柱穴はSP1190、SP1192、SP1193、SP1210など複数検出されたが、どれが主柱穴となるかは分からなかった。

出土遺物　土師器坏（1）・碗・甕（3、4）、須恵器坏（2）などが出土した。土師器坏（1）は、平底で、外面にわずかに稜を有し、外面にケズリ、内面にミガキ、口縁部にナデの調整が施される。甕（3、4）は内外面にハケメ、口縁部にナデの調整が施される。土師器甕（4）はカマドから出土し、被熱痕があったので煮炊に使用されたと思われる。須恵器坏(2)はSP1201から出土したものだが、おそらく稜碗であると思われる。年代は、7世紀であると考えられる。


SK1415
SP1210
SP1204
ST1018
SP1197
SP1199
SP1193
SP1190
SP1192
SP1201
SK1416
SP1198
SP1200
SP1201
128.1m
128.0m
127.9m
0
2m
(1：60)

第46図　ST1018



第47図　ST1018出土遺物

ＳＴ１０１９（第４８～４９図）

位　　置　3－15グリッド。

規　　模　長軸5.51ｍ、検出面から床面までの深さ18㎝、検出面から掘り方までの深さ32㎝。

形　　態　西側が調査区外にかかる。また中央を撹乱に切られる。カマドは北壁の東よりの部分に焼土が広がる箇所が検出されたので、この付近であると考えられる。8層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。周溝は検出された壁面のすべてで確認された。主柱穴はSP1214、SP1215の2基が検出された。SP1213は掘り方覆土を切り、その上層の覆土から切られるので、住居に伴うものと考えられ、貯蔵穴のような施設が想定される。

出土遺物　土師器坏（1）・甕（5、6）、須恵器瓶（2）・有台坏（3）・壺（4）、砥石（7）などが出土した。土師器坏（1）は丸底で、外面にケズリ、ミガキ、内面にミガキおよび黒色処理、口縁部にナデ調整が施される。土師器甕（5、6）は内外面にハケメ、口縁部にナデ調整が施される。須恵器瓶（2）は外面下部に回転ケズリが施される。年代は8世紀頃であると思われる。

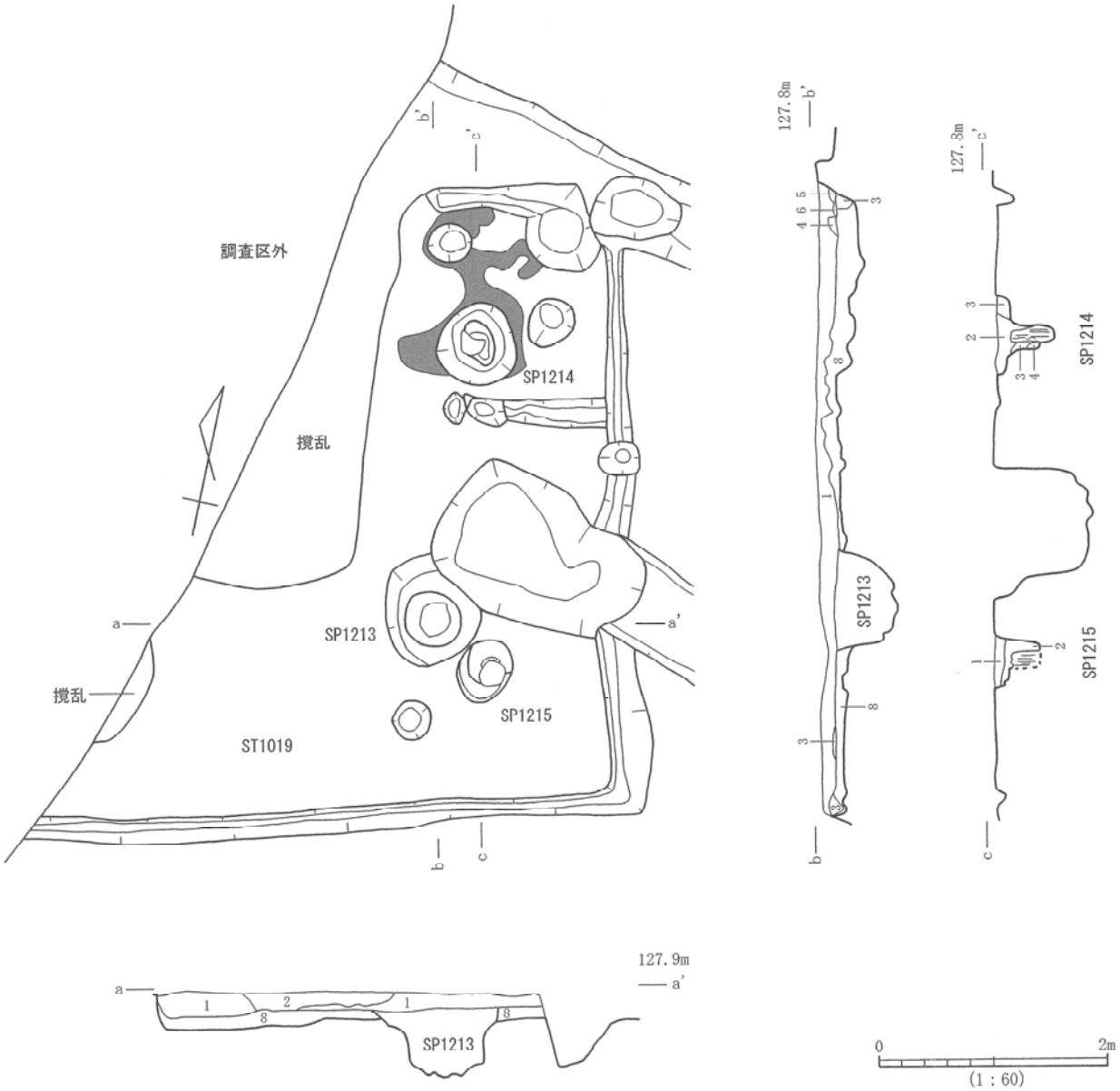
ＳＴ１０２０（第５０図）

位　　置　4－15グリッド。

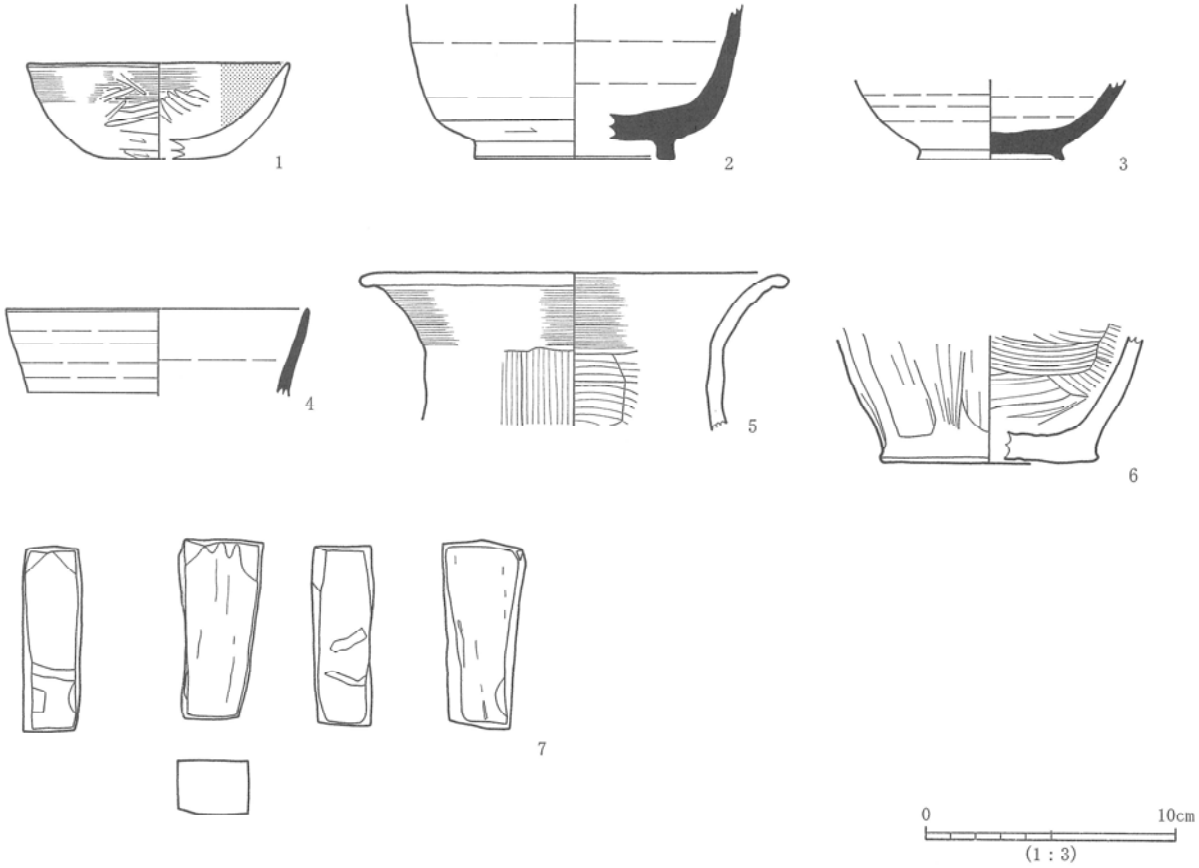
規　　模　長軸3.44ｍ、短軸3.39ｍ、検出面から床面までの深さ6㎝、検出面から掘り方までの深さ17㎝。

形　　態　南西部がSD1043に切られる。カマドは北西壁の中央に付属するが、カマドを構築したと思われる粘土が上からつぶされたような状態でわずかに検出されただけ、遺存状態は良くない。3層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居床面である。主柱穴は、SP1214、SP1215、SP1216、SP1217の4基が検出された。

出土遺物　土師器の甕の小破片のみ出土した。年代は古墳時代と思われるが、細分できなかった。


調査区外
撹乱
撹乱
ST1019
SP1213
SP1214
SP1215
a
a'
b
b'
c
c'
127.8m
127.3m
127.9m
0
2m
(1：60)

第48図　ST1019



第49図　ST1019出土遺物

ＳＴ１０２１（第５１～５２図）

位　　置　3－15～4－15グリッド。

規　　模　長軸4.31、短軸4.25ｍ、検出面からの深さ13㎝。

形　　態　北西側をSD1102に切られる。カマドは北壁の中央で検出され、長さ73㎝、中央部の幅25㎝の煙道とソデが付属する。周溝は東壁でのみ検出された。柱穴は検出されなかった。

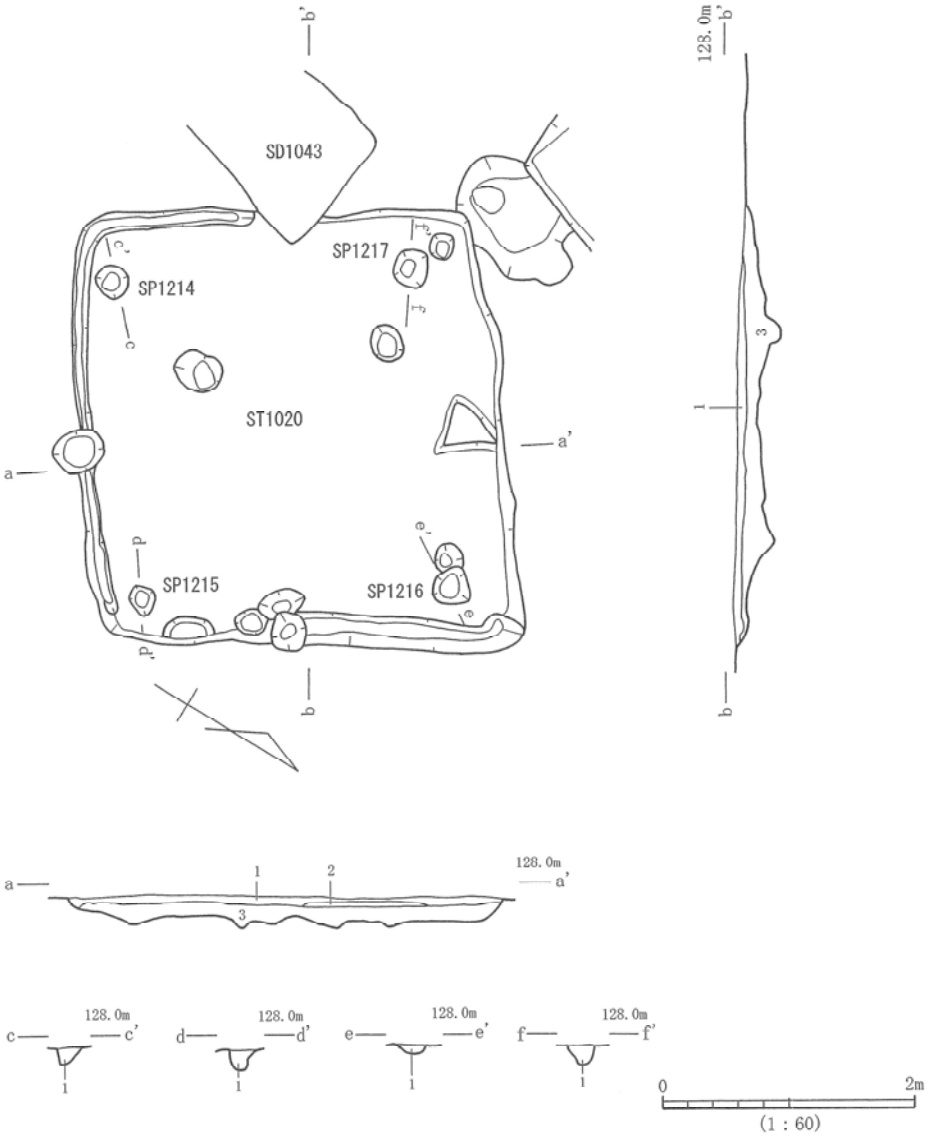
出土遺物　土師器碗（1）・甕（2）などが出土した。碗（1）は口縁が内湾し、外面にケズリ、内面にミガキ、口縁部にナデ調整が施される。甕（2）は外面にケズリ、内面にナデ、口縁部にナデ調整が施される。図化していないが土師器甕で底部に網代痕が認められるものがある。年代は6世紀であると思われる。

ＳＴ１０３２（第５１・５３図）

位　　置　3－15～4－15グリッド。

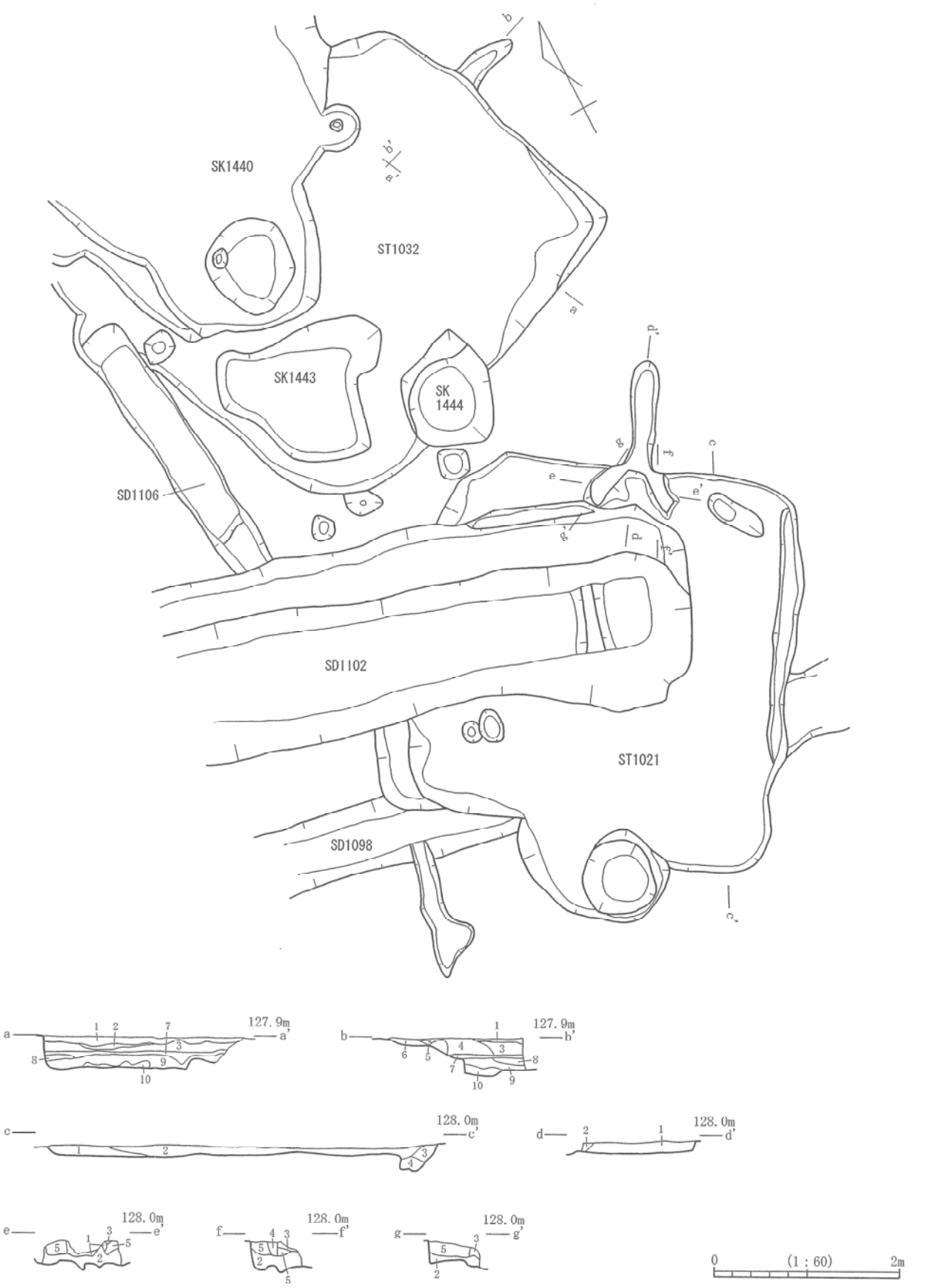
規　　模　長軸4.31ｍ、短軸4.25ｍ、検出面から床面までの深さ15㎝、検出面から掘り方までの深さ33㎝。

形　　態　北西側をSK1440に、南側をSK1443、SK1444に切られる。カマドは北東壁のやや北よりで検出され、長さ61㎝、中央部の幅25㎝の煙道が付属する。ソデは検出されなかった。7層が貼床でほぼ住居全域で検出された。8～10層が掘り方覆土である。柱穴は検出されなかった。

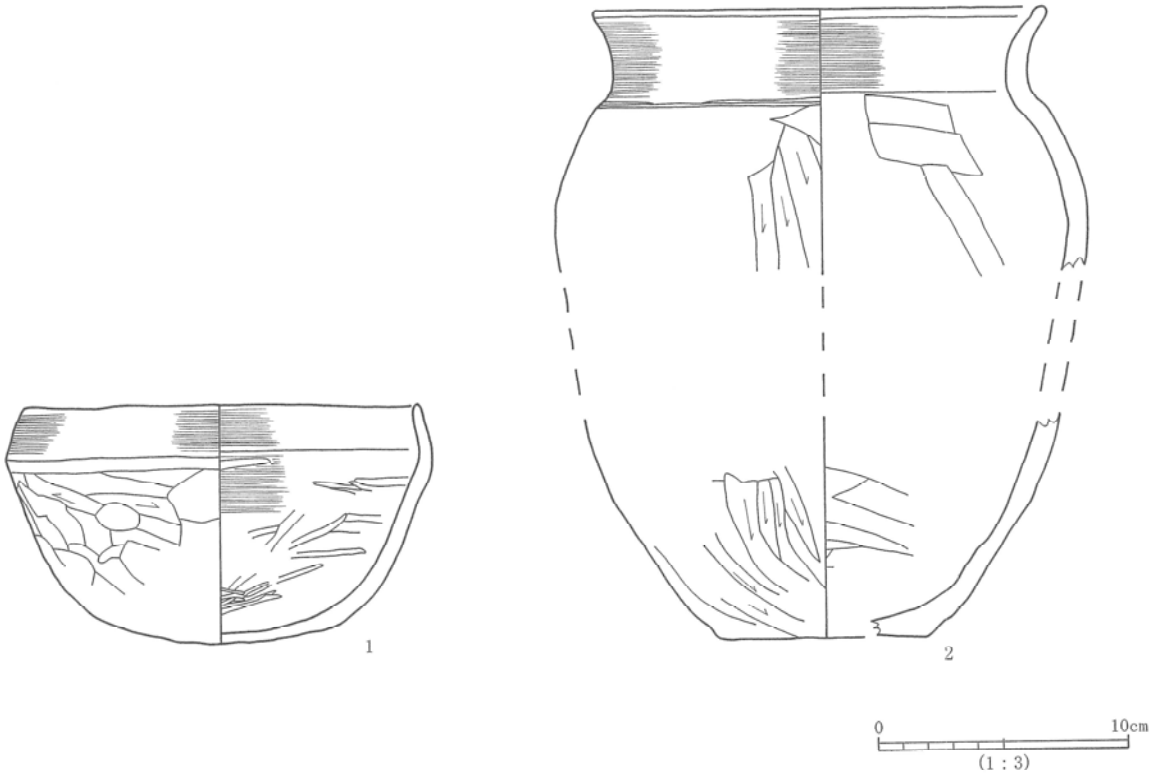


第50図　ST1020

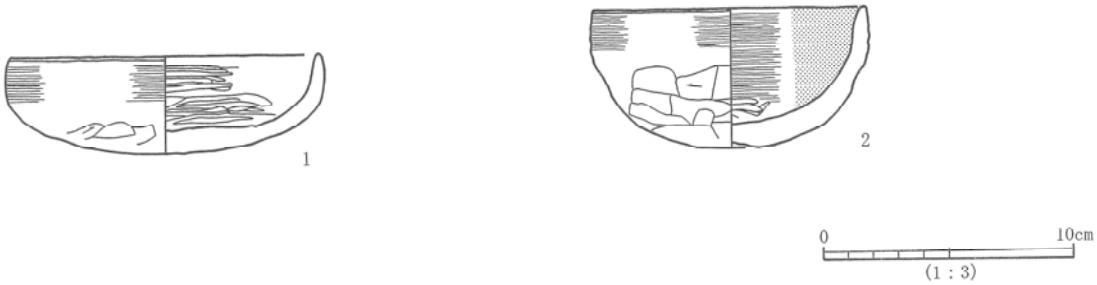
出土遺物　土師器坏（1、2）・甕、須恵器甕などが出土した。土師器坏は浅いタイプ（1）と深いタイプ（2）があるが、ともに外面にケズリ、内面にミガキ（2は黒色処理）、口縁部にナデ調整が施される。年代は7世紀であると思われる。



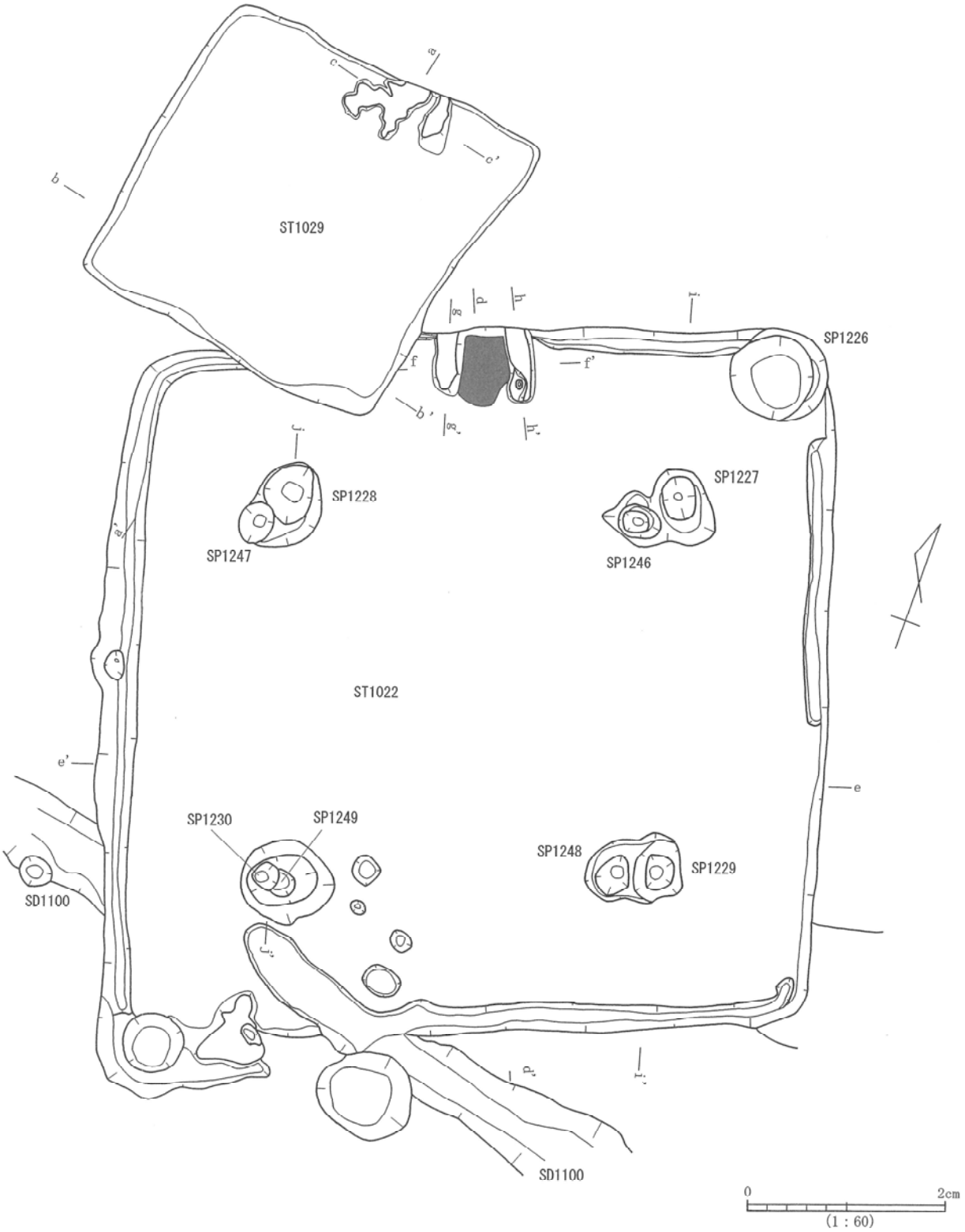
第51図　ST1021・ST1032



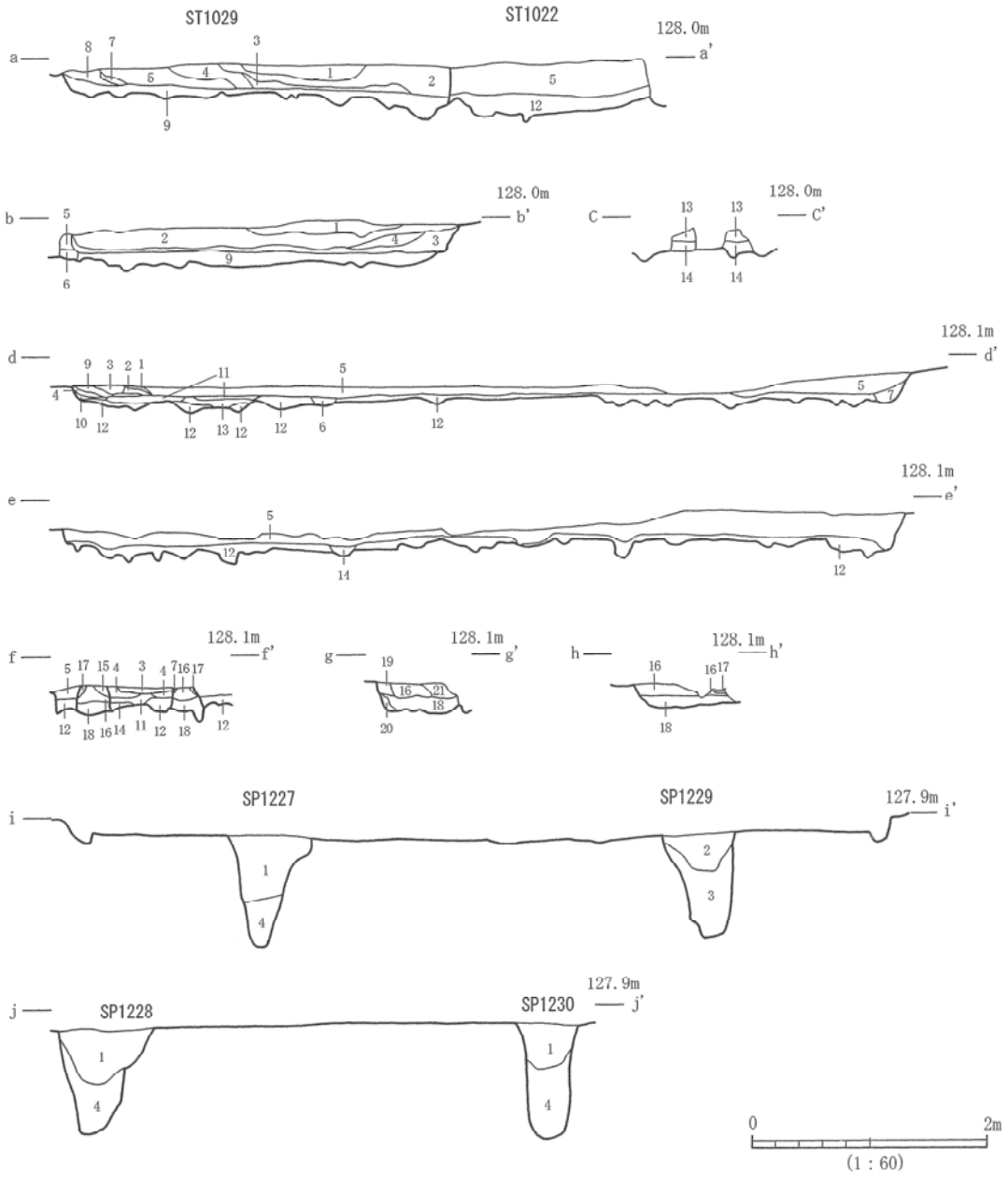
第52図　ST1021出土遺物



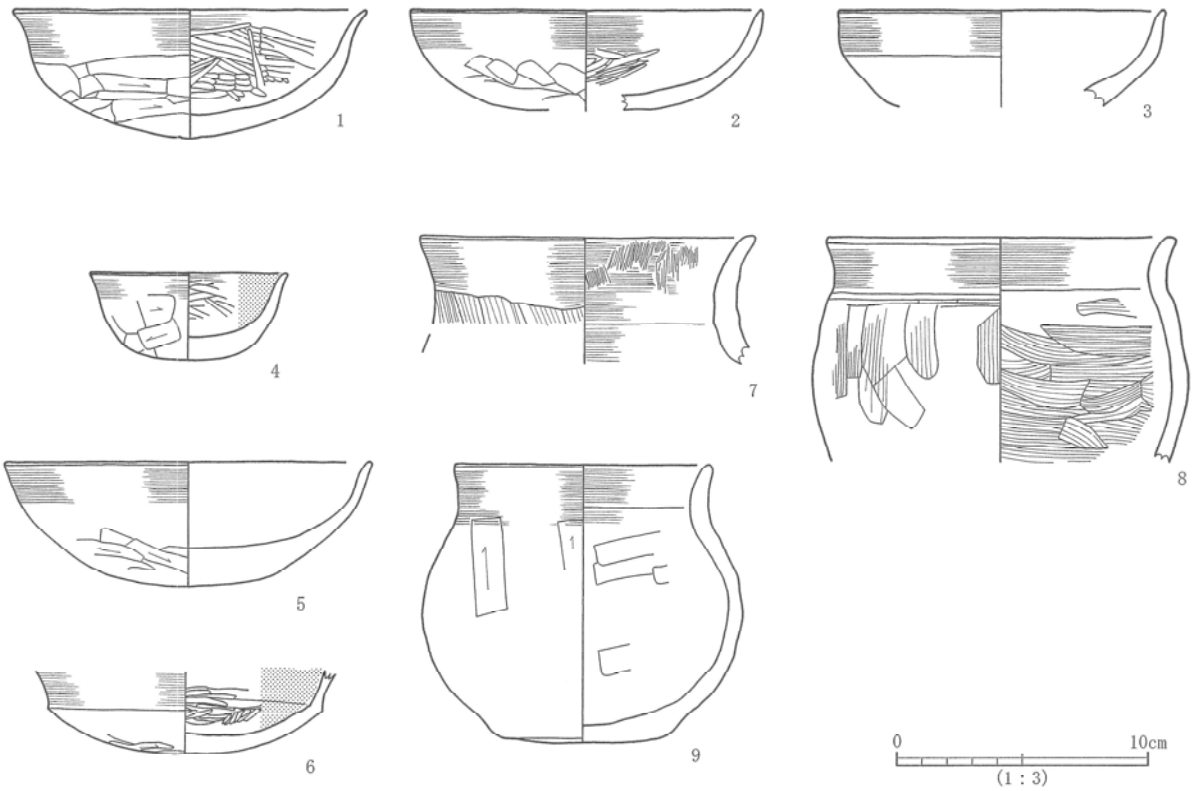
第53図　ST1032出土遺物



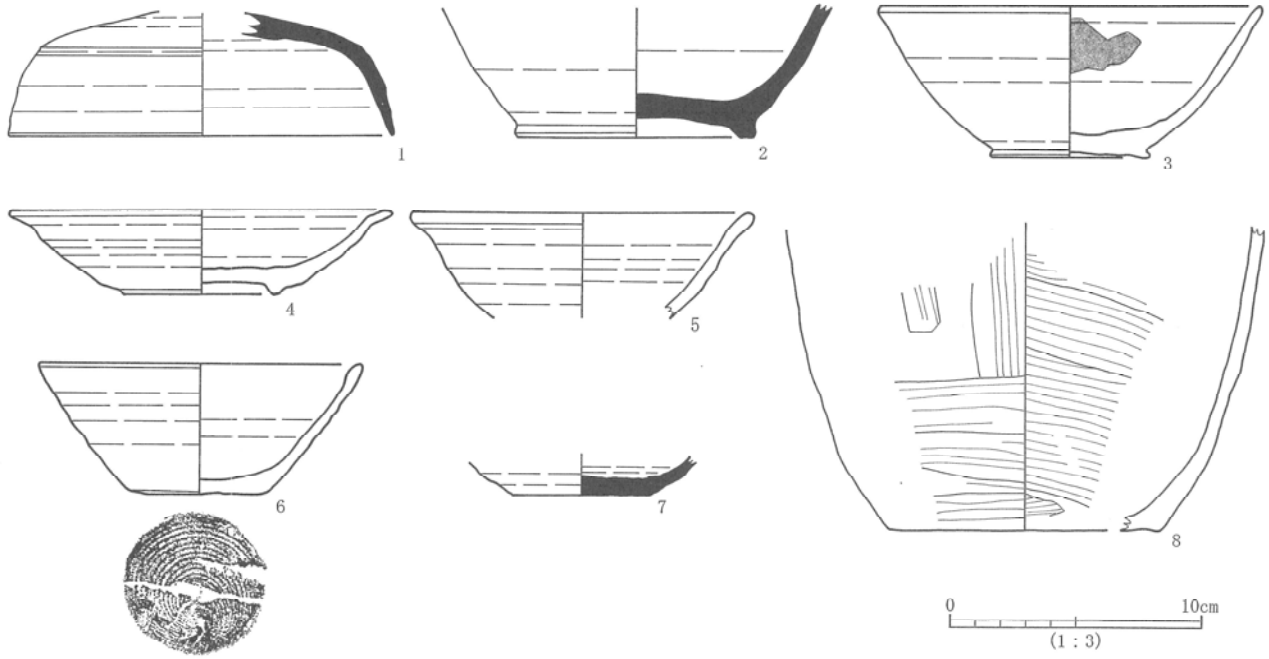
第54図　ST1022・ST1029(1)



第55図　ST1022・ST1029(2)



第56図　ST1022出土遺物



第57図　ST1029出土遺物

ＳＴ１０２２（第５４～５６図）

位　　置　4－15グリッド。

規　　模　長軸7.37 m、短軸7.12 m、検出面から床面までの深さ16 cm、検出面から掘り方までの深さ23 cm。

形　　態　北西側をST1029に、南側をSD1100に切られる。カマドは北西壁の中央で検出され、ソデが良好な状態で確認された。11層が貼床でカマドの周辺でのみ検出された。それ以外の部分での床面は、12～14層が掘り方の覆土であり、その上層との境となる。周溝は東壁の南半で切れているが、その以外の壁面で検出された。主柱穴はSP1227、SP1228、SP1229、SP1230の4基が検出された。北東隅のSP1226は住居に伴う遺構で、貯蔵穴などの性格が想定される。

出土遺物　土師器坏（1～6）・甕（7～9）などが出土した。坏は口縁部が内湾するタイプ（2）、直線的に立ち上がるタイプ（3、5）、外反するタイプ（1、4、6）がある。甕は外面にハケメ、内面にナデが施されるタイプ（7）と、内外面ハケメが施されるタイプ（8）、外面にケズリ、内面にナデが施されるタイプ（9）がある。年代は7世紀であると思われる。

ＳＴ１０２９（第５４～５５・５７図）

位　　置　4－15グリッド。

規　　模　長軸3.44 m、短軸3.32 m、検出面から床面までの深さ15 cm、検出面から掘り方までの深さ23 cm。

形　　態　ST1022を切る。カマドは北壁の中央で検出された。ソデは東側が残存状況は良かったが、西側が上から押しつぶされたような状態で検出された。柱穴は検出されなかった。

出土遺物　須恵器蓋（1）・有台坏（2）・坏（7）、赤焼有台坏（3）・有台皿（4）・坏（5、6）、土師器甕（8）などが出土した。須恵器蓋は深さのあるタイプのもので短頸壺などの蓋であると思われる。坏類で切り離しの判明するものはすべて回転糸切りである。年代は9世紀半ばであると思われる。

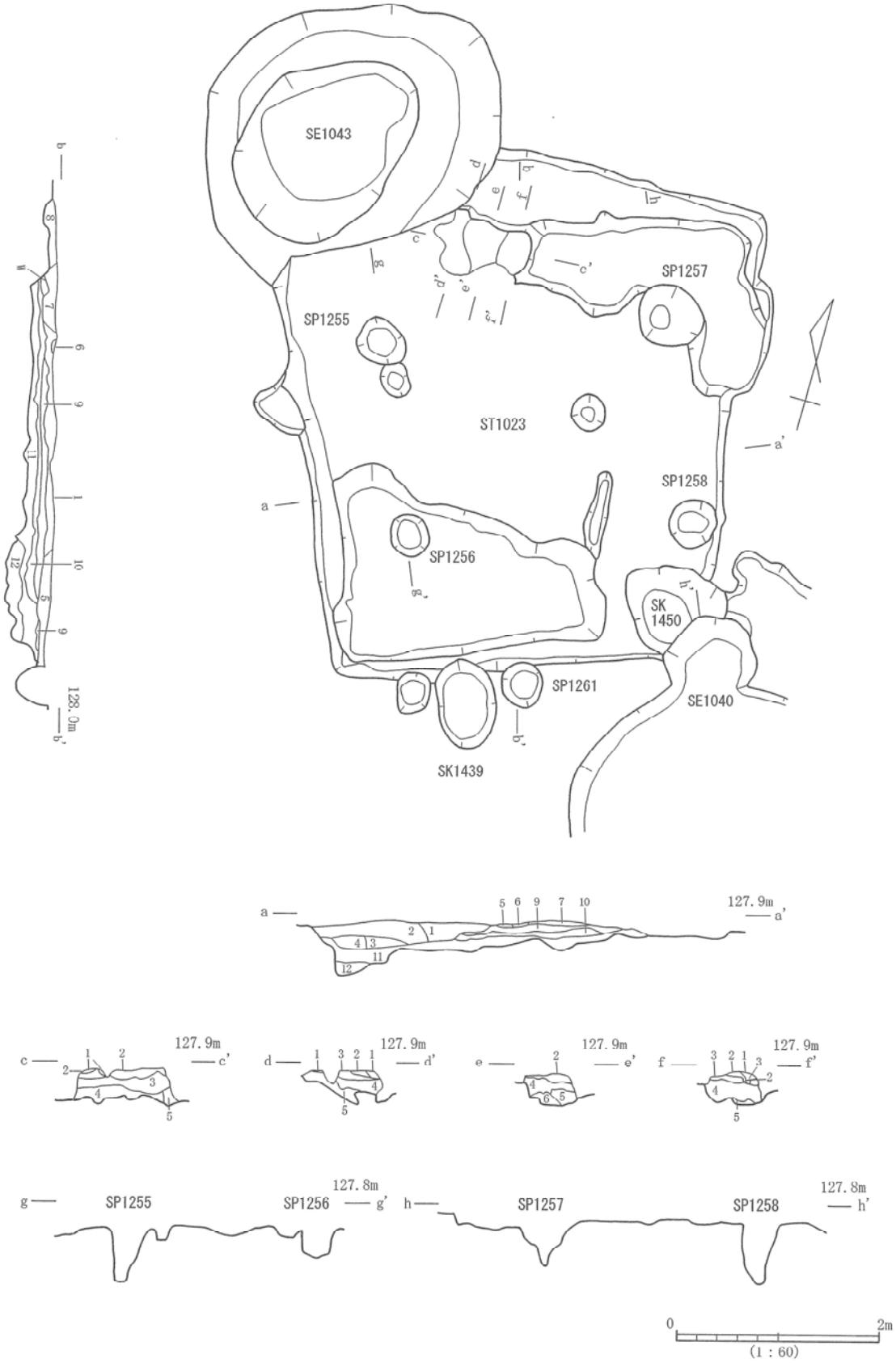
ＳＴ１０２３（第５８～５９図）

位　　置　3－15～4－15グリッド。

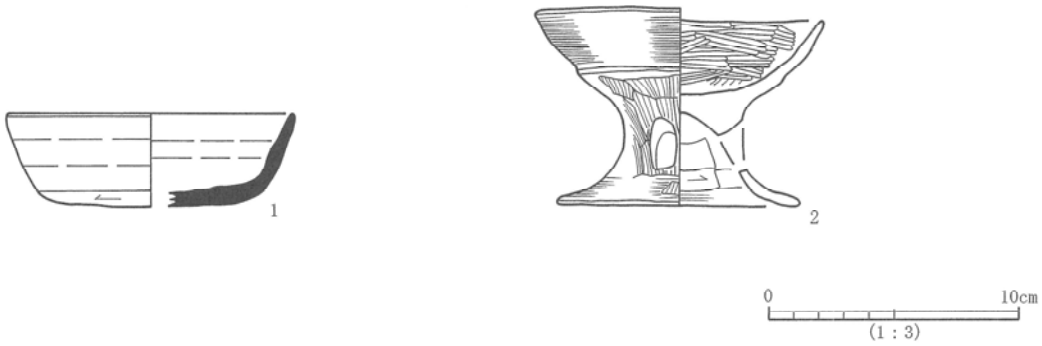
規　　模　長軸4.50 m、短軸4.21 m、検出面から床面までの深さ8 cm、検出面から掘り方までの深さ16 cm。

形　　態　北西側をSE1043に、南東側をSK1450に切られる。10～12層が掘り方の覆土で、その上層との境が床面である。9層は炭化した木材や焼土が堆積している層で、おそらく焼失住居であると考えられる。カマドは北壁の中央で検出され、ソデは良好な状態で確認された。主柱穴はSP1255、SP1256、SP1257、SP1258の4基が検出された。

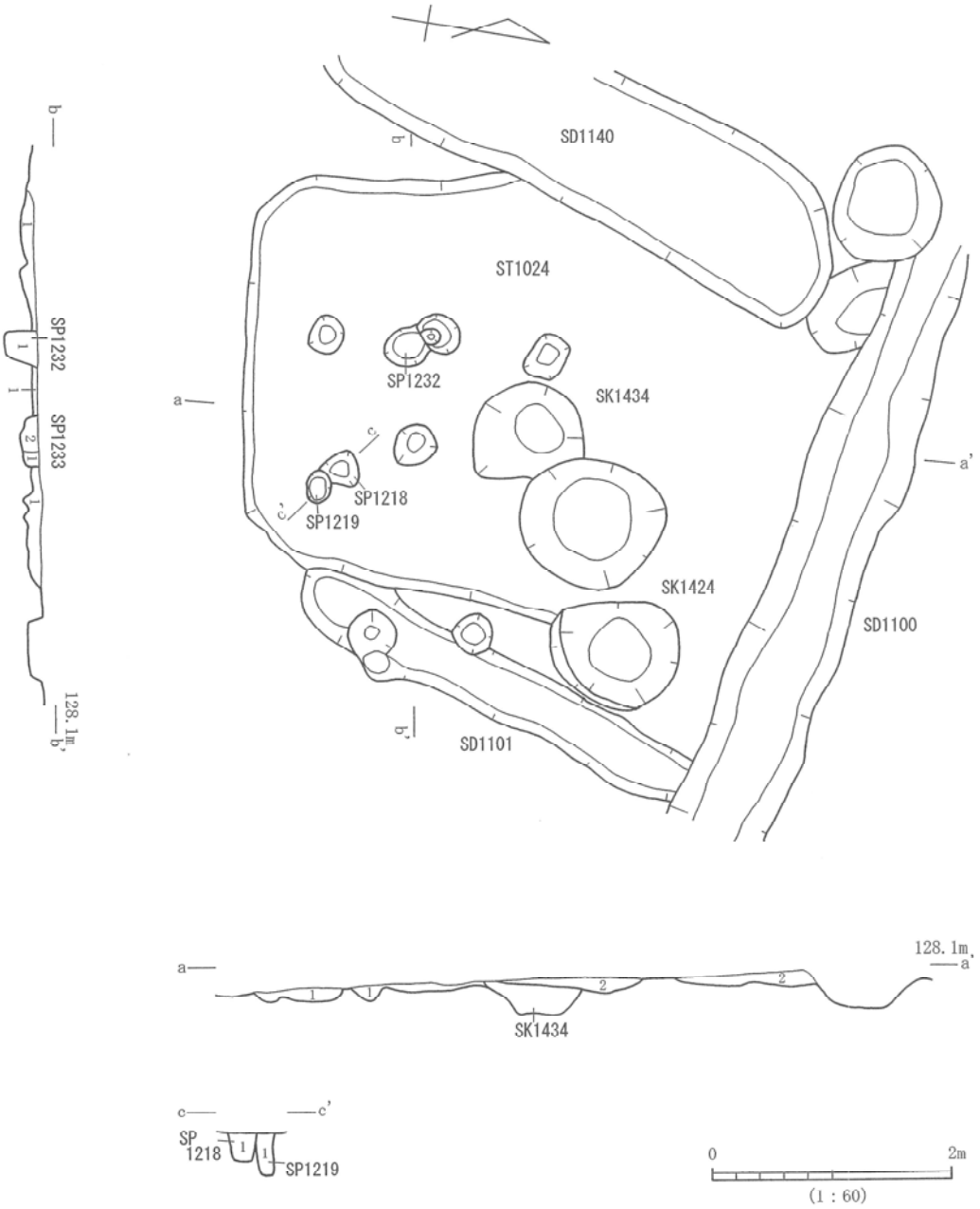
出土遺物　須恵器坏（1）、土師器高坏（2）・甕などが出土した。須恵器坏（1）は外面から底部にかけて回転ケズリが施される。土師器高坏（2）は坏部が外面にナデ、内面にミガキ、脚部が外面にハケメ、内面にケズリが施される。年代は7世紀であると思われる。


SE1043
SP1255
SP1256
SP1257
SP1258
ST1023
SK 1450
SP1261
SK1439
SE1040
127.9m
127.8m
128.0m
(1：60)

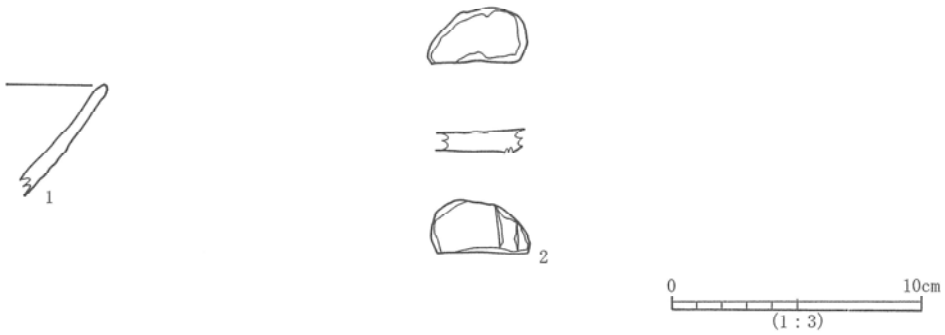
第58図　ST1023



第59図　ST1023出土遺物



第60図　ST1024



第61図　ST1024出土遺物

ＳＴ１０２４（第６０～６１図）

位　　置　4－15グリッド。

規　　模　長軸3.59ｍ、検出面からの深さ9㎝。

形　　態　西側をSD1140に北東側をSK1424、SK1434に切られる。検出面からの深さが浅く、残存していたのは掘り方の覆土と思われる1層のみで、床面は削平されたと思われる。カマド、柱穴はともに検出されなかった。

出土遺物　赤焼坏（1）、緑釉陶器皿（2）、土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代はおおよそ9世紀半ばであると思われる。

ＳＴ１０２５（第６２～６３図）

位　　置　4－14グリッド。

規　　模　長軸5.15ｍ、短軸4.74ｍ、検出面からの深さ15㎝。

形　　態　カマドは東壁中央に付属し、ソデは南側の片方のみ検出された。また、北壁やや西よりの部分に煙道が破壊されたような溝が検出されたので、カマドの作り替えが行われた可能性が高い。ソデの残っていた東壁のカマドが新しく、北壁のカマドが古いと考えられる。主柱穴はSP1244、SP1245、SP1250、SP1251の4基が検出された。

出土遺物　土師器坏（1）・甕（2）、砥石（3）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代はおおよそ6～7世紀であると思われる。

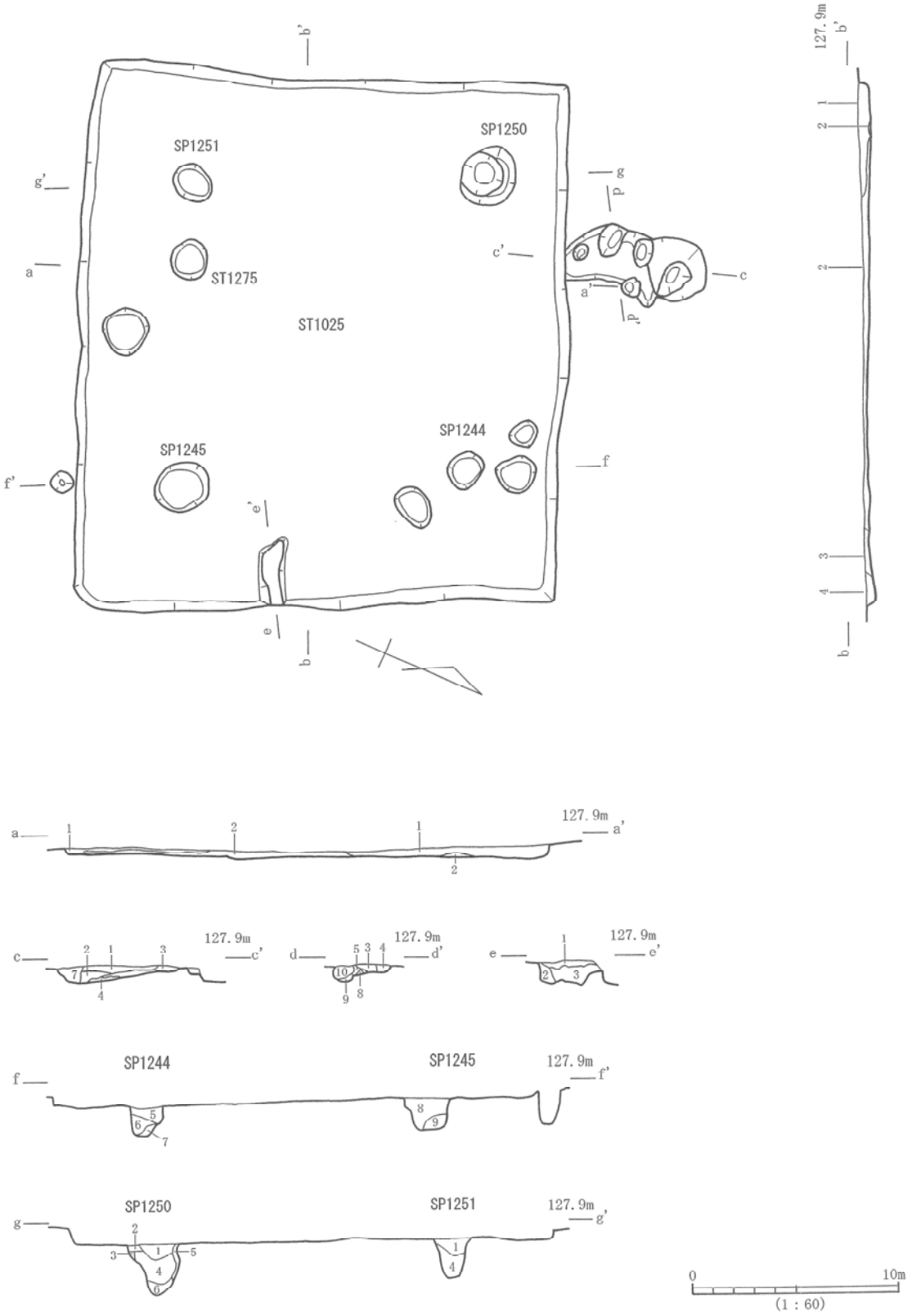
ＳＴ１０２６（第６４～６５図）

位　　置　4－15～5－15グリッド。

規　　模　長軸5.55ｍ、短軸4.12ｍ、検出面からの深さ10㎝。

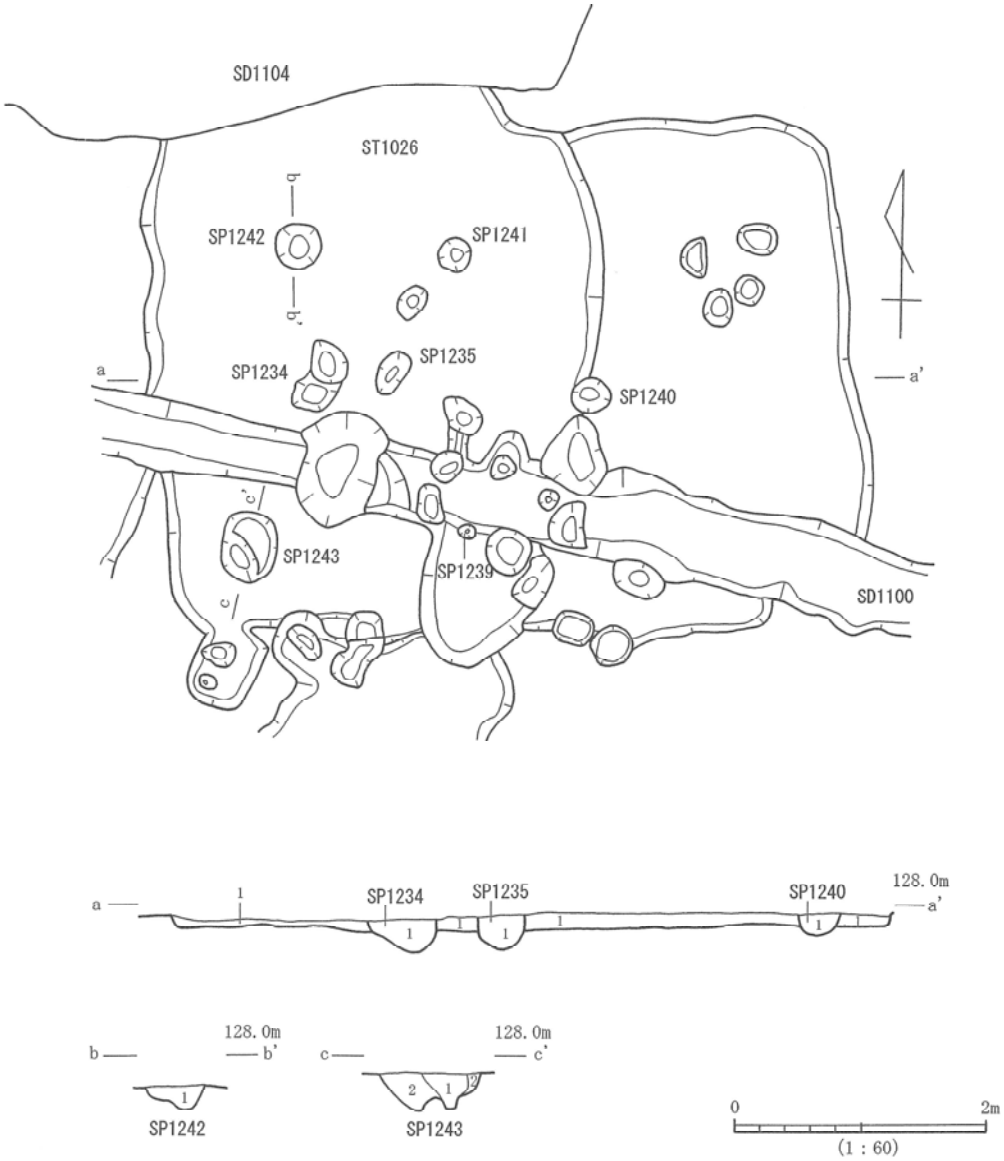
形　　態　北側をSD1104に、南側をSD1100に切られる。検出面からの深さが浅く、北壁は明瞭でなかった。カマドは検出されなかった。SP1242、SP1243の2基は主柱穴であると考えられるが、他の柱穴は検出されなかった。

出土遺物　土師器坏（1）・甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代はおおよそ6～7世紀であると思われる。

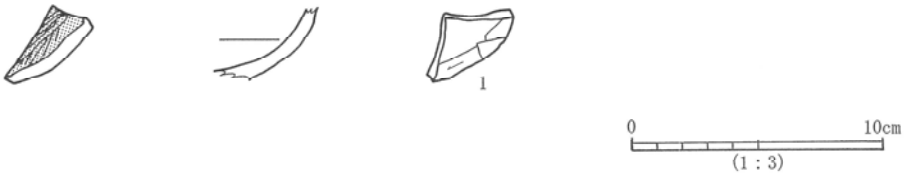

SP1251
SP1250
ST1275
ST1025
SP1245
SP1244
127.9m
SP1244
SP1245
SP1250
SP1251
0
10m
(1：60)

第62図　ST1025

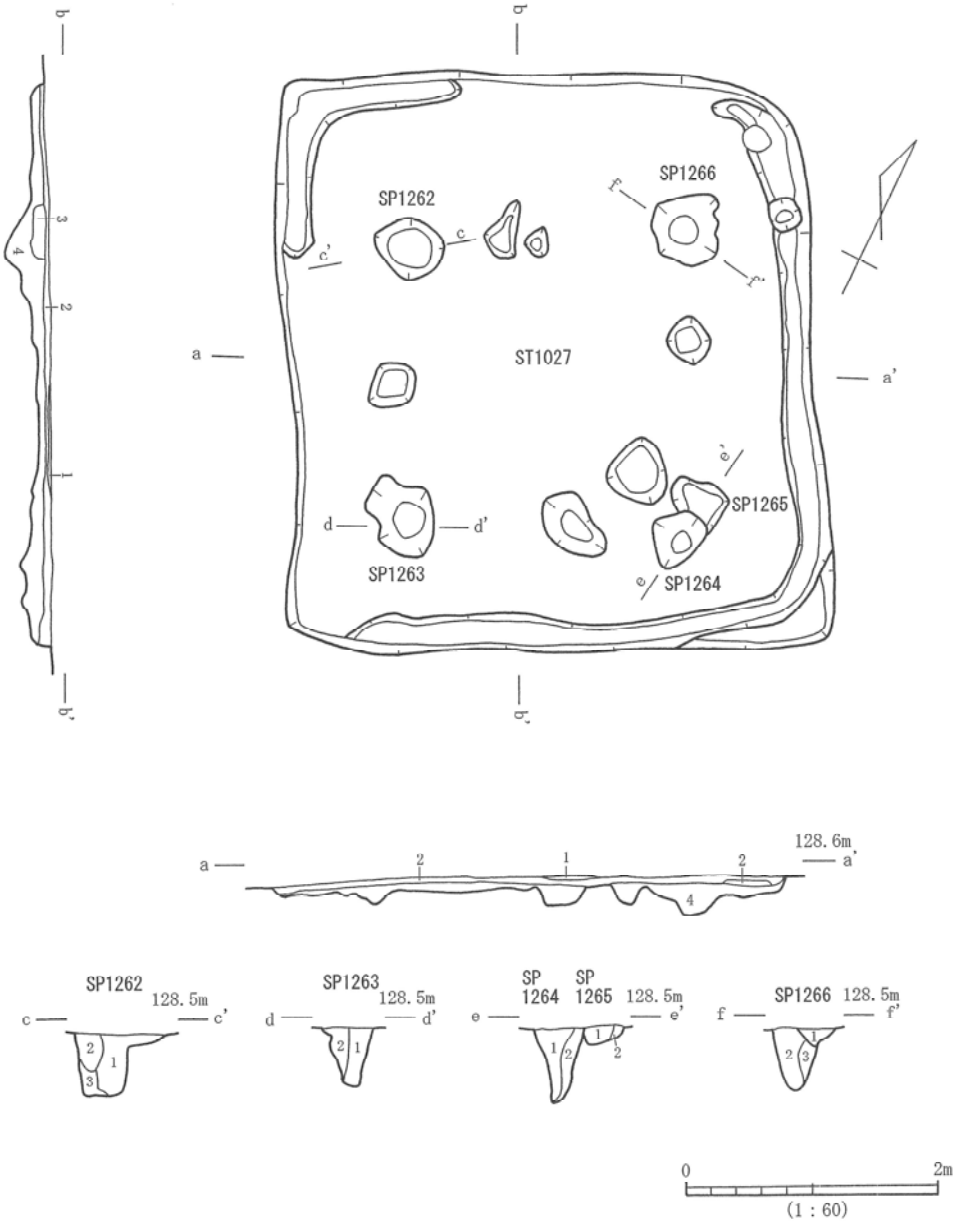
第63図　ST1025出土遺物



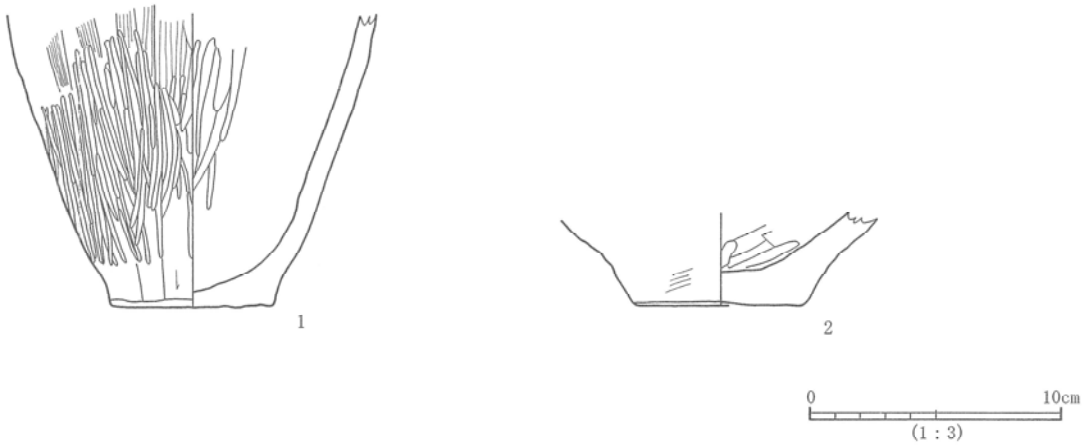
第64図　ST1026



第65図　ST1026出土遺物



第66図　ST1027



第67図　ST1027出土遺物

ＳＴ１０２７（第６６～６７図）

位　　置　6－16グリッド。

規　　模　長軸4.58 m、短軸4.15 m、検出面から床面までの深さ7 cm、検出面から掘り方までの深さ15 cm。

形　　態　2層が貼床でほぼ住居全域で検出された。3～4層が掘り方覆土である。周溝は東壁から南壁にかけてと、北西隅で検出された。主柱穴はSP1262、SP1263、SP1264、SP1266の4基が検出された。カマドは検出されなかった。

出土遺物　土師器甕（1、2）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は6～7世紀であると思われる。

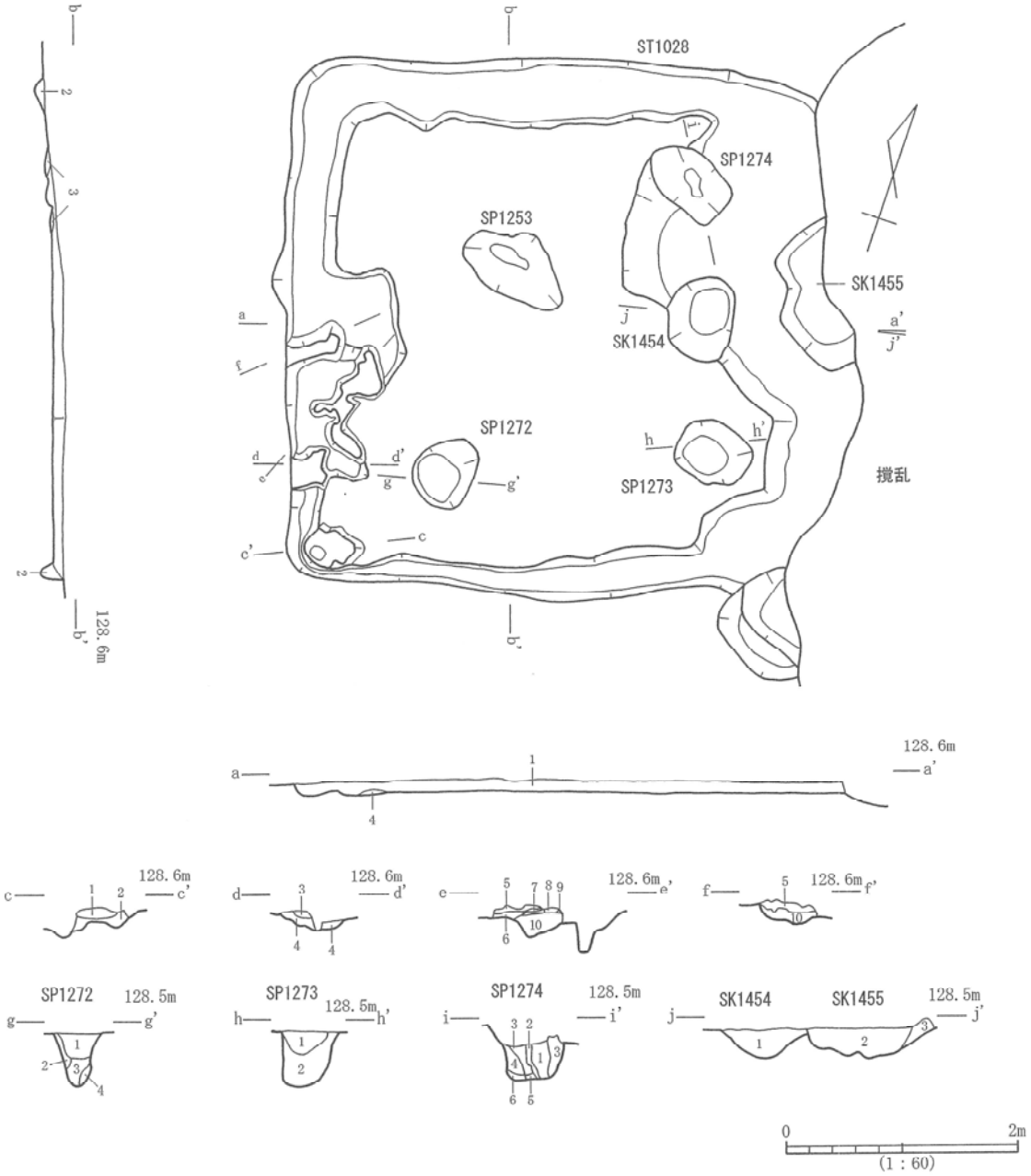
ＳＴ１０２８（第６８～６９図）

位　　置　6－16～7－16グリッド。

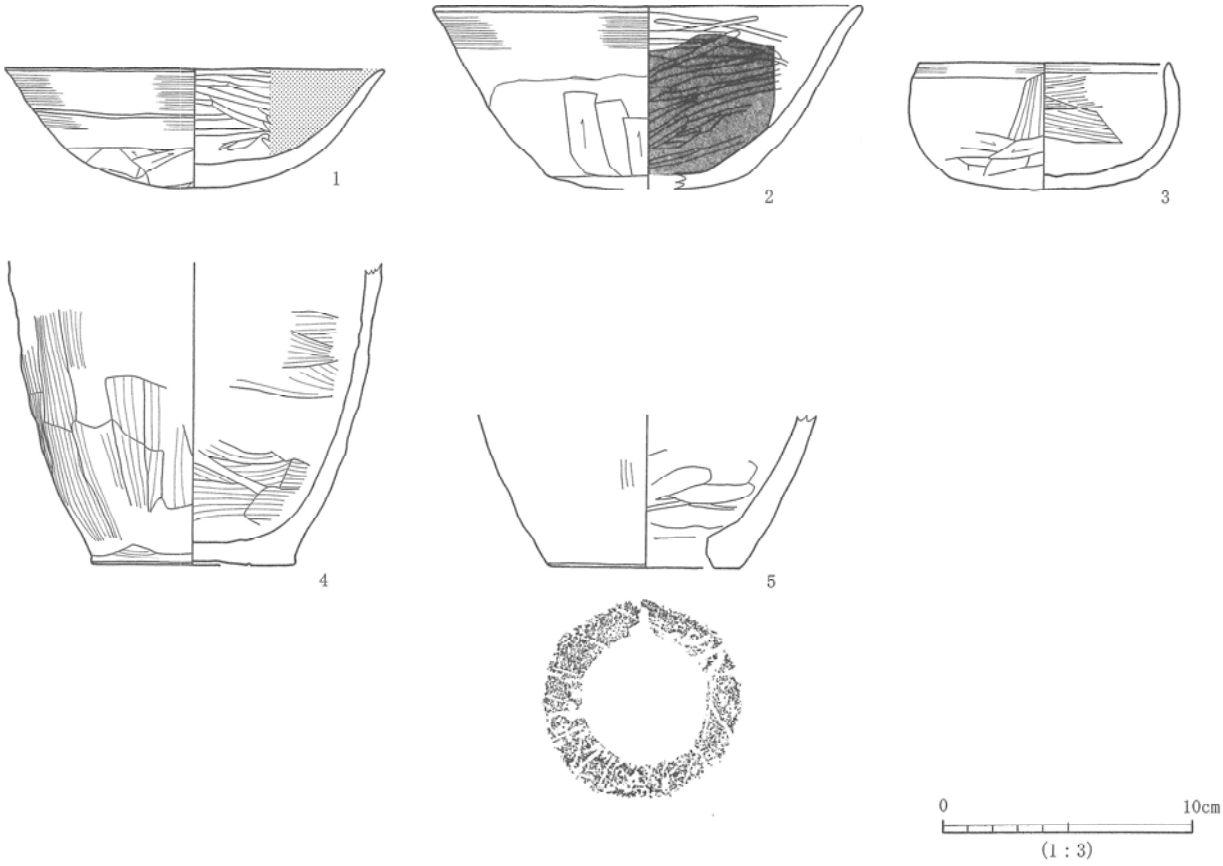
規　　模　長軸5.00 m、短軸4.69 m、検出面からの深さ18 cm。

形　　態　東側を撹乱に切られる。カマドは西壁に付属し、ソデが良好な状態で検出された。周溝が全周で検出された。主柱穴はSP1272、SP1273、SP1274の3基が検出されたが、これとセットとなる北西部にあるはずの柱穴は確認されなかった。

出土遺物　土師器坏（1～3）・甕（4）・甑（5）が出土した。坏は深さが浅く口縁部が外反するタイプ（1）、深さが深く口縁部が外反するタイプ（2）、口縁部が内湾するタイプ（3）の3種類がある。甕は内外面にハケメを施すタイプである。また、図化しなかったが混入であろうと思われる、二重口縁壺が出土している。年代は7世紀後半から8世紀前半であると思われる。


ST1028
SP1274
SP1253
SK1455
SK1454
SP1272
SP1273
撹乱
128.6m
128.5m
SP1272
SP1273
SP1274
SK1454
SK1455
0
2m
(1：60)

第68図　ST1028



第69図　ST1028出土遺物

ＳＴ１０３０（第７０～７１図）

位　　置　4－14～4－15グリッド。

規　　模　長軸4.58、短軸4.48ｍ、検出面から床面までの深さ19ｃｍ、検出面から掘り方までの深さ28㎝。

形　　態　12、16～18層が掘り方の覆土で、その上層との境が床面である。カマドは北壁の中央に付属し、わずかに煙道の痕跡が検出された。周溝はカマドを除いて全周で検出された。主柱穴はSP1280、SP1281、SP1282、SP1283の4基が検出された。

出土遺物　土師器甕（1～3）・坏、砥石（4）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代はおおよそ6～7世紀であると思われる。

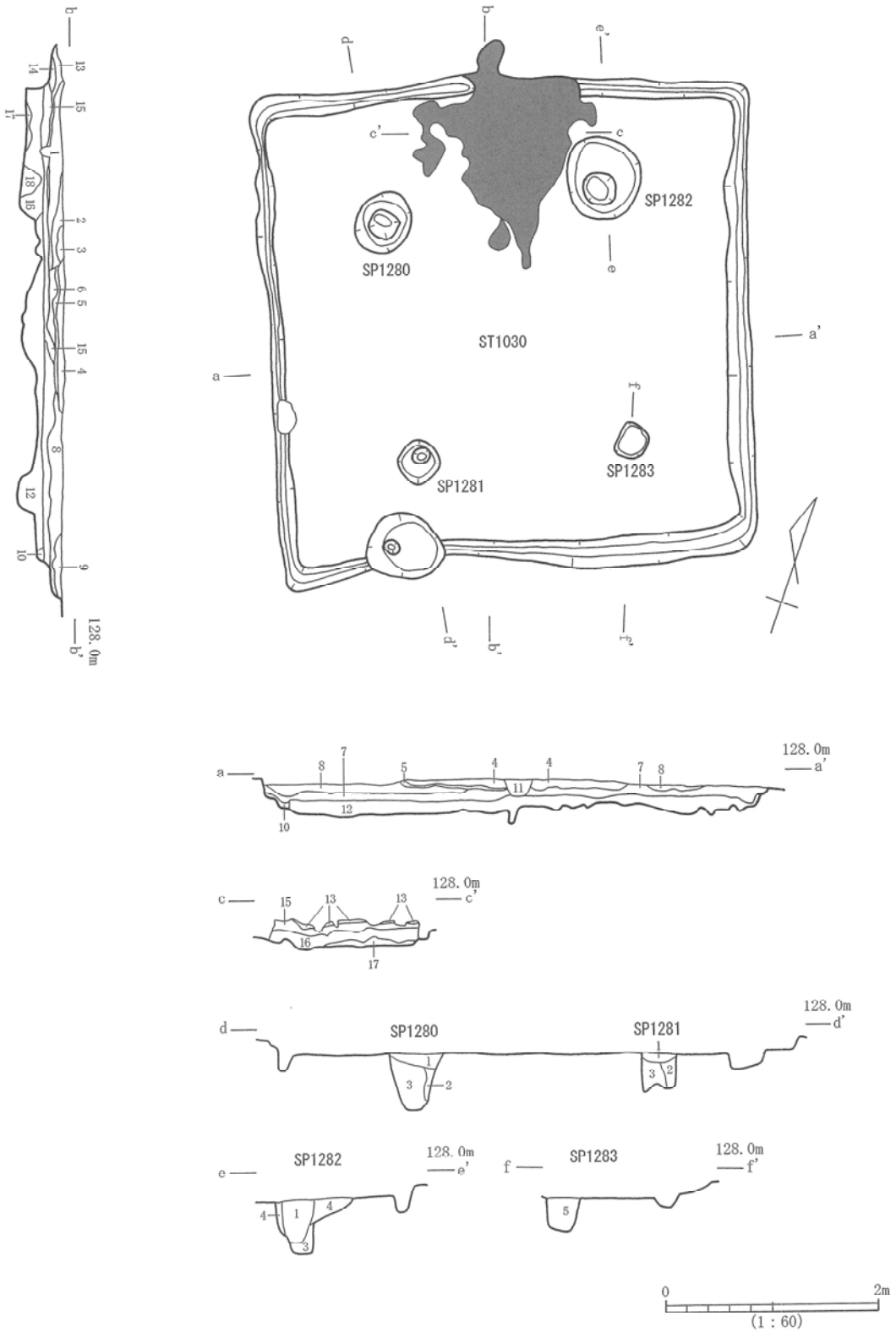
ＳＴ１０３１（第７２～７３図）

位　　置　7－17グリッド。

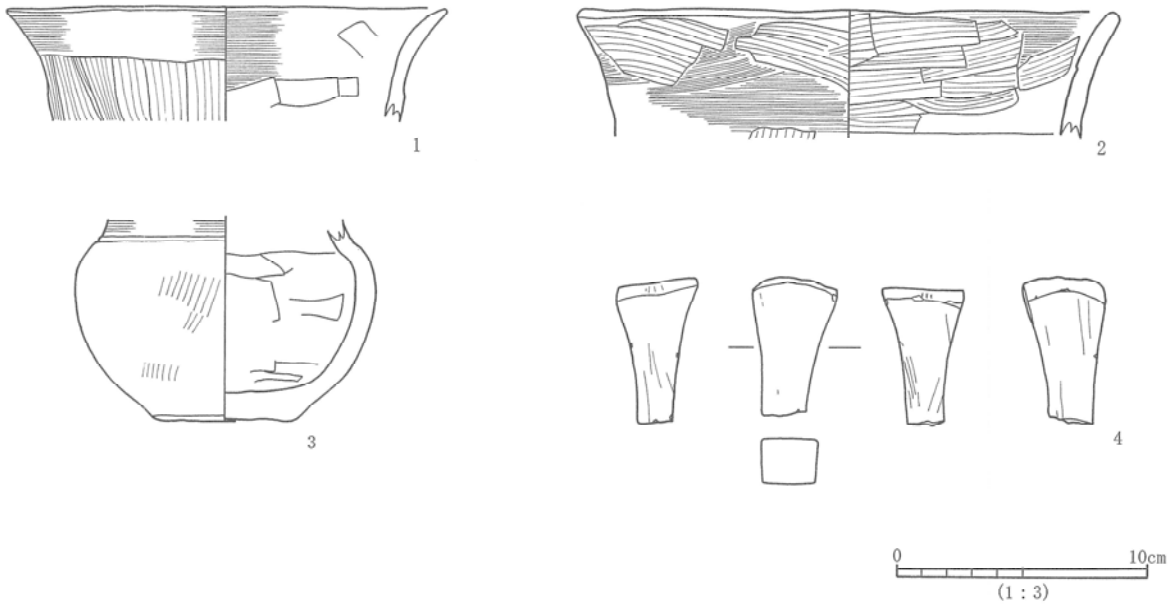
規　　模　長軸4.32ｍ、検出面からの深さ11㎝。

形　　態　東側が調査区外にかかる。カマドは検出されなかった。主柱穴はSP1269、SP1270、SP1271の3基が検出された。

出土遺物　土師器坏（1）・甕、須恵器坏（2）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代はおおよそ8世紀であると思われる。



第70図　ST1030



第71図　ST1030出土遺物

ＳＴ１０３３（第７４図）

位　　置　6－16～6－17グリッド。

規　　模　長軸4.88 m、検出面からの深さ15 cm。

形　　態　西側がSD1090に切られる。検出面からの深さが浅く、また近世の遺構に撹乱されており、遺存状態は悪い。カマド、主柱穴は検出されなかった。

出土遺物　土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代も判別できなかった。

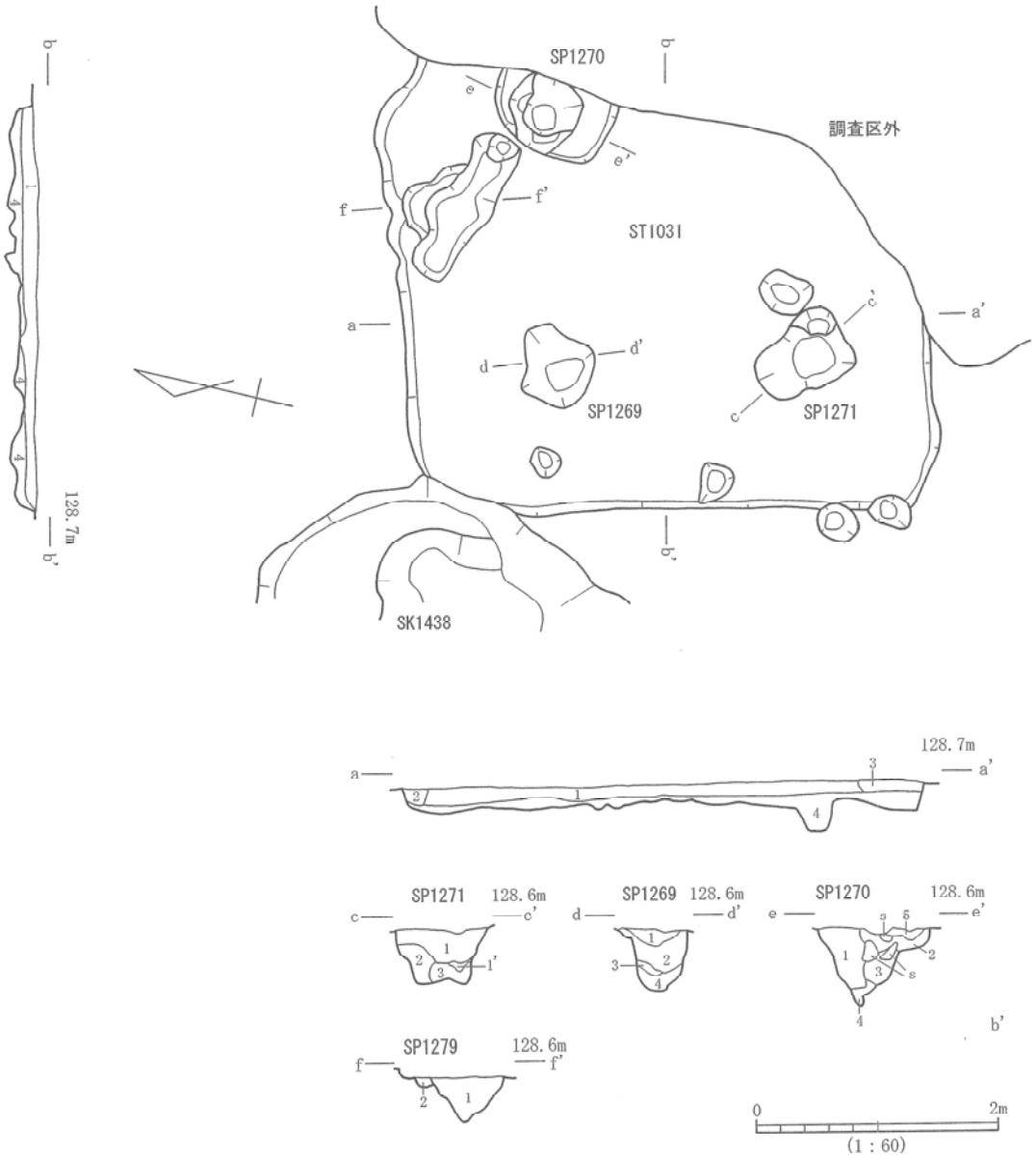
ＳＴ１０３４（第７５～７６図）

位　　置　4－13～4－14グリッド。

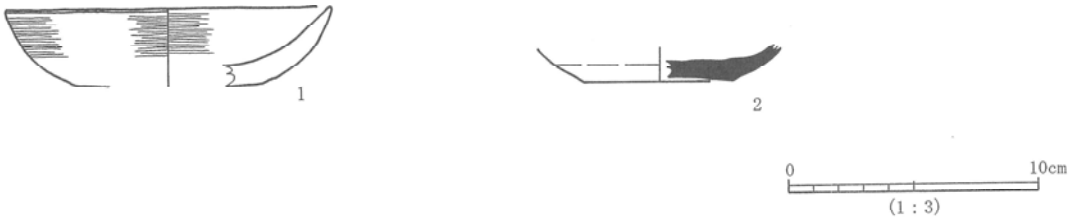
規　　模　長軸4.19 m、検出面から床面までの深さ21 cm、検出面から掘り方までの深さ30 cm。

形　　態　西側が調査区外にかかる。また、中央をSK1467に切られる。10層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居床面である。カマドは北壁に付属し、東側のソデのみ検出された。西側のソデは調査区外にかかると思われる。主柱穴はSP1303、SP1304の2基が検出された。

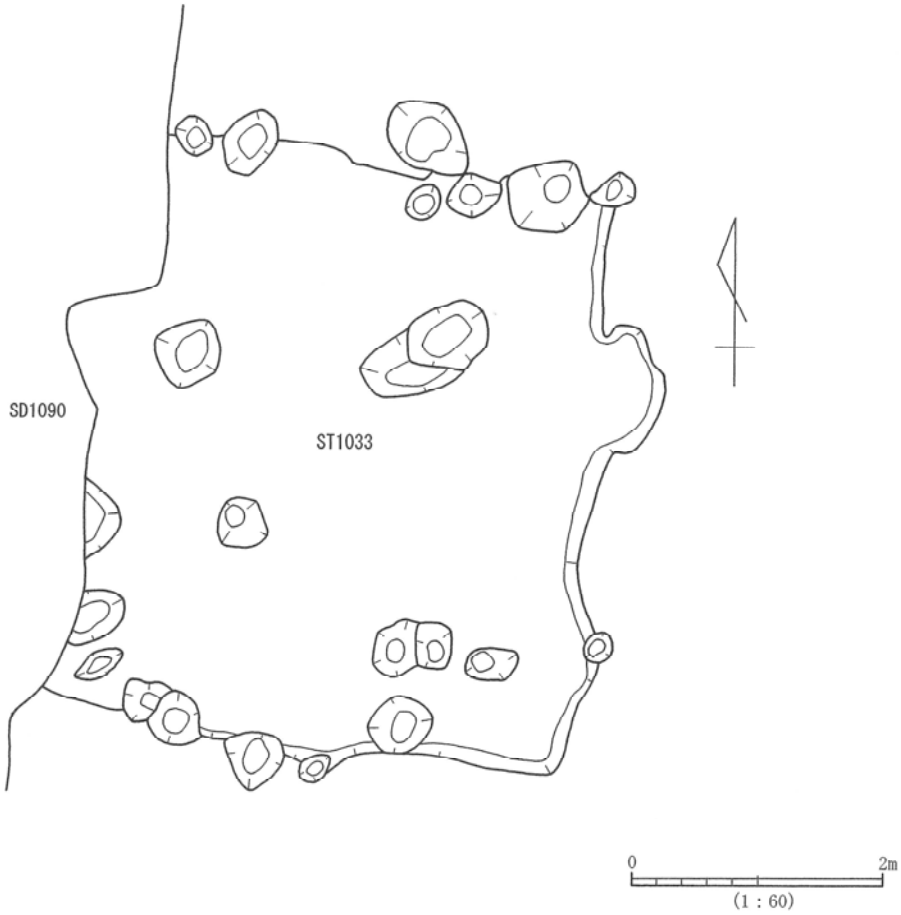
出土遺物　土師器坏（1）・甕（2～4）・高坏が出土した。坏（1）は浅く、外面にケズリ・内面にミガキおよび黒色処理される。甕は、口縁部が内湾するタイプ（2）と、外反するタイプ（3、4）がある。年代は7世紀であると思われる。



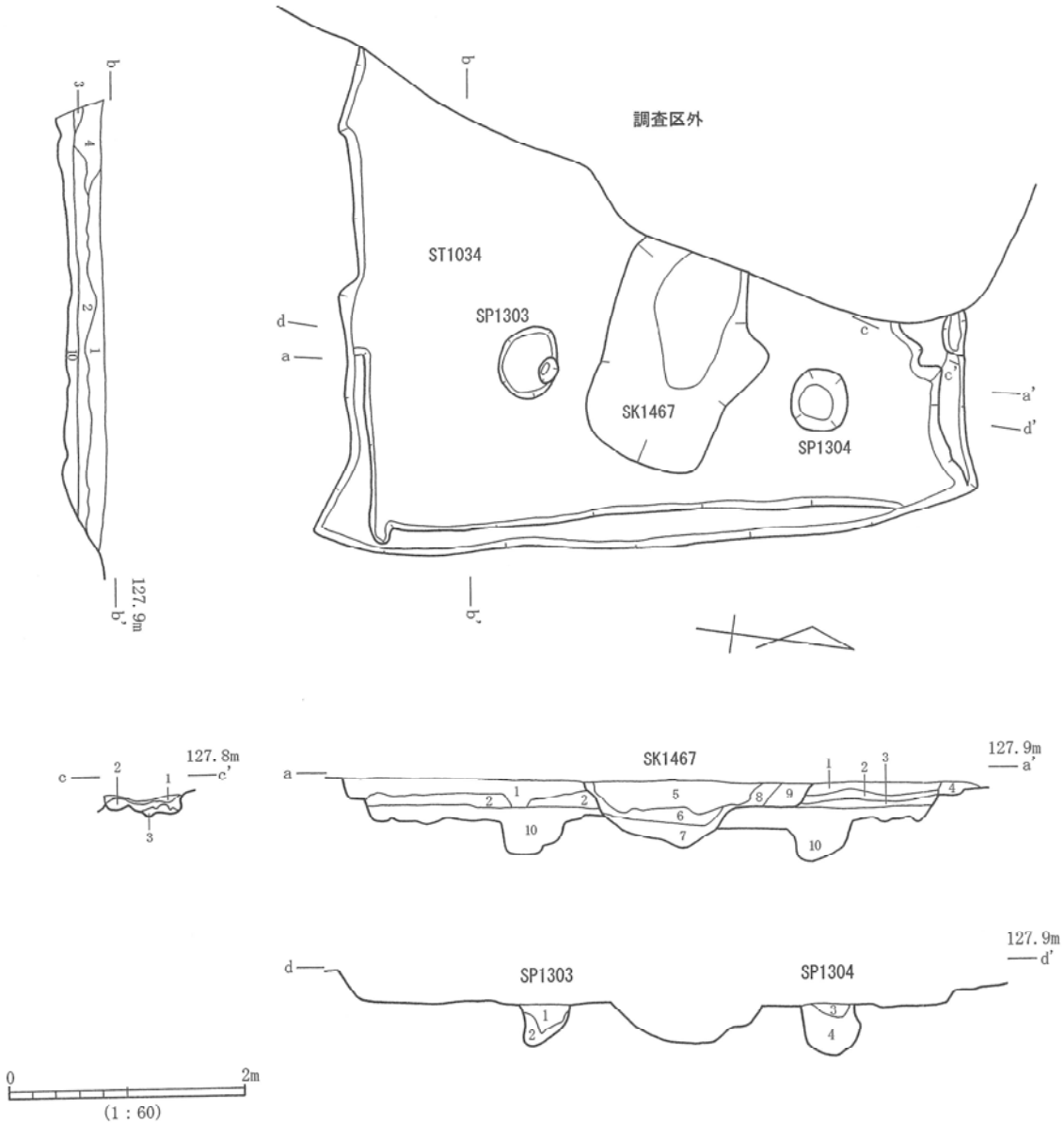
第72図　ST1031



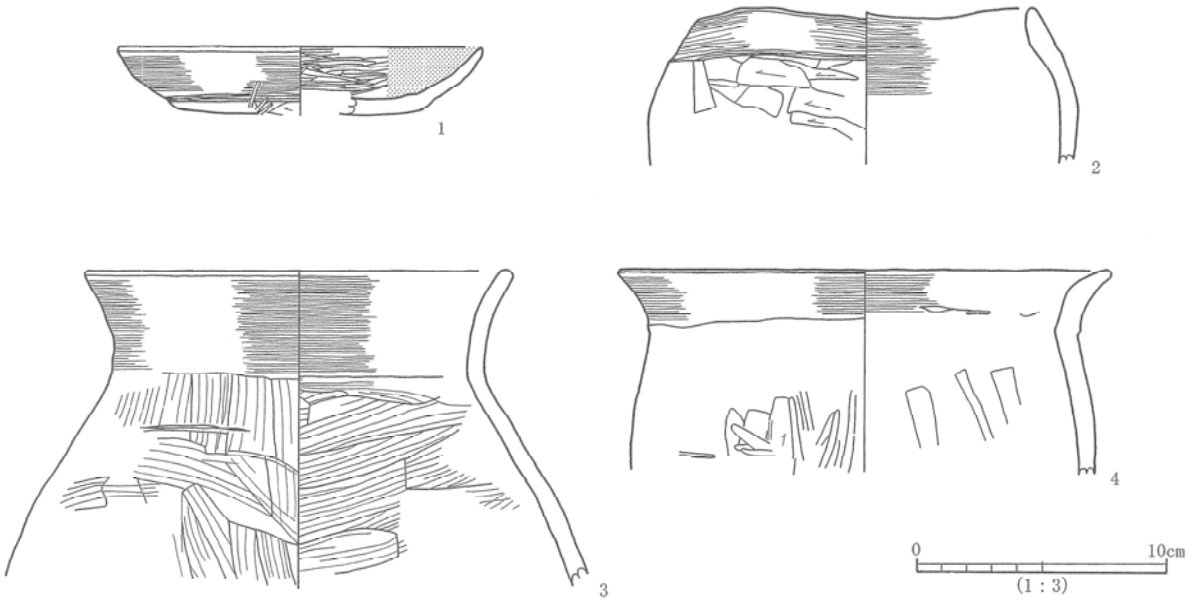
第73図　ST1031出土遺物



第74図　ST1033



第75図　ST1034



第76図　ST1034出土遺物

ＳＴ１０３５（第７７～７９図）

位　　置　4－13グリッド。

規　　模　長軸5.49 m、短軸5.34 m、検出面から床面までの深さ29 cm、検出面から掘り方までの深さ40 cm。

形　　態　西側が調査区外にかかる。また、東隅をSP1291に切られる。3層が貼床で、非常に薄い状態で検出されたため残存していない部分もあったが、本来はほぼ住居全域に広がっていたと考えられる。4層が掘り方覆土である。カマドは北西壁の中央に付属し、ソデが良好な状態で検出された。主柱穴はSP1314、SP1315、SP1317、SP1318の4基が検出された。

出土遺物　土師器坏（1～2）・甑（3、10）・甕（4～9）などが出土した。坏は大（1）小（2）の二つのタイプがあり、ともに外面にケズリ、内面にミガキおよび黒色処理、口縁部にナデの調整が施される。甕は長胴形のタイプ（5～7、9）と中型のタイプ（4）、体部が球形になるタイプ（8）の三種類ある。甑（3、10）はともに鉢形のタイプである。年代は7世紀であると思われる。

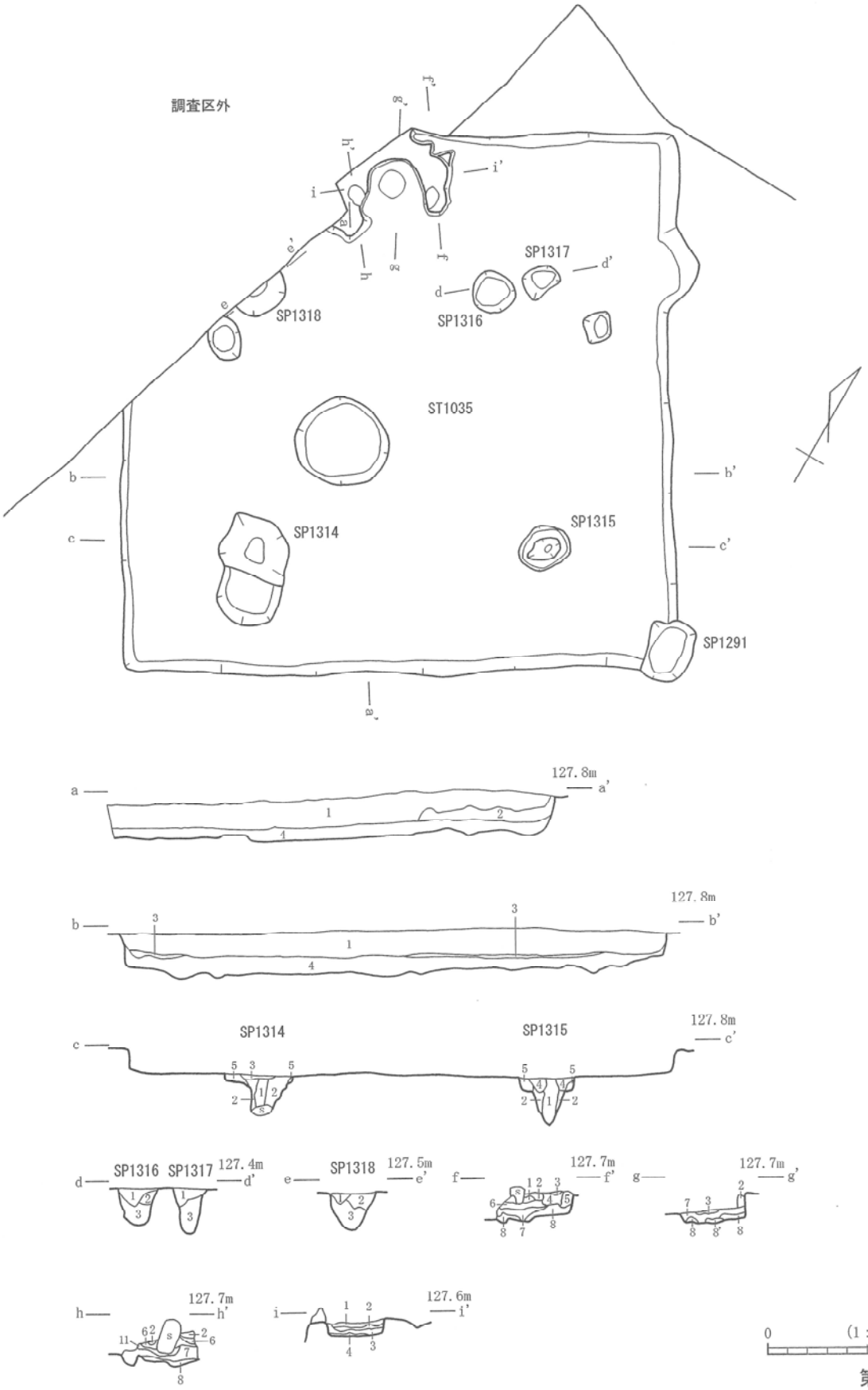
ＳＴ１０３６（第８０～８２図）

位　　置　4－12～5－12グリッド。

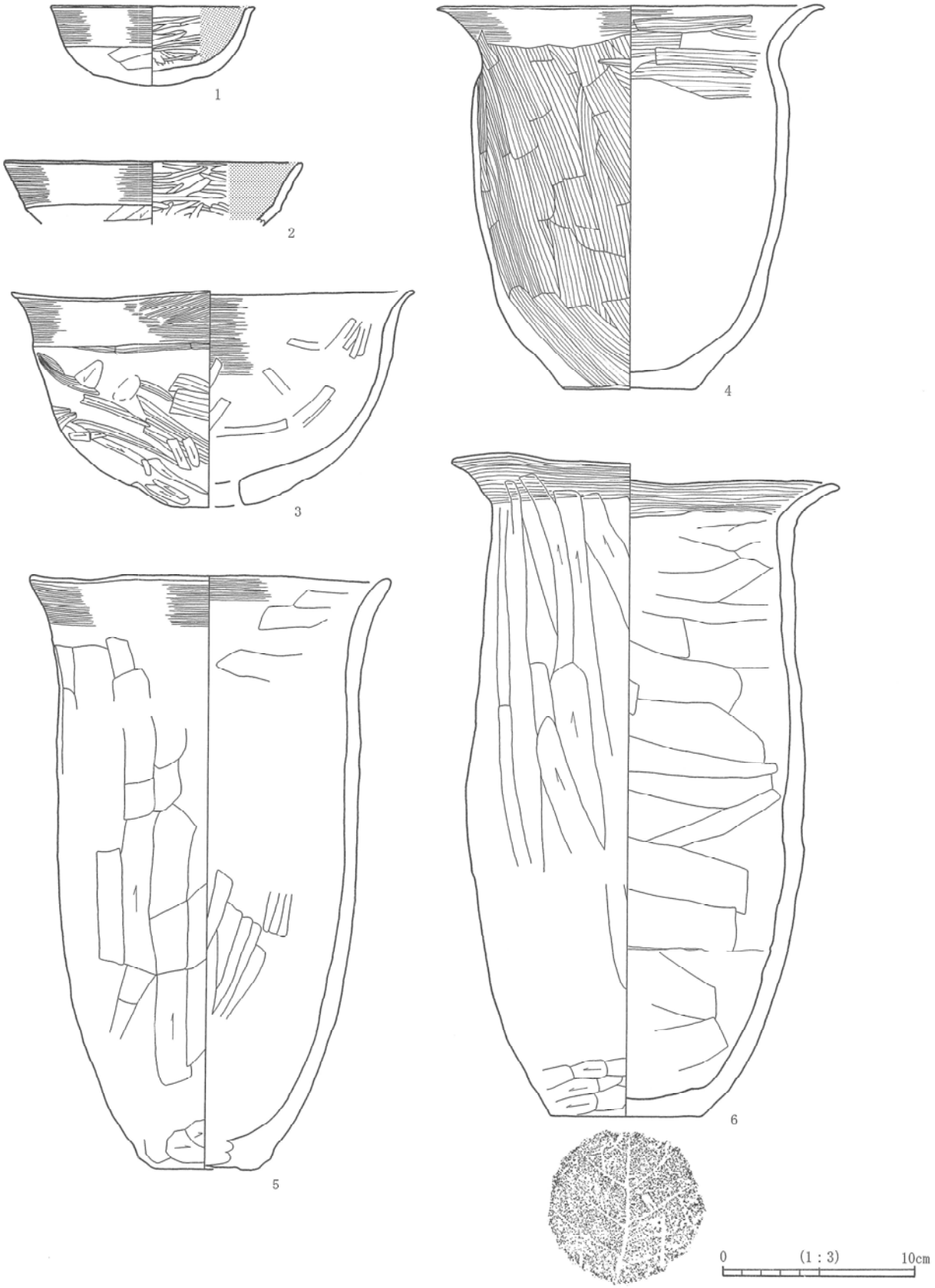
規　　模　長軸5.93 m、短軸5.50 m、検出面からの深さ22 cm。

形　　態　東側をSD1081に切られる。また、西側のST1038を切る。カマドは北壁の中央で検出され、長さ1.06 m、中央部の幅20 cmの煙道が付属する。ソデは検出されなかったが、焼土の広がりが確認された。主柱穴はSP1307、SP1308、SP1443、SP1468の4基が検出された。

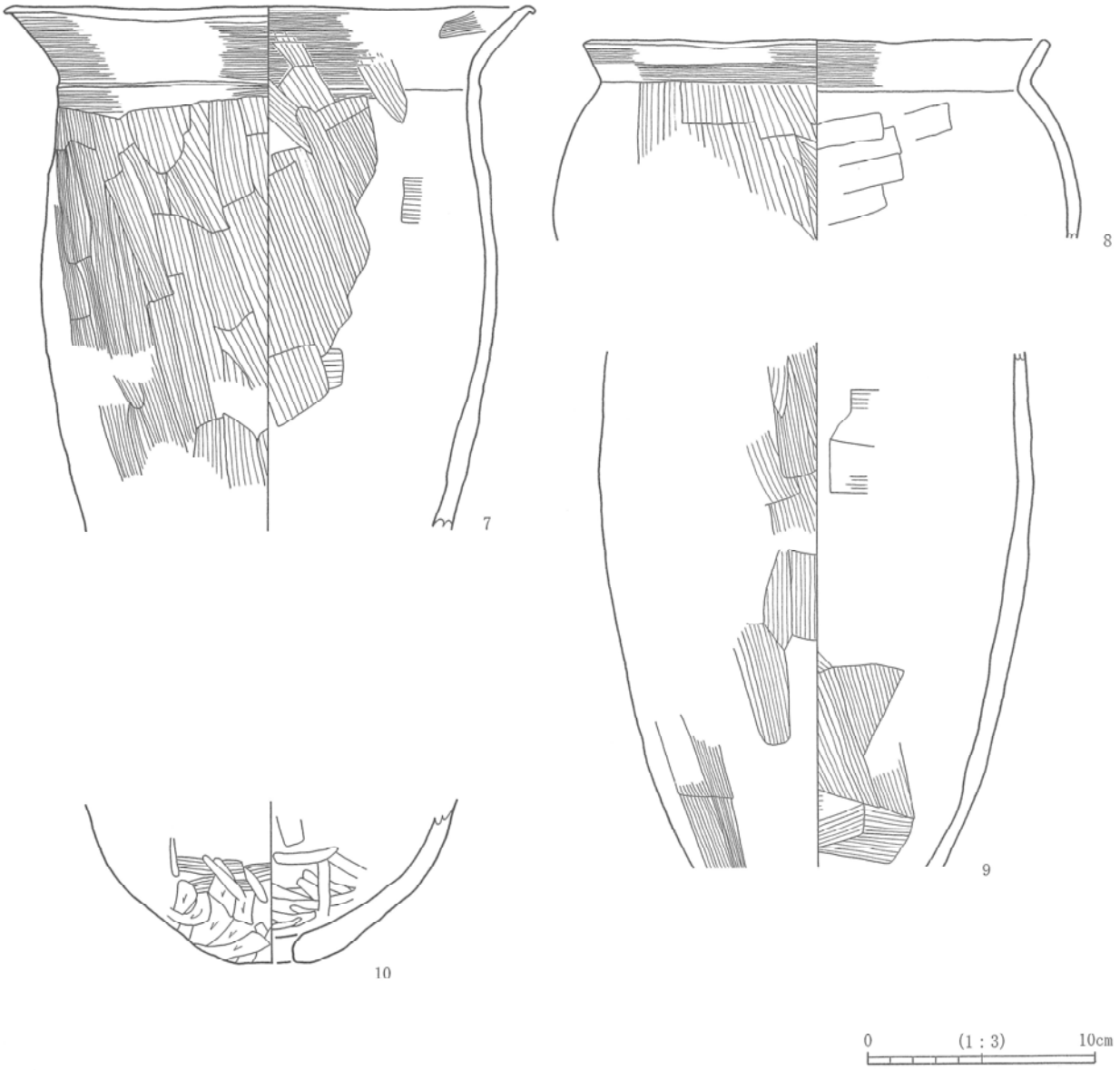
出土遺物　土師器坏（1、2）・甕（3～5）などが出土した。坏（1、2）は破片資料だが、外面にケズリ、内面にミガキ、口縁部にナデの調整が施されることが確認される。甕（3～5）は長胴形のタイプで、外面にハケメ、内面にナデ、口縁部にナデの調整が施される。年代は7世紀であると思われる。


調査区外
SP1318
SP1316
SP1317
ST1035
SP1314
SP1315
SP1291
127.8m
127.4m
127.5m
127.7m
127.6m
0
(1：60)
2m

第77図　ST1035



第78図　ST1035出土遺物



第79図　ST1035出土遺物

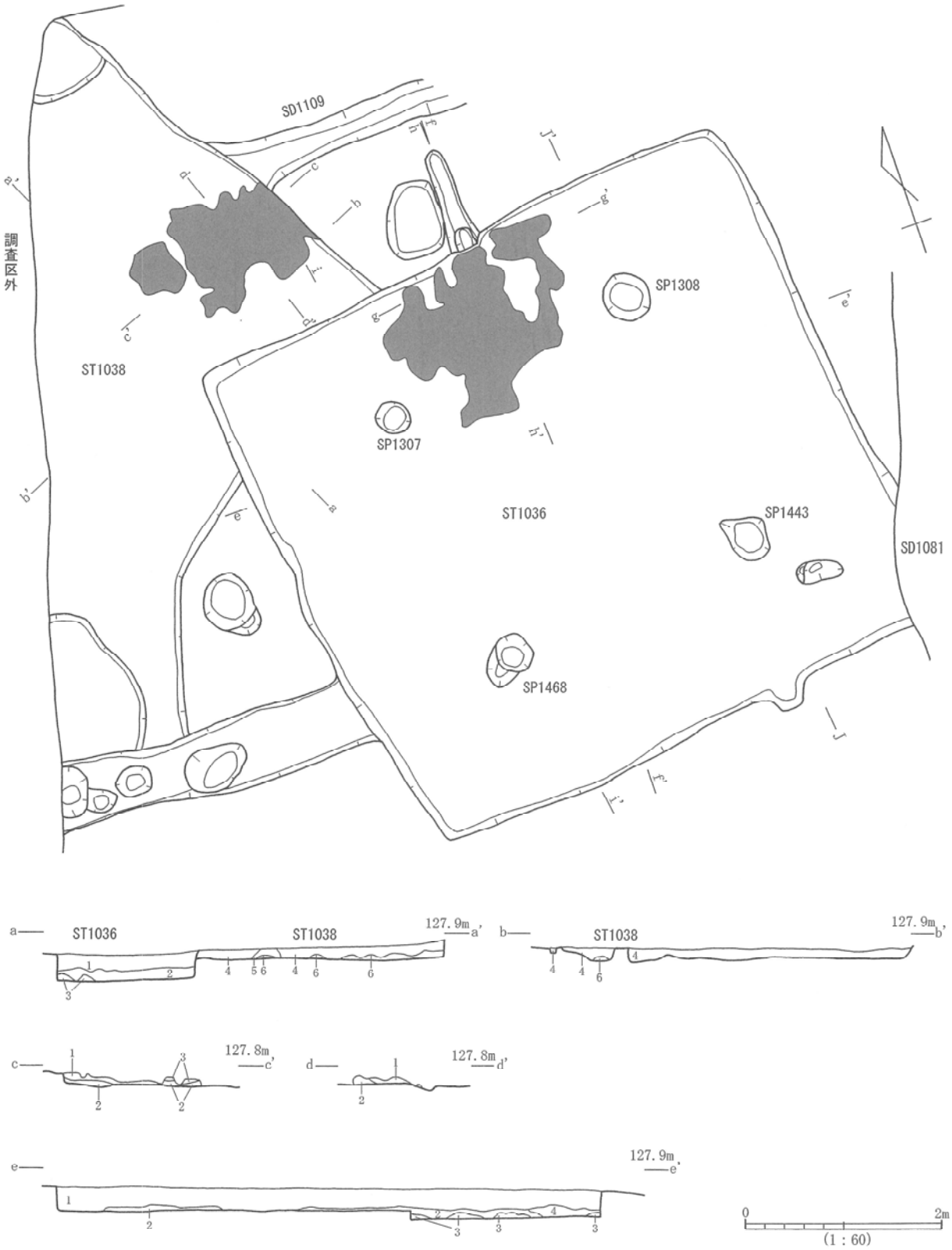
ＳＴ１０３８（第８０～８１図）

位　　置　4－12～5－12グリッド。

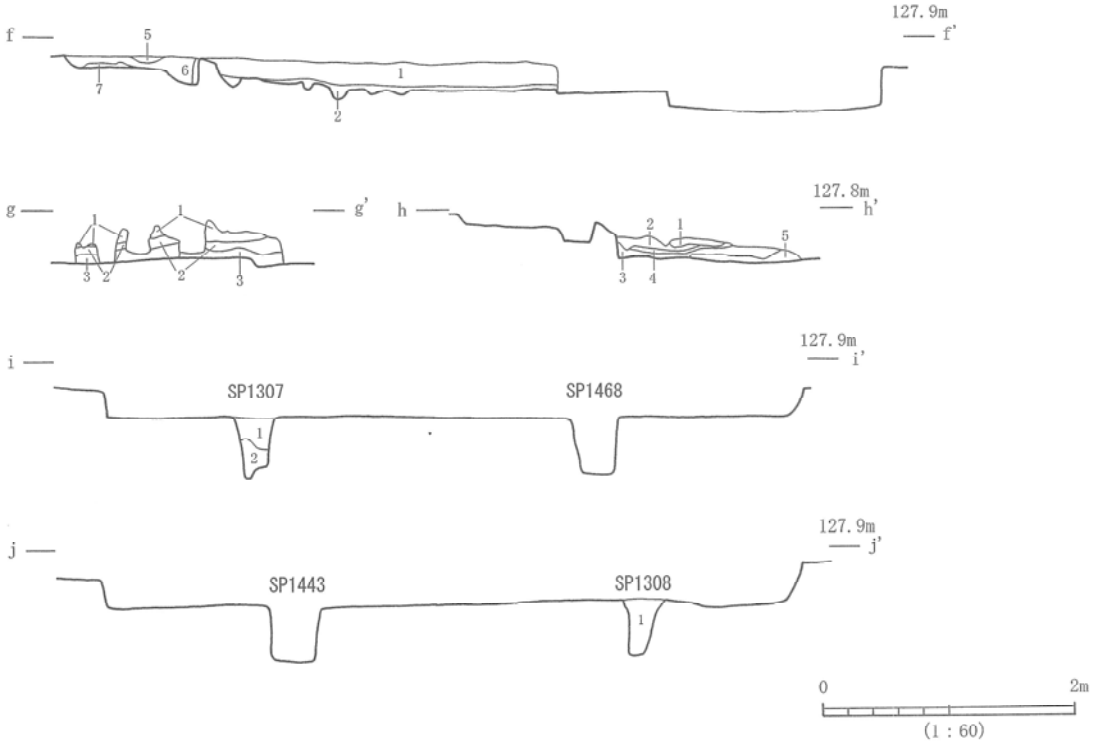
規　　模　長軸4.50ｍ以上、検出面からの深さ15㎝。

形　　態　西側が調査区外にかかる。東側をST1036に切られる。カマドは北東壁に付属し、ソデは検出されなかったが、焼土の広がりが確認された。柱穴は検出されなかった。

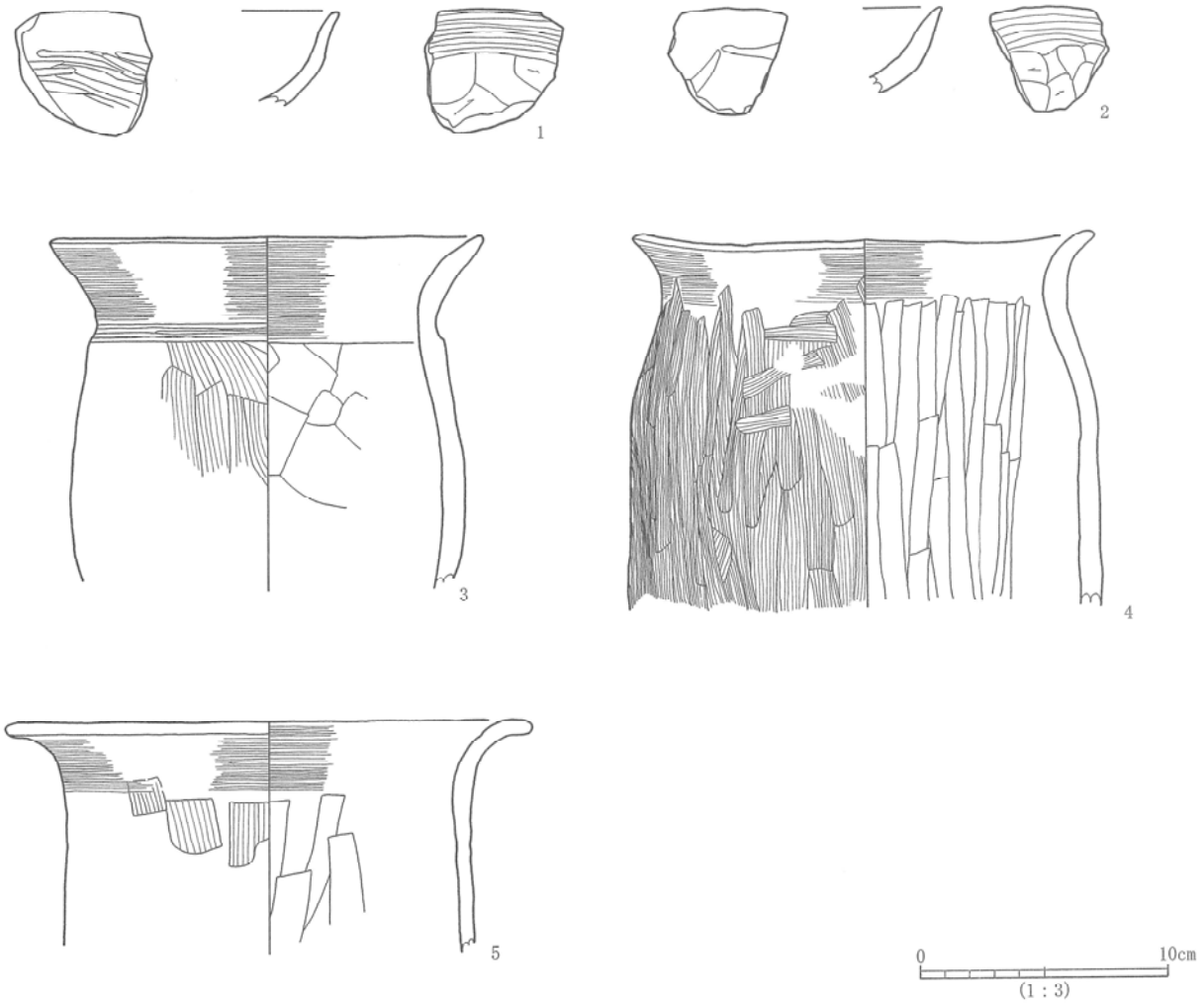
出土遺物　土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、またすべて破片資料で全体の形状がわかるものはない。年代も判別できなかった。



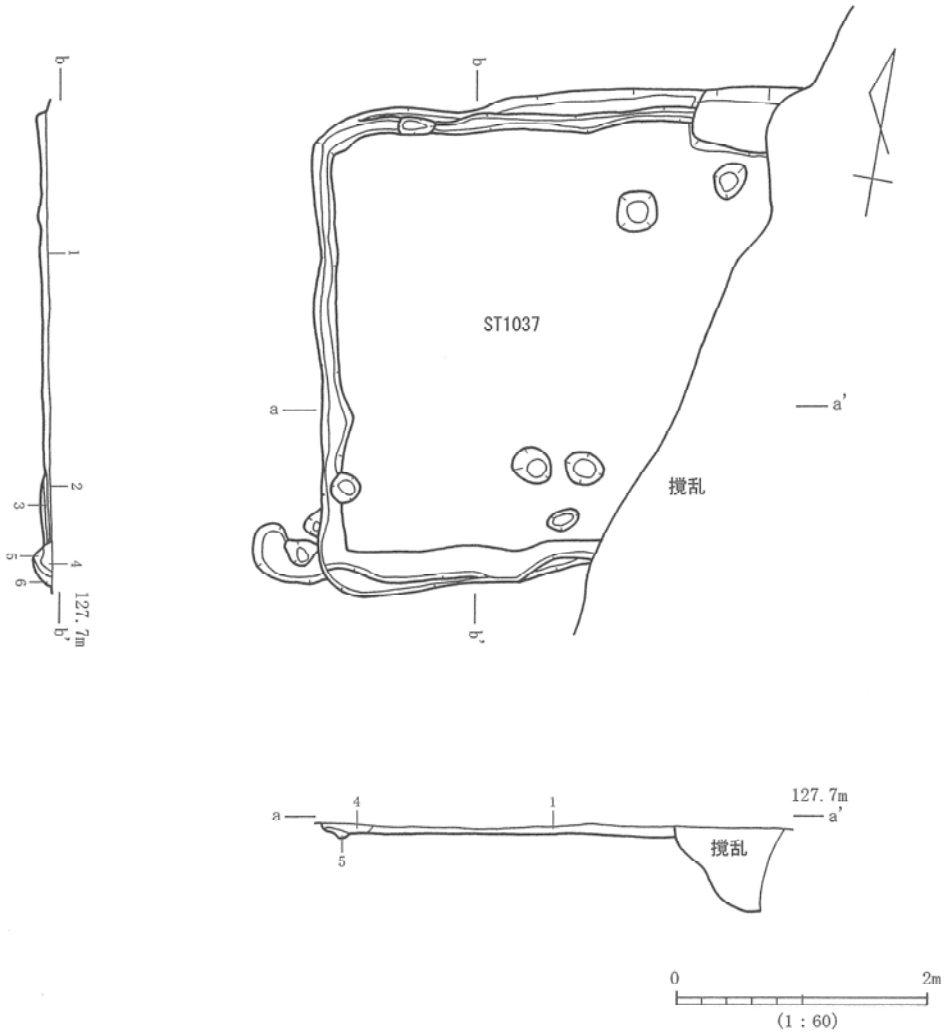
第80図　ST1036・ST1038(1)



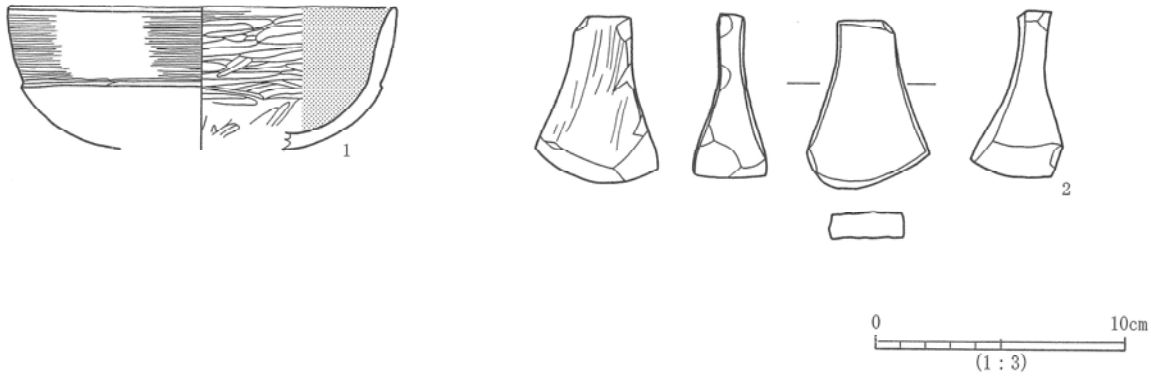
第81図　ST1036・ST1038(2)



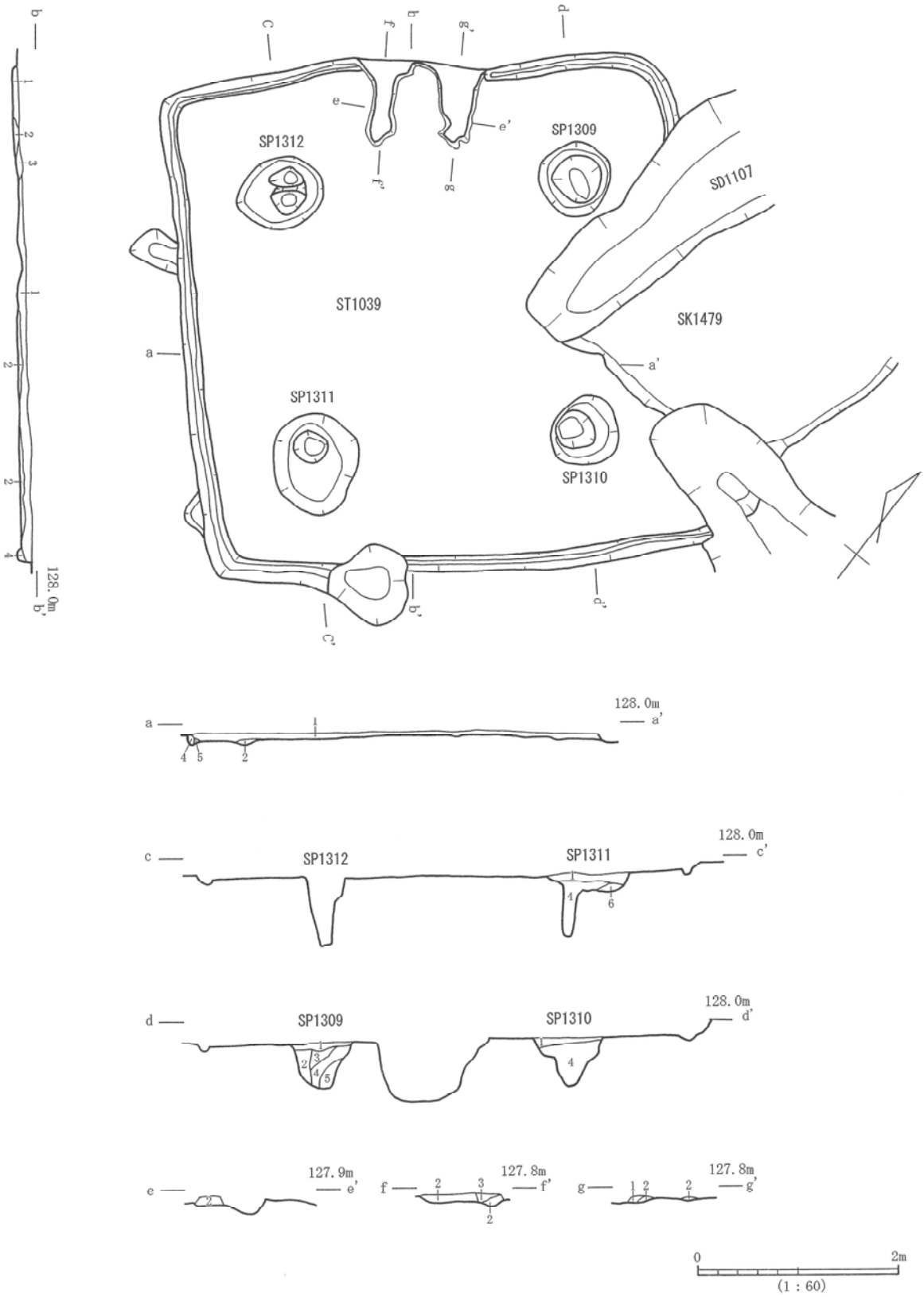
第82図　ST1036出土遺物



第83図　ST1037



第84図　ST1037出土遺物


SP1312
SP1309
SD1107
ST1039
SK1479
SP1311
SP1310
128.0m
127.9m
127.8m
0
2m
(1：60)

第85図　ST1039

第86図　ST1039出土遺物

ＳＴ１０３７（第８３～８４図）

位　　置　4－14グリッド。

規　　模　長軸3.78 m、検出面からの深さ14 cm。

形　　態　東側を撹乱に切られる。1～3層は掘り方の覆土であり、床面は削平されたと考えられる。周溝はほぼ全周する。主柱穴は確認されなかった。

出土遺物　土師器坏（1）・甕、須恵器坏、砥石（2）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は7世紀であると思われる。

ＳＴ１０３９（第８５～８６図）

位　　置　5－14～5－15グリッド。

規　　模　長軸5.13 m、短軸5.07、検出面から床面までの深さ8 cm、検出面から掘り方までの深さ15 cm。

形　　態　北東側をSK1479、SD1107に切られる。2層が貼床で、主に南側で確認された。住居の掘り方の南側半分はややレベルが低いので、床を水平に保つため、南側にのみ貼床を貼ったと考えられる。カマドは北西壁の中央に付属し、ソデが良好な状態で検出された。主柱穴はSP1309、SP1310、SP1311、SP1312の4基が検出された。

出土遺物　土師器坏（1、2）・甕などが出土した。年代は7世紀であると思われる。

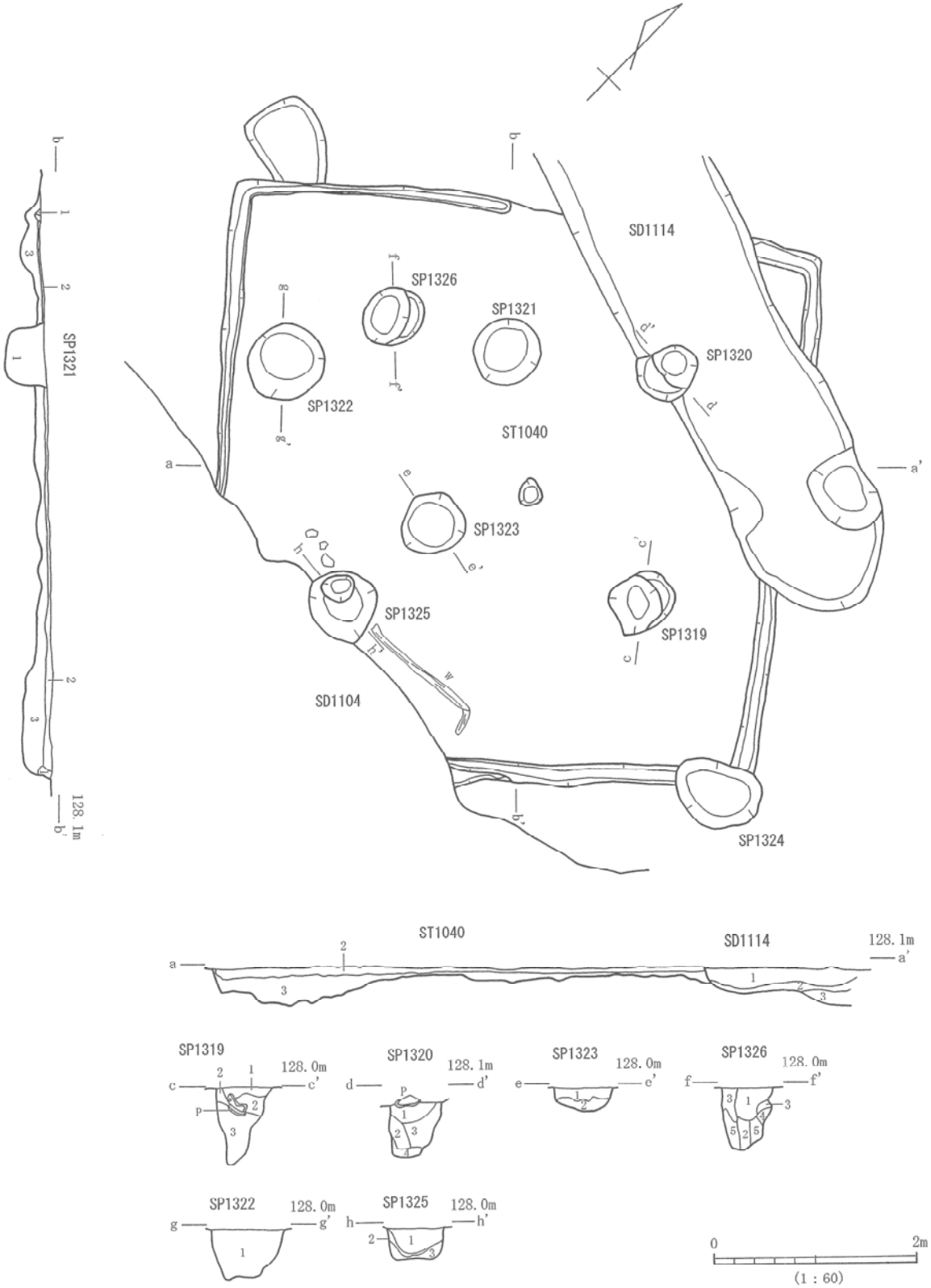
ＳＴ１０４０（第８７～８８図）

位　　置　6－15グリッド。

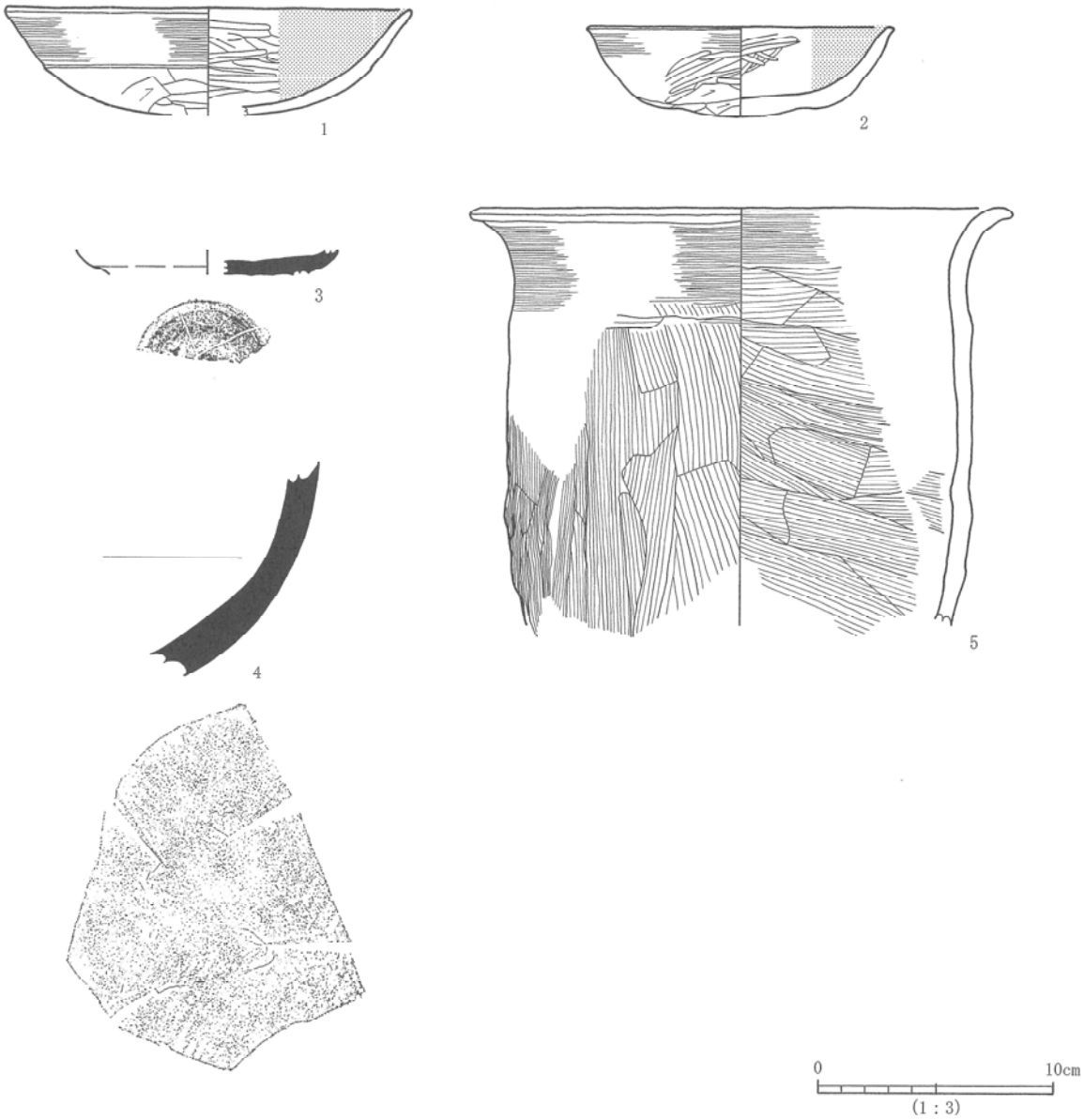
規　　模　長軸5.89 m、短軸5.62 m、検出面からの深さ17 cm。

形　　態　北側をSD1114に、南側をSD1104に切られる。1～3層は掘り方の覆土で、床面は削平されたと考えられる。周溝はほぼ全周する。カマドは検出されなかった。主柱穴は、SP1319、SP1320、SP1325、SP1326の4基が検出された。

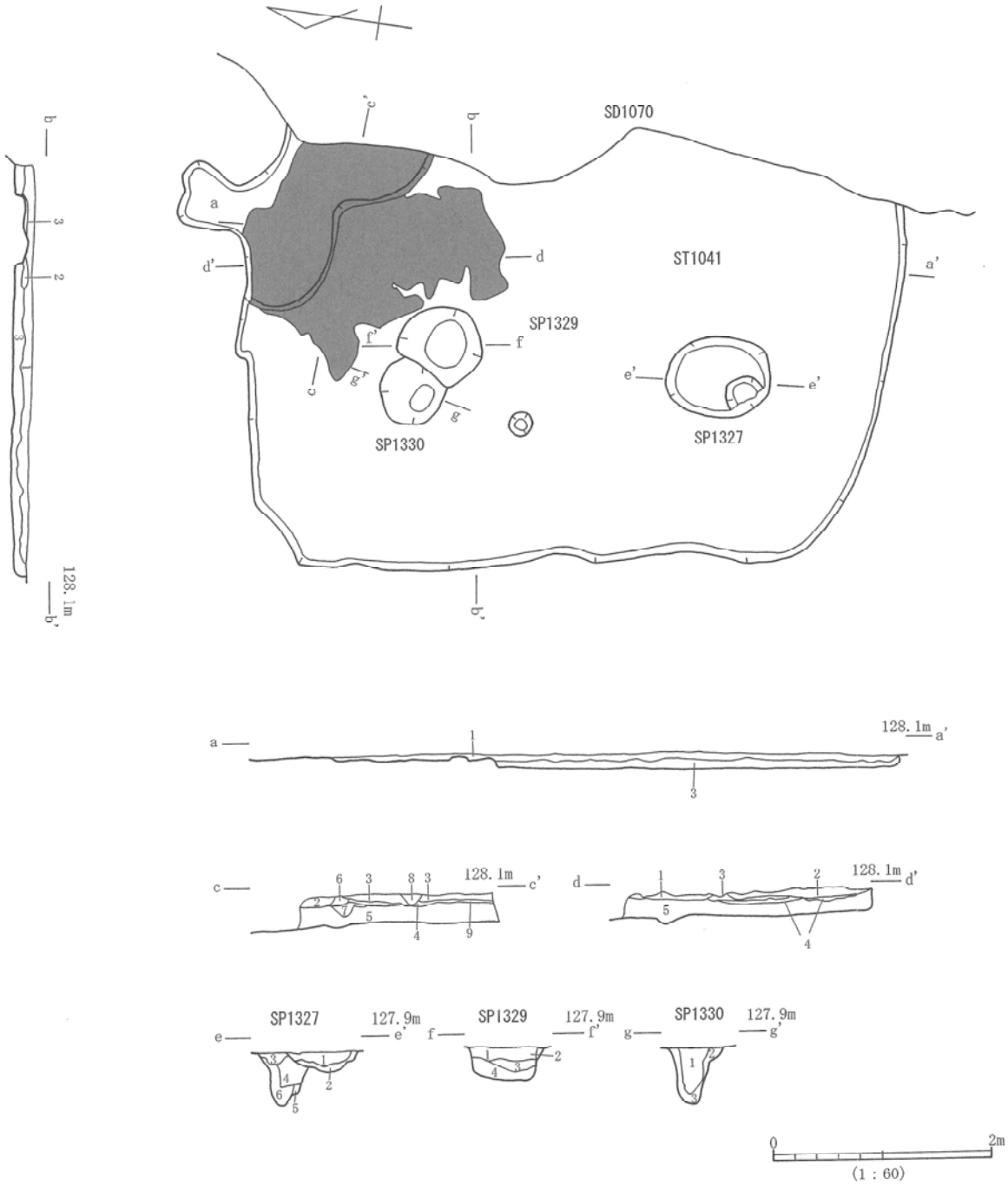
出土遺物　土師器坏（1、2）・甕（5）・鉢、須恵器有台坏（3）・甕（4）などが出土した。土師器坏は外面にケズリ、内面にミガキおよび黒色処理、口縁部にナデの調整が施される。甕は長胴形のタイプで内外面にハケメが施される。須恵器類は、破片資料のみで全体の形状がわかるものはない。年代は7世紀後半～8世紀前半であると思われる。


SP1321
128.1m
SD1114
SP1326
SP1321
SP1320
SP1322
ST1040
SP1323
SP1325
SP1319
SD1104
SP1324
ST1040
SD1114
128.1m
SP1319
128.0m
SP1320
128.1m
SP1323
128.0m
SP1326
128.0m
SP1322
128.0m
SP1325
128.0m
0
2m
(1：60)

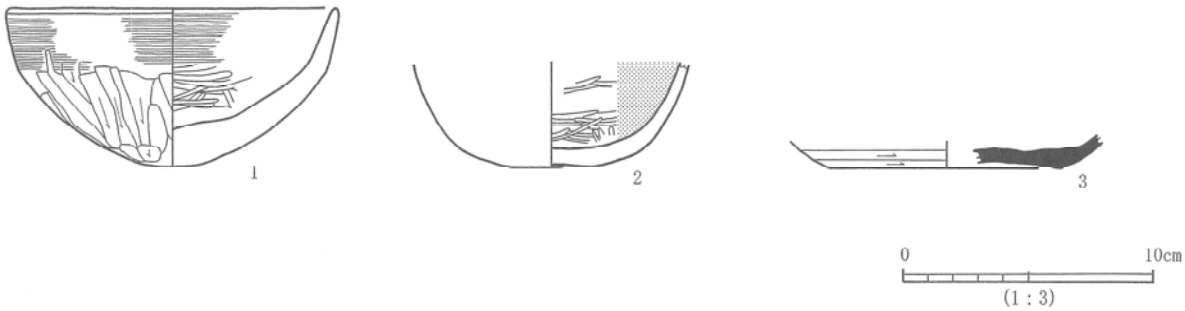
第87図　ST1040



第88図　ST1040出土遺物



第89図　ST1041



第90図　ST1041出土遺物

ＳＴ１０４１（第８９～９０図）

位　　置　6－13グリッド。

規　　模　長軸6.03ｍ、検出面から床面までの深さ10㎝。検出面から掘り方までの深さ20㎝。

形　　態　東側をSD1070に切られる。3層が掘り方の覆土で、その上層との境が床面である。カマドは北壁に付属し、ソデは検出されなかったが焼土の広がりが確認された。主柱穴はSP1327、SP1330の2基が検出された。

出土遺物　土師器坏（1～2）、須恵器坏（3）・甕などが出土した。破片資料が多く、全体の形状がわかるものは少ない。年代はやや幅があり、7～8世紀と考えられる。

ＳＴ１０４２（第９１～９２図）

位　　置　5－15グリッド。

規　　模　長軸3.80ｍ、短軸3.72ｍ、検出面からの深さ15㎝。

形　　態　中央を南北に走るSD1110に切られる。検出面からの深さが浅く、壁面は明瞭でない。カマド、柱穴は検出されなかった。

出土遺物　土師器甕（1）のみが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代の判別はできなかった。

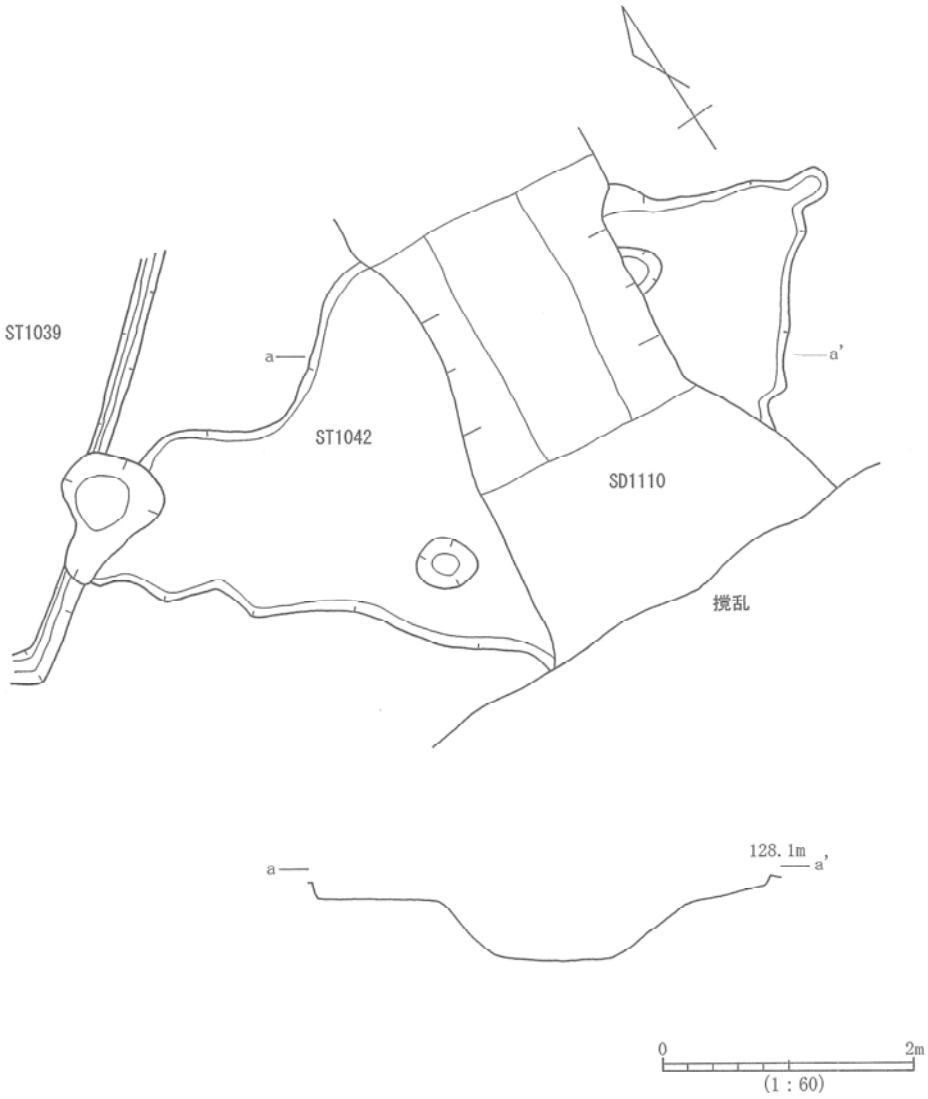
ＳＴ１０４４（第９３～９５図）

位　　置　6－14～7－14グリッド。

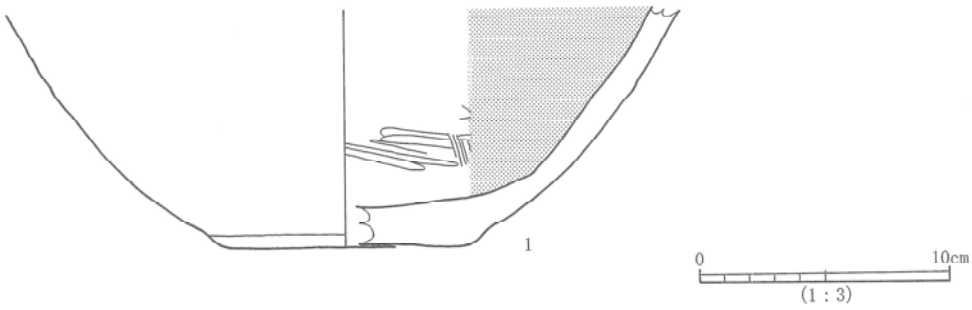
規　　模　長軸7.27ｍ、短軸6.50ｍ、検出面から床面までの深さ18㎝、検出面から掘り方までの深さ31㎝。

形　　態　西側をST1046に切られる。20層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居床面である。カマドは北西壁の中央で検出され、長さ73㎝、中央の幅23㎝の煙道が付属する。ソデは検出されなかったが、焼土の広がりが確認された。周溝は南東壁の南側と、南西壁の中央でのみ検出された。主柱穴はSP1339、SP1340、SP1341、SP1342の4基が検出された。

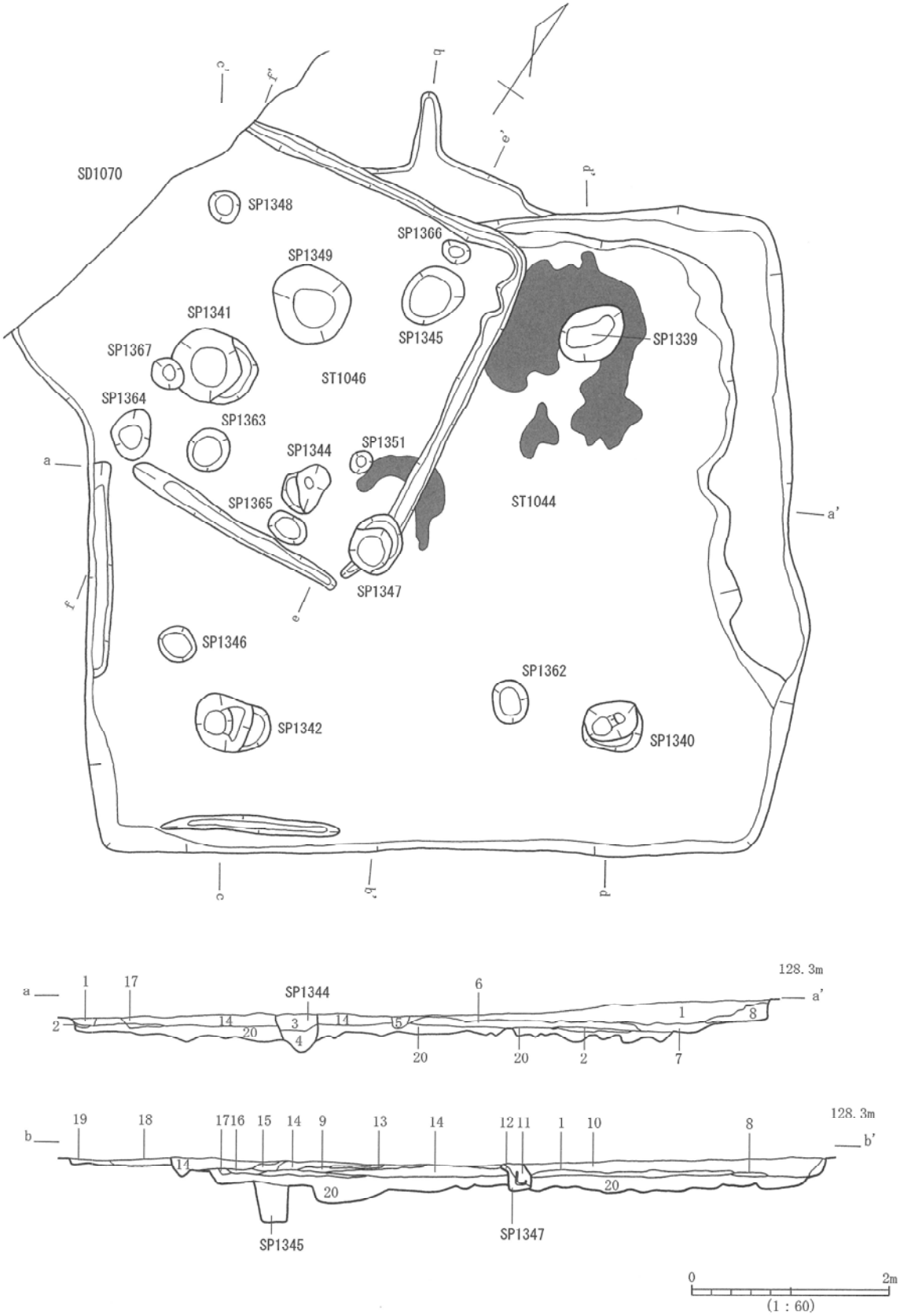
出土遺物　土師器坏（1、2）・高坏（3）・甕、須恵器坏（4）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は7～8世紀であると思われる。



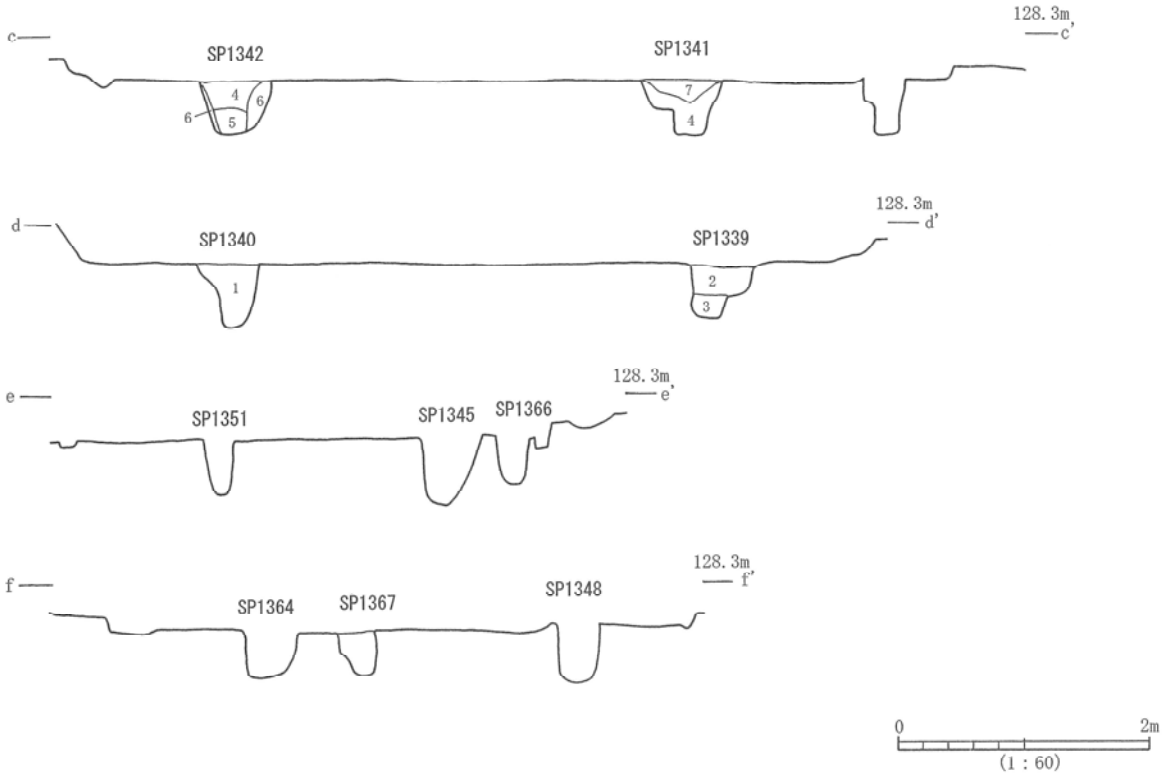
第91図　ST1042



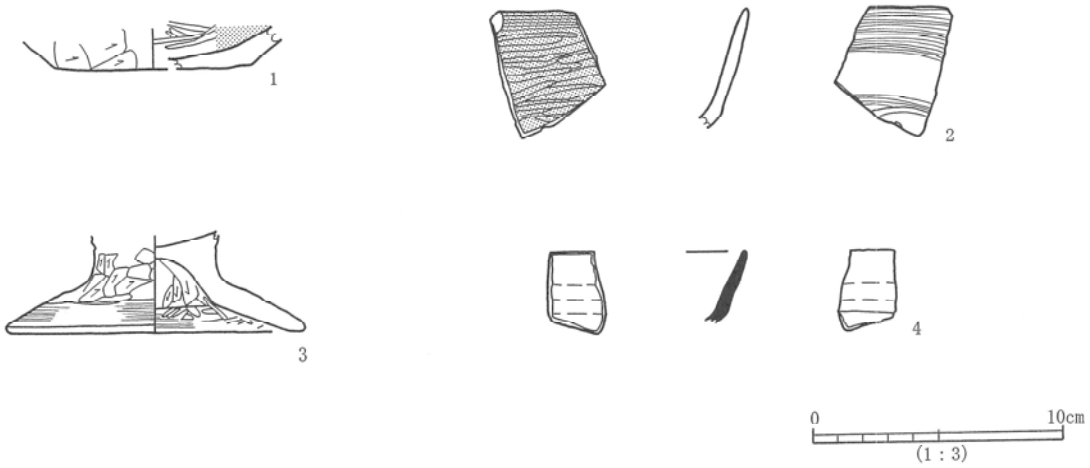
第92図　ST1042出土遺物



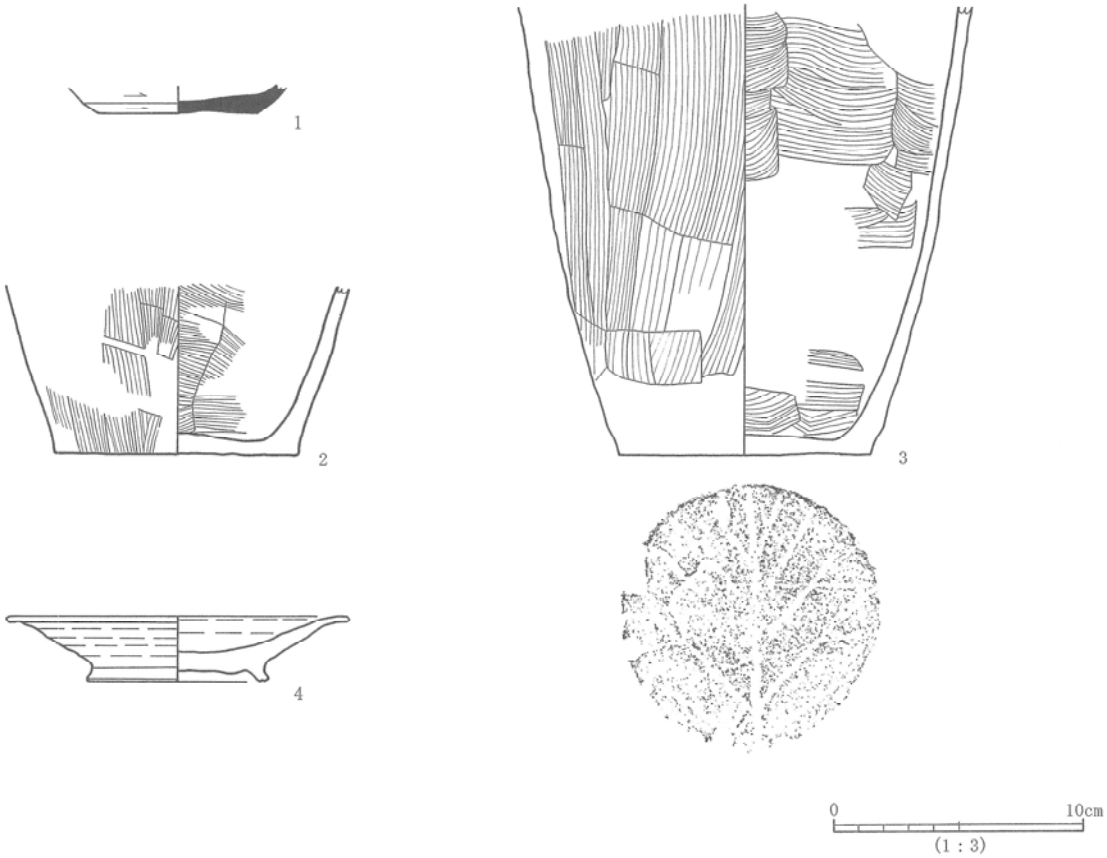
第93図　ST1044・ST1046(1)



第94図　ST1044・ST1046(2)



第95図　ST1044出土遺物



第96図　ST1046出土遺物

ＳＴ１０４６（第９３～９４、９６図）

位　　置　6－14～7－14グリッド。

規　　模　長軸3.93ｍ、検出面からの深さ27㎝。

形　　態　西側をSD1070に切られる。また、ST1044を切る。カマドは検出されなかった。周溝がほぼ全周で検出された。柱穴は複数確認されたが、主柱穴がどれなのか判別できなかった。

出土遺物　須恵器坏（1）、土師器甕（2、3）、赤焼皿（4）などが出土した。破片資料が多く、全体の形状がわかるものは少ない。年代は9世紀前半から半ばであると思われる。

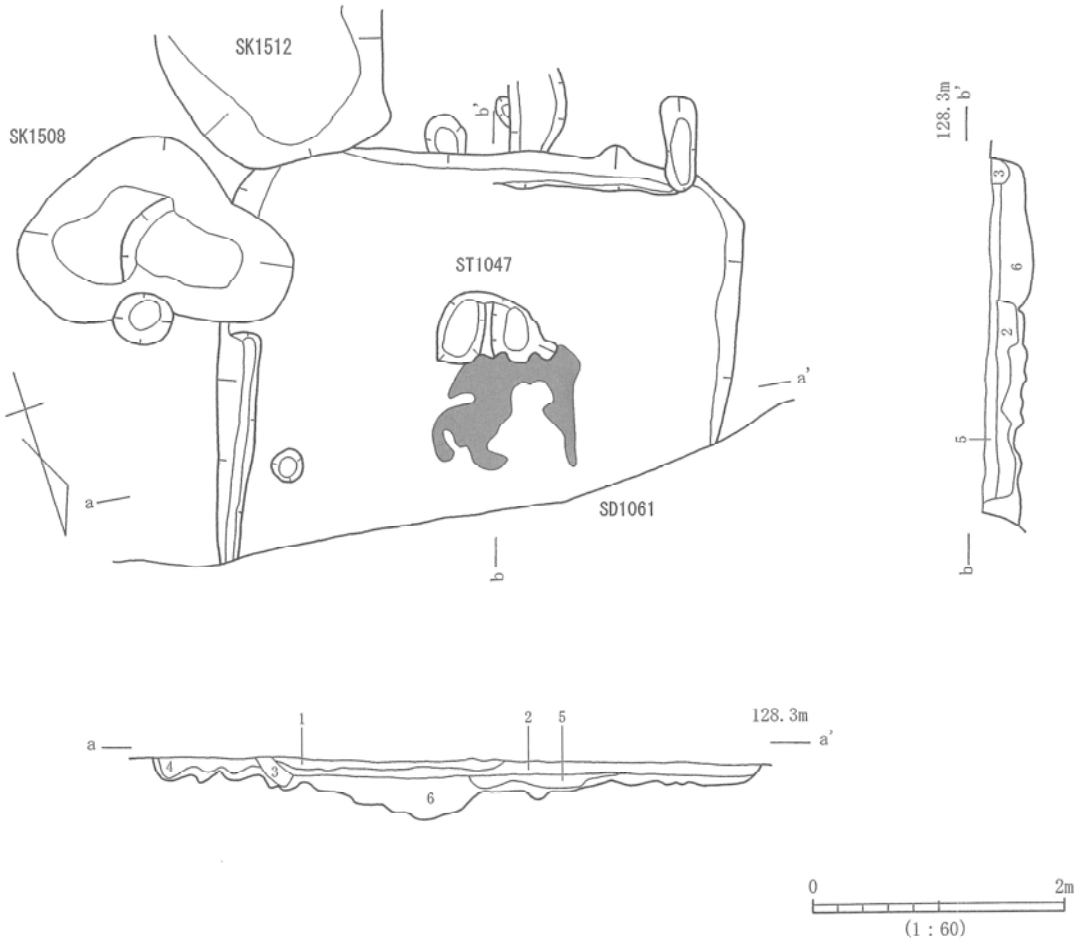
ＳＴ１０４７（第９７～９８図）

位　　置　9－13グリッド。

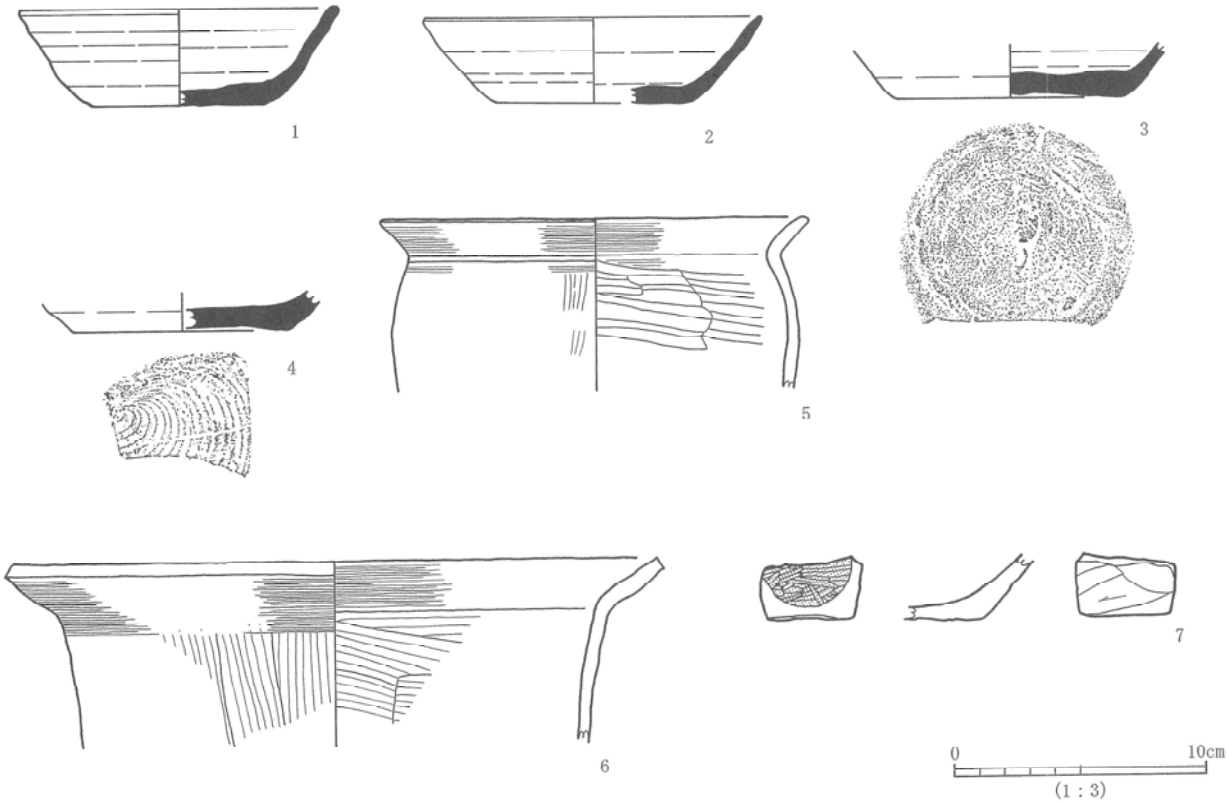
規　　模　長軸4.07ｍ、検出面から床面までの深さ7㎝、検出面から掘り方までの深さ16㎝。

形　　態　南東側をSK1508、SK1512に、北側をSD1061に切られる。6層が掘り方の覆土でその上層との境が住居の床面である。周溝は、東壁の北半と南壁の西半でのみ検出された。カマド、柱穴は検出されなかった。

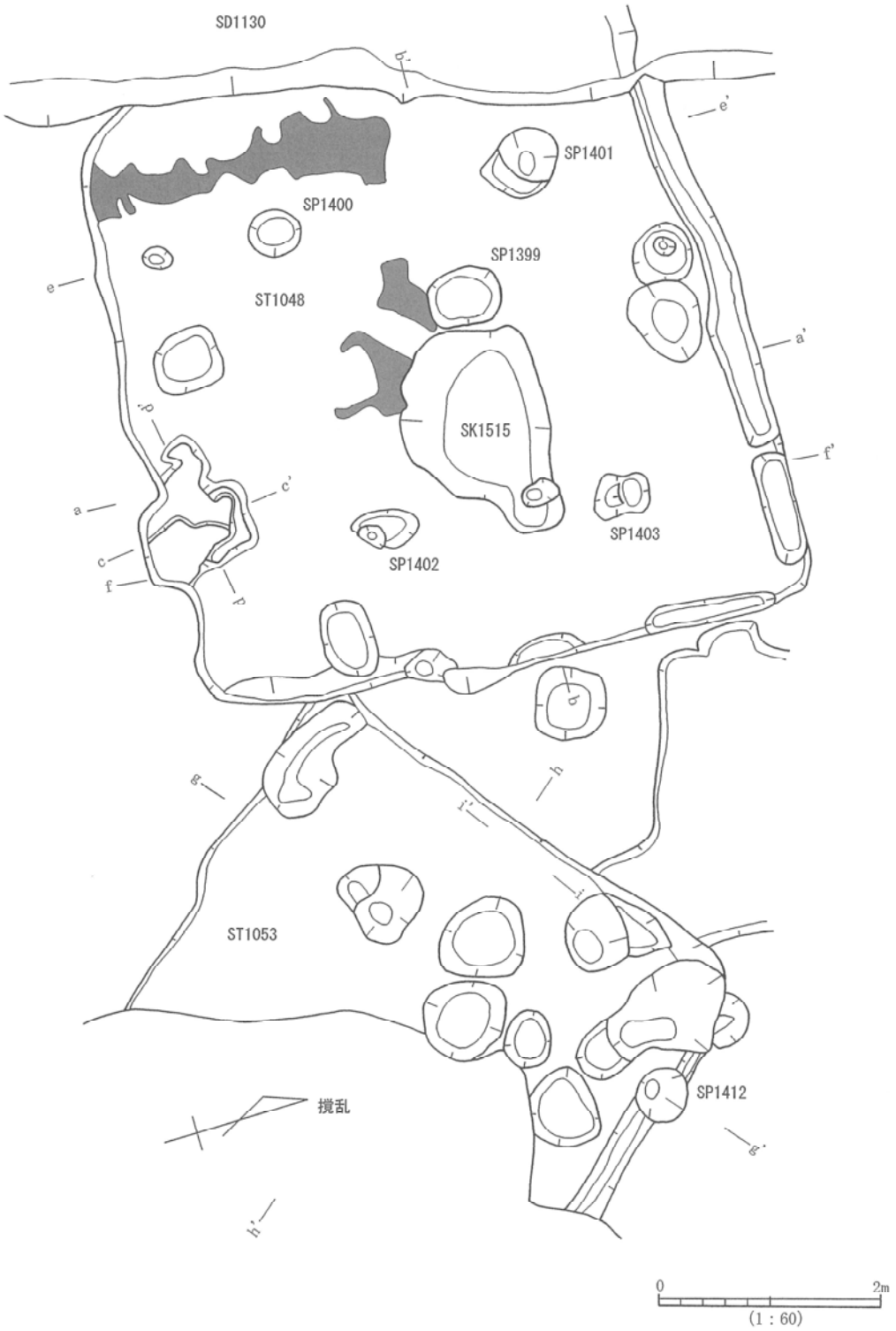
出土遺物　須恵器坏（1～4）・甕、土師器坏（7）・甕（5、6）などが出土した。須恵器坏は底部切離しが、回転ヘラ切りと回転糸切りが混在する。土師器坏（7）は平底で外面にケズリ、内面にミガキおよび黒色処理が施される。土師器甕は長胴形のタイプ（6）と、中型のタイプ（5）がある。年代は8世紀末から9世紀初頭であると思われる。



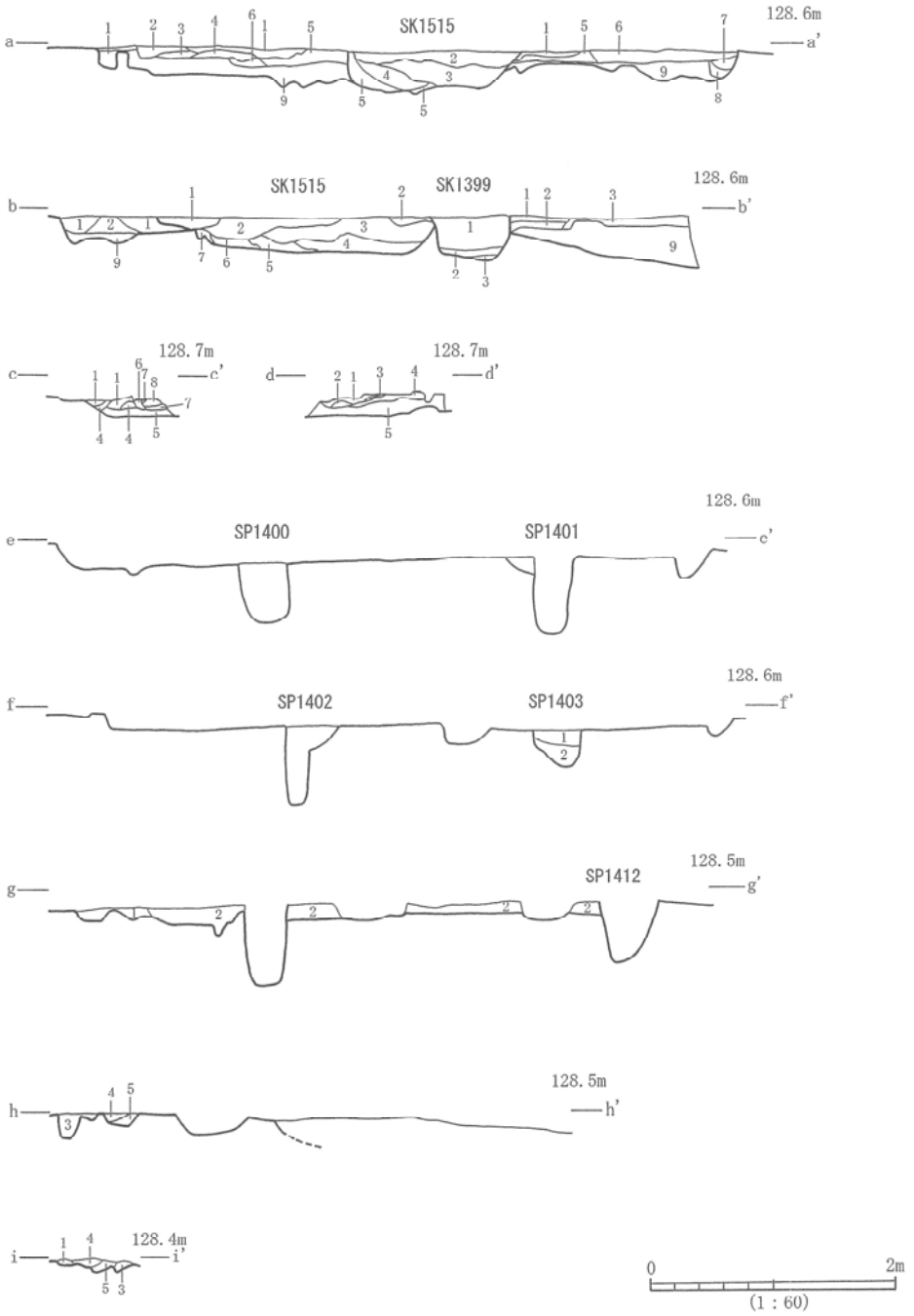
第97図　ST1047



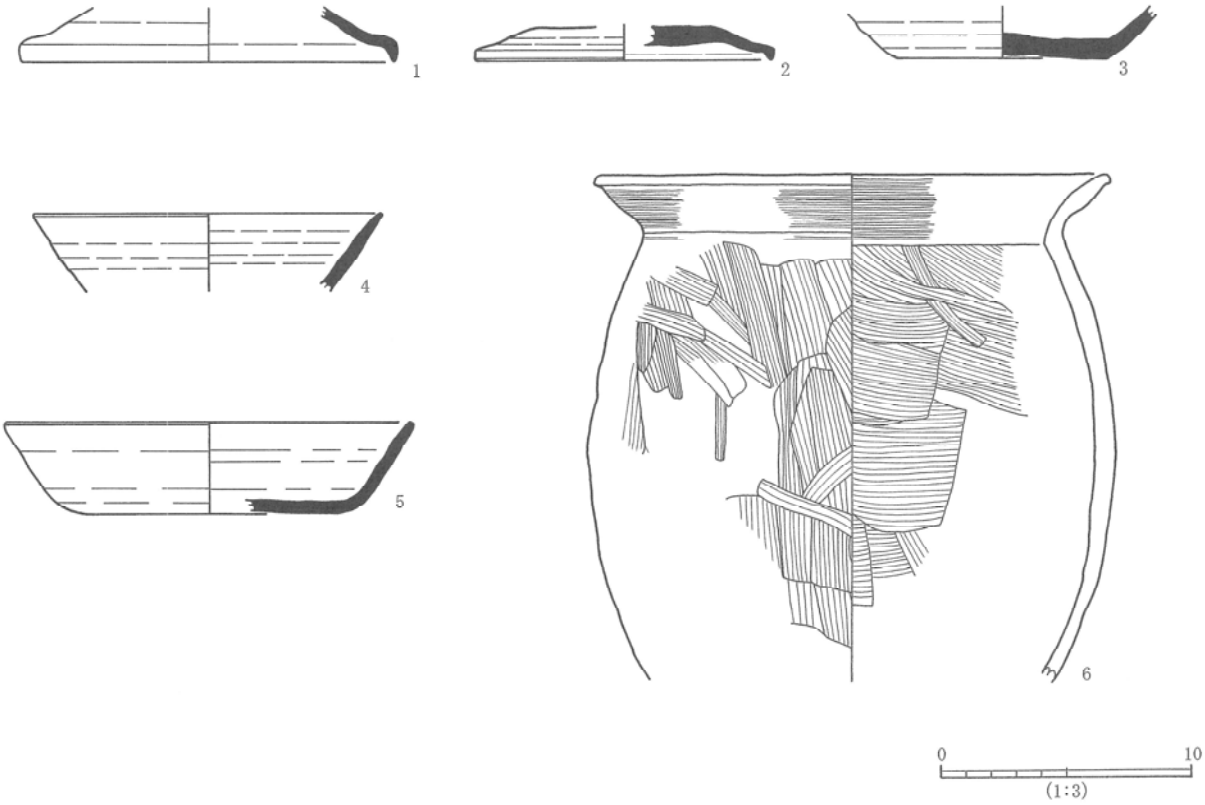
第98図　ST1047出土遺物



第99図　ST1048・ST1053(1)



第100図　ST1048・ST1053(2)



第101図　ST1048出土遺物

ＳＴ１０４８（第９９～１０１図）

位　　置　8－14～9－14グリッド。

規　　模　長軸5.64 m、短軸5.50 m以上、検出面から床面までの深さ11 cm、検出面から掘り方までの深さ22 cm。

形　　態　西側をSD1130に切られる。9層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。カマドは南壁のやや東よりの部分に付属する。かなり崩れた状態だが、ソデが検出された。周溝が北壁から東壁にかけて検出された。主柱穴は、SP1400、SP1401、SP1402、SP1403の4基が検出された。

出土遺物　須恵器蓋（1、2）・坏（3～5）、土師器高坏・甕（6）などが出土した。須恵器蓋（1、2）は口縁端部にカエシを持つ。坏は底部切離しが、回転ヘラ切りと回転糸切りが混在する。年代は8世紀末から9世紀初頭であると思われる。

ＳＴ１０５３（第９９～１００、１０２図）

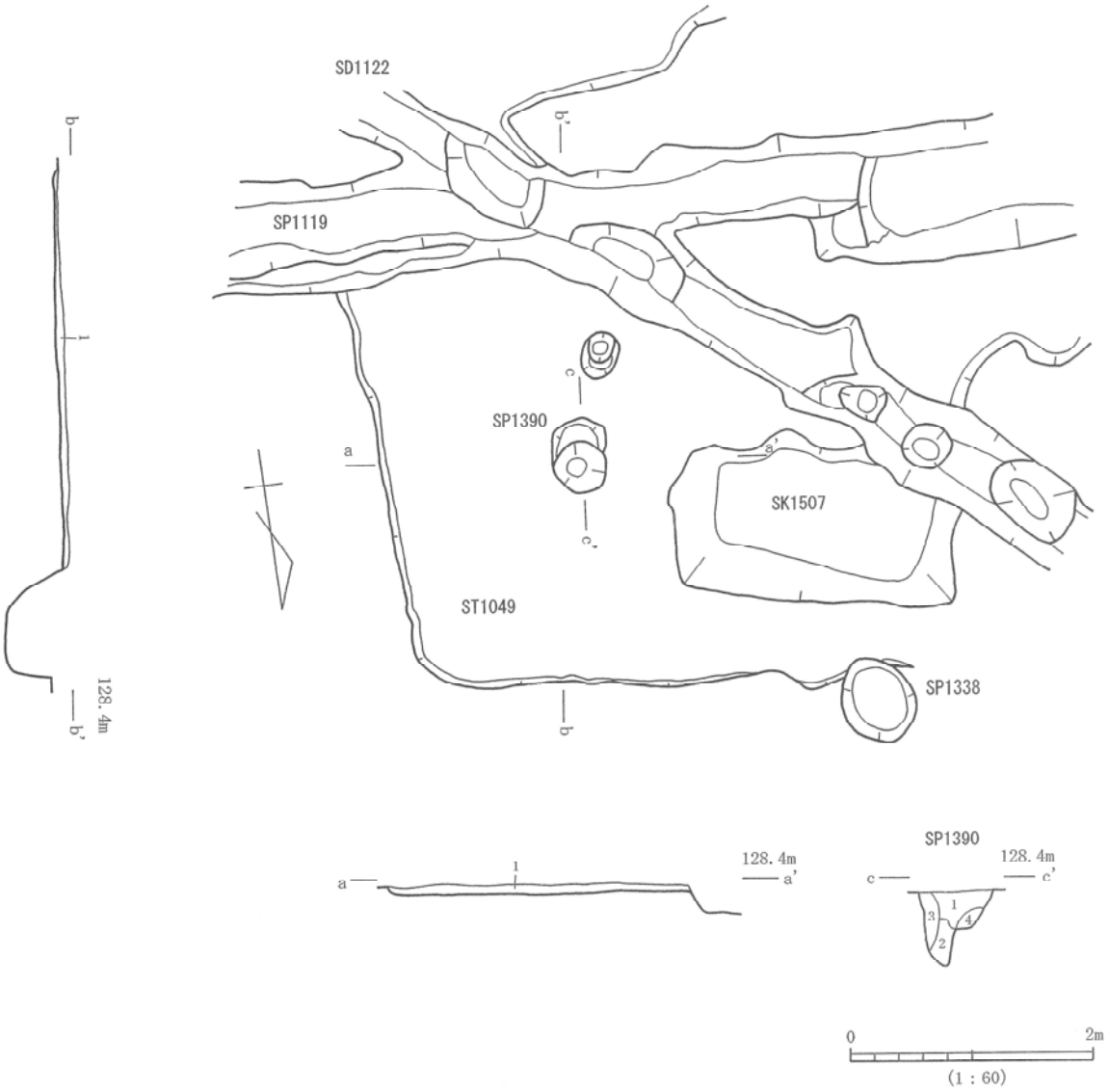
位　　置　9－14グリッド。

規　　模　長軸4.70 m、検出面からの深さ14 cm。

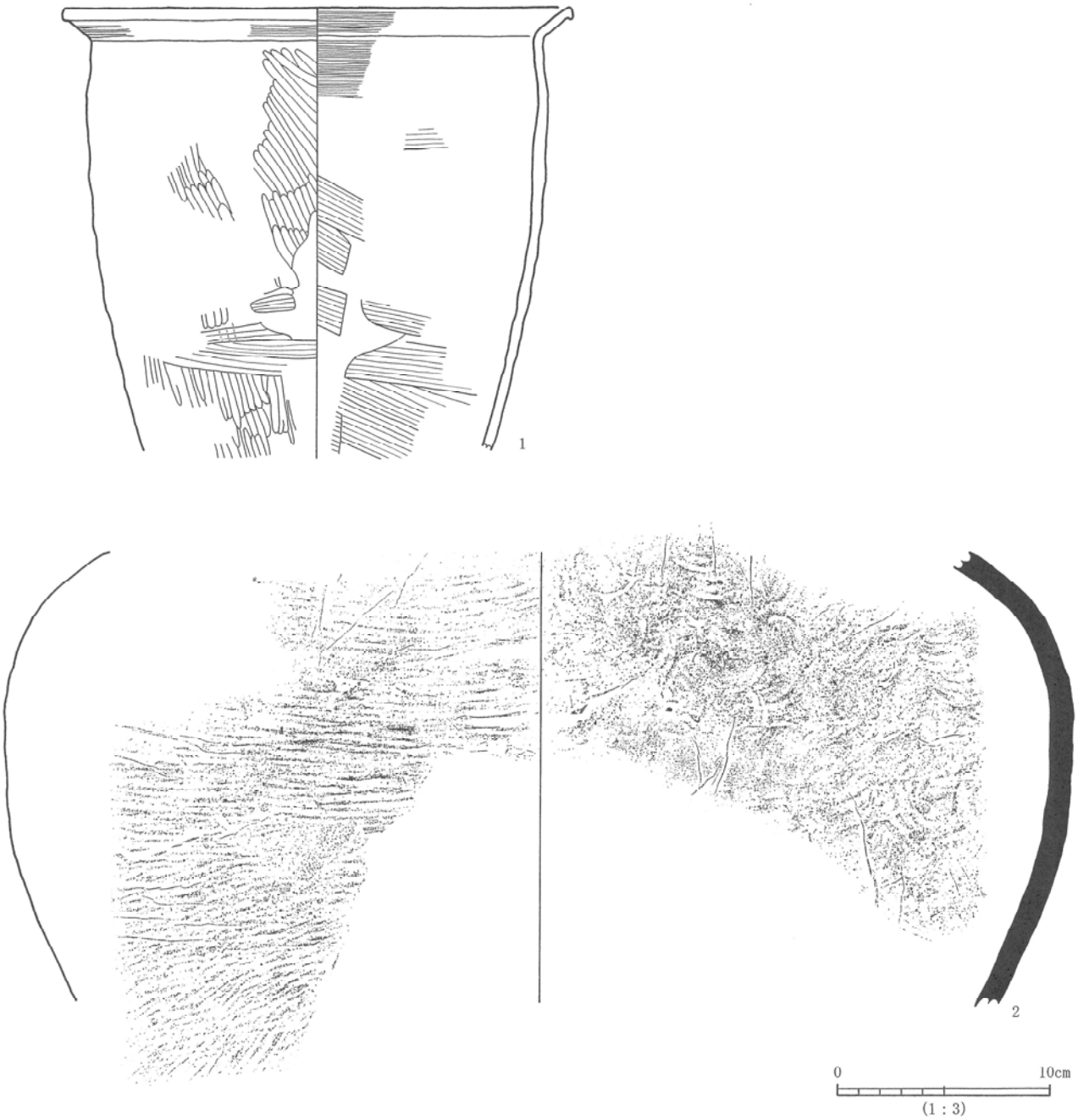
形　　態　南東側を撹乱に切られる。カマドは北西壁の中央に付属し、遺存状態は悪いがソデが検出された。周溝は北東壁でのみ検出された。柱穴は複数検出されたが、どれが主柱穴なのかは判別できなかった。

出土遺物　土師器坏（1）・甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は7～8世紀であると思われる。

第102図　ST1053出土遺物



第103図　ST1049



第104図　ST1049出土遺物

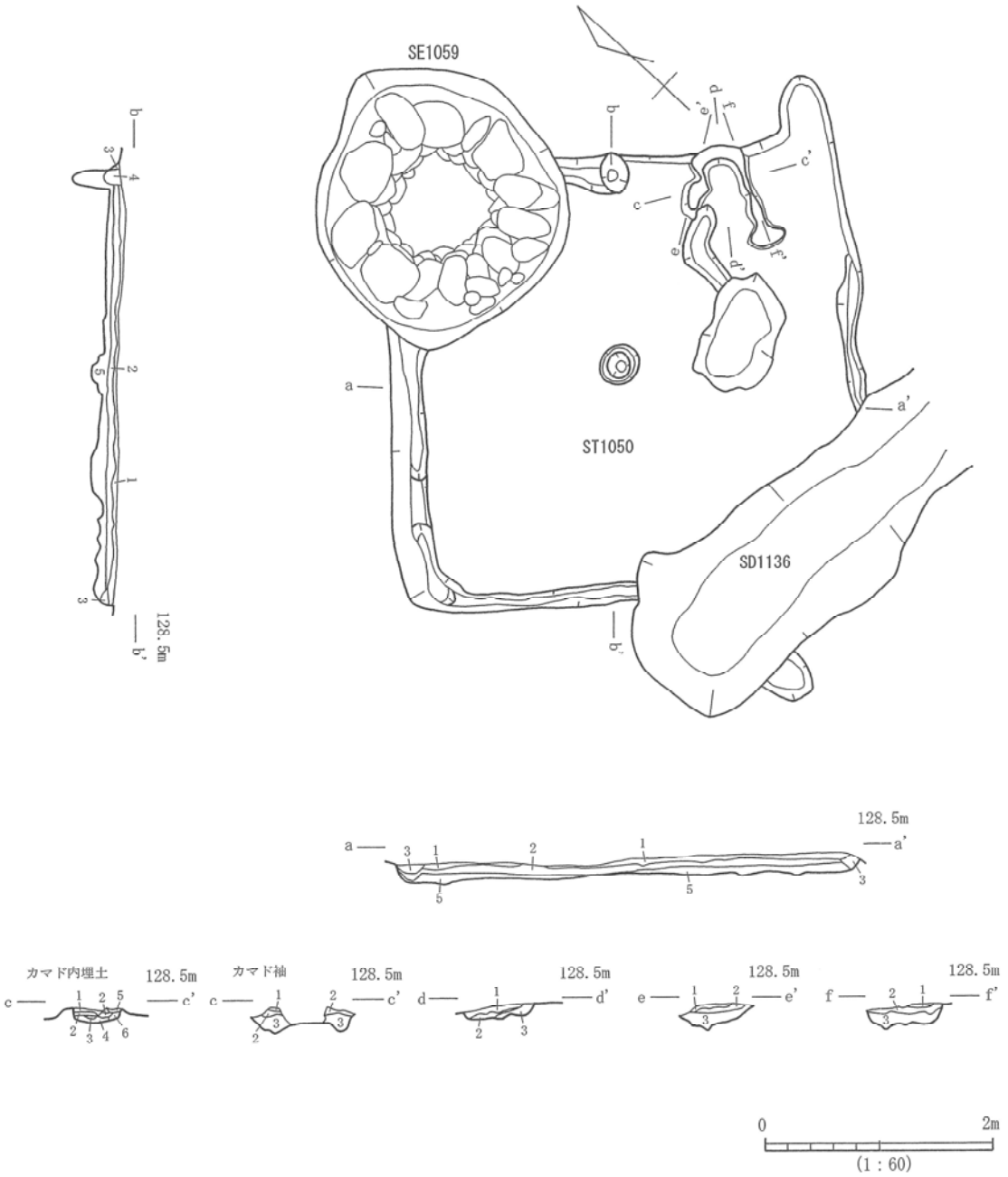
ＳＴ１０４９（第１０３～１０４図）

位　　置　7－14グリッド。

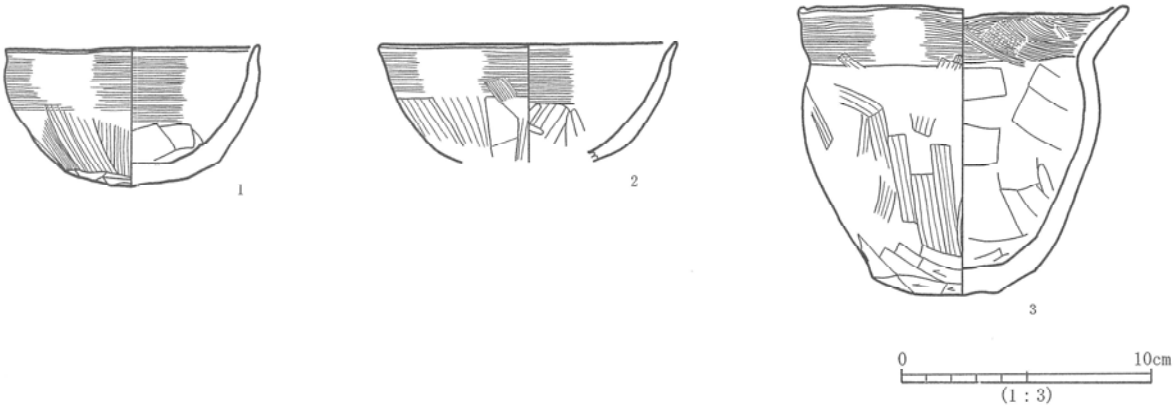
規　　模　長軸4.06ｍ以上、検出面からの深さ8㎝。

形　　態　南側をSD1119、SD1122に、北西側をSK1507に切られる。検出面からの深さが浅く、西壁は検出されなかった。カマドは確認されなかった。主柱穴はSP1390が1基確認されたのみである。

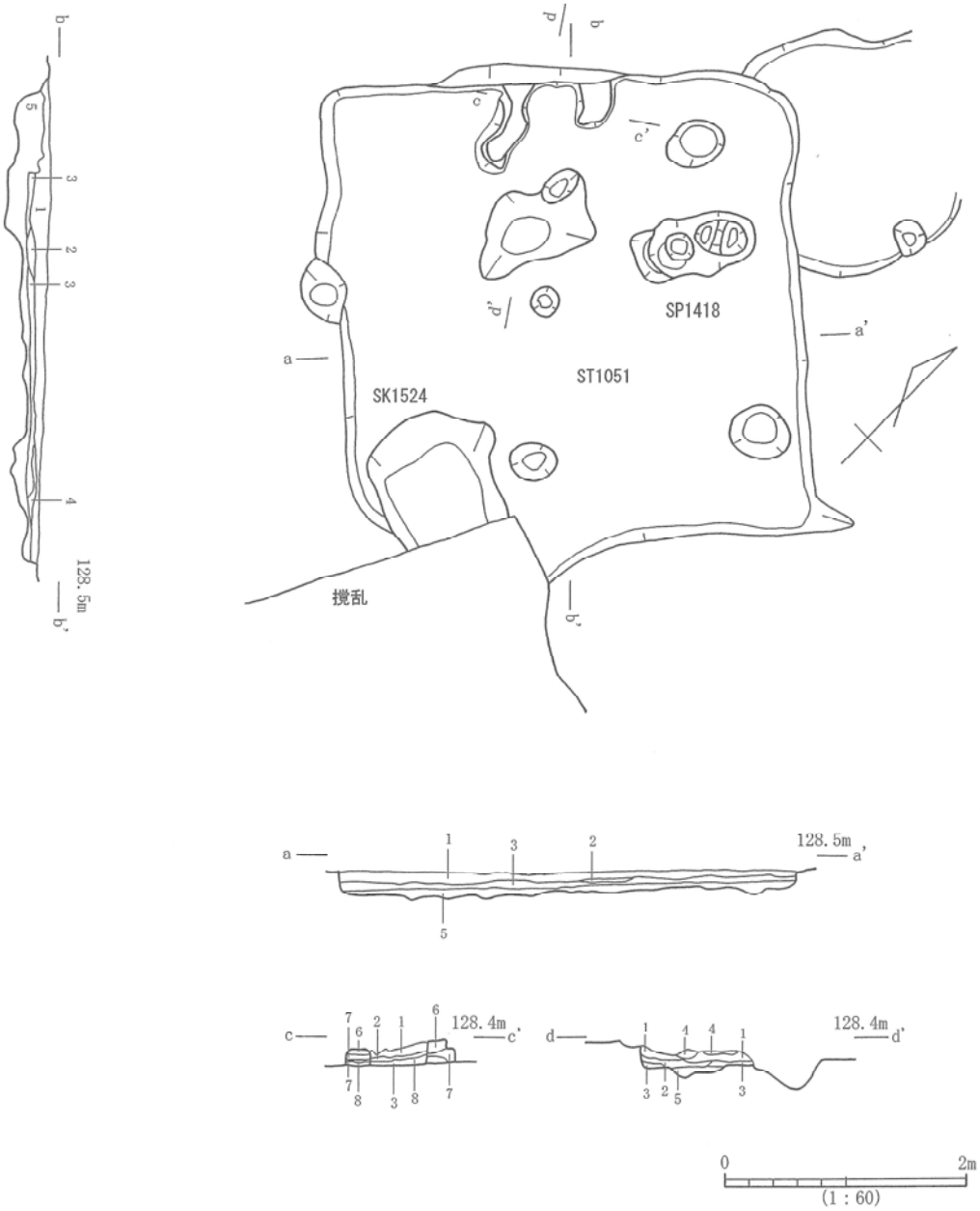
出土遺物　土師器甕（1）、須恵器甕（2）が出土した。年代は8世紀であると思われる。



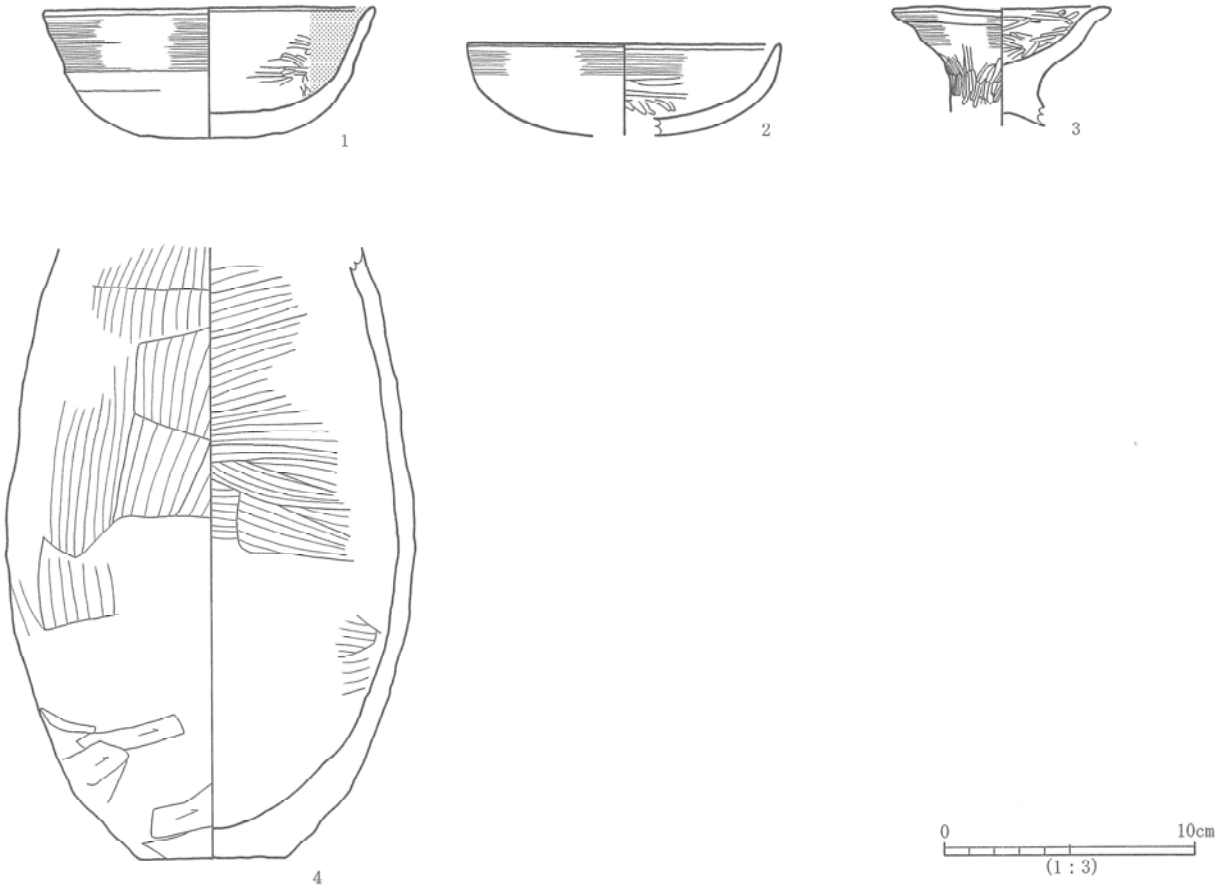
第105図　ST1050



第106図　ST1050出土遺物



第107図　ST1051



第108図　ST1051出土遺物

ＳＴ１０５０（第１０５～１０６図）

位　　置　8－13～8－14グリッド。

規　　模　長軸4.12 m、短軸3.92 m、検出面からの深さ15 cm。

形　　態　北側をSE1059に、南側をSD1136に切られる。1～2層および5層は掘り方の覆土で、床面は削平されたと考えられる。カマドは北東壁のやや東よりの部分に付属し、ソデが良好な状態で検出された。周溝はカマドの周辺を除いて検出された。柱穴は検出されなかった。

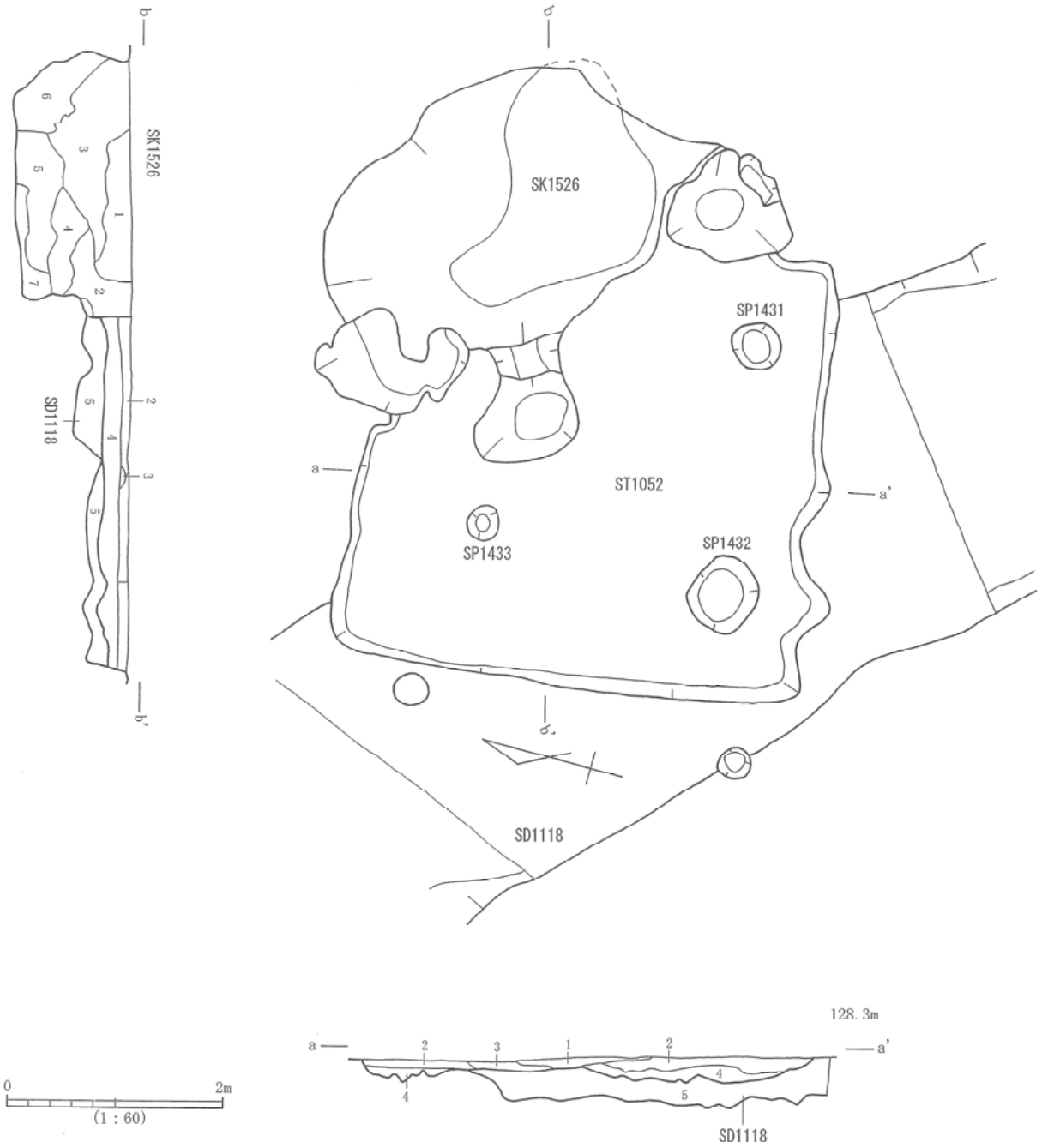
出土遺物　土師器坏（1、2）・甕（3）などが出土した。坏は丸底で、外面にハケメ、ケズリ、内面にミガキ、口縁部にナデが施される。甕(3)は小型のタイプである。図化しなかったが長胴形のタイプも出土している。年代は7世紀であると思われる。

ＳＴ１０５１（第１０７～１０８図）

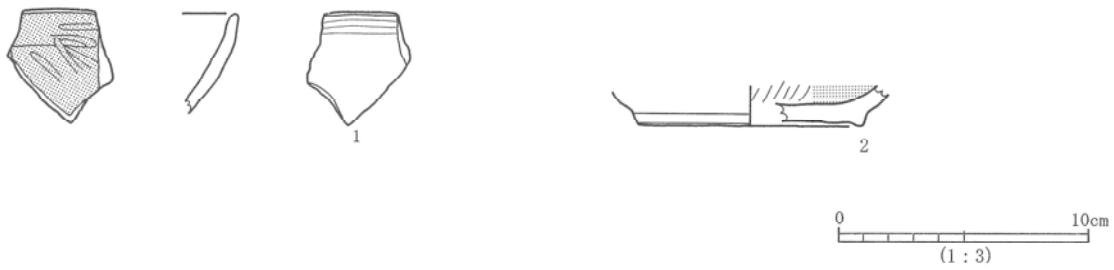
位　　置　8－14～9－15グリッド。

規　　模　長軸4.01 m、短軸3.81 m、検出面から床面までの深さ17 cm、検出面から掘り方までの深さ24 cm。

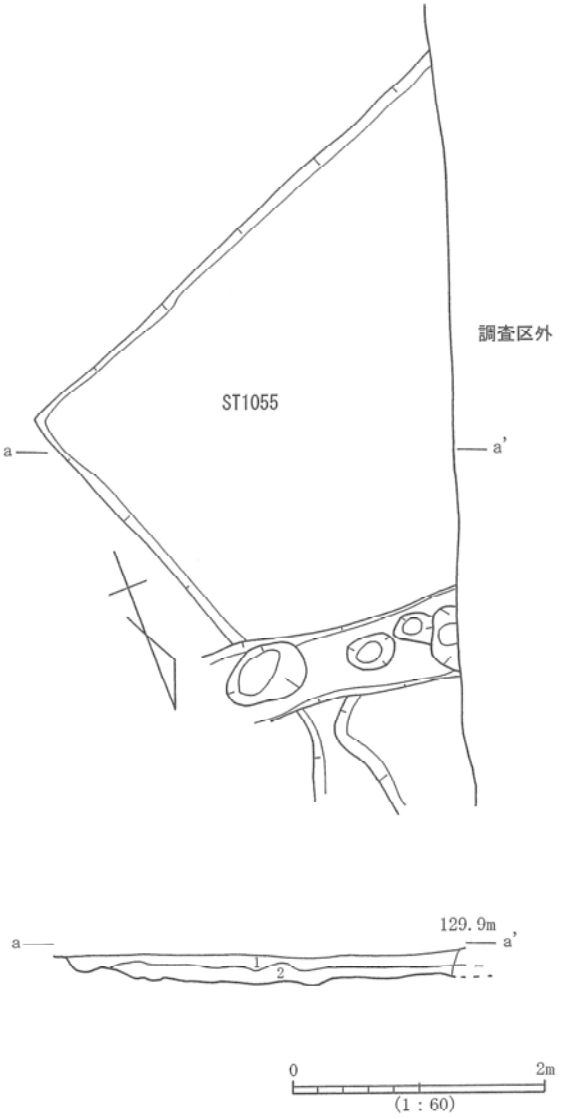
形　　態　南側をSK1524および撹乱に切られる。2～4層が貼床で、ほぼ住居全域で確認された。5層が掘り方の覆土である。カマドは北西壁の中央に付属し、ソデが良好な状態で検出された。柱穴は複数検出されたが、どれが主柱穴になるのか判別できなかった。



第109図　ST1052



第110図　ST1052出土遺物



第111図　ST1055

第112図　ST1055出土遺物

出土遺物　土師器坏（1、2）・高坏（3）・甕（4）などが出土した。坏はやや深く口縁部が直線的に立ち上がるタイプ（1）と、浅く口縁部がやや内湾するタイプ（2）がある。年代は7世紀であると思われる。

ＳＴ１０５２（第１０９～１１０図）

位　　置　7－14～8－14グリッド。

規　　模　長軸4.30ｍ、短軸4.11ｍ、検出面から床面までの深さ9㎝、検出面から掘り方までの深さ27㎝。

形　　態　東側をSK1526に切られる。また、SD1118を切る。4層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。カマドは確認されなかった。主柱穴はSP1431、SP1432、SP1433の3基が検出された。

出土遺物　土師器坏（1)・有台坏（2）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は9世紀半ばであると思われる。坏（1）は古墳時代の所産であり、混入であろう。

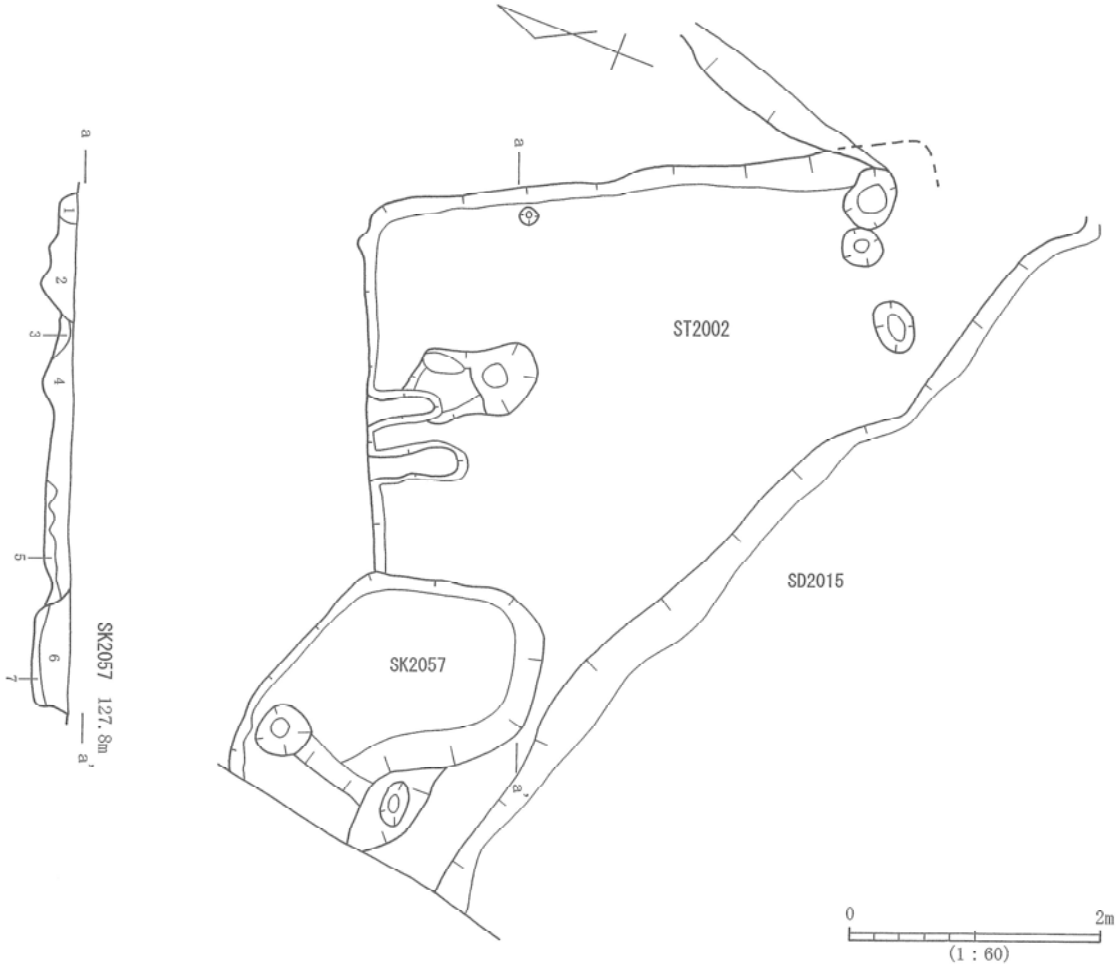
ＳＴ１０５５（第１１１～１１２図）

位　　置　4－13グリッド。

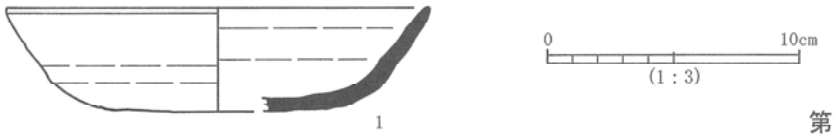
規　　模　長軸4.31 m以上、検出面からの深さ22 cm。

形　　態　西側が調査区外にかかる。カマド、柱穴は検出されなかった。

出土遺物　土師器坏（1）・甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代も判別できなかった。



第113図　ST2002



第114図　ST2002出土遺物

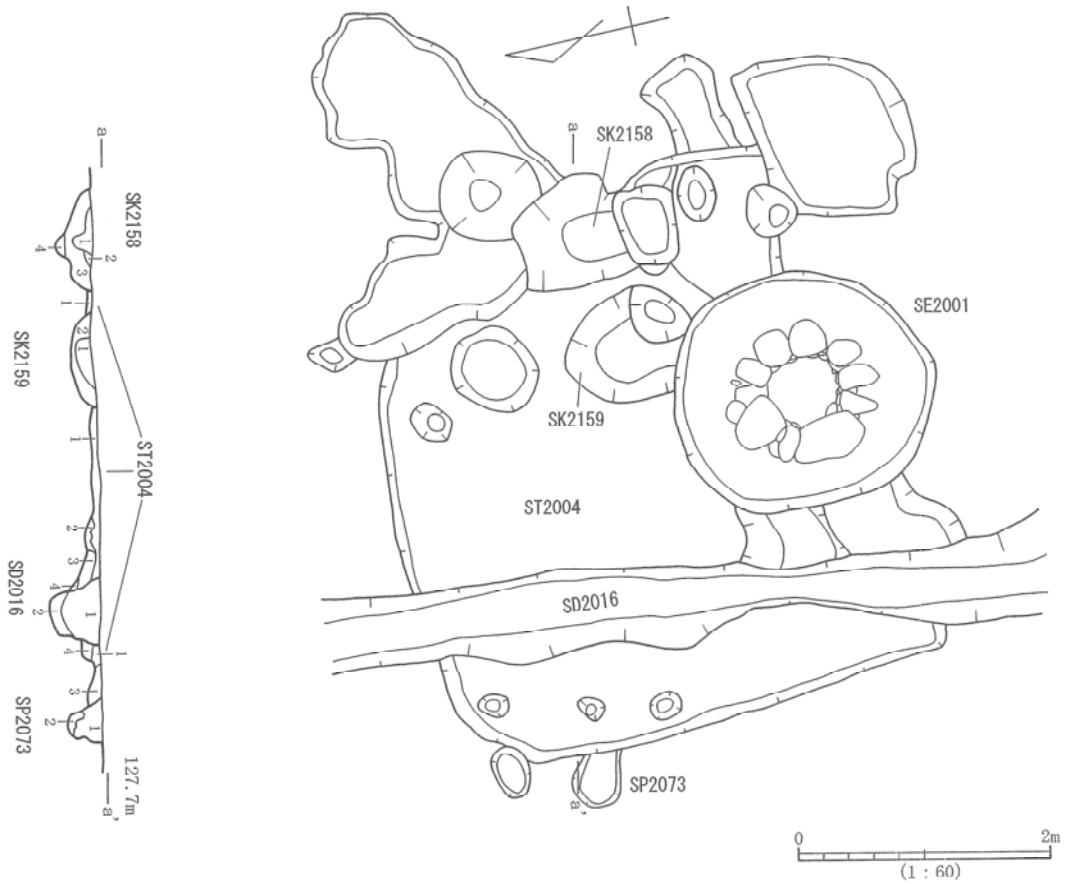
ＳＴ２００２（第１１３～１１４図）

位　　置　2－19グリッド。

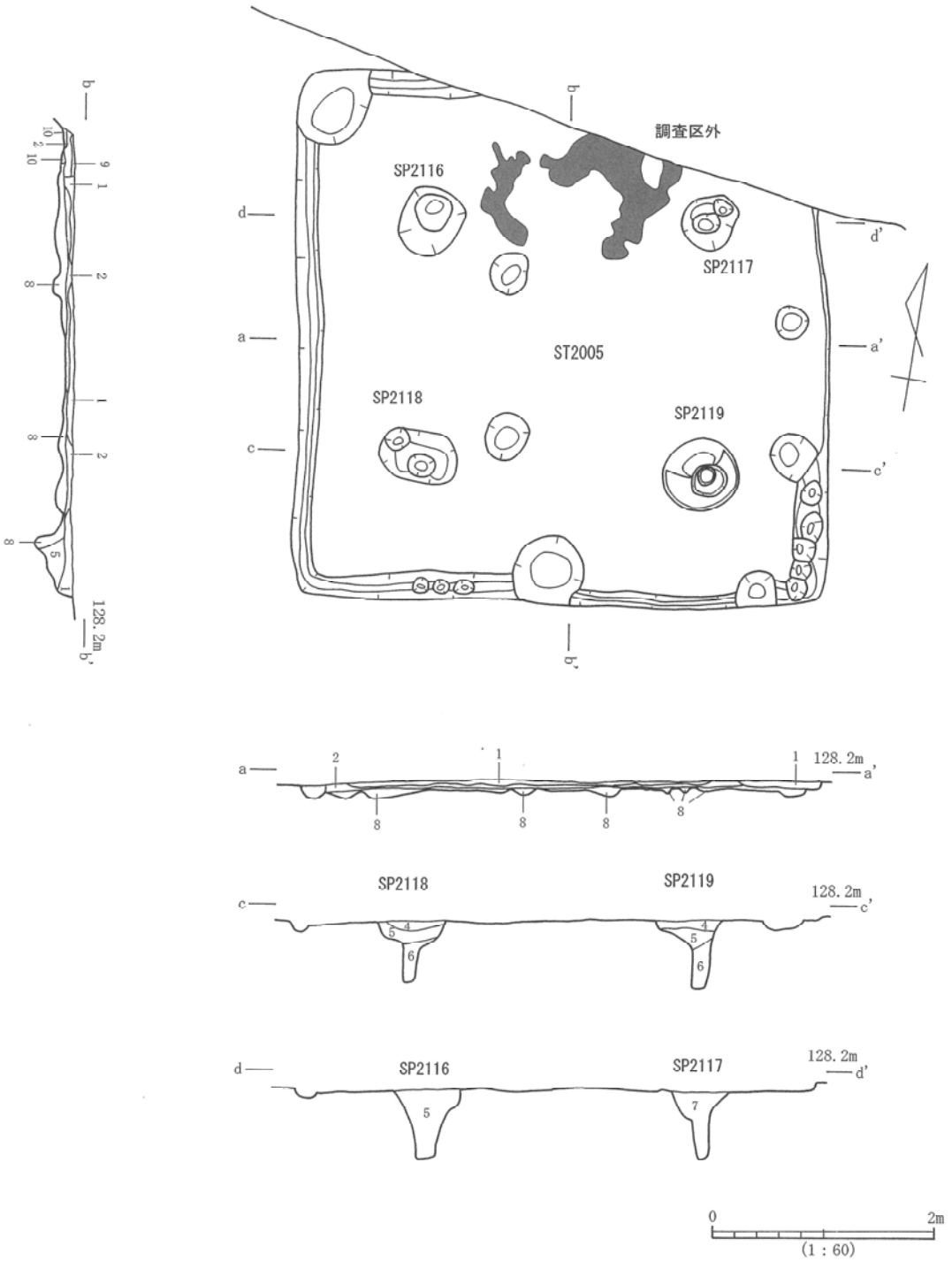
規　　模　長軸4.80 m、検出面からの深さ23 ㎝。

形　　態　南西側をSD2015に切られる。カマドは北西壁に付属し、ソデが良好な状態で検出された。柱穴は検出されなかった。

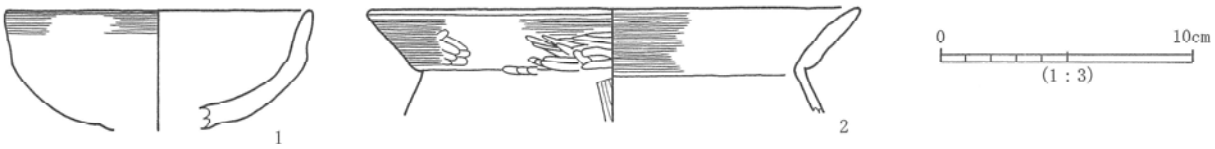
出土遺物　須恵器坏（1）などが出土した。須恵器坏（1）の底部切離しは回転糸切りである。年代は8世紀後半から9世紀前半であると思われる。



第115図　ST2004



第116図　ST2005



第117図　ST2005出土遺物

ＳＴ２００４（第１１５図）

位　　置　2－19～3－20グリッド。

規　　模　長軸4.48 m、短軸4.10 m、検出面からの深さ12 cm。

形　　態　東側をSK2158、SK2159、南側をSE2001、西側をSD2016に切られる。カマドは検出されなかった。柱穴は複数確認されたが、主柱穴がどれなのかは判別できなかった。

出土遺物　土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代も判別できなかった。

ＳＴ２００５（第１１６～１１７図）

位　　置　3－18グリッド。

規　　模　長軸4.76 m、短軸4.72 m、検出面から床面までの深さ5 cm、検出面から掘り方までの深さ16 cm。

形　　態　北側が調査区外にかかる。8層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。カマドは検出されなかったが、北側の床面に焼土の広がりが確認されたので、北壁に付属していたと考えられる。周溝は東壁の北半以外の部分で検出された。主柱穴はSP2116、SP2117、SP2118、SP2119の4基が検出された。

出土遺物　土師器坏（1）・甕（2）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものは少ない。年代は6世紀であると思われる。

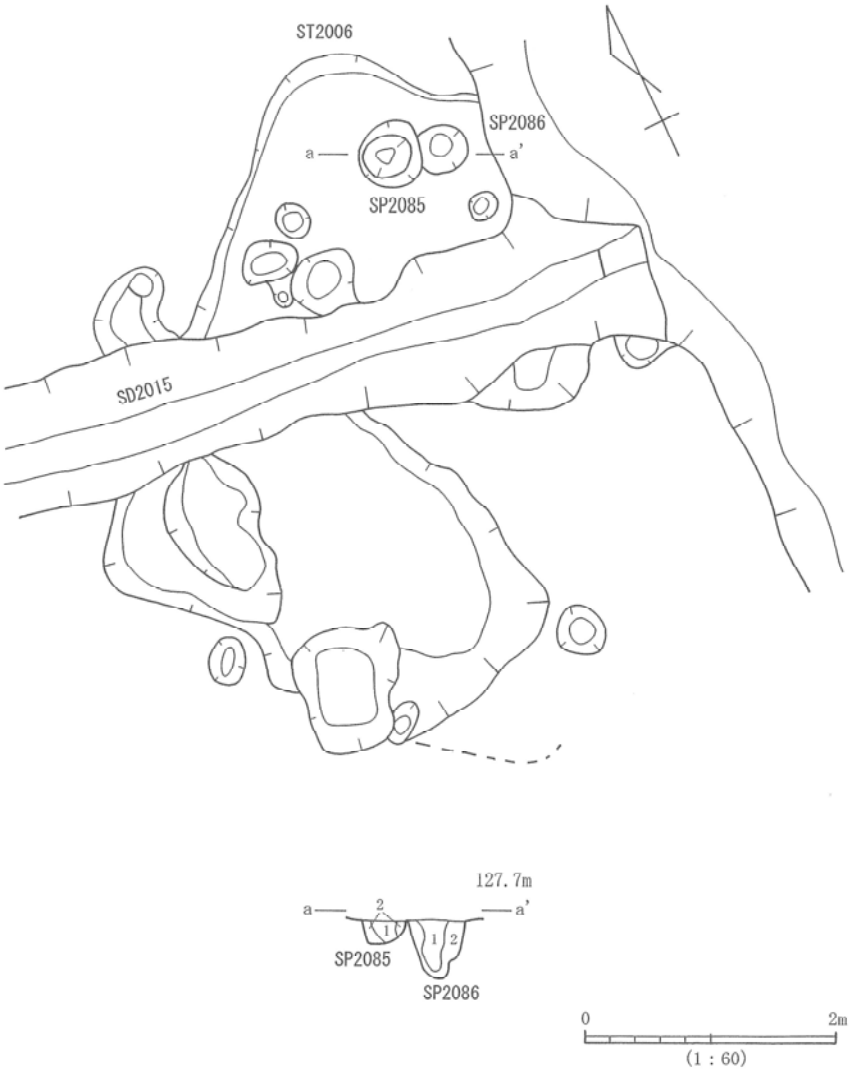
ＳＴ２００６（第１１８～１１９図）

位　　置　2－19グリッド。

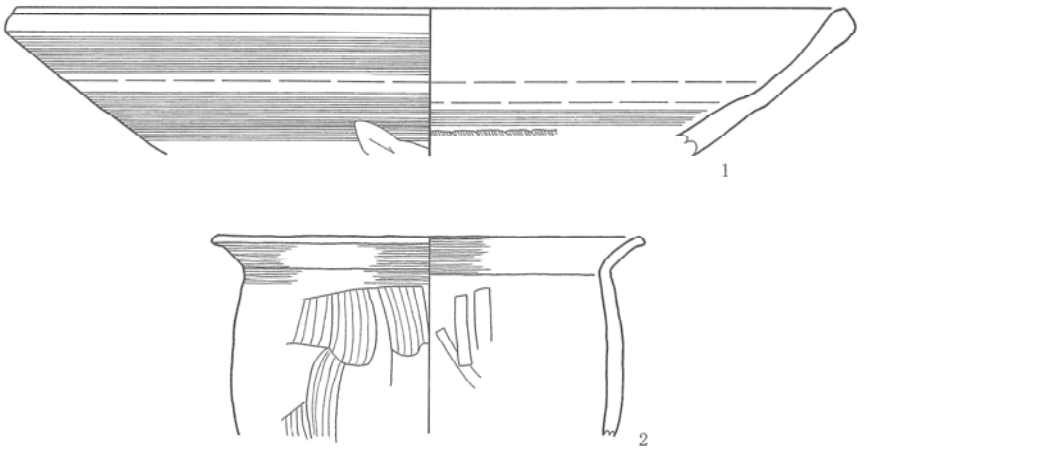
規　　模　長軸5.02 m、検出面からの深さ5 cm。

形　　態　中央をSD2015に切られる。また、検出面からの深さが浅く、南東部は削平されて検出されなかった。カマドは検出されなかった。主柱穴はSP2085の1基のみ検出された。

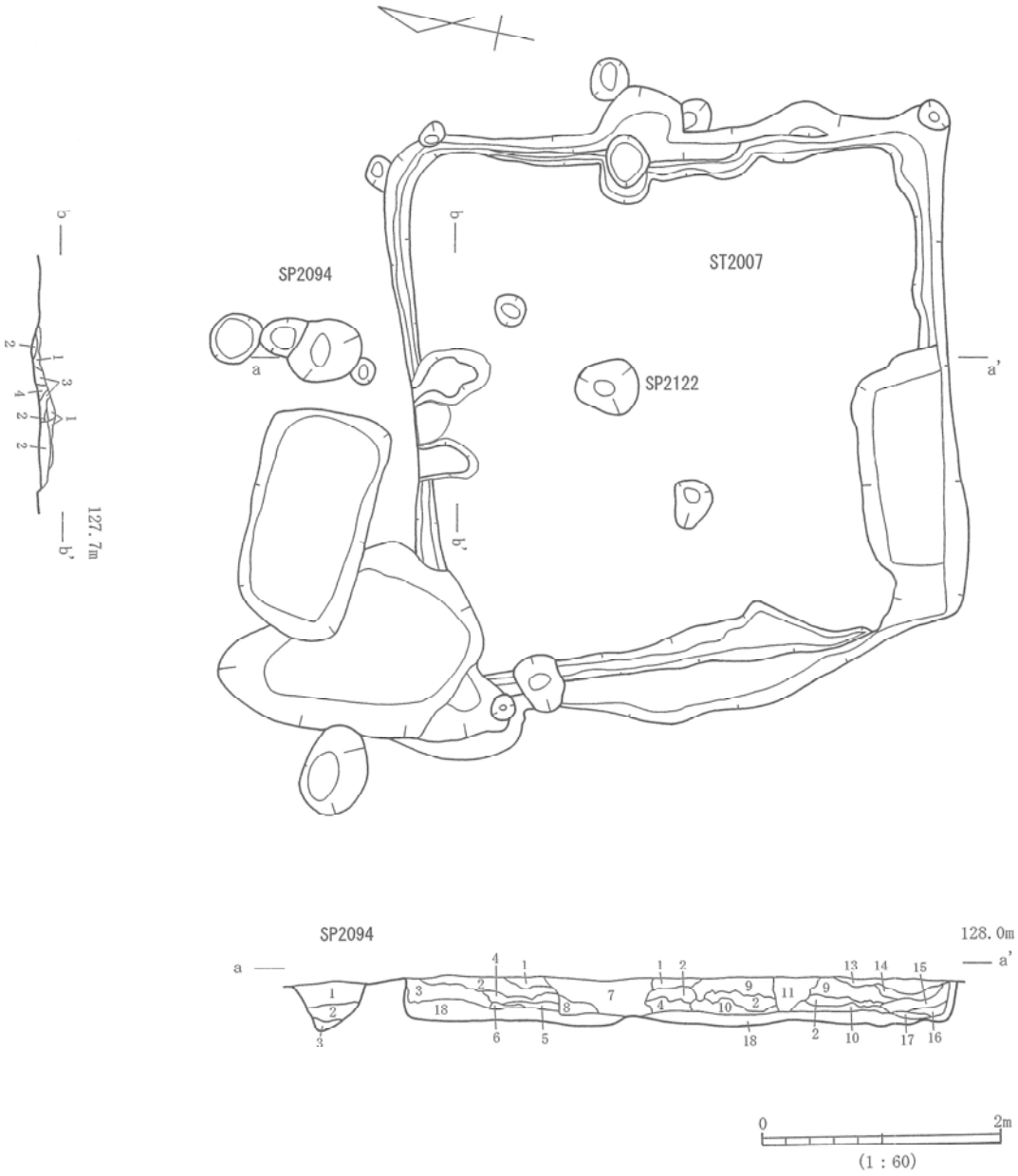
出土遺物　赤焼坏・堝（1）、土師器甕（2）、須恵器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は9世紀半ばであると思われる。



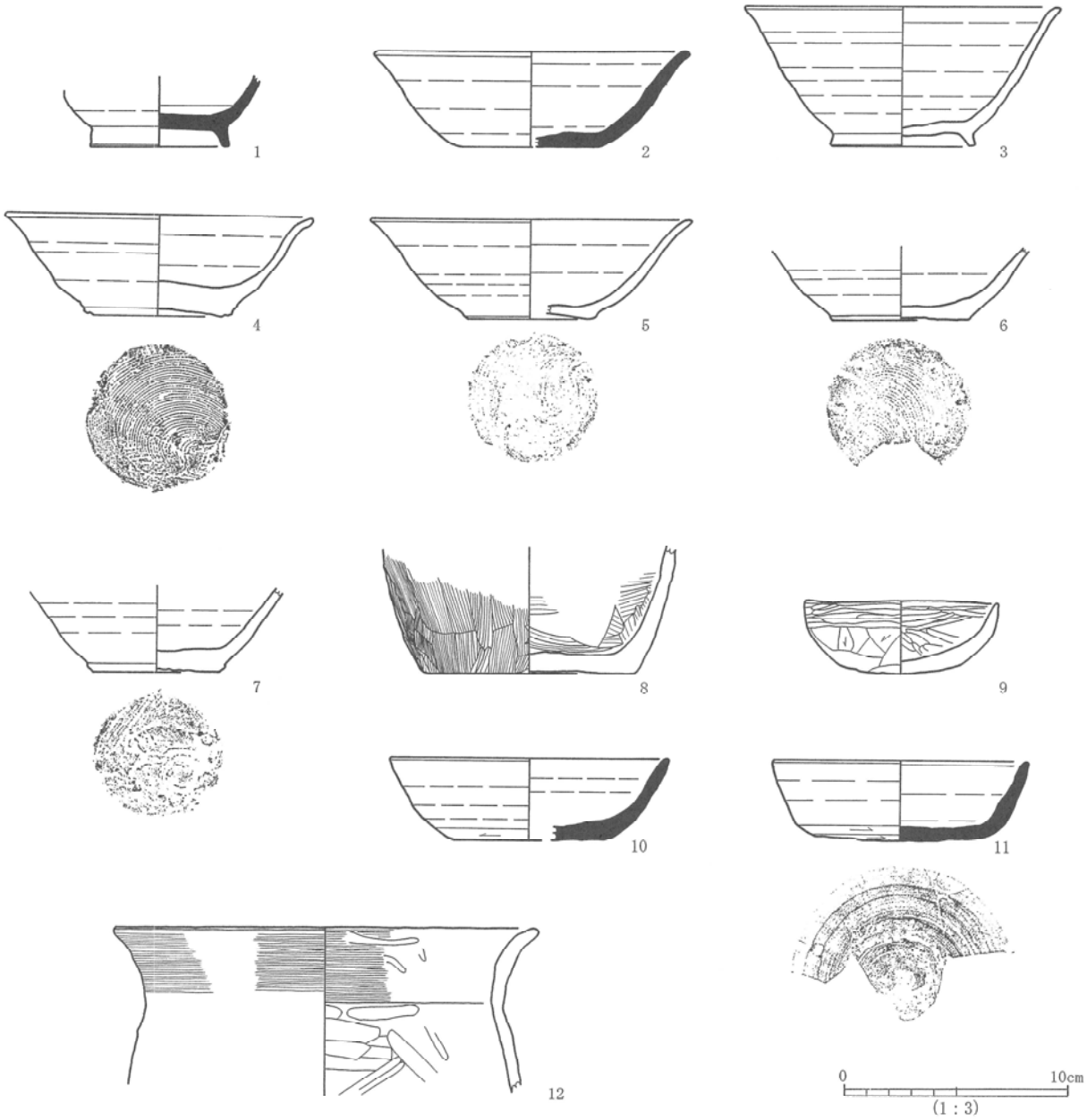
第118図　ST2006



第119図　ST2006出土遺物



第120図　ST2007



第121図　ST2007出土遺物

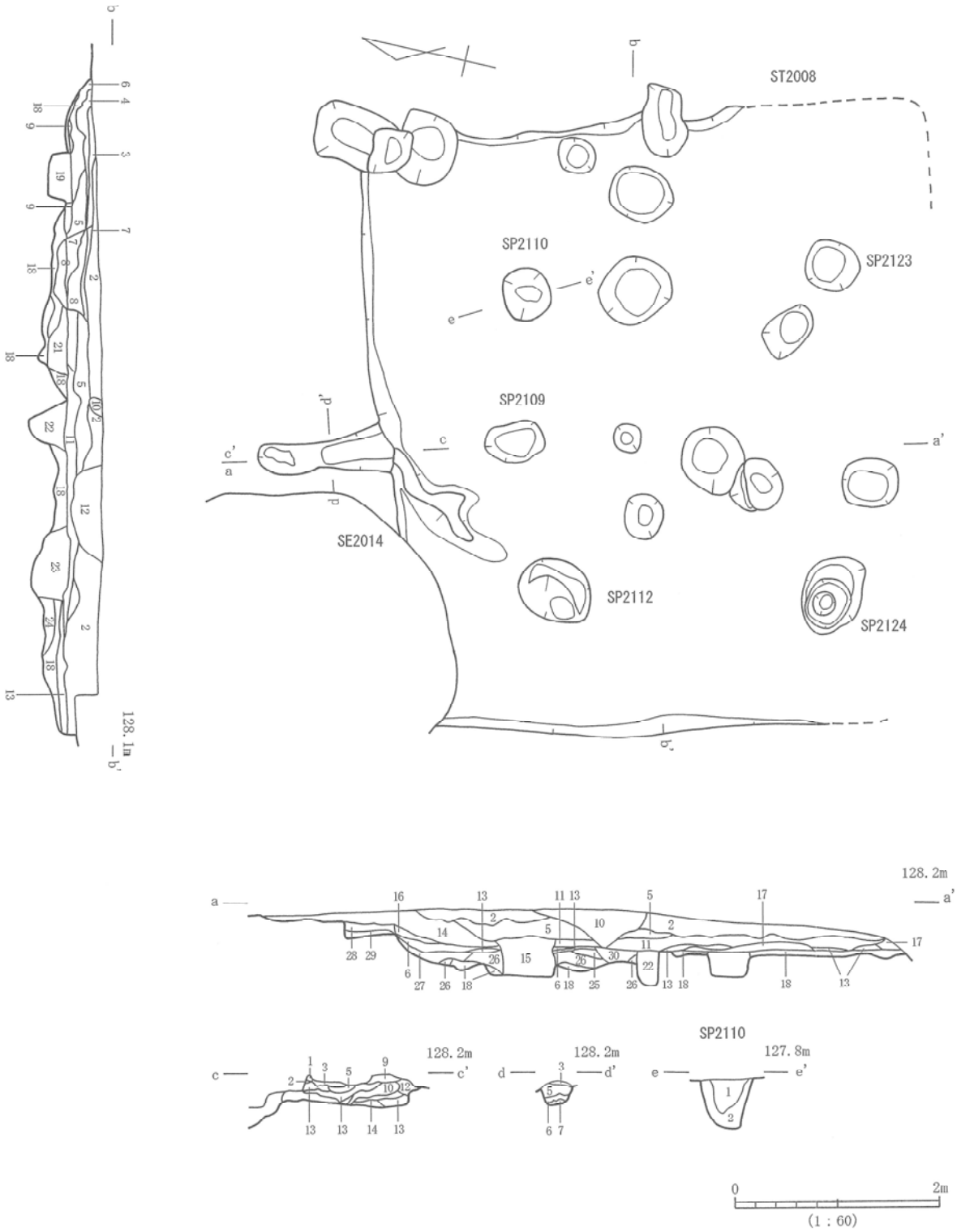
ＳＴ２００７（第１２０～１２１図）

位　　置　3－19グリッド。

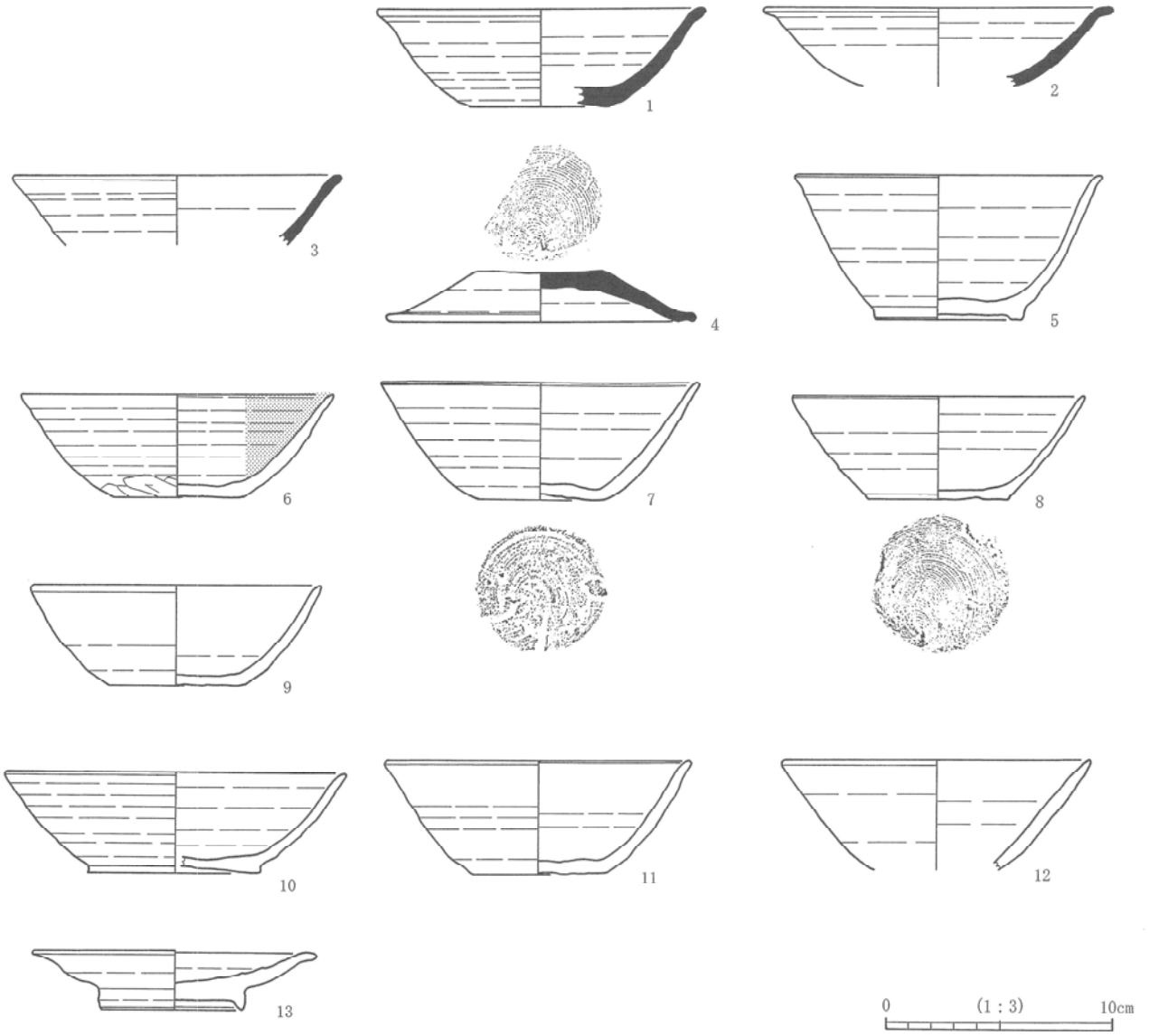
規　　模　長軸4.87ｍ、短軸4.49ｍ、検出面からの床面までの深さ23㎝、検出面から掘り方までの深さ35㎝。

形　　態　18層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。カマドは北壁の中央に付属し、ソデが良好な状態で検出された。周溝はほぼ全周で確認された。主柱穴はSP2122の1基のみ検出された。

出土遺物　須恵器有台坏（1）・坏（2、10、11）・赤焼有台坏（3）・坏（4～7）、土師器甕（8、12）・坏（9）などが出土した。須恵器坏類の底部切り離しは、回転ヘラ切りと回転糸切りが混在する。赤焼の坏類はすべて回転糸切りである。年代はやや幅があるが、おおよそ9世紀半ばであると思われる。土師器坏（9）や須恵器坏（11）は、古い時期の遺構からの混入であると思われる。



第122図　ST2008



第123図　ST2008出土遺物

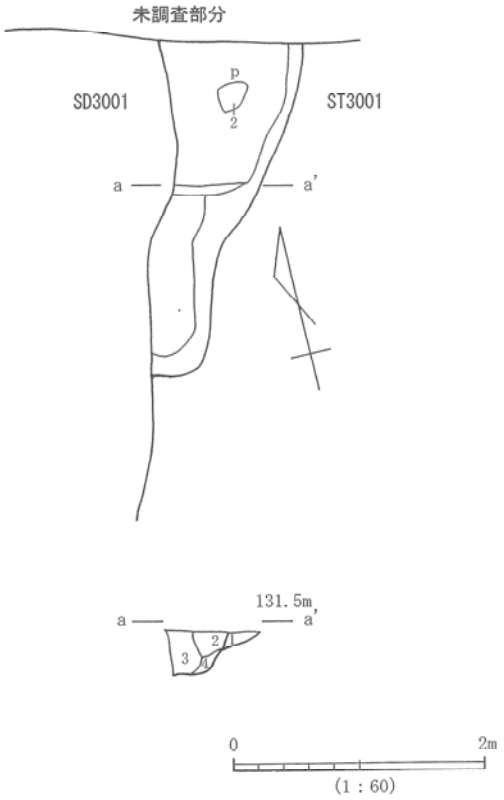
ＳＴ２００８（第１２２～１２３図）

位　　置　3－19グリッド。

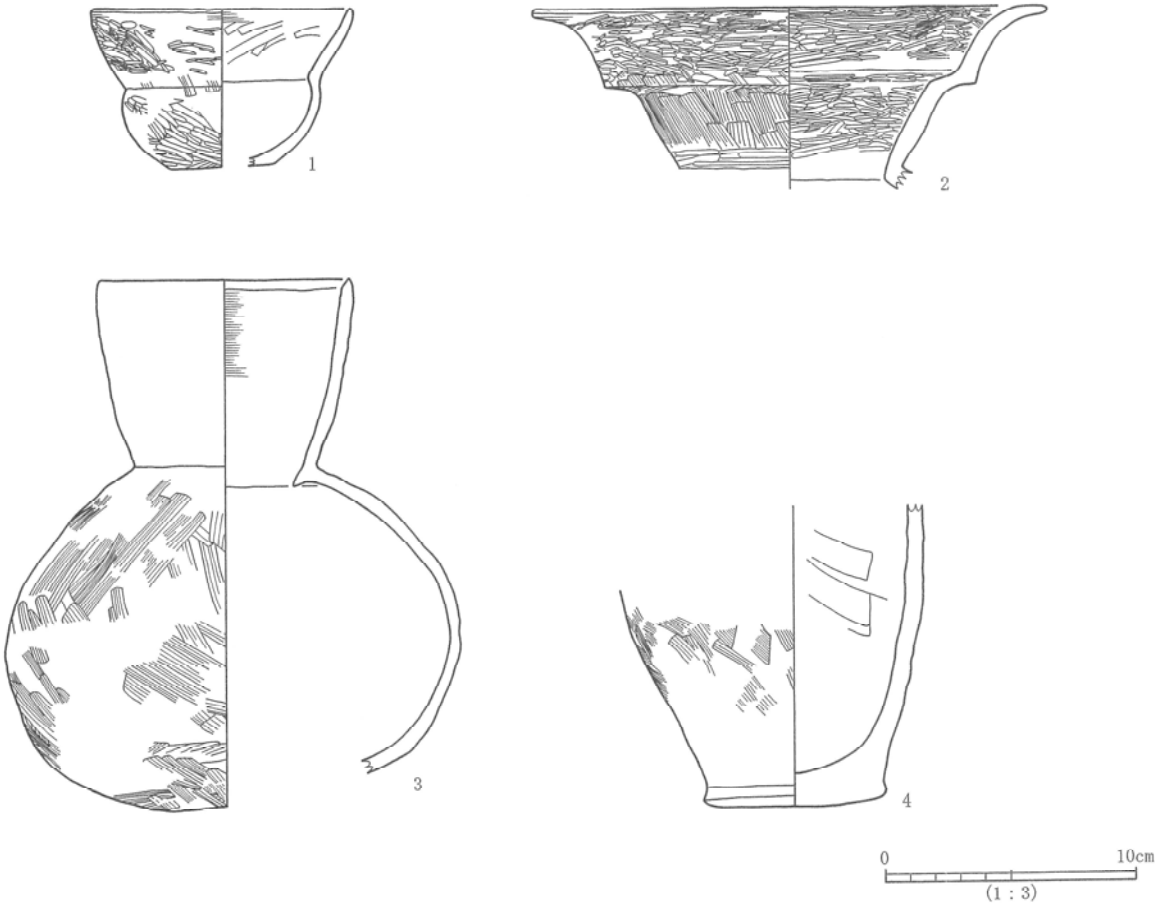
規　　模　長軸6.04 m、短軸5,50 m、検出面から床面までの深さ18 cm、検出面から掘り方までの深さ38 cm。

形　　態　北西側をSE2014に切られる。住居の南側は、削平されて検出されなかった。18層以下の層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。カマドは北壁のやや西よりの部分で検出され、長さ80 cm、中央の幅26 cmの煙道が付属する。ソデは西側のみ検出された。主柱穴は、SP2110、SP2112、SP2123、SP2124の4基が検出された。

出土遺物　須恵器坏（1～3）・蓋（4）、赤焼有台坏（5）・坏（6～12）・皿（13）などが出土した。坏類は須恵器、赤焼ともに底部切離しが、すべて回転糸切りである。赤焼坏（6）のみ切離し後、外面下部に手持ちヘラケズリが施される。須恵器蓋（4）はツマミがない。年代は9世紀半ばであると思われる。



第124図　ST3001



第125図　ST3001出土遺物

ＳＴ３００１（第１２４～１２５図）

位　　置　17－12グリッド。

規　　模　長軸2.66ｍ以上、検出面からの深さ13㎝。

形　　態　北側が未調査部分にかかる。また西側がSD3001に切られる。炉、柱穴などは確認されなかった。

出土遺物　土師器鉢（1）・壺（2、3）・甕（4）などが出土した。鉢（1）は口縁部がやや内湾しながらハの字状に開き、外面にハケメののちミガキ、内面にヘラナデが施される。壺は口縁部に段を有し、ハの字状に開くタイプ（2）と、口縁部がやや内湾しながら直線的に立ち上がるタイプ（3）がある。年代は4世紀であると思われる。

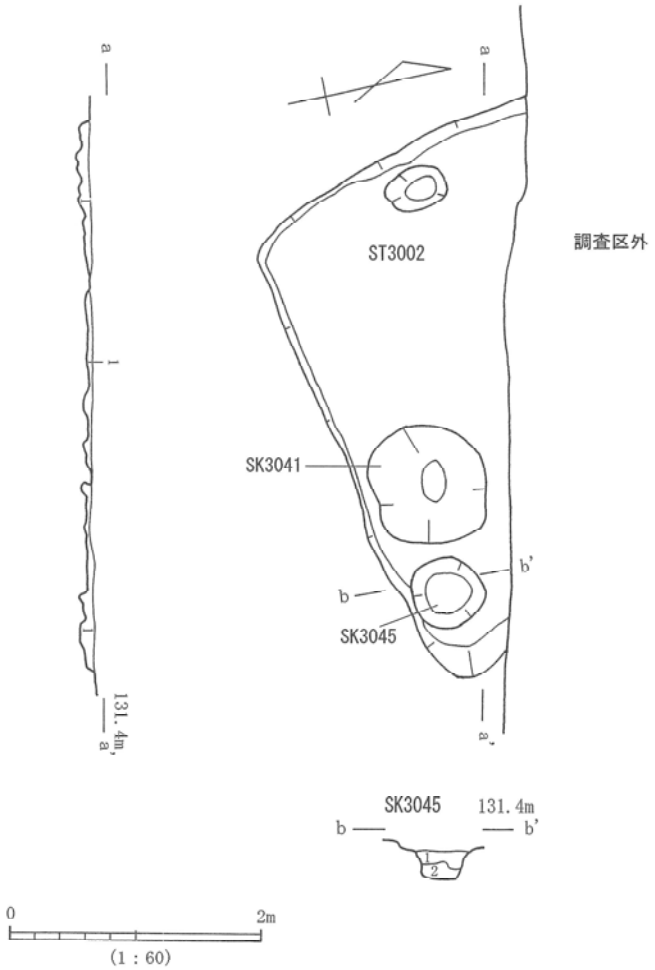
ＳＴ３００２（第１２６図）

位　　置　17－11～17－12グリッド。

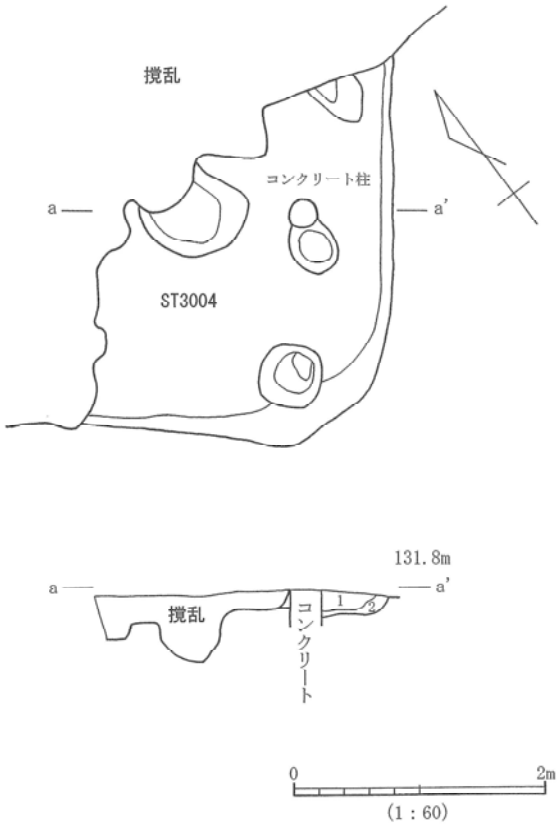
規　　模　長軸4.2ｍ、検出面からの深さ11㎝。

形　　態　北側が調査区外にかかる。また、南側がSK3041に切られる。カマドは検出されなかった。柱穴はSK3045の1基が検出されたが、これに対応する柱穴は確認できなかった。

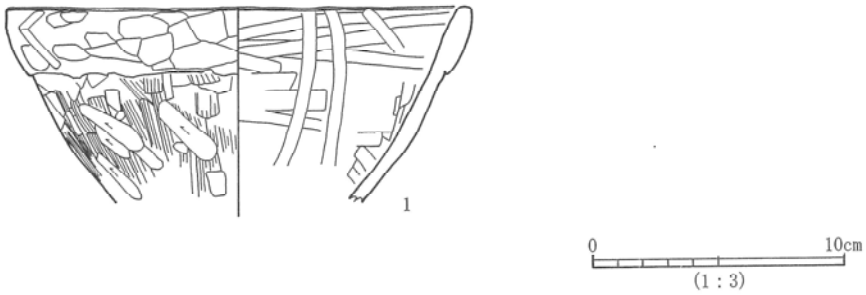
出土遺物　土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は、体部が球形を呈する甕の破片が出土しているので、古墳時代であると思われるが細分はできなかった。



第126図　ST3002



第127図　ST3004



第128図　ST3004出土遺物

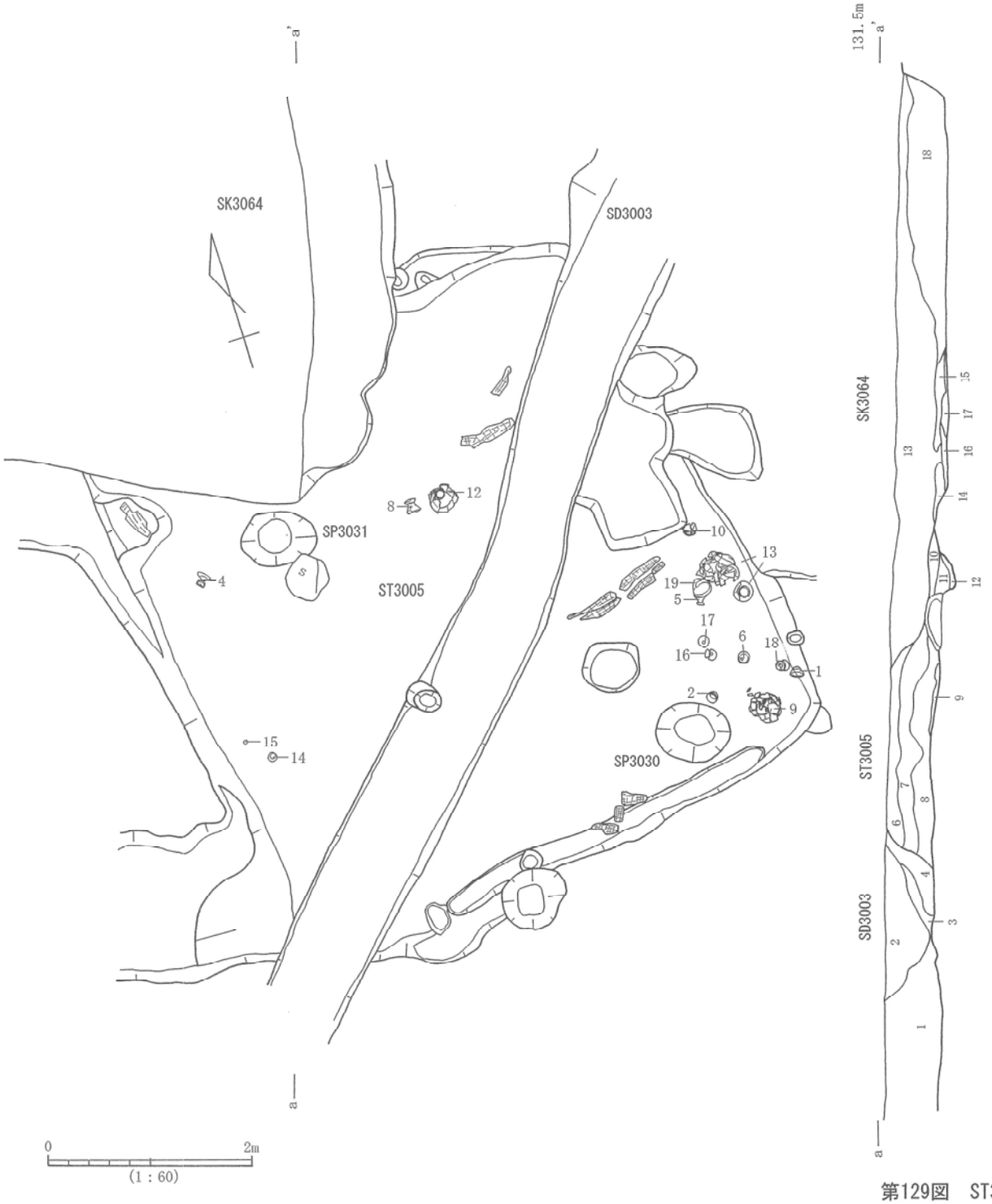
ＳＴ３００４（第１２７～１２８図）

位　　置　18－13～18－14グリッド。

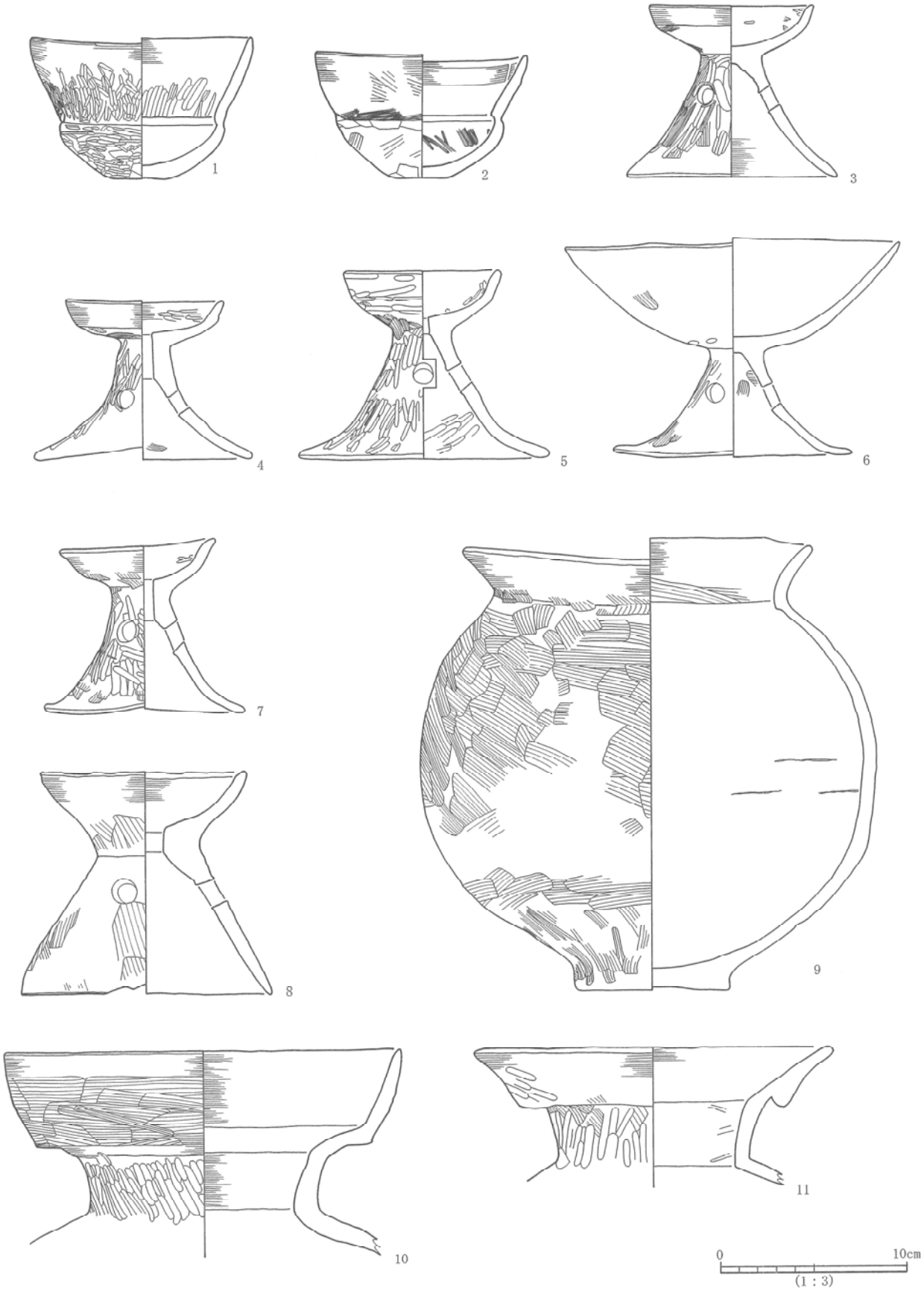
規　　模　長軸3.0ｍ以上、検出面からの深さ17㎝。

形　　態　北側が撹乱に切られる。検出面からの深さが浅く、また近世以降の遺構から撹乱されており、遺存状況は悪い。カマド、柱穴などは検出されなかった。

出土遺物　土師器鉢（1）・甕などが出土した。鉢は体部がハの字に開くタイプで、口縁が折り返され、外面にハケメののちケズリ、内面にヘラナデが施される。年代は古墳時代であると思われるが細分はできなかった。



第129図　ST3005



第130図　ST3005出土遺物(1)

第131図　ST3005出土遺物(2)

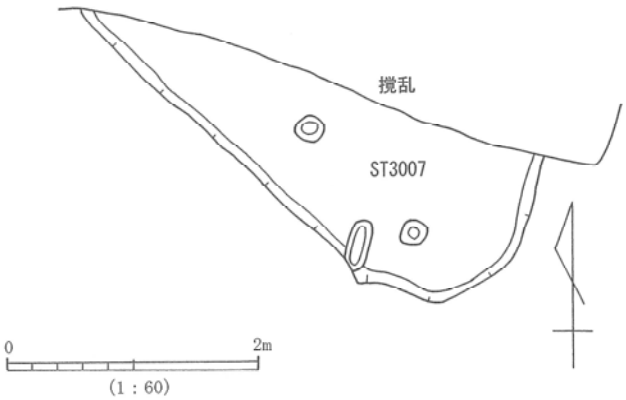
ＳＴ３００５（第１２９～１３１図）

位　　置　17 － 13 グリッド。

規　　模　長軸 5.99 m、短軸 5.60 m、検出面からの深さ 35 cm。

形　　態　北側を SK3064 に、北東から南西にかけて SD3003 に切られる。住居のほぼ中央で、焼土と炭化物が集中して検出されたので、炉を有していたと考えられる。また、炭化材が特に東側で散見されるので焼失住居であると考えられる。土器類が住居の床面から集中的に出土し、これも東壁付近で多かった。周溝が南壁でのみ検出された。主柱穴は SP3030、SP3031 の 2 基のみ検出された。

出土遺物　土師器鉢（1、2、15 ～ 17）・高坏（3、6）・器台（4、5、7、8）・甕（9、12）・壺（10、11）・台付甕（13）・ミニチュア（14）・甑（18）・甑（19）などが出土した。鉢は体部が内湾し、口縁部は屈曲してやや内湾しながら外上方に伸び、屈曲部が器高の半分以下にあるタイプ（1、2）と、（1、2）と類似しているが、屈曲が弱く屈曲部が器高の半分より高い位置にあるタイプ（15）と、ハの字状に開く体部を持つタイプ（16、17）がある。高坏はハの字状に開く脚部と小型の坏で構成されるタイプ（3）と、同じくハの字状の脚部と大型の坏で構成されるタイプ(6)がある。器台はハの字状に開く脚部と内湾する小型の受部をもつタイプ(3 ～ 5)と、直線的に開く脚部と内湾しやや大きめの受部を持つタイプ（8）がある。甕（9、12）は口縁部が外反し、体部が球形で平底のタイプのみである。台坏甕（13）も甕とほぼ同じ器形で、口縁にヘラで刻んだ装飾を施している。甑（18）は口縁部がゆるやかに外反しながら開き、体部は球形で、体部下方に穿孔が施される。甑（19）は体部が内湾しながら開き、口縁部が折り返される。年代は 4 世紀であると思われる。



第132図　ST3007

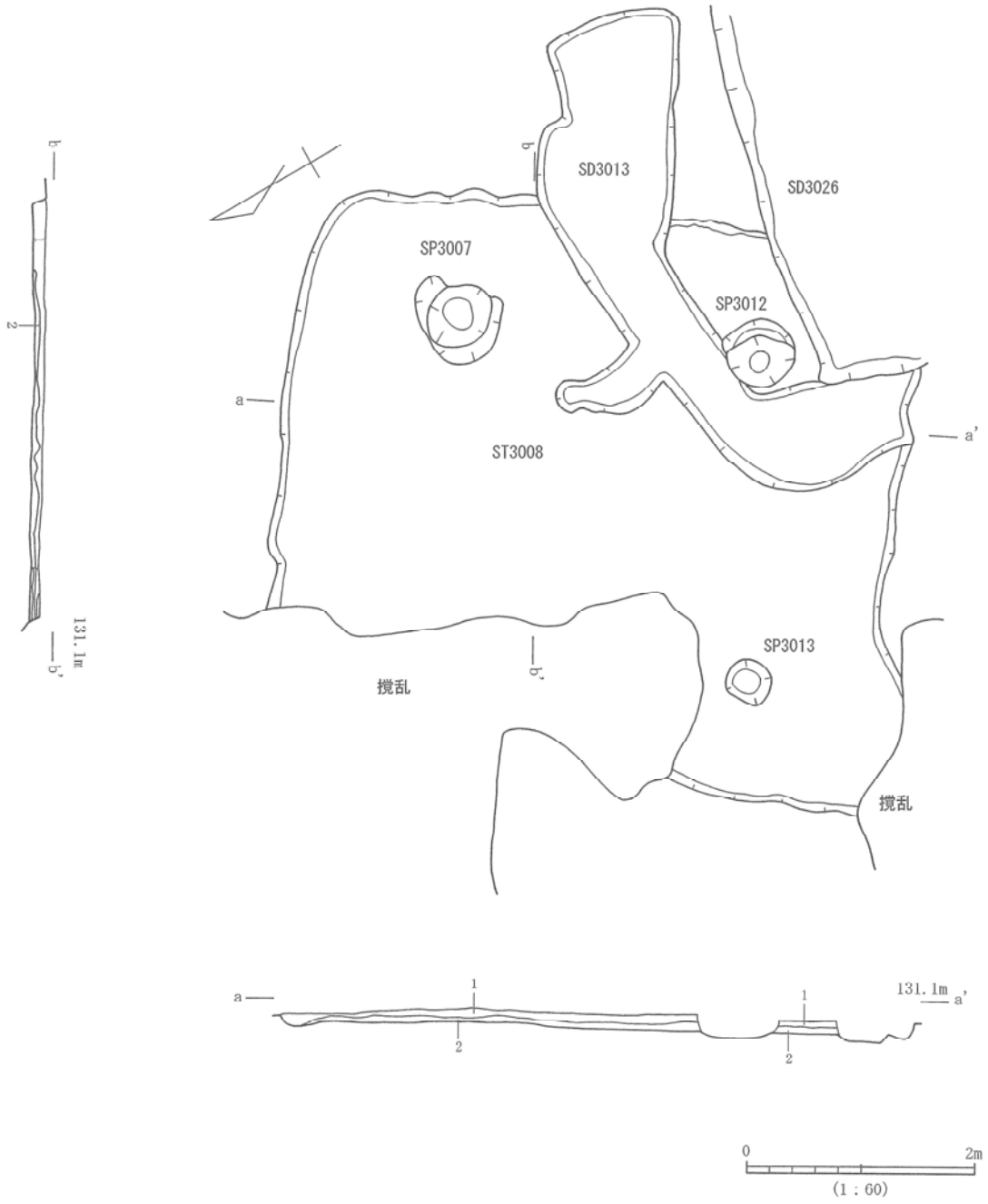
ＳＴ３００７（第１３２図）

位　　置　17 － 14 ～ 18 － 14 グリッド。

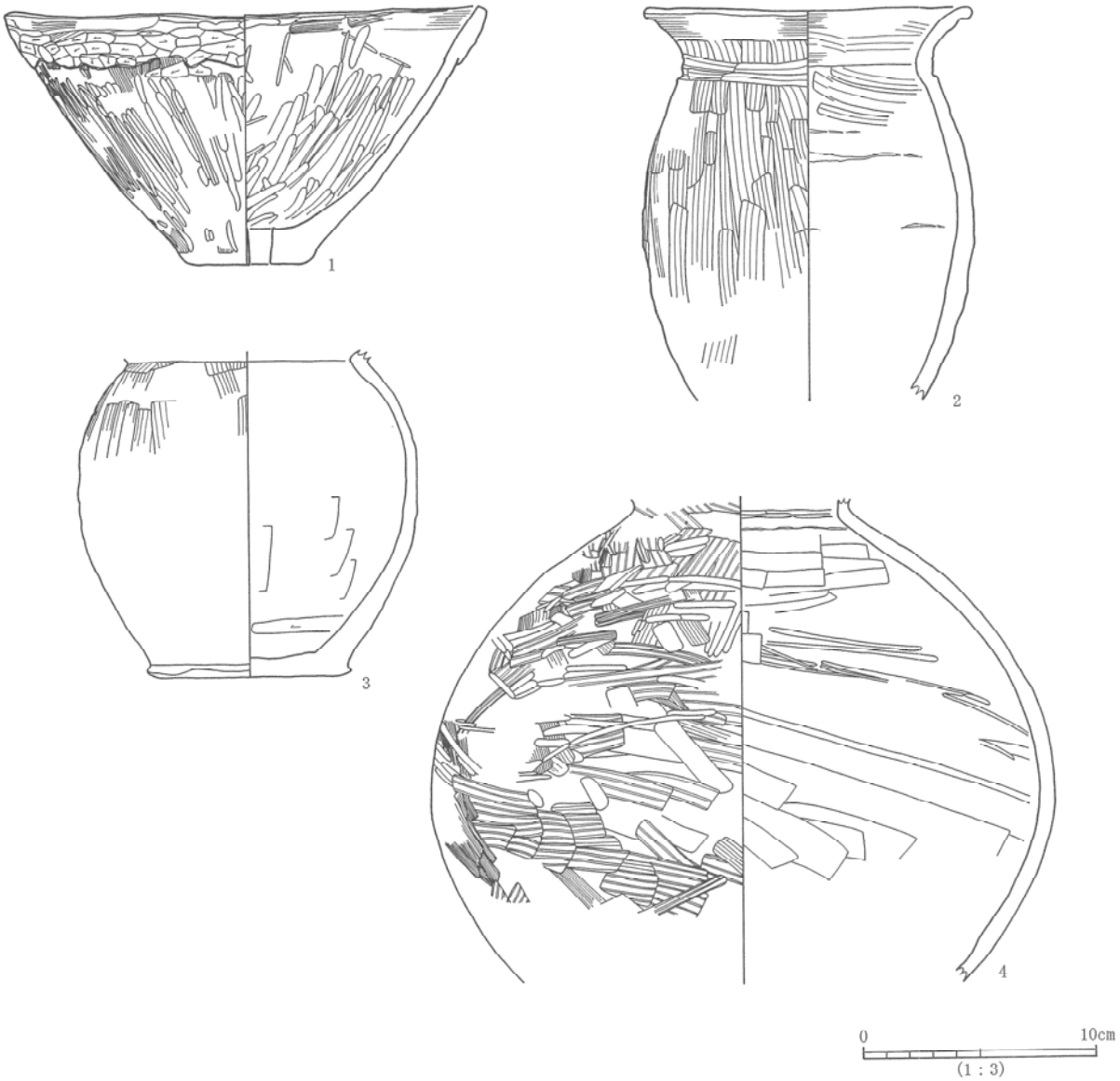
規　　模　長軸 3.96 m、検出面からの深さ 24 cm。

形　　態　北側が撹乱に切られる。カマド、柱穴は検出されなかった。

出土遺物　土師器甕・須恵器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代も判別できなかった。



第133図　ST3008



第134図　ST3008出土遺物

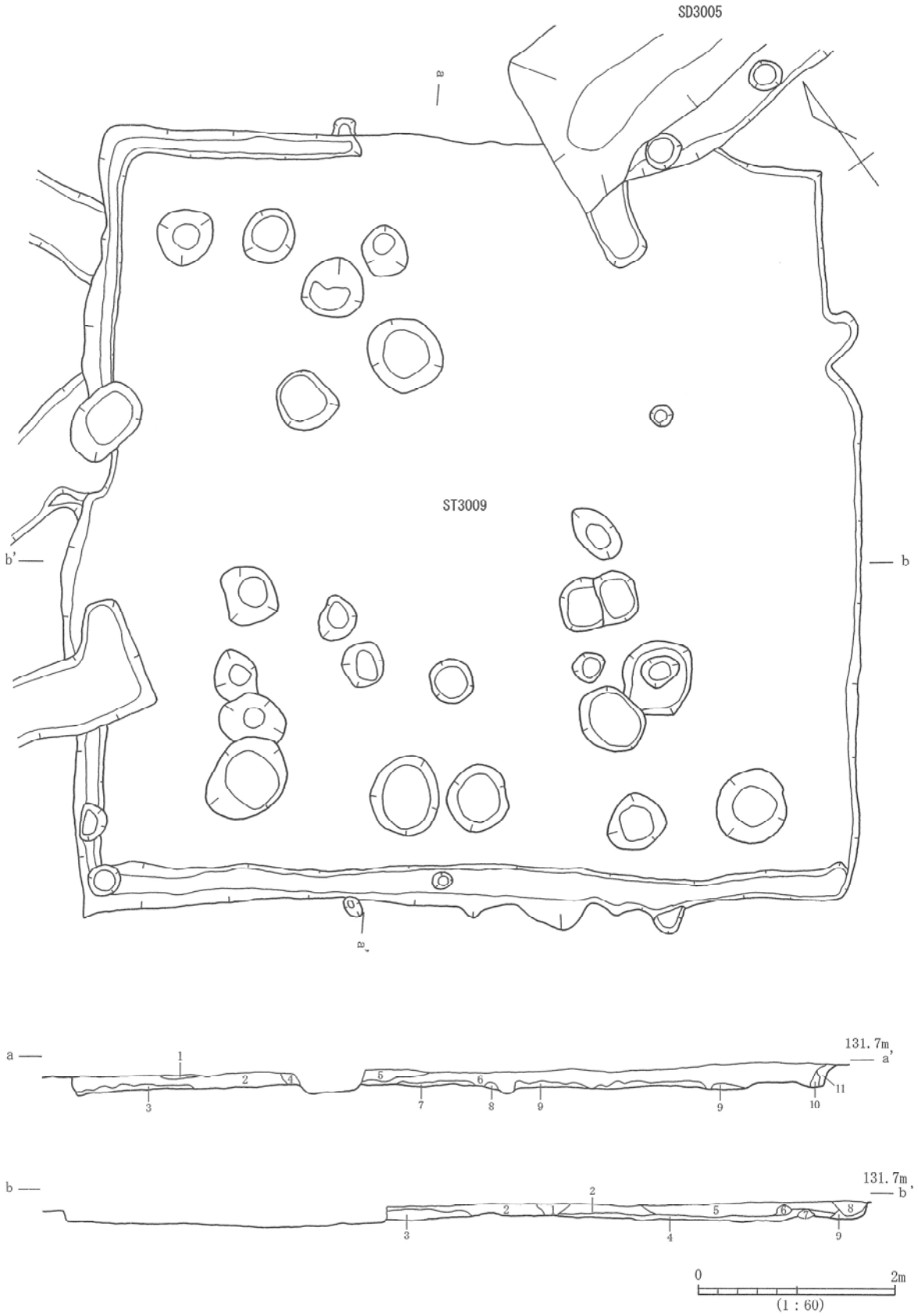
ＳＴ３００８（第１３３～１３４図）

位　　置　16－12～17－12グリッド。

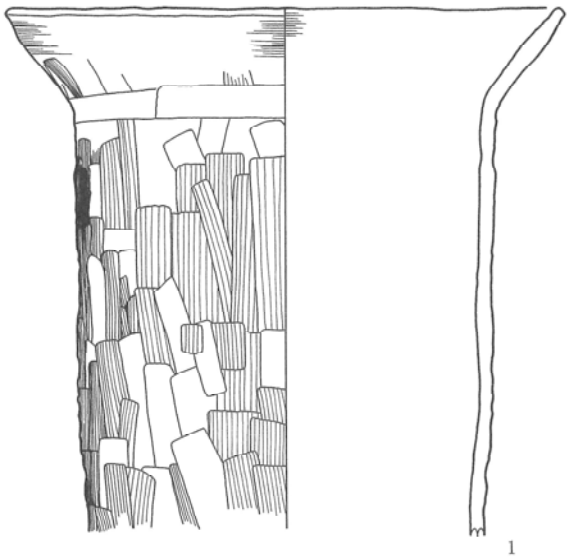
規　　模　長軸5.41ｍ、短軸4.70ｍ、検出面からの深さ16㎝。

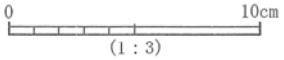
形　　態　西側および南西側を撹乱に、南東側をSD3013、SD3026に切られる。カマドは検出されなかった。主柱穴はSP3007、SP3012、SP3013の3基が検出された。

出土遺物　土師器甑（1）・甕（2、3）・壺（4）などが出土した。甑（1）は体部がやや内湾しながら開き、口縁部が折り返される。甕は長胴形のタイプ（2）と、体部がやや丸みを帯びるタイプ（3）がある。



第135図　ST3009





第136図　ST3009出土遺物

ＳＴ３００９（第１３５～１３６図）

位　　置　18 － 13 グリッド。

規　　模　長軸 7.92 m、短軸 7.88 m、検出面からの深さ 25 cm。

形　　態　北側を SD3005 に切られる。カマドは検出されなかった。周溝は南壁から西壁をめぐり北壁の西半にかけて検出された。柱穴は複数確認されたが、主柱穴がどのように組み合わせられるのか判明しなかった。

出土遺物　土師器甕（1）・高坏などが出土した。甕は長胴形のタイプで、外面にハケメ、内面にナデ、口縁部にナデが施される。年代は古墳時代であろうが、細分はできなかった。

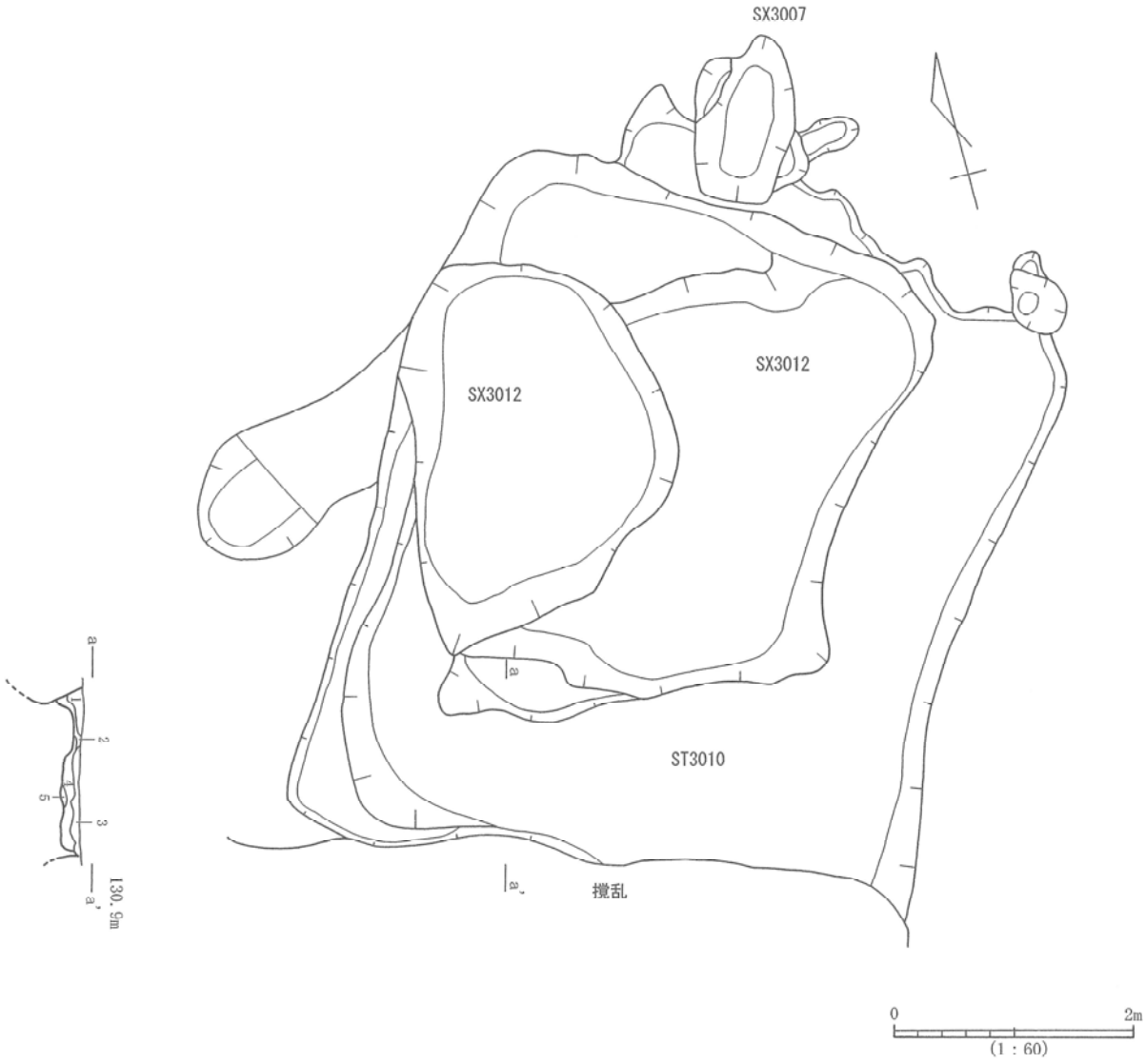
ＳＴ３０１０（第１３７～１３８図）

位　　置　17 － 12 グリッド。

規　　模　長軸 5.50 m、短軸 5.04 m、検出面からの深さ 13 cm。

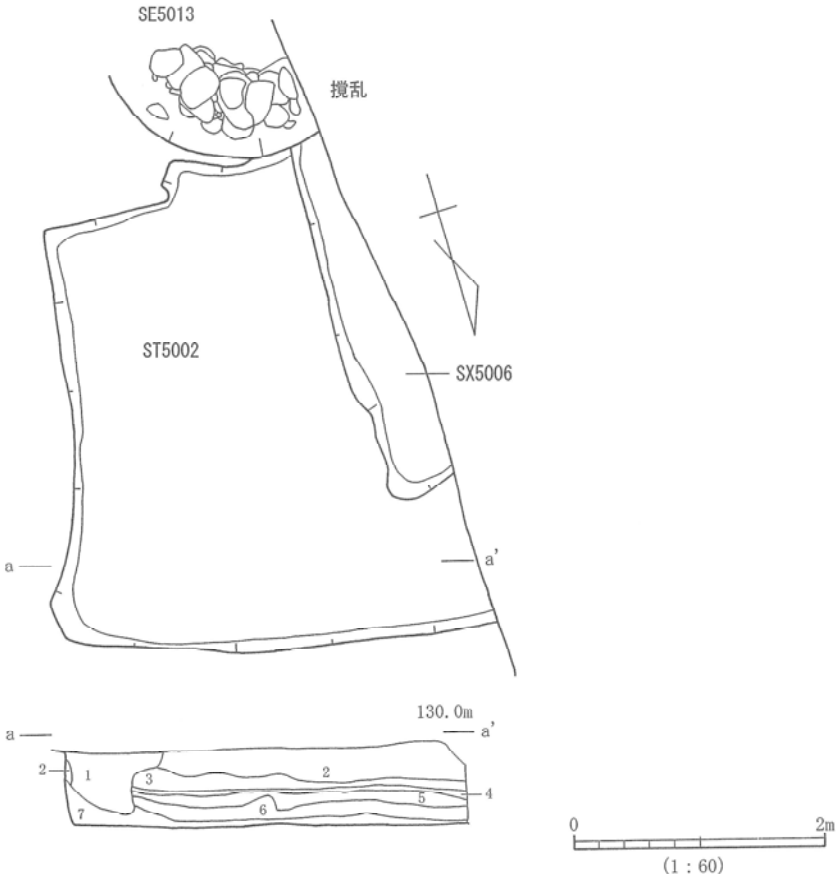
形　　態　中央を SX3012 に切られる。4 層が貼床であり、住居の南側にのみ貼られていた。炉、柱穴は検出されなかった。

出土遺物　土師器器台（1、2）などが出土した。ともに、ハの字状に開く脚部と、内湾する小型の受部をもつタイプである。年代は 4 世紀であると思われる。



第137図　ST3010

第138図　ST3010出土遺物



第139図　ST5002

ＳＴ５００２（第１３９～１４０図）

位　　置　16－8グリッド。

規　　模　長軸3.91 m、検出面から床面までの32 cm、検出面から掘り方までの深さ60 cm。

形　　態　西側を撹乱およびSX5006に切られる。4層が貼床で、ほぼ住居の全域に貼られている。5～7層が掘り方の覆土である。カマド、柱穴は検出されなかった。

出土遺物　土師器坏（1）・甕（10～14）、須恵器坏（2～6）・蓋（7～9）・甕などが出土した。土師器坏は非ロクロ成形で平底、内黒である。須恵器坏は底部切離しが判明する個体では、（6）のみが回転糸切りで、他は回転ヘラ切りである。土師器甕は長胴形のタイプ（13、14）、小型のタイプ（10、11）、体部が膨らみを持つタイプ（12）がある。年代は8世紀後半から9世紀初頭であると思われる。

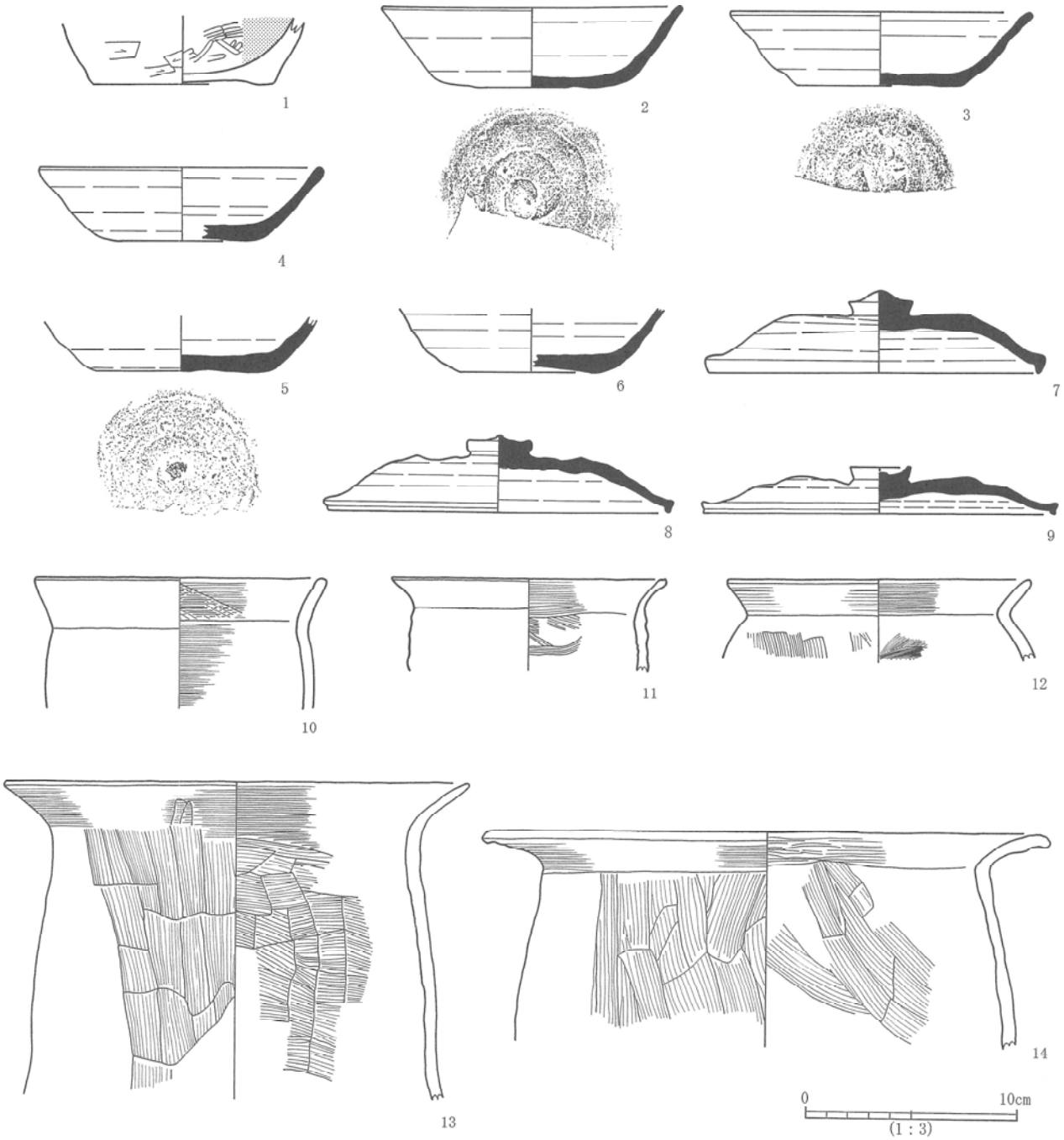
ＳＴ５００３（第１４１～１４２図）

位　　置　16－9グリッド。

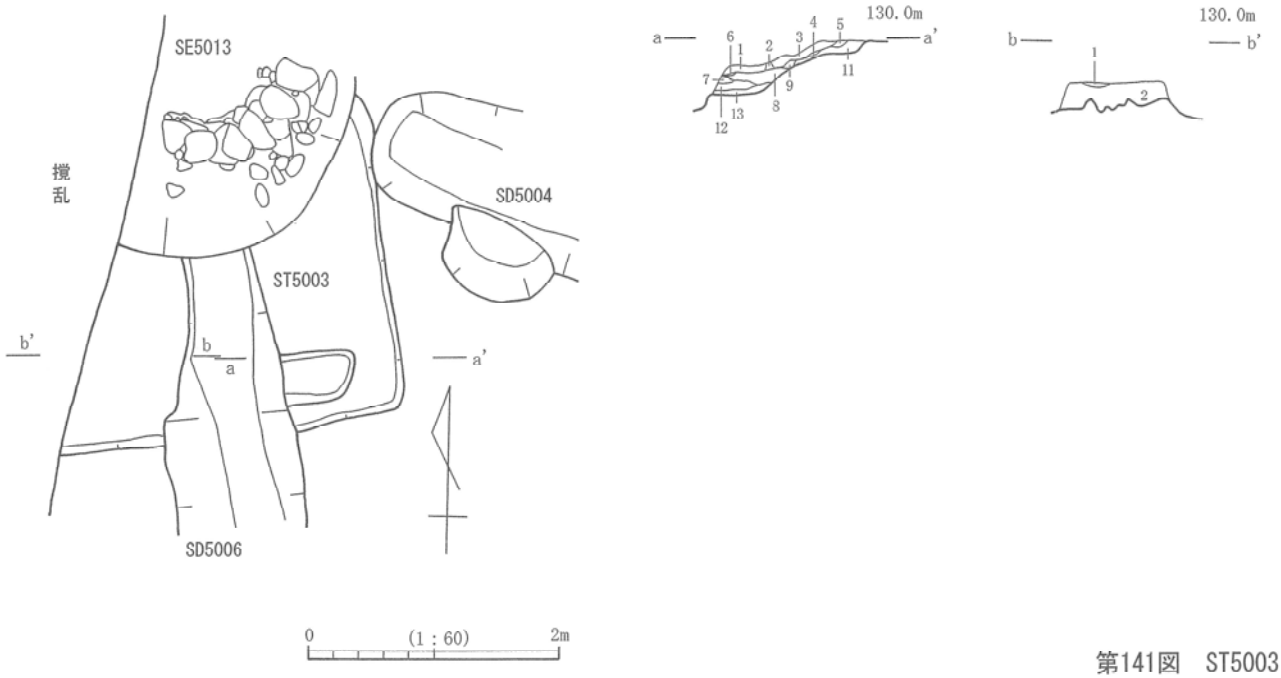
規　　模　長軸2.82 m以上、検出面からの深さ29 cm。

形　　態　西側を撹乱に、北側をSE5013に、中央をSD5006に切られる。カマド、柱穴は検出されなかった。

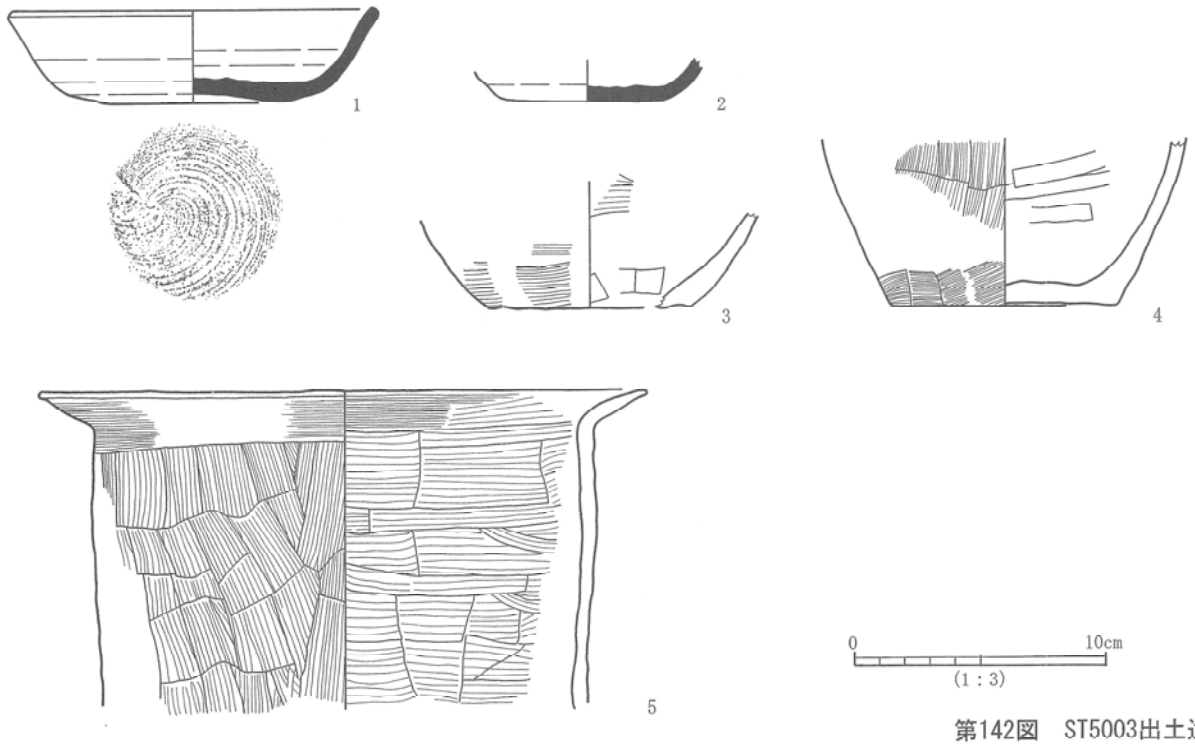
出土遺物　須恵器坏（1、2）、土師器甕（3～5）などが出土した。須恵器坏は、回転糸切り（1）と、回転ヘラ切り（2）が混在する。土師器甕は長胴形のタイプ（5）と、中型のタイプ（3、4）がある。年代は8世紀後半から9世紀初頭であると思われる。



第140図　ST5002出土遺物



第141図　ST5003



第142図　ST5003出土遺物

ＳＴ８００２（第１４３～１４４図）

位　　置　15－19グリッド。

規　　模　長軸4.31 m、短軸3.40 m、検出面からの深さ35 cm。